

三平 I・II 遺跡

ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第13集

2007

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

三平 I・II 遺跡

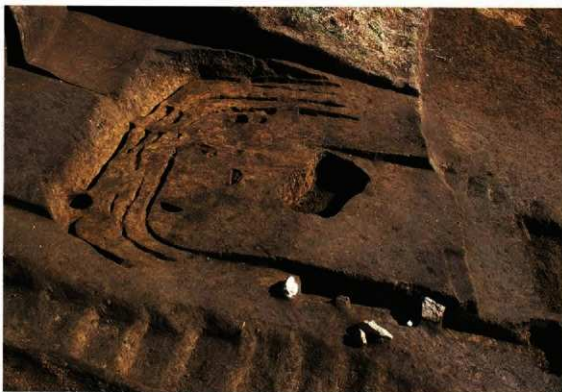
ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第13集

2007

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



三平 I・II 遺跡遠景 (東から)



三平 I 遺跡 3号住居 (西から)



三平Ⅱ遺跡81区60号土坑（東から）



三平Ⅱ遺跡81区60号土坑出土土器

序

ハッ場ダムは、群馬・長野県境を源とする吾妻川の中流に建設され、首都圏の利水および治水を主な目的とする多目的ダムです。

このハッ場ダム建設工事事業に伴う発掘調査は平成6年から開始され、現在までに、長野原町の川原畑・川原湯・横壁・林・長野原の5地区、および東吾妻町の三島地区内の30を超える遺跡において、縄文時代から近世までの人々の連綿たる営みの跡が確認されています。

本報告書では、平成16・17年度に発掘調査された三平Ⅰ・Ⅱ遺跡を扱います。遺跡の調査により、縄文時代草創期後半から中期前半にかけて途切れることのない遺物と多数の土坑、前期後半の住居跡、古代の陥し穴、平安時代の焼土と遺物、中世の掘立柱建物跡など、それぞれの時代で特徴的な資料を得ることができました。

このことにより、本遺跡は、吾妻川の最上位段丘面の山地にありながら、湧水や溪流に恵まれた居住適地であり、この地域で人々の営みが産声をあげた当初から数千年にもおよんで利用され続けた主要遺跡の一つであることが分かってきたのです。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省はもとより、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会をはじめとする関係機関、および地元の皆様から多大なるご尽力とご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げますとともに、本報告書が広く歴史資料として活用されることを願い、序といたします。

平成18年12月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 高橋 勇 夫

例 言

- 1 本書は、ハッ場ダム建設工事に伴う三平Ⅰ遺跡、三平Ⅱ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。両遺跡とも調査原因は川原畑地区代替地造成工に伴う発掘調査である。
- 2 平成10年6月4日～6月5日に発掘調査が行われた三平Ⅰ遺跡内の工事用進入路建設部分（群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字三平575番地）については、既刊の財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書303集で報告済みである。
- 3 遺跡の呼称及び所在地
 三平Ⅰ遺跡（さんだいらいちいせき）
 群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字三平513、523-2、524-2、526-2、527-1、527-2、527-3、529番地
 三平Ⅱ遺跡（さんだいらにいせき）
 群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字三平508、510、511、512、514-1、514-2、514-3、515-1、515-2、515-3、515-4、516、517、518番地
- 4 事業主体 国土交通省
- 5 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 6 発掘調査及び整理作業の期間・組織
 〈平成16年度〉
 ●発掘調査
 期 間 平成16年5月10日～12月28日 三平Ⅰ遺跡（536-2番地を除く部分）、三平Ⅱ遺跡
 管理・指導 理事長 小野宇三郎 住谷永市 神保信史 矢崎俊夫 中 隆之 佐藤明人
 事務担当 丸岡道雄 竹内 安 高橋房雄 野口富太郎 須田朋子 吉田有光 栗原幸代 佐藤聖行
 阿久澤玄洋 富澤よねこ
 調査担当 飯田陽一（5～12月） 篠原正洋（5～10月） 唐沢友之（5～12月）
 〈平成17年度〉
 ●発掘調査
 期 間 平成17年7月1日～8月31日
 管理・指導 理事長 高橋勇夫 木村裕紀 津金澤吉茂 矢崎俊夫 中 隆之 佐藤明人
 事務担当 宮前結城雄 竹内 安 石井 清 町田文雄 須田朋子 今泉大作 吉田有光 栗原幸代
 清水秀紀 佐藤聖行 富澤よねこ
 調査担当 飯田陽一（8月） 篠原正洋（7・8月） 森田真一（8月）
- 整理作業
 期 間 平成18年1月1日～3月31日
 事務担当 同上
 整理担当 篠原正洋 新山保和（整理担当補助）
 〈平成18年度〉
 ■整理作業
 期 間 平成18年4月1日～8月31日
 管理・指導 理事長 高橋勇夫 木村裕紀 津金澤吉茂 萩原 勉 中 隆之 佐藤明人
 事務担当 笠原秀樹 石井 清 須田朋子 吉田有光 今泉大作 斉藤恵利子 柳岡良宏 栗原幸代
 佐藤聖行 鈴木理佐（事務補助）
 整理担当 篠原正洋 新山保和（整理担当補助）
- 7 報告書作成関係者
 編集 篠原正洋
 本文執筆 V・1の縄文時代の三平Ⅰ・Ⅱ遺跡については藤巻幸男、V・5の三平Ⅱ遺跡の建物群については飯森康広、Ⅲ・2・（2）・③・A、及びⅣ・2・（2）・③・A、の縄文草創期・早期の土器については橋本 淳、Ⅵ・2の群馬県三平遺跡の火山灰分析については株式会社 古環境研究所、上記以外は篠原正洋が執筆した。
 遺物観察 観察表については、土師器・須恵器及び羽口は飯田陽一、縄文前期後半・中期・中世・近世陶磁器は整理嘱託員新山保和、縄文前期前半・弥生は篠原が作成した。
 石材鑑定 麻生敏隆 渡辺弘幸
 遺物写真 発掘調査担当者
 遺物写真 佐藤元彦 篠原正洋
 保存処理 関 邦一
 その他 土器実測図作成に際しては、縄文草創期・早期は橋本 淳、前期・中期は藤巻幸男に指導・助言を仰いだ。また、遺物分類及び選定等に際しては、縄文土器について小野和之、弥生土器については大木神一郎、平安時代土師器・須恵器について神谷佳明、中・近世陶磁器について大西雅広、青磁について斎藤慎一、石器について松村和男に指導・助言を頂いた。
- 8 発掘調査及び整理事業での委託関係
 遺構測量及び空中写真 株式会社 測研
 自然科学分析 株式会社 古環境研究所
 遺構図及び遺物実測図デジタル編集 株式会社 測研
 整理補助
 平成17年度 田村敏子 野口幸子 角田千枝子 清水鏡子 黒岩由美子
 平成18年度 新保純子 霜田順子 足立やよい 富澤友理 篠原了子
- 9 出土遺物・図面・写真等の資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 10 本遺跡の発掘調査及び報告書作成にあたり、下記の諸機関・諸氏にご教示・ご指導を頂いた。記して感謝申し上げる次第である。（敬称略）
 国土交通省関東地方建設局ハッ場ダム工事事務所 群馬県教育委員会文化課 長野原町教育委員会
 富田孝彦 池田政志 渡辺弘幸 関 俊明 唐沢友之

凡 例

- 1 挿入図に使用した方位は、座標北を表している。本書で使用する測量図の座標はすべて2002年4月改正前の日本測地系を用いている。
- 2 遺構図及び遺物図には該当箇所にスケールを、或いは()で縮尺を掲載した。原則下記の通りである。また、遺物写真と遺物図とは同縮率を原則とした。
〈遺構〉
住居 1:60 住居の炉・ピット 1:30 掘立柱建物・柱穴列 1:80 土坑 1:40 焼土 1:30
礎石 1:40 溝 1:120 集石 1:30 側木痕 1:60
〈遺物〉
石鏃 4:5
古銭 1:1
縄文草創期及び早期土器・石匙・ドリル・石槍・異形石器・石飾・石製品・キセル・かんざし 1:2
土器等破片・スクレイパー・打斧・磨斧・凹み石・磨石・叩き石・スタンプ・砥石 1:3
縄文土器個体・石皿 1:4
石臼 1:6
- 3 遺構図中及び遺物図中のスクリーンパターンは、以下を表している。

 焼土部分  石鏃における局部磨製部分

- 4 遺構図中における遺物番号は遺物実測図と一致する。また、●は土器、□は石器の出土位置を表している。
- 5 土器断面実測図中の●は繊維含有を表している。
- 6 本遺跡では有茎鏃が出土していないため、無茎鏃を、その形状から以下6分類した。
A類: 平基鏃 (基部が直線的なもの)
B類: 凹基鏃 (基部に抉入のあるもの)
C類: 円基鏃 (基部が丸みを帯びるもの)
D類: 楕円基鏃 (凹基鏃の中でも抉りの形態が独特なもの)
E類: 長脚鏃・円脚鏃 (凹基鏃の中でも基部の抉り込みが極度に深いもの)
F類: 形状不明
- 7 第3図は、平成18年8月31日において、財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団により作成された図を一部改変したものである。
- 8 遺物観察表では、全体を計測できず推定によるものには()、残存高は[]で表した。遺構埋没土等の土層注記及び、土器・陶磁器類の色調等には、農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」1996年度版を用いた。
- 9 三平Ⅰ遺跡1号B・3～6・9～11・13～17・28・30・32・34・35・36・40・41・46号土坑、三平Ⅱ遺跡81区9・20号土坑、同遺跡90区8・27・29・33・39・49号土坑については、発掘調査時に、埋没土層に観察できるローム質土やYpk粒を多量に含む土層を、陥し穴の機能上何らかの必要性を有する貼壁・貼床の可能性があるかと判断し、埋没土層観察及び断面図測量、平面図測量をそれぞれ2段階(「使用面」と「堀方」に区分)に分けて調査を行った経緯がある。しかし、その後本遺跡の発掘調査を継続する過程において、また、長野原一本松遺跡等の同類の陥し穴との比較分析を行った結果、整理段階において、本遺跡では、貼壁・貼床が敷設された可能性は極めて低いという結論に達し、断面図・平面図等の修正を適宜行った。従って、関連する土坑の土層断面図と断面写真、遺構平面図と全景写真と必ずしも一致しない場合があるのでご了承いただきたい。
- 10 テフラについては、略称を使用している。
Ypk = 浅間草津黄色軽石 (As-Ypk) (新井1962) 粕川テフラ = 浅間粕川テフラ (As-Kk)
- 11 駆穴住居の主軸方位は、傾斜方向に対して平行に近い壁面の方を、掘立柱建物の主軸方位は桁行の方を表現している。
- 12 三平Ⅱ遺跡では、81区・90区の両区に分布する遺構(土坑と掘立柱建物)が存在し、混乱を避けるため遺構名に区を付した。例: 81区1号掘立柱建物 90区1号掘立柱建物
三平Ⅰ遺跡では、全ての遺構が90区に分布するため、区を付さずに遺構名とした。
- 13 陥し穴の出土遺物は自然埋没過程における流れ込みと考えられ遺構外扱いとした。
- 14 三平Ⅱ遺跡81区-40・41・56土坑(陥し穴)の遺構図中において、土坑底部に記載されている- (マイナス) 付き数値は、逆茂木痕と想定されるピットの深度を表している。
- 15 三平Ⅰ遺跡と三平Ⅱ遺跡を区分する谷地部(イドクボ)は発掘調査予定区域となっていたが、埋没谷が予想以上に深く、湧水もあったため、発掘不可能部分を一部残し、調査を終了した。

参考文献

新井房夫 1962 関東盆地北西部地域の第四紀編年 群馬大学紀要自然科学編

目 次

口絵
序
例言
凡例
目次
挿図目次・表目次・写真図版目次

I	調査の経過と方法	
1	調査に至る経緯と経過	1
2	調査の方法	3
3	調査区の設定	3
4	基本土層	5
II	遺跡の環境	
1	地理的環境	6
2	歴史的環境	11
III	三平Ⅰ遺跡	
1	検出された遺構と遺物	21
(1)	竪穴住居	21
(2)	掘立柱建物	26
(3)	焼土	29
(4)	土坑	33
①	陥し穴	
②	土坑(縄文時代)	
③	土坑(平安時代以降)	
2	遺構外の出土遺物	62
(1)	出土状況	62
(2)	出土土器	62
①	土器の概要	
②	土器の内容	
(3)	出土石器	68
①	石器の概要	
②	石器の内容	
IV	三平Ⅱ遺跡(71・81・90区)	
1	検出された遺構と遺物	84
(1)	掘立柱建物	84
(2)	柱穴列	89
(3)	礎石	89
(4)	溝	90
(5)	集石	90
(6)	焼土	92
(7)	土坑	92
①	陥し穴	
②	土坑(縄文時代)	
③	土坑(平安時代以降)	
④	土坑(中世以降)	
(8)	銅木炭	127
2	遺構外の出土遺物	128
(1)	出土状況	128
(2)	出土土器	128
①	土器の概要	
②	土器の内容	
(3)	出土石器	166
①	石器の概要	
②	石器の内容	
(4)	その他	167
①	その他の概要と内容	
V	まとめと課題	
1	縄文時代の三平Ⅰ・Ⅱ遺跡	237
2	三平Ⅰ・Ⅱ遺跡における出土土器の総量と組成について	240
3	三平Ⅰ・Ⅱ遺跡における出土石器の総量と組成について	242
4	陥し穴についての一考察	257
5	三平Ⅱ遺跡の建物群について	259
VI	自然科学分析	
1	分析地点と試料について	263
2	群馬県三平遺跡の火山灰分析	263

抄録
写真図版

棟目次

第1図	調査区設定図 (34・35・44・45地区) ……	4	第59図	90区1号溝 ……	90
第2図	遺跡位置図 ……	7	第60図	81区1号集石 ……	90
第3図	遺跡位置及び周辺遺跡図 ……	8~10	第61図	81区2号集石 ……	91
第4図	遺構全体図 ……	15~16	第62図	81区3号集石 ……	91
第5図	縄文時代遺構配置図 ……	17	第63図	90区1・2号焼土 ……	92
第6図	古代陥し穴配置図 ……	18	第64図	71区1号土坑、81区1~5号土坑 ……	95
第7図	中世遺構配置図 ……	19	第65図	81区6~11号土坑 ……	96
第8図	平安時代以降遺構配置図 ……	20	第66図	81区12~15号土坑 ……	97
第9図	1号住居 ……	22	第67図	81区16~22号土坑 ……	98
第10図	1号住居出土遺物 ……	23	第68図	81区23~26号土坑 ……	99
第11図	3号住居出土遺物 ……	24	第69図	81区27~29・36号土坑 ……	100
第12図	3号住居 ……	25	第70図	81区30~32号土坑 ……	101
第13図	1号掘立柱建物 ……	27	第71図	81区33~35・50号土坑 ……	102
第14図	2・3号掘立柱建物 ……	28	第72図	81区37~42号土坑 ……	103
第15図	1~4号焼土 ……	31	第73図	81区43~47号土坑 ……	104
第16図	5~10号焼土 ……	32	第74図	81区48・49・51~53号土坑 ……	105
第17図	1~3号土坑 ……	36	第75図	81区54号土坑 ……	106
第18図	4~7号土坑 ……	37	第76図	81区55~57号土坑 ……	107
第19図	8~12号土坑 ……	38	第77図	81区58・59号土坑 ……	108
第20図	13~16号土坑 ……	39	第78図	81区60号土坑 (1) ……	109
第21図	17~20号土坑 ……	40	第79図	81区60号土坑 (2)、61・62号土坑 ……	110
第22図	21・22・25~28号土坑 ……	41	第80図	81区63~66号土坑 ……	111
第23図	29~33号土坑 ……	42	第81図	81区67~70号土坑 ……	112
第24図	34~37・39号土坑 ……	43	第82図	81区71~76号土坑 ……	113
第25図	40~44・46号土坑 ……	44	第83図	90区1~6号土坑 ……	114
第26図	47~49号土坑 ……	45	第84図	90区7~12号土坑 ……	115
第27図	50~52号土坑 ……	46	第85図	90区13~15号土坑 ……	116
第28図	53・54・59号土坑 ……	47	第86図	90区16~19号土坑 ……	117
第29図	55~58号土坑 ……	48	第87図	90区20・21・23・25号土坑 ……	118
第30図	60・61号土坑 ……	49	第88図	90区26・27・29・31・32号土坑 ……	119
第31図	62・63号土坑 ……	50	第89図	90区33・34・36号土坑 ……	120
第32図	64~69号土坑 ……	51	第90図	90区37・39~41号土坑 ……	121
第33図	70~73号土坑 ……	52	第91図	90区42~45号土坑 ……	122
第34図	74~76号土坑 ……	53	第92図	90区46~48号土坑 ……	123
第35図	77~80号土坑 ……	54	第93図	90区49~52号土坑 ……	124
第36図	81~84号土坑 ……	55	第94図	81区1号割木痕 ……	127
第37図	85~90号土坑 ……	56	第95図	遺構外出土土器 (1) ……	133
第38図	91~94号土坑 ……	57	第96図	遺構外出土土器 (2) ……	134
第39図	95~99号土坑 ……	58	第97図	遺構外出土土器 (3) ……	135
第40図	100~103号土坑 ……	59	第98図	遺構外出土土器 (4) ……	136
第41図	遺構外出土土器 (1) ……	63	第99図	遺構外出土土器 (5) ……	137
第42図	遺構外出土土器 (2) ……	64	第100図	遺構外出土土器 (6) ……	138
第43図	遺構外出土土器 (3) ……	65	第101図	遺構外出土土器 (7) ……	139
第44図	遺構外出土土器 (4) ……	66	第102図	遺構外出土土器 (8) ……	140
第45図	弥生時代遺構外出土土器 ……	66	第103図	遺構外出土土器 (9) ……	141
第46図	平安時代・中世遺構外出土土器 ……	67	第104図	遺構外出土土器 (10) ……	142
第47図	遺構外出土土器 (1) ……	69	第105図	遺構外出土土器 (11) ……	143
第48図	遺構外出土土器 (2) ……	70	第106図	遺構外出土土器 (12) ……	144
第49図	遺構外出土土器 (3) ……	71	第107図	遺構外出土土器 (13) ……	145
第50図	81区1号掘立柱建物 ……	74	第108図	遺構外出土土器 (14) ……	146
第51図	81区2号掘立柱建物 ……	85	第109図	遺構外出土土器 (15) ……	147
第52図	90区1号掘立柱建物 ……	86	第110図	遺構外出土土器 (16) ……	148
第53図	90区2号掘立柱建物 ……	86	第111図	遺構外出土土器 (17) ……	149
第54図	90区3号掘立柱建物 ……	87	第112図	遺構外出土土器 (18) ……	150
第55図	90区4号掘立柱建物 ……	87	第113図	遺構外出土土器 (19) ……	151
第56図	90区5号掘立柱建物 ……	88	第114図	遺構外出土土器 (20) ……	152
第57図	90区1号柱穴列 ……	89	第115図	遺構外出土土器 (21) ……	153
第58図	90区1・2号礎石 ……	89	第116図	遺構外出土土器 (22) ……	154
			第117図	遺構外出土土器 (23) ……	155
			第118図	遺構外出土土器 (24) ……	156

第119回	遺構外出土器 (25)157
第120回	遺構外出土器 (26)158
第121回	遺構外出土器 (27)159
第122回	遺構外出土器 (28)160
第123回	遺構外出土器 (29)161
第124回	遺構外出土器 (30)162
第125回	遺構外出土器 (31)163
第126回	平安時代遺構外出土器164
第127回	中世遺構外出土器 (1)164
第128回	中世遺構外出土器 (2)165
第129回	近世・近現代遺構外出土器165
第130回	遺構外出土器 (1)168
第131回	遺構外出土器 (2)169
第132回	遺構外出土器 (3)170
第133回	遺構外出土器 (4)171
第134回	遺構外出土器 (5)172
第135回	遺構外出土器 (6)173
第136回	遺構外出土器 (7)174
第137回	遺構外出土器 (8)175
第138回	遺構外出土器 (9)176
第139回	遺構外出土器 (10)177
第140回	遺構外出土器 (11)178
第141回	遺構外出土器 (12)179
第142回	遺構外出土器 (13)180
第143回	遺構外出土器 (14)181
第144回	遺構外出土器 (15)182
第145回	遺構外出土器 (16)183
第146回	遺構外出土器 (17)184
第147回	遺構外出土器 (18)185
第148回	石材割合図243
第149回	出土器のグリッド別分布図 (1)244
第150回	出土器のグリッド別分布図 (2)245
第151回	出土器のグリッド別分布図 (3)246
第152回	出土器のグリッド別分布図 (4)247
第153回	出土器のグリッド別分布図 (5)248
第154回	出土器のグリッド別分布図 (6)249
第155回	出土器のグリッド別分布図 (7)250
第156回	出土器のグリッド別分布図 (8)251
第157回	出土器、石器のグリッド別分布図 (9)252
第158回	出土器のグリッド別分布図 (10)253
第159回	出土器のグリッド別分布図 (11)254
第160回	出土器のグリッド別分布図 (12)255
第161回	出土器のグリッド別分布図 (13)256
第162回	陥し穴模式図257
第163回	陥し穴埋没状況図258
第164回	三平Ⅱ遺跡地形図260

表目次

表1	周辺遺跡一覧表 (1)13
表2	周辺遺跡一覧表 (2)14
表3	三平Ⅰ遺跡土坑一覧表 (1)60
表4	三平Ⅰ遺跡土坑一覧表 (2)61
表5	三平Ⅱ遺跡土坑一覧表 (1)125
表6	三平Ⅱ遺跡土坑一覧表 (2)126
表7	周辺の主要遺跡一覧238
表8	出土器の総量と組成表240
表9	出土器の総量と組成表243
表10	掘立柱建物跡分類表260

写真図版目次

PL 1	三平Ⅰ遺跡平安面陥し穴群全景	北西→
	三平Ⅰ遺跡土坑群全景	北西→
PL 2	1号住居全景	南→
	1号住居炉全景	南→
	1号住居遺物出土状況	西→
	1号住居東側遺物出土状況	南→
PL 3	3号住居全景	南→
	3号住居遺物出土状況	西→
	3号住居全景	西→
	3号住居1号炉セクション	南→
	3号住居2号炉セクション	南東→
PL 4	1・2号掘立柱建物全景	西→
	3号掘立柱建物全景	西→
PL 5	1号焼土全景	東→
	1号焼土掘り方	東→
	2号焼土全景	東→
	2号焼土掘り方	東→
	3号焼土全景	東→
	4号焼土全景	南→
	4号焼土掘り方	南→
PL 6	5号焼土全景	南→
	6号焼土全景	南→
	6号焼土掘り方	南→
	7号焼土全景	東→
	8号焼土全景	南→
	9号焼土全景	南→
	9号焼土セクション	南→
	10号焼土全景	東→
	10号焼土セクション	東→
PL 7	1・3・28号土坑全景	東→
	1号A土坑全景	北→
	1号A土坑セクション	南→
	1号B土坑全景	北東→
	2号土坑全景	東→
	2号土坑セクション	南→
	3号土坑全景	西→
	3号土坑セクション	南→
	4号土坑全景	西→
	4号土坑セクション	西→
	5号土坑全景	西→
	5号土坑セクション	南東→
	6号土坑全景	南→
	6号土坑セクション	南東→
	7号土坑全景	南西→
	7号土坑セクション	北東→
PL 8	8号土坑全景	北西→
	8号土坑セクション	南東→
	9号土坑全景	西→
	10号土坑全景	西→
	10号土坑セクション	南→
	11号土坑全景	北→
	11号土坑セクション	東→
	12・31・32号土坑全景	西→
	12号土坑セクション	南→
	12・32号土坑切合せクション	東→
	13号土坑全景	西→
	13号土坑セクション	西→
	14号土坑全景	南→

14号土坑セクション 南→
 15号土坑全景 南→
 15号土坑セクション 東→
 16号土坑全景 南→
 16号土坑セクション 南西→
 16・17号土坑切合セクション 南→
 17号土坑全景 北→
 17号土坑セクション 西→
 18号土坑全景 東→
 18号土坑セクション 西→
 19・20号土坑切合セクション 東→
 19号土坑全景 東→
 19号土坑セクション 東→
 20号土坑全景 東→
 20号土坑セクション 東→
 21号土坑全景 北→
 21号土坑セクション 東→
 22号土坑全景 東→
 22号土坑セクション 西→
 25号土坑全景 南→
 25号土坑セクション 南→
 26号土坑全景 南→
 26号土坑セクション 南→
 27号土坑全景 南→
 27号土坑セクション 南→
 28号土坑全景 北東→
 28号土坑セクション 南→
 29号土坑全景 南東→
 29号土坑セクション 東→
 30号土坑全景 南→
 30号土坑セクション 東→
 31号土坑全景 東→
 32号土坑全景 南→
 32号土坑セクション 南→
 33号土坑全景 東→
 33号土坑セクション 東→
 30・34・36号土坑全景 南→
 34号土坑セクション 南→
 35号土坑全景 北東→
 35号土坑セクション 北東→
 37号土坑全景 南→
 37号土坑セクション 西→
 39号土坑全景 西→
 39号土坑セクション 西→
 40号土坑全景 西→
 40号土坑セクション 東→
 41号土坑全景 南→
 41号土坑セクション 西→
 42号土坑全景 東→
 43号土坑全景 東→
 42・43号土坑セクション 東→
 46号土坑全景 南→
 46号土坑セクション 東→
 47号土坑全景 北→
 47号土坑セクション 東→
 48号土坑全景 南西→
 48号土坑セクション 南→
 49号土坑全景 南→
 49号土坑セクション 東→
 50号土坑全景 南→

PL 9

PL10

PL11

PL12

PL13

PL14

PL15

50号土坑セクション 東→
 52号土坑全景 南→
 52号土坑セクション 東→
 53号土坑全景 北→
 53号土坑セクション 東→
 54号土坑全景 北→
 54号土坑セクション 東→
 55号土坑全景 東→
 55号土坑セクション 東→
 56号土坑全景 南→
 56号土坑セクション 南→
 57号土坑全景 南→
 57号土坑セクション 南→
 58号土坑全景 南→
 58号土坑セクション 南→
 59号土坑全景 北→
 59号土坑セクション 南→
 60号土坑全景 南→
 60号土坑セクション 北→
 62号土坑全景 西→
 62号土坑セクション 南→
 63号土坑全景 西→
 63号土坑セクション 南→
 64号土坑全景 南→
 65号土坑全景 南→
 65号土坑セクション 東→
 66号土坑全景 東→
 66号土坑セクション 東→
 67号土坑全景 南→
 67号土坑セクション 東→
 68号土坑全景 南→
 69号土坑全景 南→
 73号土坑遺物出土状況 南→
 73号土坑セクション 北→
 74号土坑全景 南→
 74号土坑セクション 東→
 75号土坑全景 東→
 75号土坑セクション 東→
 82号土坑全景 南→
 82号土坑セクション 東→
 83号土坑全景 南→
 83号土坑セクション 東→
 84号土坑全景 南→
 84号土坑セクション 東→
 87号土坑全景 南→
 87号土坑セクション 東→
 88号土坑全景 南→
 88号土坑セクション 東→
 89号土坑全景 南→
 89号土坑セクション 東→
 90号土坑全景 南→
 90号土坑セクション 西→
 91号土坑全景 南→
 91号土坑セクション 東→
 92号土坑全景 南→
 92号土坑セクション 東→
 93号土坑全景 南→
 93号土坑セクション 東→
 94号土坑全景 東→
 94号土坑セクション 南→

PL16	95号土坑全景 南→		81区9号土坑全景 南→
	95号土坑セクション 南→		81区9号土坑セクション 南→
	96号土坑全景 南→		81区10号土坑全景 南→
	96号土坑セクション 南→		81区10号土坑セクション 南→
	97号土坑セクション 東→		81区11号土坑全景 南→
	97号土坑遺物出土状況 西→		81区11号土坑セクション 南→
	98号土坑全景 東→		81区12号土坑全景 東→
	98号土坑セクション 東→		81区12号土坑セクション 東→
	99号土坑全景 東→		81区13号土坑全景 南→
	99号土坑セクション 東→		81区13号土坑セクション 南→
	100号土坑全景 西→		81区14号土坑全景 南東→
	100号土坑セクション 西→		81区14号土坑セクション 南→
	101号土坑全景 東→		81区15号土坑全景 東→
	101号土坑セクション 東→		81区15号土坑セクション 南→
	102号土坑全景 南→		81区16号土坑全景 南東→
	102号土坑セクション 東→		81区16号土坑セクション 南→
	103号土坑全景 北→		81区17号土坑全景 西→
PL17	1号住居出土遺物	PL32	81区17号土坑セクション 南→
PL18	3号住居、4・5・8号焼土、33・73・76・82・91・97号土坑出土遺物		81区18号土坑全景 南東→
PL19	遺構外出土土器(1)		81区18号土坑セクション 南→
PL20	遺構外出土土器(2)		81区19号土坑全景 東→
PL21	遺構外出土土器(3)		81区19号土坑セクション 南東→
PL22	遺構外出土土器(4)		81区20号土坑全景 東→
PL23	弥生時代、平安時代・中世遺構外出土土器		81区20号土坑セクション 東→
PL24	遺構外出土土器(1)		81区21号土坑全景 東→
PL25	遺構外出土土器(2)		81区21号土坑セクション 北東→
PL26	81区1号掘立柱建物全景		81区22号土坑全景 東→
	90区1号掘立柱建物全景		81区22号土坑セクション 東→
PL27	90区2・3号掘立柱建物全景		81区23号土坑全景 東→
	90区4・5号掘立柱建物全景		81区23号土坑セクション 南東→
PL28	81・90区掘立柱建物群全景南側		81区24号土坑全景 南→
	90区1号溝全景 北西→		81区24号土坑セクション 東→
	90区1号焼土検出状況 東→		81区25号土坑全景 南東→
	90区2号焼土セクション 東→	PL33	81区25号土坑セクション 東→
	90区東側土坑群遠景 北→		81区26号土坑全景 東→
PL29	90区1号柱列全景 西→		81区26号土坑セクション 東→
	90区1号礎石 上→		81区27・36号土坑全景 北→
	90区1号礎石 東→		81区27号土坑セクション 南西→
	90区1・2号礎石見通し 南→		81区36号土坑セクション 南西→
	90区2号礎石 上→		81区28号土坑全景 東→
	90区2号礎石 東→		81区28号土坑セクション 東→
PL30	71区1号土坑全景 西→		81区29号土坑全景 東→
	71区1号土坑セクション 南→		81区29号土坑セクション 東→
	81区1号土坑全景 南西→		81区30・38号土坑全景 東→
	81区1号土坑セクション 南→		81区30号土坑セクション 北東→
	81区2号土坑全景 東→		81区38号土坑セクション 東→
	81区2号土坑セクション 南東→		81区31号土坑全景 南→
	81区3号土坑全景 北西→		81区31号土坑セクション 東→
	81区3号土坑セクション 北→		81区32号土坑全景 南→
	81区4号土坑全景 南→		81区32号土坑セクション 東→
	81区4号土坑セクション 南→		81区33号土坑全景 南→
	81区5号土坑全景 南→	PL34	81区33号土坑セクション 南→
	81区5号土坑セクション 南→		81区34・35号土坑全景 東→
	81区6号土坑全景 南東→		81区35号土坑セクション 東→
	81区6号土坑セクション 南→		81区37号土坑全景 北→
	81区7号土坑全景 南東→		81区37号土坑セクション 北東→
	81区7号土坑セクション 南→		81区39号土坑全景 南東→
	81区8号土坑全景 北→		81区39号土坑セクション 西→
PL31	81区8号土坑セクション 北→		81区40号土坑全景 南→
			81区40号土坑逆茂木セクション 南→

	81区40号土坑セクション	南→		81区67号土坑セクション	東→	
	81区41号土坑全景	西→		81区68号土坑全景	東→	
	81区41号土坑逆茂木痕検出状況	南→		81区68号土坑焼土検出状況	南→	
	81区41号土坑セクション	南→		81区68号土坑セクション	東→	
	81区42号土坑全景	南→		81区69号土坑全景	南→	
	81区42号土坑セクション	南→		81区69号土坑セクション	南→	
	81区43号土坑全景	西→		81区70号土坑全景	南→	
	81区43号土坑セクション	東→		81区70号土坑遺物出土状況	西→	
	81区44号土坑全景	西→		81区70号土坑セクション	南→	
	81区44号土坑セクション	西→		81区71・75号土坑全景	南東→	
PL35	81区45号土坑全景	南→		81区71・75号土坑セクション	西→	
	81区45号土坑セクション	南→		81区72号土坑全景	西→	
	81区46号土坑全景	北→		81区72号土坑セクション	南→	
	81区46号土坑セクション	西→		81区73号土坑全景	東→	
	81区47号土坑全景	西→	PL39	81区73号土坑セクション	東→	
	81区47号土坑セクション	南→		81区74号土坑全景	南→	
	81区48号土坑全景	南→		81区74号土坑セクション	南→	
	81区48号土坑炭化物出土状況	西→		81区76号土坑全景	南東→	
	81区48号土坑セクション	南→		81区76号土坑セクション	東→	
	81区49号土坑全景	北→		90区1号土坑全景	東→	
	81区49号土坑セクション	南東→		90区1号土坑セクション	南→	
	81区50号土坑全景	南→		90区2号土坑全景	東→	
	81区50号土坑セクション	南→		90区2号土坑セクション	南→	
PL36	81区51号土坑全景	南西→		90区3号土坑全景	東→	
	81区51号土坑セクション	南東→		90区3号土坑セクション	南→	
	81区52号土坑全景	東→		90区4号土坑全景	東→	
	81区52号土坑セクション	東→		90区4号土坑セクション	東→	
	81区53号土坑全景	北→		90区5号土坑全景	南東→	
	81区53号土坑セクション	南→		90区5号土坑セクション	東→	
	81区54号土坑全景	東→		90区6号土坑全景	東→	
	81区54号土坑セクション	南→		90区6号土坑セクション	西→	
	81区55号土坑全景	東→		90区7号土坑全景	南→	
	81区55号土坑セクション	東→	PL40	90区7号土坑セクション	南→	
	81区56号土坑全景	南→		90区8号土坑全景	北→	
	81区56号土坑As-Kk検出面	南→		90区8号土坑セクション	東→	
	81区56号土坑セクション	南→		90区9号土坑全景	南→	
	81区57号土坑全景	東→		90区9号土坑セクション	南→	
PL37	81区57号土坑セクション	西→		90区10号土坑全景	南→	
	81区58号土坑全景	南→		90区10号土坑セクション	東→	
	81区58号土坑遺物出土状況	南→		90区11号土坑全景	南→	
	81区58号土坑遺物出土状況	東→		90区11号土坑セクション	東→	
	81区58号土坑セクション	南東→		90区12号土坑全景	南→	
	81区59号土坑全景	東→		90区12号土坑セクション	南→	
	81区60号土坑全景	南→		90区13号土坑全景	西→	
	81区60号土坑遺物出土状況遠景	東→		90区13号土坑セクション	西→	
	81区60号土坑遺物出土状況近景	東→		90区14号土坑全景	西→	
	81区60号土坑セクション	南→		90区14号土坑炭化材出土状況	東→	
	81区61号土坑全景	東→		90区14号土坑炭化材出土状況	南→	
	81区61号土坑セクション	北→		90区14号土坑セクション	西→	
	81区62号土坑全景	北→		90区15号A土坑全景	西→	
	81区62号土坑セクション	東→		90区15号土坑全景	西→	
	81区63号土坑全景	南→	PL41	90区15号土坑セクション	南東→	
	81区63号土坑セクション	南→		90区16号土坑全景	北→	
	81区64号土坑全景	北→		90区17号土坑全景	南→	
	81区64号土坑セクション	東→		90区17号土坑セクション	焼土検出状況	北→
	81区65号土坑全景	西→		90区18号土坑全景	西→	
PL38	81区65号土坑セクション	東→		90区18号土坑セクション	西→	
	81区66号土坑全景	西→		90区19号土坑全景	東→	
	81区66号土坑セクション	南→		90区19号土坑セクション	東→	
	81区67号土坑全景	東→		90区20号土坑全景	西→	

	90区20号土坑セクション	東→	PL45	81区1号集石、4・13・25・29・30・54号土坑出土遺物
	90区21号土坑全景	東→	PL46	81区58・60・63・66号土坑出土遺物
	90区21号土坑セクション	東→	PL47	81区70号、90区4～7・46～48・50・52号土坑出土遺物
	90区23号土坑全景	北→	PL48	遺構外出土石器(1)
	90区23号土坑セクション	北→	PL49	遺構外出土石器(2)
	90区25号土坑全景	北→	PL50	遺構外出土石器(3)
	90区25号土坑セクション	東→	PL51	遺構外出土石器(4)
	90区26号土坑全景	北→	PL52	遺構外出土石器(5)
PL42	90区26号土坑セクション	北→	PL53	遺構外出土石器(6)
	90区27号土坑全景	北西→	PL54	遺構外出土石器(7)
	90区27号土坑セクション	南東→	PL55	遺構外出土石器(8)
	90区29号土坑全景	東→	PL56	遺構外出土石器(9)
	90区29号土坑セクション	西→	PL57	遺構外出土石器(10)
	90区31号土坑全景	北西→	PL58	遺構外出土石器(11)
	90区31号土坑セクション	南東→	PL59	遺構外出土石器(12)
	90区32号土坑全景	北東→	PL60	遺構外出土石器(13)
	90区32号土坑セクション	北→	PL61	遺構外出土石器(14)
	90区33号土坑全景	西→	PL62	遺構外出土石器(15)
	90区33号土坑セクション	北→	PL63	遺構外出土石器(16)
	90区34号土坑全景	北→	PL64	遺構外出土石器(17)
	90区34号土坑遺物出土状況	東→	PL65	遺構外出土石器(18)
	90区34号土坑セクション	西→	PL66	遺構外出土石器(19)
	90区36号土坑全景	南→	PL67	遺構外出土石器(20)
	90区36号土坑セクション	南東→	PL68	遺構外出土石器(21)
	90区37号土坑全景	北→	PL69	遺構外出土石器(22)
PL43	90区37号土坑セクション	東→	PL70	遺構外出土石器(23)
	90区39号土坑全景	東→	PL71	遺構外出土石器(24)
	90区39号土坑セクション	東→	PL72	遺構外出土石器(25)
	90区41号土坑全景	北西→	PL73	遺構外出土石器(26)
	90区41号土坑セクション	北→	PL74	遺構外出土石器(27)
	90区42号土坑全景	東→	PL75	遺構外出土石器(28)
	90区42号土坑セクション	東→	PL76	遺構外出土石器(29)
	90区43号土坑全景	北→	PL77	遺構外出土石器(30)
	90区43号土坑セクション	北→	PL78	遺構外出土石器(31)
	90区44号土坑全景	北→	PL79	平安時代、中世、近世・近現代(1)遺構外出土遺物
	90区44号土坑セクション	北→	PL80	近世・近現代(2)遺構外出土遺物
	90区45号土坑全景	北東→	PL81	遺構外出土石器(1)
	90区45号土坑セクション	南東→	PL82	遺構外出土石器(2)
	90区46号土坑全景	北西→	PL83	遺構外出土石器(3)
	90区46号土坑セクション	西→	PL84	遺構外出土石器(4)
	90区47号土坑全景	北西→	PL85	遺構外出土石器(5)
	90区47号土坑セクション	西→	PL86	遺構外出土石器(6)
	90区48号土坑全景	南→	PL87	遺構外出土石器(7)
	90区48号土坑セクション	西→	PL88	遺構外出土石器(8)
PL44	90区49号土坑全景	南→	PL89	遺構外出土石器(9)
	90区49号土坑セクション	東→	PL90	遺構外出土石器(10)
	90区49号土坑セクション	東→	PL91	遺構外出土石器(11)
	90区50号土坑全景	北東→	PL92	遺構外出土石器(12)
	90区50号土坑セクション	南東→	PL93	遺構外出土石器(13)
	90区50号土坑セクション	南東→		
	90区51号土坑全景	北→		
	90区51号土坑セクション	東→		
	90区52号土坑遺物出土状況	南東→		
	90区52号土坑セクション	南東→		
	81区ローマ面全景	遺構検出状況	北西→	

I 調査の経過と方法

1 調査に至る経緯と経過

吾妻川は、その源を群馬・長野県境の鳥居峠に発し、浅間山・草津白根山の中間を東流して万座川・熊川・白砂川等の支川を合わせ、途中、吾妻峡と称される美観をつくりながら、さらに温川・四万川・名久田川等の支川を合わせ、渋川市付近で利根川と合流する一級河川である。

ハッ場ダムは、その吾妻川の中流に建設され、①洪水調節、②流水の正常な機能維持、③都市用水の補給（水道用水・工業用水）などを目的とする多目的ダムで、天端標高586m、堤高131m、流域面積3.04km²、総貯水容量1.075億m³の規模を測る重力式コンクリートダムである。ダム位置は、左岸が群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字ハッ場、右岸が同大字川原湯字金花山、「関東の耶馬溪」と称される吾妻峡谷の上流側の入口部に本体が建設されることになる。

ハッ場ダム建設計画は、「昭和24年利根川改修改定計画」の一環として、昭和27年5月に調査着手後、平成4年7月、「ハッ場ダム建設事業に係る基本協定書」及び「用地補償調査に関する協定書」が締結されることによって本格着工となった。

文化財関連では、昭和62年12月、「ハッ場ダム建設に係る現地調査に関する協定書」の調印が長野原町長と関東地方建設局長との間で締結されるに先立ち、昭和61年7月からダム湖関連地域の文化財総合調査計画の策定に基づく民俗、石造文化財、自然、移設予定文化財、昔話、古文書、併せて埋蔵文化財の詳細分布調査が、国土交通省（建設省）からの委託事業として長野原町教育委員会の手により行われ、以下の報告書等が刊行されている。

- 上毛民俗学会編 1987『長野原町の民俗』長野原町
- 上毛民俗学会編 1989『長野原町の石造文化財』長野原町
- 長野原町教育委員会 1990『長野原町の遺跡—町内遺跡詳細分布調査報告書—』
- ハッ場ダム地域自然調査会編 1993『長野原町の自然』長野原町

- ハッ場ダム地域文化財調査会移設文化部 1995『ハッ場ダム地域移設予定文化財調査報告書』長野原町
- ハッ場ダム地域文化財調査会昔話部編 1997『長野原町の昔話』長野原町
- ハッ場ダム地域文化財調査会古文書調査部編 2001『長野原町の古文書』

このうち、文化庁補助事業として、昭和62年度より3ヶ年計画で、群馬県教育委員会文化財保護課の指導の下、長野原町教育委員会が実施した遺跡分布調査の報告（『長野原町の遺跡—町内遺跡詳細分布調査報告書—』）によれば、確認された埋蔵文化財包蔵地は182、これに石造物などの指定文化財や名勝・天然記念物を含めた文化財総数は199を数える。

ハッ場ダム建設に関係する5地区（川原畑・川原湯・横壁・林・長野原）の埋蔵文化財調査対象面積は約57万m²、その後、平成14年に11遺跡、平成16年に2遺跡、平成17年に1遺跡を加えた調査対象遺跡は61遺跡で面積は約110万m²となった。

また下流の東吾妻町松谷、三島地区などでもダム建設の関連工事が進展しつつある。この地域は群馬県教育委員会の『群馬県遺跡地図』（昭和48年）で遺跡の存在が確認されている。

このような状況の中、ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協議が行われ、平成6年3月18日に建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」が締結され、ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査事業の実施計画が決定した。これにより、委託者である建設省関東地方建設局長と受託者である群馬県教育委員会教育長とが年度区分ごとに発掘調査委託契約を締結のうえ、以後発掘調査を実施することが決定したのである。

この協定を踏まえて、平成6年4月1日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長により発掘調査委託契約を締結し、ハッ場ダム進入路関連遺跡を調査箇所とするハッ場ダム埋蔵文化財発掘調査が開始された。

I 調査の経過と方法

平成11年4月1日には、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の間で、「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書（第1回変更）」が締結され、発掘調査受委託契約についての変更が行われた。これにより、受託者が群馬県教育委員会教育長から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長へ変更となり、現在の調査体制に至っている。また平成17年4月1日に同協定書（第2回変更）が締結され、発掘調査の業務完了期日が「平成18年3月31日」から「平成23年3月31日」まで延長された。

三平Ⅰ遺跡は平成10年度に先行発掘調査（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第303集で既報告）が行われ、その後、今回報告で扱う平成16年度（三平Ⅰ・Ⅱ遺跡）及び平成17年度（三平Ⅰ遺跡）の発掘調査が行われた。調査原因は、川原畑地区代替地造成に伴う発掘調査である。

平成16年5月10日より、三平Ⅱ遺跡の南東部トマト畑（座標値 $X=+61812$ 、 $Y=-101024$ と $X=+61844$ 、 $Y=-100976$ を結ぶラインより南東部）を除く部分、三平Ⅰ遺跡の西部分（平成17年度発掘調査を除く部分）の発掘調査に着手し、11月1日より用地買収に伴う前述トマト畑を拡張調査しながら、12月28日に平成16年度の発掘調査を終えた。平成17年度は三平Ⅰ遺跡の東部分の用地買収に伴い、7月1日より発掘調査に着手し、平安時代以降の遺構確認面と、縄文時代の遺構確認面による2面調査を実施し、8月31日に発掘調査を終えた。

整理作業は、平成18年1月から8月末までの8ヶ月間に遺物接合・復元、遺物実測・拓本作成、トレース、遺構図修正、図版作成等の作業を行い、報告書刊行に至った。

発掘調査日誌抄録

平成16年度（2004年）

5.10 調査開始（トレンチ設定及び掘削・表土掘削等）

- 5.27 遺構確認調査開始
 - 6.4 陥し穴など土坑調査開始
 - 6.24 三平Ⅱ遺跡高所作業車による全景写真撮影
 - 6.29 三平Ⅱ遺跡旧石器試掘開始
 - 8.25 三平Ⅰ遺跡南部分の桑畑表土掘削及び調査開始
 - 8.27 株式会社古環境研究所 自然科学分析現地調査
 - 8.30 三平Ⅰ遺跡西部傾斜面部分表土除去及び調査開始
 - 10.15 東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程 吉田英嗣氏、応桑泥流調査のため来跡
 - 10.25 三平Ⅰ遺跡1号住居調査開始
 - 11.1 三平Ⅱ遺跡トマト畑部分表土掘削及び調査開始
 - 11.3 長野原町町民文化祭にて遺跡パネル及び遺物展示
 - 11.25 三平Ⅰ遺跡3号住居調査開始
 - 12.1 三平Ⅰ遺跡高所作業車による全景写真撮影
 - 12.6 三平Ⅰ遺跡トマト畑部分中世掘立柱建物群調査開始
 - 12.10 三平Ⅱ遺跡掘立柱建物群航空写真撮影
 - 12.28 調査終了・調査事務所撤収
- 平成17年度（2005年）
- 7.1 調査開始（草刈り・表土掘削等）
 - 7.7 遺構確認調査開始・陥し穴など土坑調査開始
 - 7.14 焼土調査開始
 - 7.25 1面目（陥し穴群等）高所作業車による全景写真撮影
 - 7.29 1・2号掘立柱建物中心に1面目全景写真撮影
 - 8.1 2面目調査開始
 - 8.3 1号住居前年度掘り残し部分調査開始
 - 8.8 2面目土坑群等全景写真撮影 旧石器試掘開始
 - 8.31 調査終了・埋戻し・引渡し

2 調査の方法

三平Ⅰ遺跡・三平Ⅱ遺跡（2遺跡を以下、「本遺跡」と略す）の発掘調査においては、バックホーによる表土掘削を行い、作業員による遺構検出作業と精査により順次作業を進めた。本遺跡の場合、三平Ⅱ遺跡はその西側の「松葉沢」と呼ばれる小河川と東側の「イドクボ」の伝承地名を有する谷地形に挟まれた馬背状台地に位置し、三平Ⅰ遺跡は北を斜面上位方向とする南向傾斜面にその一部が位置するため、その台地上や傾斜面は黒色土の堆積は薄く、場合によっては一度堆積した黒色土層が地滑り状に崩落して失われた可能性もある。一方、三平Ⅰ遺跡と三平Ⅱ遺跡を区分するイドクボと呼ばれる谷地には、黒色土やローム質土等の厚い2次堆積層が確認でき、さらに三平Ⅰ遺跡の平坦部（1号住居及び1～3号掘立柱建物検出部周辺）では、黒色土（Ⅲ・Ⅴ層）の純堆積層が厚さ約1mにも及んだ。このような状況から、バックホーによる表土掘削において、厚さ15～25cm程度で地山のローム層面やYPk純堆積層面が露出する台地上や尾根部或いは傾斜面部では、1面のみの調査を行い、一方、谷地部及び平坦部では2面或いは3面調査を行う必要に迫られた。

堅穴住居や土坑などの調査は、埋没土層堆積状況の観察用ベルトを任意に設定し、平安以降遺物包含層（Ⅲ層）及び縄文遺物包含層（Ⅴ層）はグリッド設定線を使用して適宜観察用ベルトを残し、移植ゴテ等により掘削を行った。

旧石器試掘調査は、三平Ⅰ遺跡・三平Ⅱ遺跡とも実施した。三平Ⅰ遺跡ではローム面がやや尾根状に高い部分の14グリッド（90区G-17、H-17・18、I-16～21、J-17～21グリッド）において、南北3.5m×東西3.5mの正方形のトレンチを設定し、三平Ⅱ遺跡でも同地形の部分の54グリッド（81区A-9、B-7～9、C-8～10、D-7～10、E-10・11、F-9～11、G-9～12、H-9～11、I-10～12、J-10～13、K-10～13、L-11～15、M-11～17、N-13～17、O-15～17）において、南北2m×東西1.5mの長方形を基準に、場合に

じて3.5m×3.5mまで拡張した正方形のトレンチを設定し調査を実施した。

遺物取り上げについては、分布範囲の地点的な集約を想定し、4mグリッド一括取り上げ、及び地点別取り上げを適宜行った。

遺構平面測量にあたっては、測量業者委託によるデジタル平板測量を基本として、縮率1/20を基準に、任意に1/10・1/40・1/100・1/200を選択して行った。

遺構断面測量も平面測量に準じた。

遺構写真については、地上写真は現場担当者が、航空写真撮影は測量委託業者が行った。撮影には35mm版白黒フィルムとカラースライドフィルムを用い、必要に応じて6×7版白黒フィルムを使用した。

3 調査区の設定

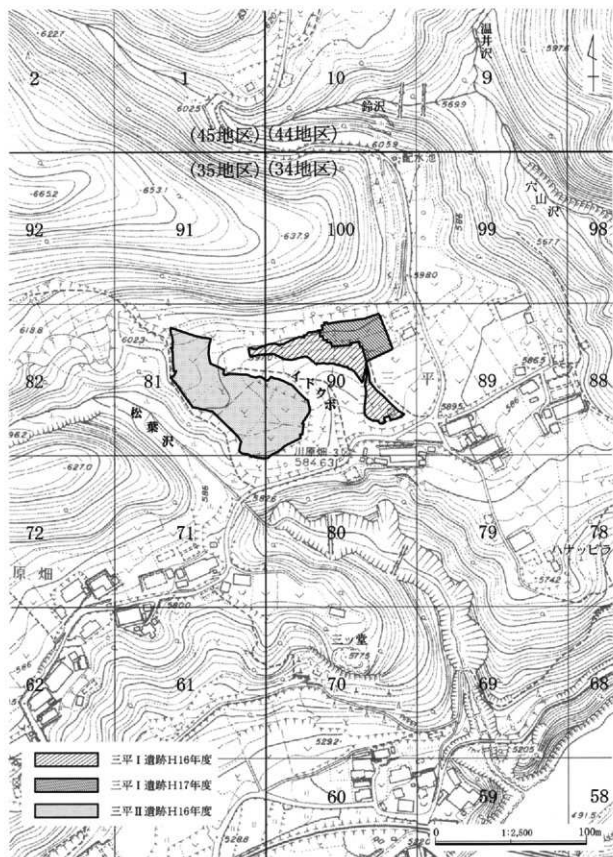
平成6年度から始まった八ッ場ダム建設に伴う発掘調査においては、遺跡名称の略号やグリッドの設定などについて「八ッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき進められている。以下、本報告書でもそれに準拠し必要部分について掲載する。

①調査における遺跡番号は、八ッ場ダム建設に関わる長野原町の大字5地区（1：川原畑、2：川原湯、3：横壁、4：林、5：長野原）に番号を付し、八ッ場ダムの略号（YD）に続ける。ハイフン以下は各地区内に所在する遺跡に対して調査順に通し番号を付し、遺跡番号とする。三平Ⅰ遺跡は「YD1-04」、三平Ⅱ遺跡は「YD1-06」に該当する。

②基準座標は、国家座標（2002年4月改正以前の日本側地系）に基づく日本平面直角座標第Ⅱ区系を使用し、東吾妻町大柏木付近を原点（座標値X＝＋58000.0、Y＝－97000.0）とした1km方眼を基点として60の区画を設定し、この大グリッドを「地区」と呼ぶ。本遺跡はこのNo.34地区とNo.35地区の両地区の境界部に所在する。

③1km方眼を南東隅から100m方眼の1～100に区

I 調査の経過と方法



第1図 調査区設定図 (34・35・44・45地区)

画し、この中グリッドを「区」とする。南東隅を1とし、東から西へ連続する10単位を南から北へ配列し、北西隅を100として完結するよう配置する。本遺跡の場合、三平Ⅰ遺跡がNo.34地区90区とNo.35地区81区、三平Ⅱ遺跡がNo.34地区80・90区及びNo.35地区71・81区に跨っており、それぞれの遺跡の区毎に遺構名称・番号が付されているので留意されたい。

(例) 三平Ⅱ遺跡90区1号土坑

「区」の100m方眼は、さらに4m方眼で625区画に分割され、その4m方眼の小グリッドを「グリッド」と呼ぶ。なお、小グリッドの東西にはA～Yまでのアルファベットを、南北には1～25までの算用数字を用いながら、南東隅を基点としグリッドを呼称する。

また、遺構図や本文中の記載において、特に混乱が予想されない場合は地区番号を略して用いている。

4 基本土層

- I層：暗褐色土（10YR3/3）。現在の耕作土及び表土。やや砂質で粘性に乏しい。
- II層：褐色土（10YR4/4）。ローム質土の2次堆積層。砂質で粘性弱い。斜面上位方向（北方向）からの土砂崩落に伴う堆積層と考えられる。径5～10mmの亜角礫5～7%含む。
- III層：黒褐色土（10YR2/2）。粒子細かく、しまり粘性ともに弱い。浅間柏川テフラ（As-Kk）の純堆積層が部分的に残存する。平安時代以降の遺構確認面及び遺物包含層に相当する。
- IV層：にぶい黄褐色土（10YR4/3）。II層に類似した

▽▽▽
I
II
III
IV
V
VI
VII
VIII

ローム質土の2次堆積層で土砂崩落に伴う堆積層と考えられる。

V層：黒褐色土（10YR3/2）。粒子細かい。しまり粘性ともIII層より強い。白色あるいは黄色軽石粒を3～5%含む。縄文時代の遺構確認面及び遺物包含層に相当する。

VI層：褐色土（10YR4/6）。III層のローム層への漸移層。粒子細かく、しまり強い。

VII層：黄褐色土（10YR5/6）。ローム層。粒子細かく、しまり強い。三平Ⅱ遺跡81区M-13並びにO-17グリッドの当層位において、黄灰色泥流堆積物が確認されている。詳細については、「VI・2 自然科学分析群馬県三平遺跡の火山灰分析」を参照されたい。

VIII層：層厚80～90cmの浅間草津黄色軽石（As-YPk）純堆積層。パミス粒径は最大20～30mm。最上層部及び最下層部には硬化したアッシュの純堆積層が確認できる。

参考文献

- 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『長野原一本松遺跡（1）』第287集
- 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『ハッケム谷発掘調査集（1）』第303集
- 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005『川原湯湯沼遺跡（2）』第356集
- 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『立馬Ⅱ遺跡』第375集

II 遺跡の環境

1 地理的環境

長野原町は群馬県北西部、吾妻郡の南西隅に位置する。町城の北部を吾妻川が東流し、川を挟んで北西には草津白根山、南西には浅間山が位置する。また東部には、吾妻川より北側に高間山(1341.7m)や王城山(1123.2m)、南側に丸岩(1124m)や菅峰(1473.5m)、浅間隠山(1756.7m)、鼻曲山などが南北に連なる。長野原町は、その地形の特徴から、高間及び白根の両山系と菅峰に挟まれた吾妻川流域地帯の北部と浅間高原地帯の南部とに大別される。

吾妻川は、長野県境の鳥居峠(1,362m)付近に水源を発して東流し、町城のはほぼ中央では川幅をやや広くするもの、東端では第3紀層を刻んで吾妻渓谷を形成している。その支流は、兩岸の山地から発する河川や溪流が多く、左岸には草津白根山麓から発する万座川や赤川、遅沢川、上信越国境の白砂山麓から発する白砂川などが南流する。また右岸には、浅間山麓から発する小宿川や、鼻曲山麓から発する熊川などが北流する。流長76.2kmの吾妻川は、渋川市街地付近で、全長322kmの利根川に合流する。

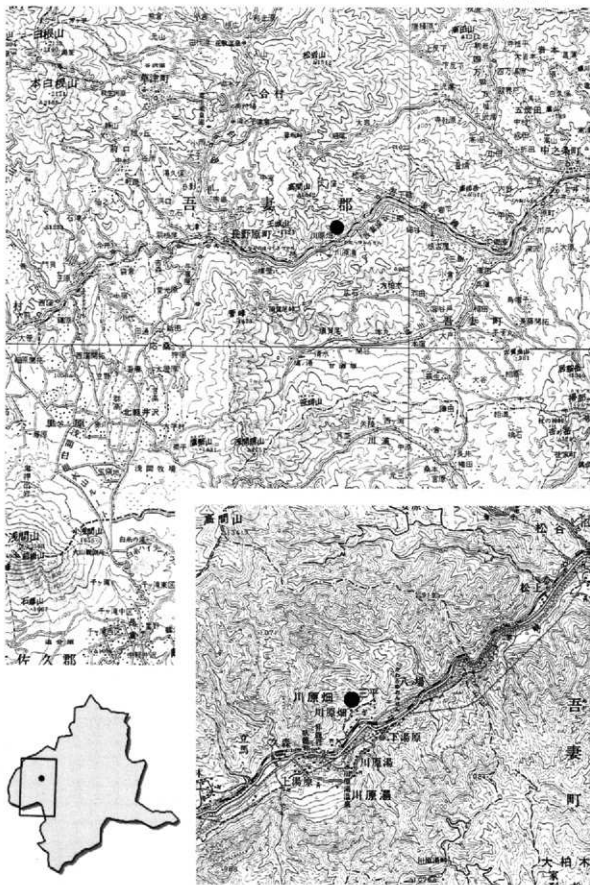
長野原町は、地質構造上では那須火山帯と富士火山帯が接する付近にあるため、周囲の山地は火山活動により形成された火山性山地が多く、浅間山や白根山は現在も活動を続ける。高間山や王城山、菅峰も約100万～90万年前頃活動していた火山であるが、現在は浸食が進みほとんど原形を留めていない。菅峰火山から流出した溶岩が断層によって独立したものが「丸岩」である。丸岩は南側を除いた三方が100mにも達する垂直の崖に囲まれ、吾妻川方面から望むと巨大な円柱状に見える特徴的な岩峰である。それは、長野原・横壁・林・川原湯・川原畑の八ッ場ダム関連の5地区どこからでも望むことができるランドマークとなっている。

吾妻川兩岸には、吾妻川からの比高差を基準に、最上位・上位・中位・下位の4段階の河岸段丘面が

形成されている。現在の吾妻川からの平均的な比高差は、最上位段丘で約80～90m、上位段丘で約60～65m、中位段丘で約30m、下位段丘で約10～15mを測る。

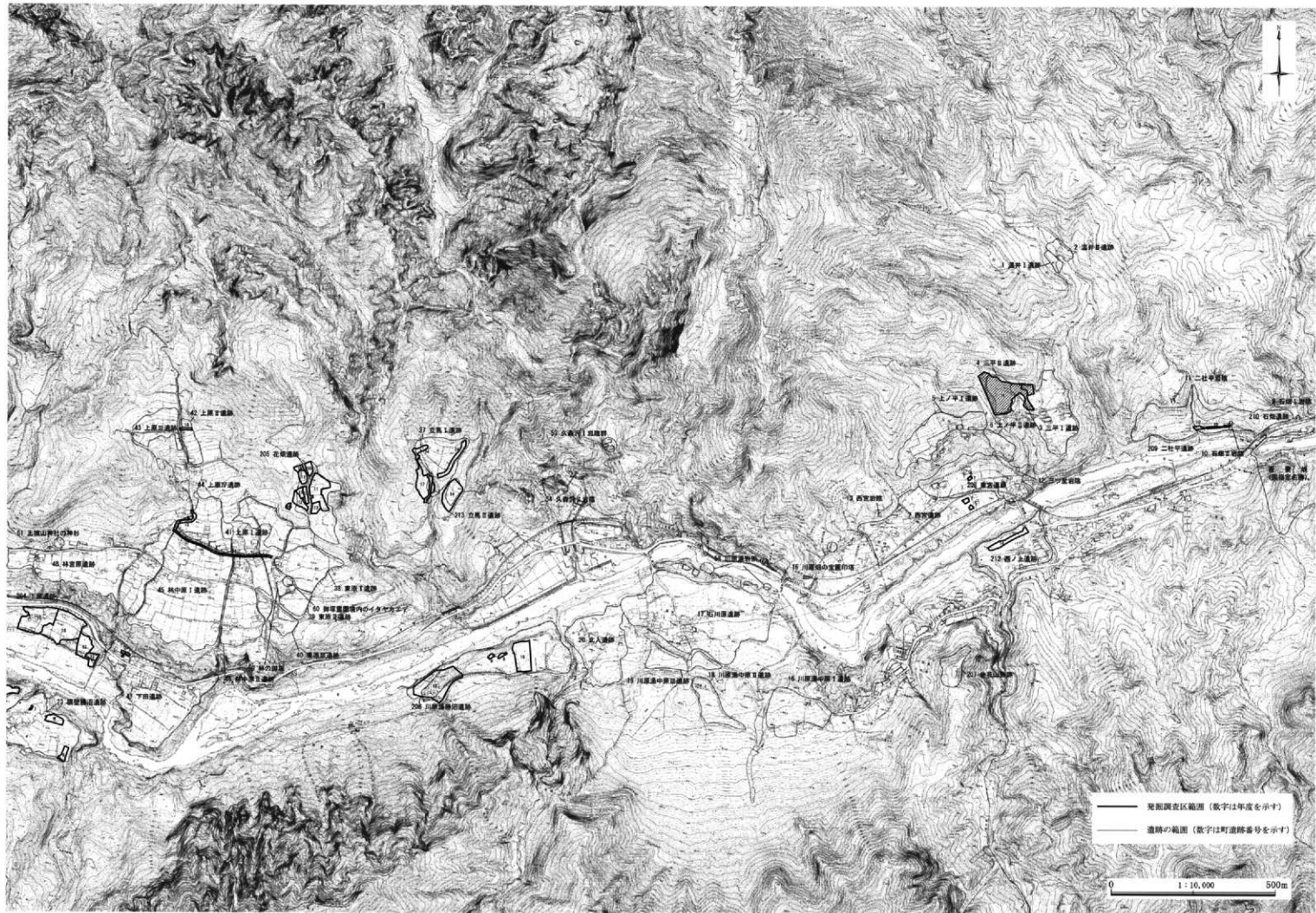
長野原町の地質形成に大きな影響を与えた火山が浅間山である。町城の北西部、長野県境に位置し、古い方から黒斑・仏岩・前掛山・釜山の4つの火山体で構成される標高2,568mの成層火山である。約2.1万年前の黒斑火山の噴火では、山体崩壊によって「応桑泥流」が発生した。この泥流堆積物は、当時の河床を数十mの厚さで埋めており、その後の浸食によって吾妻川兩岸に最上位と上位の河岸段丘面が形成されたといわれる。浅間山はその後も多くの火山噴出物を堆積させているが、特に町城では浅間草津黄色軽石(As-YPk; 1.3～1.4万年前)の堆積が顕著である。また浅間Bテフラ(1108年)や浅間粕川テフラ(1128年)も平安時代の黒色土中に数cmの厚さで確認できる。さらに天明三年(1783年)の噴火により発生した泥流は下位段丘面や中位段丘面を数m～数十cmの厚さで覆っている。

本遺跡は、標高約600mの吾妻川左岸最上位段丘面上の大字川原畑字三平に所在し、高間山の南東麓に位置する。高間山頂から吾妻川左岸に露出する川原湯岩脈(国指定天然記念物)の方向へは、南に延びる細長い尾根が張り出しており、尾根の東、川原畑地区内を流れる戸倉沢・ミョウガ沢・境沢・松葉沢・八ッ場沢・穴山沢、その支流の鈴沢と温井沢等の溪流は、すべて高間山及びこの尾根に源を発している。従って、川原畑地区内の溪流は、源流付近では東流し、中・下流から吾妻川へ流れ込む付近にかけて、次第に南流する傾向がある。本遺跡は西の松葉沢、東の穴山沢に挟まれた最上位段丘上に位置するが、段丘面は水平ではなく、吾妻川に向かって南東方向へ低くなり、平坦面というよりは舌状台地に近い地形となっている。さらに三平I遺跡と三平II遺跡の間には、伝承地名で「イドクボ」と呼ばれる谷地が松葉沢にほぼ並行して入り込んでおり、両遺跡を隔てている。このイドクボは、本来「井戸



第2圖 遺跡位置圖





第3図 遺跡位置及び周辺遺跡図

窟」の意味をもつと推定できるが、発掘調査時、台風や大雨、夕立等の後は文字通り谷部より湧水が確認できた。

小字名である「三平（さんだいら）」の地名の由来は、「三つ」の「平ら」＝緩やかな傾斜地にあるという。川原畑地区には3つの平地があり、具体的には、三平地区と同じ最上位段丘面上で松葉沢の西に隣接する「上の平（うへのたいら）」、中段段丘面上の「西宮・東宮」、そして3番目の「三平」となる。また、三平地内に3段の平地が見られたとの別説もある。

2 歴史的環境

長野原町内周辺の埋蔵文化財包蔵地や付近の歴史的環境をはじめ、周辺遺跡や近隣町村に分布する遺跡等については、既刊「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査遺跡報告書」第1集（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団第287集）、第2集（同303集）、第8集（同375集）及び「林原遺跡Ⅱ」（長野原町教育委員会2004）などが詳しいので、参照して頂きたい。ここではこれら既刊の報告を頼りに、長野原町における近年の調査動向及び本遺跡に関わる時代・時期の事例を中心として概観しておきたい。

ただし、記載した遺跡には、整理作業中或いは未報告、発掘調査中の遺跡も多く、時期や遺構数等については不確定な部分もあるので留意されたい。

旧石器時代 長野原町において該期の遺跡は依然確認されていないが、柳沢城跡の調査において細石器文化期に伴うと考えられる注質頁岩製のスクレイパー1点が出土する。

縄文時代

●草創期・早期 吾妻渓谷西側人口部の吾妻川左岸に位置する石畑Ⅰ岩陰では、表裏縄文・回転縄文・熱糸文・押型文などの土器群や獣骨などが出土して

いる。本遺跡と同じく川原畑地区に所在し、段丘面は異なるものの、出土土器の帰属時期や型式・様式等、その様相には共通点がある。平成12・13年調査の榎木Ⅱ遺跡では、熱糸文期の堅穴住居31軒が確認され、県内はもとより全国でも希少な調査例である。また平成14年調査の立馬Ⅰ遺跡でも早期住居2軒が確認されている。

●前期 坪井遺跡で前期初頭花積下層式期の住居1軒、暮坪遺跡で前期前葉二ツ木式期の住居2軒、長畝Ⅱ遺跡で岡山～黒浜式期の住居2軒、平成12・13年調査の榎木Ⅱ遺跡では黒浜式・有尾式～諸磯式期の住居12軒が確認されている。本遺跡報告の住居2軒も諸磯式期に比定される。

●中期～後期 中期前半の調査例は少なく、平成12・13・17年調査の榎木Ⅱ遺跡で五領ヶ台式・阿玉台式期住居4軒が確認され、幸神遺跡で完形の阿玉台式土器が出土した円形土坑1基が発見されている。平成14年調査の立馬Ⅱ遺跡で五領ヶ台式～阿玉台式期の住居9軒が確認された。中期後半以降になると、大規模集落遺跡として著名な横壁中村遺跡と長野原一本松遺跡が挙げられる。どちらも中期後半加曾利E式期から後期中葉加曾利B式期にわたる住居250軒以上が確認されている。平成18年調査の上ノ平Ⅰ遺跡は、本遺跡と同じ段丘面上、沢を挟んだ西に位置し、中期中葉の住居が12軒確認されている。

●晩期 石畑Ⅰ岩陰では水Ⅰ式や安行式、千瀬式土器などが採集されている。平成16年調査の川原湯勝沼遺跡では水Ⅰ式併行の浮塚文系の壘と在地型突帯文壘形土器が2基並立して埋設されており、再葬墓の可能性が高い。平成14年調査の立馬Ⅰ遺跡では中部高地における晩期終末女島羽川式期の住居1軒が確認されている。また平成15年調査の横壁中村遺跡でも晩期終末に帰属する可能性のある住居2軒も調査されている。

弥生時代 依然として調査例は少ないが、横壁中村遺跡では東海西部系土器壘王式の壘を埋設する土坑1基が確認されている。また平成14年調査の立

II 遺跡の環境

馬I遺跡では中期前半～中葉の住居1軒、中期後半の住居1軒と土器棺墓2基が検出されている。

古墳時代 依然として調査例は少ないが、平成15年調査の林宮原II遺跡では5世紀末～6世紀初頭の住居1軒、平成16年調査の下原遺跡でも同時期の住居1軒が確認されている。平成16年調査の川原湯勝沼遺跡でも同時期の土師器を伴う土坑1基、遺構外からは剣形石製模造品が出土している。

奈良・平安時代 奈良時代に該当する遺跡は羽根尾II遺跡のみで増えていない。これに対して平安時代の遺跡の分布は町内全域に及んでおり、縄文時代とともに原始古代の中心をなす時期である。平成12・13・16・17年調査の楡木II遺跡では9世紀後半～10世紀前半の住居34軒が検出され、「長」・「三家」の墨書土器や「称」と刻字された紡錘車も出土し注目される。平成14・15・17年度調査の横壁中村遺跡では9世紀中葉～10世紀初頭の住居18軒を確認し、1軒は焼失住居であるとともに床面の一部が板敷きであることが確認され注目に値する。平成13年調査の長野原一本松遺跡では5軒、平成14年調査の立馬I遺跡では4軒、平成16年調査の川原湯勝沼遺跡では9世紀の住居3軒、平成18年調査の上ノ平I遺跡では9世紀～10世紀の住居20軒が確認されている。

中世 吾妻川流域地帯には中世城館跡が点在している。その立地は当時の道との関連性が強く、分岐点の丘陵上など交通の要衝に多い。西から羽根尾城跡、長野原城跡、丸岩城跡、柳沢城跡、金光山砦跡などがあり、その他に林城跡、林の烽火台などといわれる箇所も存在する。金光山砦跡は、平成12年に町教委と群馬県埋蔵文化財調査事業団により堀切などが確認されている。掘立柱建物の検出も近年増加しており、平成11・12・13・17年調査の横壁中村遺跡では18棟、平成12・15・17年調査の楡木II遺跡では石垣区画されたテラスを伴う掘立柱建物が十数棟、平成15年調査の長野原一本松遺跡では2棟、本遺跡で

は7棟の掘立柱建物が確認されている。

近世 近年、ダム関連工事に伴う発掘調査により下位・中位段丘面で天明三年浅間山噴火に伴う泥流に埋もれた遺跡が相次いで発見されている。これらの遺跡では畑跡・ヤックラ・道・石垣・溝・井戸・覆屋構造などが検出され、天明泥流に埋まった畑景観の復元や「ツカ」や平坦面から推定される「単位畑」の構造などに関して詳細な検討がなされている。なお、本遺跡は最上位段丘面に立地するため天明泥流被害は及んでいない。

本遺跡周辺の民俗や墓制に関する資料として、両墓制がある。両墓制とは死者の遺骸を埋葬する第1次墓地と、別の場所に靈魂を祀るための石塔を建てる第2次墓地とを併せもつ墓制をいう。遺体を埋葬する第1次墓地をボチ・ハカバ・ウメバカ・タッチョウバ、石塔を建てる第2次墓地をヒキハカ・マイリバカ・オガミバカ・ラントウバ・オハカなどと一般的に呼ぶ。群馬県内では北毛の利根郡品村、吾妻郡六合村・長野原町・堀忍村・東吾妻町・中之条町、渋川市、東毛の邑楽郡板倉町・明和町、西毛の甘楽郡南牧村10ヶ市町村に残る風習であり、長野原町では横壁・川原畑・林の3地区が該当する。本遺跡が所在する川原畑地区では、第1次墓地であるウメバカは三平地内の「ハナツビラ」と呼ばれる段丘崖にあり、村中の共同墓地となっている。ここでは空いている場所なら基本的にどこに埋葬してもよいことになっており、埋葬後は塔婆を立てる。一方、第2次墓地であるヒキハカは250mほど南西に離れた「三ツ堂」の敷地内に石塔を建てる。両墓制成立の背景には、遺体を焼いているものとして忌む観念と、淨らかな靈魂を別の場所に祀る霊肉分離の観念から生まれたものとの説があるから、語り方から考えると、本来的にはヒキハカが作られればウメバカには詣る必要はないはずである。しかし現実には両墓を詣るのが普通であり、逆にウメバカを詣る頻度の方が高いとさえいえる。ここには両墓制の本来的意義はすでに消失しており、両墓制成立時期が不明

表1 周辺遺跡一覧表(1)

大字	遺跡番号	遺跡名	YD番号	調査年度(●:発掘調査 ○:試掘調査)													遺構・遺物の時期	備考				
				6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18						
川原郷	208	東京遺跡	YD1-02		●	●											近世	H7-9を群文303集(ハッ場2集)で報告				
川原郷	210	石塚遺跡	YD1-03	○	○	●											縄文・弥生・近世	H8-9-10を群文303集(ハッ場2集)で報告 H10を群文303集(ハッ場2集)、H16-17を本書で報告				
川原郷	3	三平I遺跡	YD1-04													●	縄文・弥生・平安	H8-10を群文303集(ハッ場2集)で報告				
川原郷	11	二社平岩跡	YD1-05														近世	H8-10を群文303集(ハッ場2集)で報告				
川原郷	4	三平II遺跡	YD1-06													●	縄文・平安・中世	本書で報告				
川原郷	5	上ノ平I遺跡	YD1-07						○								●	縄文・平安				
川原郷	1	坂井I遺跡															●	縄文・平安				
川原郷	2	坂井II遺跡															●	縄文				
川原郷	6	上ノ平II遺跡																不明				
川原郷	7	西宮遺跡															○	縄文				
川原郷	8	唐沢岩跡																●	縄文			
川原郷	9	石塚II岩跡																●	縄文			
川原郷	10	石塚II岩跡																	不明			
川原郷	12	三ツ堂岩跡																	不明			
川原郷	13	西宮岩跡																	不明			
川原郷	209	二社平遺跡																	縄文・平安・近世			
川原郷	16	川原郷中原I遺跡																	縄文			
川原郷	17	石川原遺跡																	縄文			
川原郷	18	川原郷中原II遺跡																	平安			
川原郷	19	川原郷中原III遺跡																	縄文・平安			
川原郷	20	北入遺跡																	縄文			
川原郷	206	川原郷御田遺跡	YD2-01			●											●	●	縄文・古墳・平安・近世	H9を群文303集(ハッ場2集)、H15-16を群文356集(ハッ場6集)で報告		
川原郷	212	西ノ上遺跡	YD2-02															●	近世	H14を群文349集(ハッ場4集)で報告		
川原郷	207	金花山岩跡																	中世			
横峯	23	横峯御田遺跡	YD3-01	●	●															縄文・弥生・平安・中世・近世	H6-7を群文303集(ハッ場2集)で報告	
横峯	31	西久保I遺跡	YD3-02	○		●	●	●		○										縄文・弥生・平安・中世・近世	H11-12を群文303集(ハッ場2集)で報告	
横峯	24	横峯中村遺跡	YD3-03		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	縄文・弥生・平安・中世・近世	天明館を群文319集(ハッ場3集)、縄文中期住居を群文355-368-381集(ハッ場5・7・10集)で報告	
横峯	29	山原遺跡	YD3-04																○	縄文・弥生・平安・近世	H10を群文303集(ハッ場2集)で報告	
横峯	21	上野I遺跡																	○	縄文・平安		
横峯	22	上野II遺跡																		平安・近世		
横峯	26	山原I遺跡																	●	平安		
横峯	28	山原II遺跡																	○	平安・近世		
横峯	30	山原III遺跡																	○	縄文・平安		
横峯	32	西久保II遺跡																		平安		
横峯	33	西久保III遺跡																		不明		
横峯	34	丸沼城跡																		中世		
横峯	35	徳沢城跡																		中世		
横峯	216	西久保IV遺跡																		近世		
林	47	下田遺跡	YD4-01	○	●	○														縄文・近世	H6-7-9を群文303集(ハッ場2集)で報告	
林	41	上原I遺跡	YD4-03																	縄文・平安・近世	H9を群文303集(ハッ場2集)で報告	
林	205	北原遺跡	YD4-05																	縄文・平安	H10-12を群文303集(ハッ場2集)で報告	
林	202	榎木草遺跡	YD4-06																	縄文・弥生・平安・中世	H10を群文303集(ハッ場2集)で報告 H11-13を群文319集(ハッ場3集)、H15-16を群文349集(ハッ場4集)で報告	
林	203	中郷II遺跡	YD4-07																	近世	H12-13を群文319集(ハッ場3集)、H15-16を群文349集(ハッ場4集)で報告	
林	204	下原遺跡	YD4-08																	古墳・平安・中世・近世	H12-13を群文319集(ハッ場3集)、H15-16を群文349集(ハッ場4集)で報告	
林	51	榎木I遺跡	YD4-09																	縄文・平安・中世	H12を群文379集(ハッ場9集)で報告	
林	52	二反原遺跡	YD4-10																	中世・近世	H12を群文379集(ハッ場9集)で報告	
林	37	立馬I遺跡	YD4-11																○	縄文・弥生・平安・中世・近世	H14-17を群文385集(ハッ場11集)で報告	
林	213	立馬II遺跡	YD4-12																	●	縄文・弥生・平安	H14を群文375集(ハッ場8集)で報告
林	44	上原IV遺跡	YD4-13																	●	縄文	
林	45	林中原I遺跡	YD4-14																	●	縄文・平安	
林	46	林中原II遺跡	YD4-15																	●	縄文	
林	42	上原III遺跡	YD4-16																	●	平安	
林	59	林の御塚	YD4-17	○	○															●	縄文・近世	H7-10を群文303集(ハッ場2集)で報告
林	38	東原I遺跡																		●	縄文・平安・近世	
林	39	東原II遺跡																		●	縄文	
林	40	東原III遺跡																		●	平安・近世	
林	43	上原IV遺跡																		○	平安	
林	48	林宮原遺跡																			縄文・古墳・平安	
林	49	中郷I遺跡																			縄文・近世	
林	50	榎木I遺跡																			縄文・平安	
林	53	丸沼I岩跡																			不明	

II 遺跡の環境

表2 周辺遺跡一覧表(2)

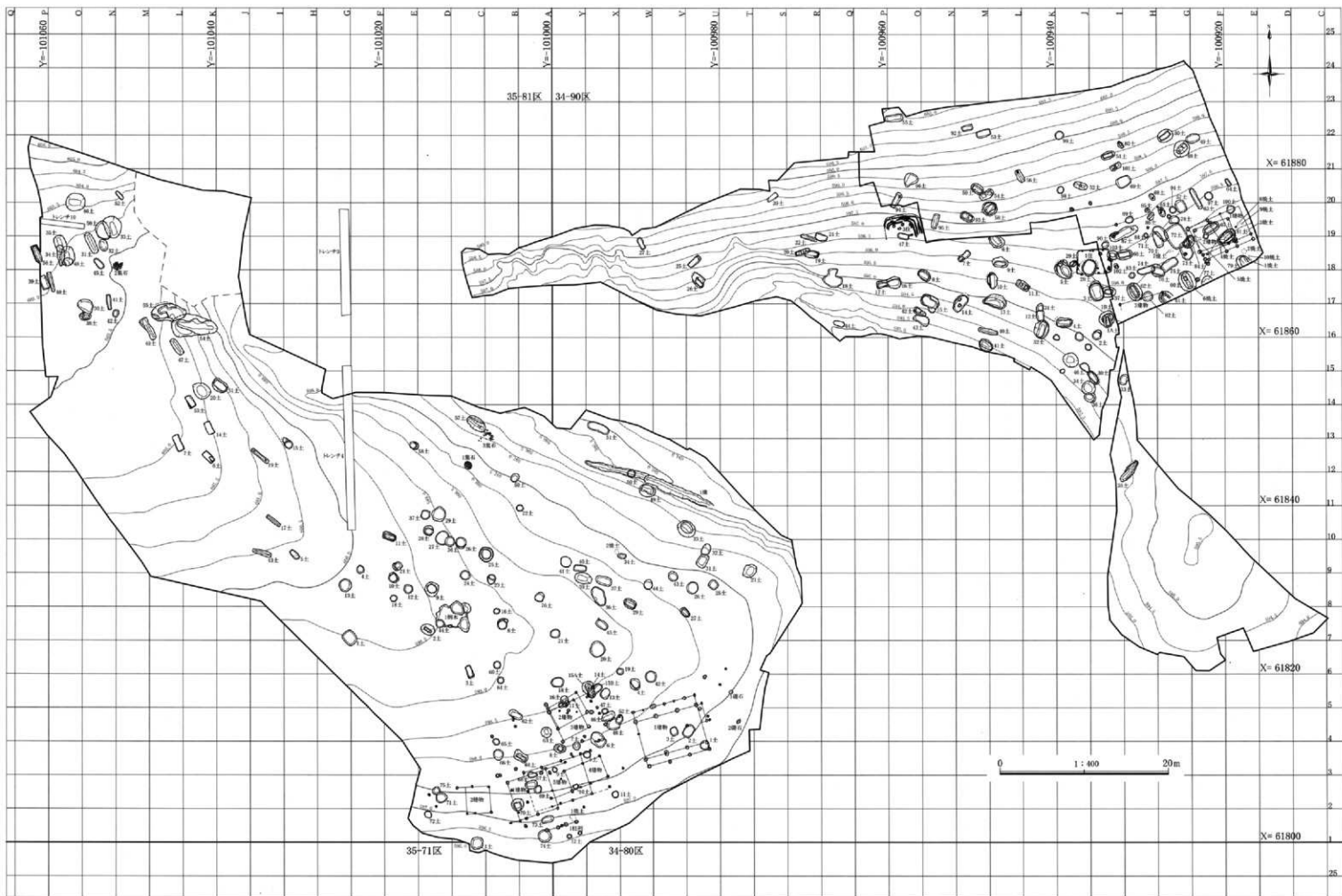
所在六	調査番号	遺跡名	YD番号	調査年度(●:発掘調査 ○:試掘調査)														遺跡・遺物の時期	備 考
				6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18			
林	54	久森沢石段																不明	
林	55	滝沢観音岩段																不明	
林	56	峠ツツ石段																縄文	
林	57	御堂山石段																不明	
長野原	63	長野原一本松遺跡	YD5-01	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	縄文・平安・中世・近世	H16~8を整理文287集(ハッ場1集)で報告
長野原	201	松原遺跡	YD5-02	○	○		●										●	近世	H6~7・10を整理文303集(ハッ場2集)で報告
長野原	200	久々戸遺跡	YD5-03	●	●	●	●	●									●	縄文・近世	H7を整理文240集、H9~11を整理文319集(ハッ場3集)、H15を整理文349集(ハッ場4集)で報告
長野原	62	赤神遺跡	YD5-04	●	●													縄文・平安・近世	
三島	57	上郷B遺跡	YD6-01															縄文・古墳・平安・近世	H13-14を整理文379集(ハッ場9集)で報告
三島	95	上郷岡原遺跡	YD6-02							○	●	●	●	●	●	●	●	縄文・弥生・平安・中世・近世	
三島	17	上郷A遺跡	YD6-03															縄文・古墳・平安	H15を整理文349集(ハッ場4集)で報告
三島	58	大沢遺跡	YD6															縄文・平安・近世・近代	
大柏木	96	東石A遺跡	YD7-01														●	中世・近世	H13を整理文379集(ハッ場9集)で報告
大柏木		大柏木上ノ沢遺跡	YD7	○															
松好		松田前田遺跡	YD8	○															

であるという問題もあるが、その定着時に何らかの不安定な要素・要因があったことが予想できる。川原畑地区では両墓ともダム水没による代替地移転が数年後には行われる予定である。

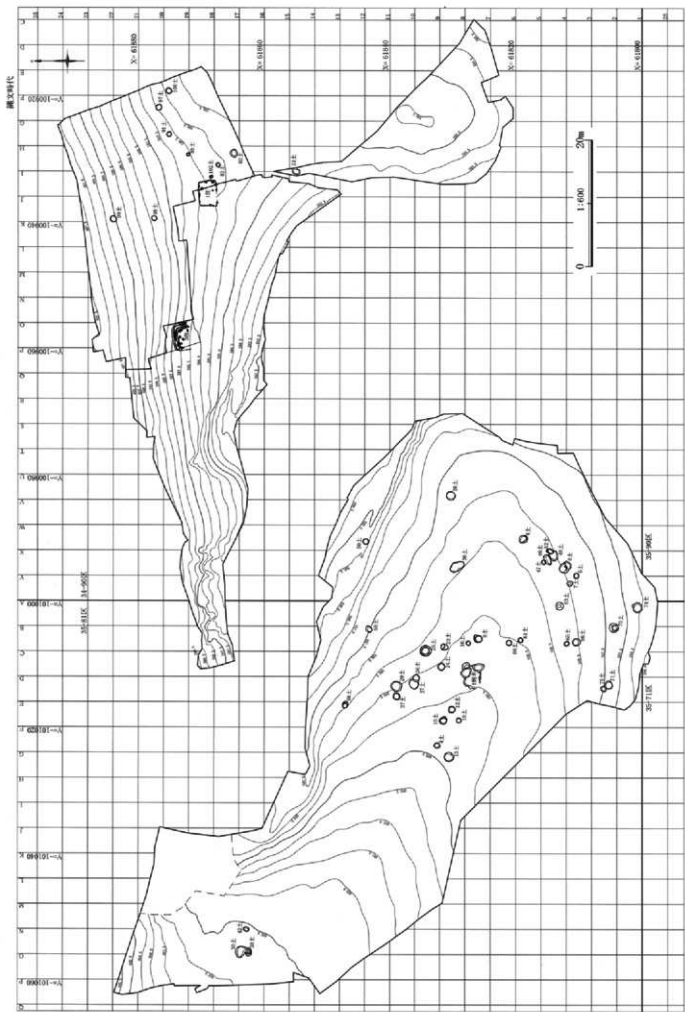
参考文献

- 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『長野原一本松遺跡(1)』第287集
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『ハッ場ダム発掘調査集(1)』第303集
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003『久々戸遺跡・中郷B遺跡・下原遺跡・横段中村遺跡』第319集
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005『川原湯解沼遺跡(2)』第356集

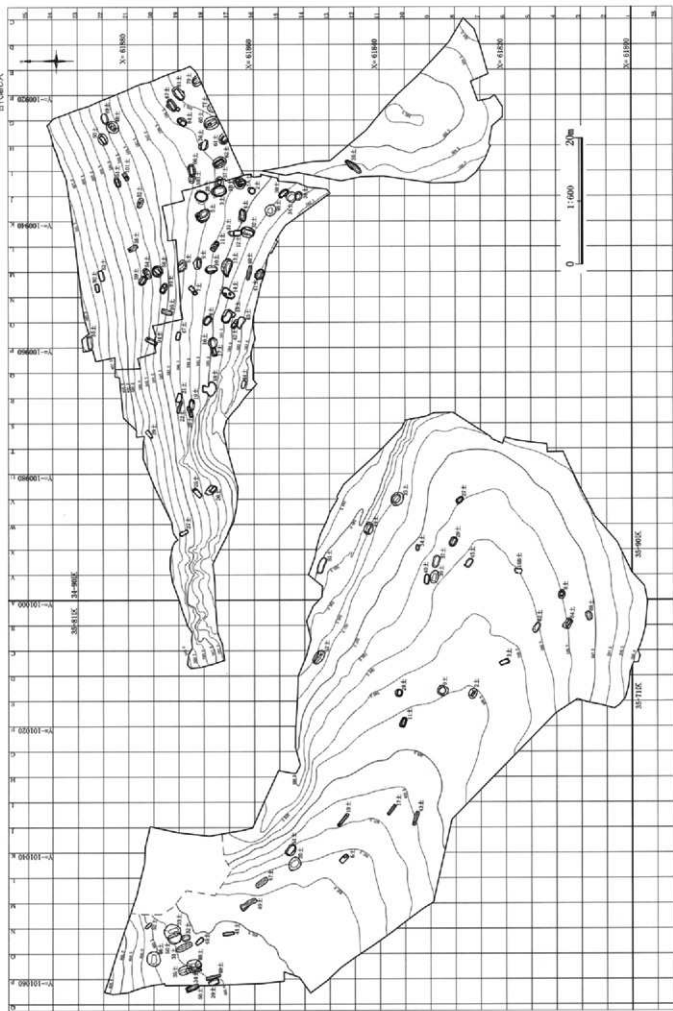
- 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『立馬II遺跡』第375集
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『立馬I遺跡』第388集
 長野原町 1976『長野原町誌』上巻
 ハッ場ダム地域自然調査会編 1993『長野原町の自然』長野原町
 上毛民俗学会編 1987『長野原町の民俗』
 新井房夫編 1963『火山灰考古学』
 長野原町教育委員会 2004『林宮原遺跡II』
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000『年報19』
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001『年報20』
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『年報21』
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003『年報22』
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004『年報23』
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005『年報24』



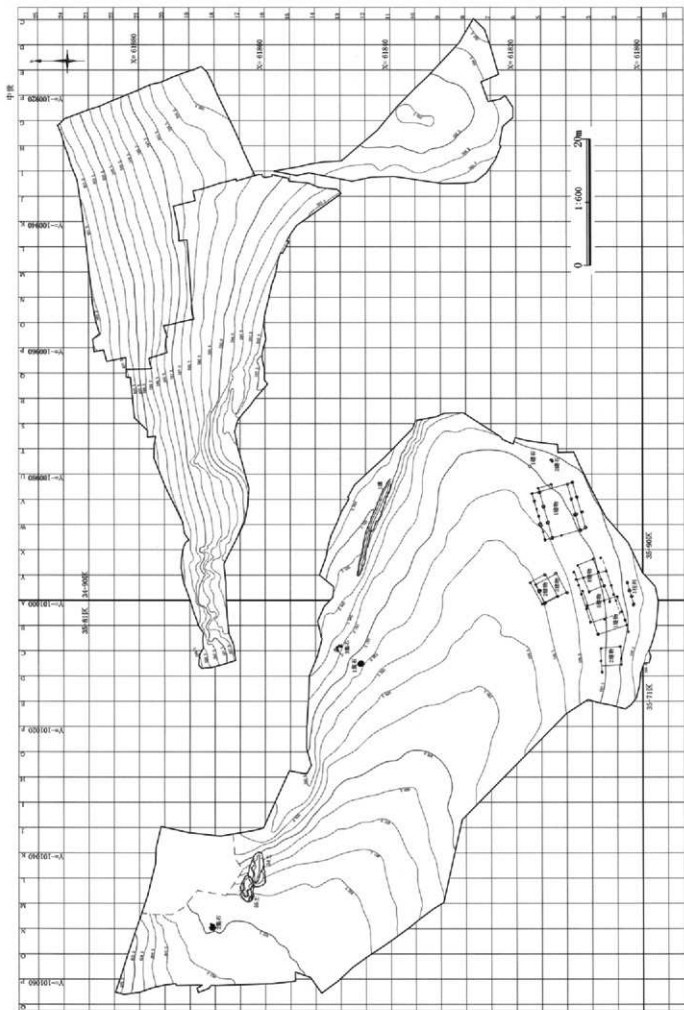
第4図 遺構全体図



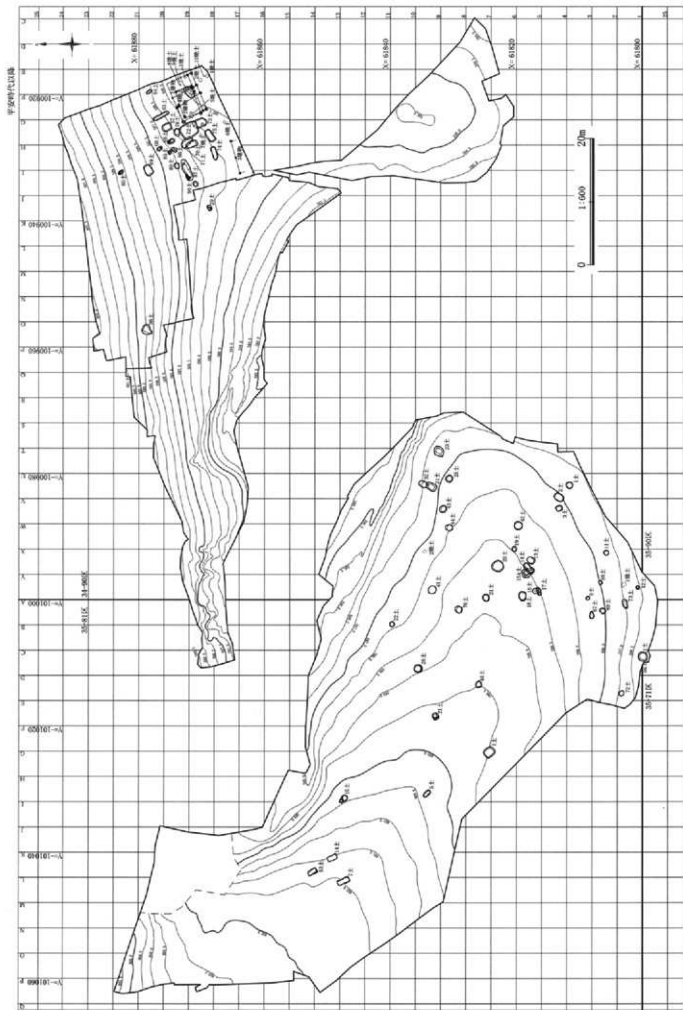
第5図 縄文時代遺構配置図



第6図 古代遺跡の配置図



第7図 中世遺構配置図



第8図 平安時代以降遺構配置図

Ⅲ 三平Ⅰ遺跡

1 検出された遺構と遺物

三平Ⅰ遺跡では、縄文時代前期の竪穴住居2軒（諸磯a式期1軒、同b式期1軒）、平安時代以降の掘立柱建物3棟、平安時代（9世紀第3-4半期）の焼土10基、土坑100基（古代の陥し穴69基、縄文時代或いは縄文時代の可能性が高い土坑10基、平安時代以降の土坑21基）を検出した。

（1）竪穴住居

2軒の竪穴住居が検出されている。出土遺物は量的には少ないが、帰属時期は1号住居が縄文前期諸磯b式期、3号住居が縄文前期諸磯a式期に比定される。住居の平面形状は隅丸長方形もしくは隅丸方形を呈し、炉の平面形状は円形を基本とする掘り込みの浅い地床炉である。

なお、2号住居については、1号住居の南方約2mの斜面下部に、環状に廻る柱穴と考えられるピットを4基確認したため調査を慎重に行ったが、その後床面や壁、炉などの施設を検出できずに調査を終え、整理作業の段階で欠番と判断した。

◆1号住居

位置 90区I・J-18グリッド

方位 N-8°-E

重複 28号土坑（陥し穴）・103号土坑（陥し穴）に切られる。

形状 勾配約8°の緩傾斜面を掘り込み、等高線方向にはほぼ並行して東西軸（長軸）をもつ隅丸長方形を呈する。長軸4.0m、短軸2.9m、壁高は北壁21~38cm、東壁7~38cm、南壁7~9cm、西壁11~38cmである。

炉 住居中央部やや東壁寄りに位置する。28号土坑（陥し穴）に南西部分を切られ、完形をとどめないが、地床炉と推察できる。炉埋没土の土層観察からは、炭化物及び焼土小ブロックが散見できる程度で、

直接被熱し、赤化・硬化した部分は確認できない。また焼土ブロックも炉の床面よりやや浮いた状態で混入している。平面形は2基の浅い円形土坑が重複したような形状を呈し、底部もそれに対応し深部が2箇所確認できる。

床 地山のローム層を最大38cm掘り込んで床面を構築する。ほぼ平坦であるが多少凹凸あり。凸部が踏み固めによりやや硬化している。

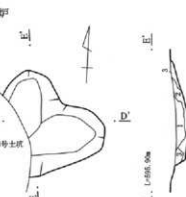
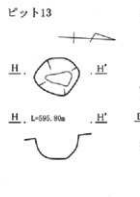
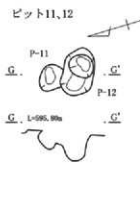
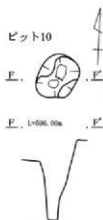
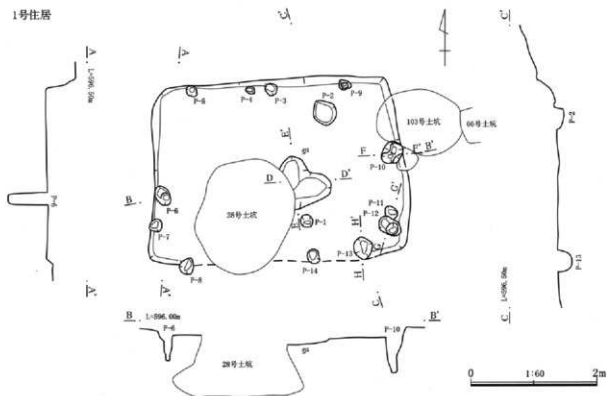
ピット 14基を検出。うちP-3~P-14の11基は住居壁際で、P-1・P-2の2基は住居中央部寄り確認。P-3~P-13は壁柱穴か。ピットの規模（長径×短径×深さ：cm）は、P-1（22×18×20）、P-2（43×38×18）、P-3（20×18×55）、P-4（15×10×29）、P-5（19×15×49）、P-6（34×22×66）、P-7（22×20×26）、P-8（27×22×30）、P-9（19×15×56）、P-10（39×30×56）、P-11（24×20×17）、P-12（38×24×54）、P-13（35×30×18）、P-14（22×18×21）である。
埋没状況 斜面上位方向（北方向）からの自然埋没状況であろう。

出土遺物 出土量は比較的少ない。東壁寄りにやや集中する。総数212点の遺物（土器110点、石器102点）が出土しているが、ほとんどが埋没土中からの出土で床面から浮いた状態であった。土器は、早期条痕文2点、二ツ木式3点（1・2・3）、関山式44点（4・5・6・7）、有尾式6点（8・9・10・11・12・13）、諸磯a式21点（14・15）、諸磯b式2点（16）、型式不明32点である。石器には石鏃B類3点（17・18・19）、石鏃未製品1点、スクレイパー1点、磨製石斧1点（20）、凹み石1点（21）、剥片95点（珪質変質岩3点、頁岩7点、チャート1点、黒曜石84点）が組成する。

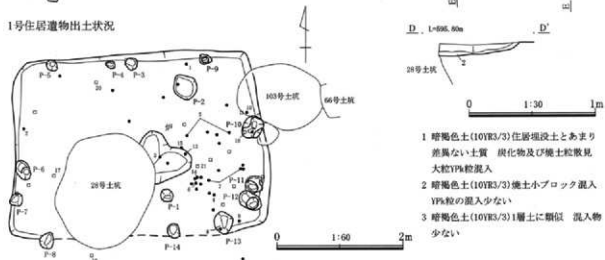
当住居では、床面に密着した遺物や炉埋没土器等の時期を決定する遺物は出土していない。出土土器の型的には早期末~前期諸磯b式期と時期差があり、住居埋没時に斜面上位方向からの遺物流れ込みも相当量想定される。数量的には関山式が主体的であるが、最も後続する土器型式が諸磯b式であることから、該期の所産と想定される。

III 三平I遺跡

1号住居



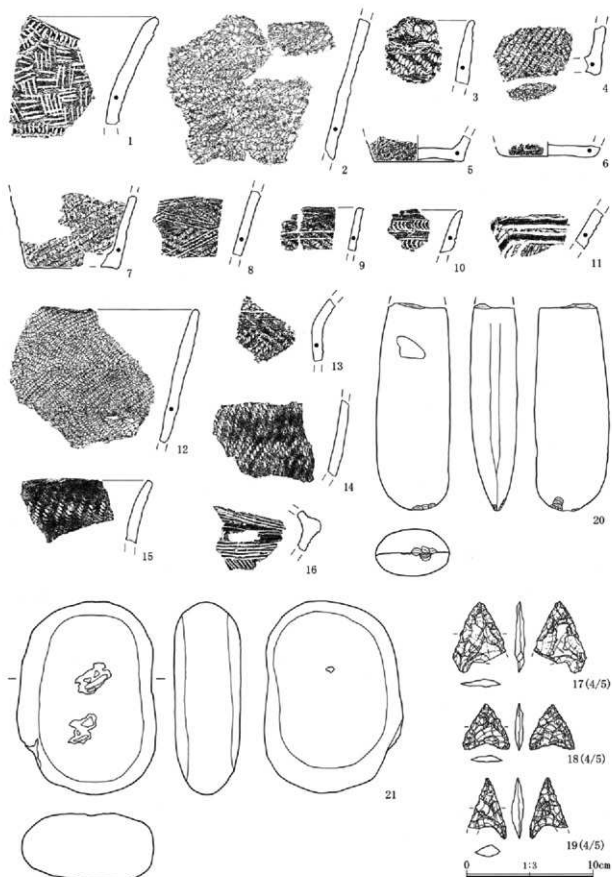
1号住居遺物出土状況



- 1 暗褐色土(10YR3/3)住居埋設土とあまり差異ない土質 炭化物及び焼土粒散見 大粒Y%粒混入
- 2 暗褐色土(10YR3/3)焼土小ブロック混入 Y%粒の混入少ない
- 3 暗褐色土(10YR3/3)1層土に類似 混入物少ない

第9図 1号住居

1 検出された遺構と遺物



第10図 1号住居出土遺物

◆ 3号住居

位置 90区O-19グリッド

方位 N-7°-W

重複 47号土坑（陥し穴）に切られる。

形状 勾配約15°の斜面を掘り込むため、住居北部分のみ残し全体の形状は不明だが、等高線方向にはほぼ並行して東西軸をもつ隅丸形状と推定できる。北壁は約60°の急傾斜で掘り込まれ、辺長3.9m、壁高39~47cmである。東壁は約55°の傾斜で掘り込まれ、辺長2.2m、壁高は11~39cmである。

炉 住居北壁寄りに2基の床炉が確認できる。どちらも掘り込みが5cm程度の楕円形状を呈する。中央部寄りの1号炉は長径40cm・短径29cmの規模を有する。2号炉は長径35cm・短径30cmの規模を有する。

床 勾配約15°の斜面地のローム層（Ⅷ層）を最大47cm掘り込んで床面を構築する。ほぼ平坦で凹凸面も少ないが、自然地形と同様に約5°の勾配で北側から南側方向へ緩傾斜している。地山のローム面まで掘り込まれる北壁寄りの床面が踏み固めによりやや硬化している。

ピット 4基を検出。P-1、P-2、P-4を主柱穴とする構造が考えられる。ただしP-2とP-4はそれぞれ2基の柱穴の重複と考えられ、住居の拡張あるいは建て替えに伴う再敷設の痕跡であろう。ピットの規模は、P-1（40×25×43）、P-2（38×30×34）、P-3

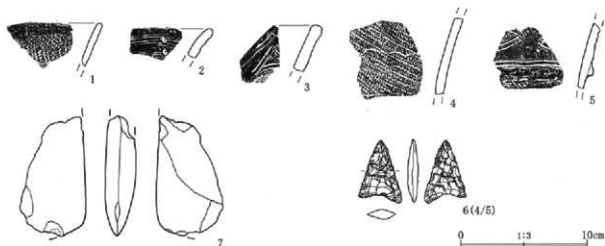
（29×18×19）、P-4（43×17×28）である。

周溝 4重に廻る周溝を確認。最も内側を廻る1番目の周溝の辺長は2.6m、幅約10cm、深さ約5cmの規模であり、北辺の一部が途切れて確認できないが全体のプランは明瞭である。中央部から壁方向に向かう2番目・3番目・4番目の周溝は最深部間隔20~25cmのはほぼ等間隔で並行して走行する。2・3番目の周溝は、プランが不明瞭で掘り込みもやや浅く、一部途切れ蛇行している。4番目の周溝は、住居壁と一体化して走行する。1番目の周溝と同様、プランが明瞭で約5cmの掘り込みをもち、壁に沿って直線的に走行する。各周溝の軸方位は住居の軸方位とともに一致しており計画的な住居の拡張や修復、建て替えが想定できる。

埋没状況 斜面上位方向（北方向）からの自然埋没状況であろう。

出土遺物 出土量は極めて少なく散在する。総数42点の遺物（土器22点、石器20点）が出土し、土器1点（4）が床面に密着して出土している。他は埋没土中の床面から浮いた状態で出土している。土器は全て諸磯a式22点（1・2・3・4・5）である。石器には石鏃B類1点（7）、磨製石斧1点（6）、剥片18点（頁岩2点、黒曜石16点）が組成する。

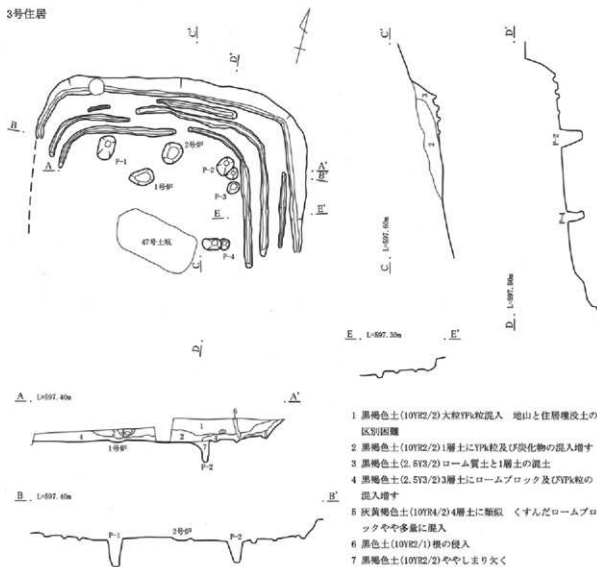
当住居の時期に関しては、出土土器が全て諸磯a式であり、1点が床面に密着していることから該期の所産と想定される。



第11図 3号住居出土遺物

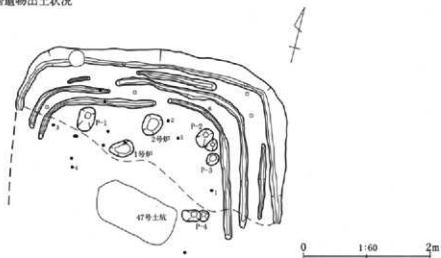
1 検出された遺構と遺物

3号住居



- 1 黒褐色土(10YR2/2)大粒Yp%粒混入 地山と住居層没土の区別困難
- 2 黒褐色土(10YR2/2)1層土にYp%粒及び炭化物の混入増す
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)ローム質土と1層土の混土
- 4 黒褐色土(2.5Y3/2)3層土にロームブロック及びYp%粒の混入増す
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)4層土に類似 くすんだロームブロックやや多量に混入
- 6 黒色土(10YR2/1)根の侵入
- 7 黒褐色土(10YR2/2)ややしまり欠く

3号住居遺物出土状況



第12図 3号住居

Ⅲ 三平I遺跡

(2) 掘立柱建物

三平I遺跡では、3棟の掘立柱建物を確認し調査した。建物の帰属時期を具体的に示す遺物の出土は確認できないが、Ⅲ層（平安時代以降の遺構確認用）を掘り込んで構築されること、共伴は不明確ではあるものの、建物内部において9世紀第3四半期の土師器・須恵器を伴う焼土が確認できること、建物内部や周辺で中世の遺物が出土していないこと、などの観点から総合し、本遺構は平安時代以降に比定されると考えた。

◆1号掘立柱建物

位置 北側に勾配の強い傾斜面を背負い、傾斜変換点を経て、緩傾斜面へと移行する90区E・F・18・19グリッドに位置する。

重複 2号掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明。

主軸方向 N-66° -E

形状 北東隅柱は精査の結果も確認できなかったが、南壁及び南面の庇が明瞭に確認できることから、身舎は1×3間の東西棟が想定できる。南壁の桁行6.22mで桁行平均柱間2.07m、西壁の梁間3.55m、面積は22.09m²の規模を測る。柱穴はP-1～P-11を確認する。柱穴の平面形状はP-8が隅丸方形以外は円形で柱痕跡は確認できない。規模は長径20～48cm、深さ18～54cmを測り、径・深さとも、数値にややばらつきがある。またP-3の位置が大きく東隣りのP-2個へ片寄っている。底面は北を上位方向とする緩やかな傾斜面となっている。

内部施設 共伴は不確定ではあるものの、3・4・5・8・9号焼土が建物内部で確認され、南面庇部内では長径110cm×短径70cmの規模の不整円形状の硬化面が確認されている。

出土遺物 なし

◆2号掘立柱建物

位置 1号掘立柱建物同様、北側に勾配の強い傾斜面を背負い、傾斜変換点を経て、緩傾斜面へと移行

する90区E・F・18・19グリッドに位置する。

重複 主軸は4°東へ傾くが、ほぼ同軸方向で、1号掘立柱建物と重複する。新旧関係は不明。

主軸方向 N-70° -E

形状 1×1間の東西棟。桁行平均4.32m、梁間平均2.65m、面積は11.45m²の規模を測る。柱穴はP-1～P-5を確認する。柱穴の平面形状は円形で柱痕跡は確認できない。規模は長径32～44cm、深さ16～56cmを測り、深さの数値にややばらつきがある。またP-4は柱軸より若干はずれている。底面は北を上位方向とする緩やかな傾斜面となっている。

内部施設 共伴は不確定ではあるものの、4・5号焼土が建物内部で確認される。

出土遺物 なし

◆3号掘立柱建物

位置 1・2号掘立柱建物の南西に位置し、北側からの傾斜もほぼなくなって平坦となる90区G・H・I-16・17グリッドに位置する。

重複 なし

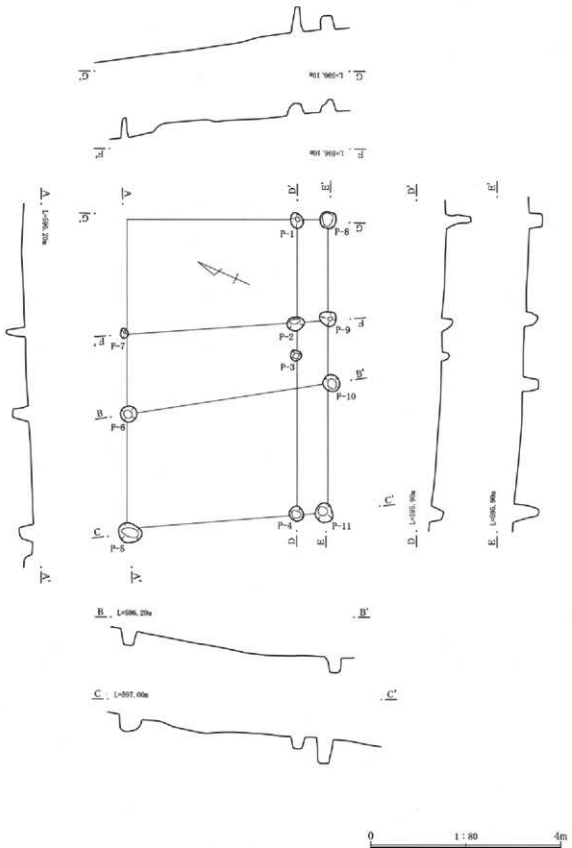
主軸方向 N-74° -E

形状 調査区南際で確認する。建物としては北側には延びないことを確認したため、1間×2間以上の規模を測る東西棟が想定できる。しかし一方で、梁部分が南側へ延びずに、柱穴列としてとどまる可能性も否定できない。確認できる範囲での北壁の桁行は5.30m、桁行平均柱間2.65mである。柱穴はP-1～P-3を確認する。柱穴の平面形状は円形で柱痕跡は確認できない。規模は長径20～32cm、深さ18～24cmを測り、規模はほぼまとまっている。また3基の柱穴とも柱軸に確実に載り、柱間の距離も均等である。

内部施設 なし

出土遺物 なし

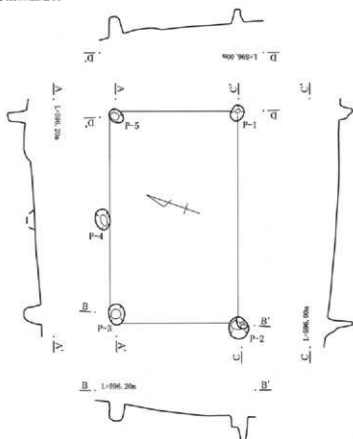
1号掘立柱建物



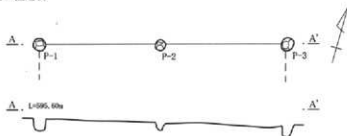
第13図 1号掘立柱建物

III 三平1遺跡

2号掘立柱建物



3号掘立柱建物



0 1:80 4m

第14図 2・3号掘立柱建物

(3) 焼土

10基が90区の東西軸E-H、南北軸17~19グリッド内(16m×12m=192m²)に集中している。北側に勾配15~20°のやや傾斜の強い斜面地を背負った平坦地に位置し、層位はⅢ層で検出する。遺構の平面形状は、円形・楕円形・不定形等ばらつきがあるが、明瞭に焼土化・赤化し、9世紀第3四半期の堯の土師器片を多数伴うため、調査当初、平安住居に伴うカマドを想定したが、調査の結果、他の関連施設が伴わないことを確認し、便宜上遺構名を「焼土」として扱った。

なお、3・7・8・10号焼土については、全景写真撮影及び平面図測量が、周囲の地山面を掘り下げた段階で行われた。遺構が地山面より浮いた状態に見えるが、本来、焼土範囲は周囲地山面とフラットであったと考えられる。

◆1号焼土

位置 90区E-18グリッド

重複 79号土坑(陥し穴)埋没土は直上

形状 長径65cm×短径52cm×厚10cmの規模を測る。平面形状はほぼ円形状を呈し、明瞭に赤化する。

出土遺物 9世紀第3四半期の土師器6点が出土する。本焼土は該期の所産と想定される。

◆2号焼土

位置 90区E-18グリッド 重複 なし

形状 長径58cm×短径52cm×厚10cmの規模を測る。平面形状はほぼ円形状を呈する。ドーナツ状に周辺部の方が中心部より赤化の度合いが強い。

出土遺物 9世紀第3四半期の土師器1点が出土する。本焼土は該期の所産と想定される。

◆3号焼土

位置 90区E-19グリッド 重複 なし

形状 長径36cm×短径28cm×厚12cmの規模を測り、焼土範囲はやや小規模である。平面形状はほぼ円形状を呈する。

出土遺物 遺物の出土はないが、出土位置や検出面、形状などから、他焼土と同時期の所産と考えられる。

◆4号焼土

位置 90区E-19グリッド

重複 81号土坑(陥し穴)埋没土直上

形状 長径125cm×短径92cm×厚16cmの規模を測る。平面形状は楕円形状を呈する。規模は三平I遺跡10基の焼土の中で最大である。焼土直下には、長径194cm×短径108cm×層厚約30cmの黄色ローム質土が楕円形状に広がる。

出土遺物 9世紀第3四半期の土師器39点(1)、同時期の須恵器2点が出土する。本焼土は該期の所産と想定される。

◆5号焼土

位置 90区F-18グリッド

重複 84号土坑(陥し穴)埋没土は直上

形状 長径96cm×短径75cm×厚18cmの規模を測る。平面形状は不整形形状を呈する。

出土遺物 9世紀第3四半期の土師器32点(1・2・3・4)、同時期の須恵器1点が出土する。本焼土は該期の所産と想定される。

◆6号焼土

位置 90区G-17グリッド

重複 60号土坑(陥し穴)埋没土直上

形状 長径42cm×短径36cm×厚10cmの規模を測る。平面形状は円形状を呈する。

出土遺物 遺物の出土はないが、出土位置や検出面、形状などから、他焼土と同時期の所産と考えられる。

◆7号焼土

位置 90区G-18グリッド 重複 なし

形状 長径36cm×短径24cm×厚8cmの規模を測る。平面形状は不整形形状を呈する。

出土遺物 遺物の出土はないが、出土位置や検出面、形状などから、他焼土と同時期の所産と考えられる。

Ⅲ 三平I遺跡

◆8号焼土

位置 90区E-19グリッド 重複 なし

形状 長径28cm×短径15cm×厚9cmの規模を測る。焼土範囲はやや小規模であり、平面形状も定まらない。

出土遺物 9世紀第3四半期の土師器13点(1)が出土する。本焼土は該期の所産と想定される。

◆9号焼土

位置 90区E-19グリッド 重複 なし

形状 長径26cm×短径22cm×厚6cmの規模を測る。焼土範囲はやや小規模であるが、明瞭に赤化・焼土化する。平面形状は不整形形状を呈する。

出土遺物 遺物の出土はないが、出土位置や検出面、形状などから、他焼土と同時期の所産と考えられる。

◆10号焼土

位置 90区E-18グリッド 重複 なし

形状 長径16cm×短径8cm×厚4cmの規模を測る。焼土範囲は小規模であるが、明瞭に赤化・焼土化する。

出土遺物 遺物の出土はないが、出土位置や検出面、形状などから、他焼土と同時期の所産と考えられる。

三平I遺跡で検出された10基の焼土について、以下、特徴的な5つの要素に関して簡単に触れておきたい。

①形状

各焼土の検出に際しては、土坑状の掘り込みやプラン等を全く確認できず、焼土層本体を面として検出するに至った。このことから各焼土とも、当時の地表面を僅かに窪める程度の、どちらかといえば地床坪に似た形状で、焚火等の行為の中で形成された可能性が高い。

②土師器・須恵器の共存

10基の焼土は全てⅢ層で確認している。Ⅲ層は柏川テフラ(1128年)の純堆積層が部分的に残存する層

位で、平安時代以降の遺構確認及び遺物包含層である。うち、1・2・4・5・8号焼土では9世紀第3四半期の土師器片が、4・5号焼土では須恵器片が出土しており、各焼土は該期の所産と想定される。

③陥し穴との新旧関係

4・6号焼土はそれぞれ81・60号土坑(陥し穴)の埋没土直上に、1・5号焼土もそれぞれ79・84号土坑(陥し穴)埋没土のはば直上に形成されている。このことは、少なくともこの4基の焼土の形成時期は陥し穴の自然埋没後であり、陥し穴の構築時期は土師器・須恵器を伴う焼土の帰属時期(9世紀第3四半期)以前となる。

④焼土下のローム質土

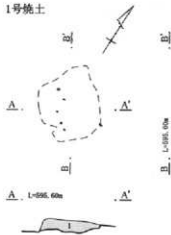
遺構確認面のⅢ層土は、所謂黒色土であるが、4・5・6号焼土の遺構下にはこの層位の地山には存在しない黄色ローム質土が焼土範囲よりもやや広い範囲に堆積している。4号焼土の場合、焼土範囲が長径125cm×短径92cmに対して、ローム質土範囲が長径194cm×短径108cm×層厚約30cmである。このことから、生活上、必要に応じて焚火行為を行う際、意図的にローム質土を持ち込み、燃焼部下面に敷き詰めた可能性と、本遺跡の陥し穴の埋没土上層で観察できる黄色土層(=「ローム質土レンズ状堆積層」34・258頁参照)を何らかの目的で利用し、その直上で焚火等の行為を行った可能性と考えられる。

⑤1号・2号掘立柱建物との関係

1・2号掘立柱建物の帰属時期の決定は困難であるが、Ⅲ層で遺構確認しており平安時代以降に帰属する可能性が高い。平面的には3・4・5・8・9号焼土と1号掘立柱建物、4・5号焼土と2号掘立柱建物とそれぞれ重複し、焼土と掘立柱建物との有機的關係も窺える。

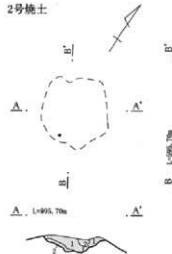
1 検出された遺構と遺物

1号焼土



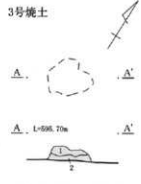
1 明赤褐色土(5YR5/8)焼土層

2号焼土



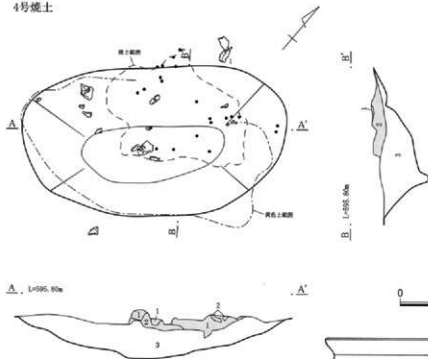
1 明赤褐色土(5YR5/8)焼土層
2 暗褐色土(10YR3/3)1層土に相当する
焼土ブロック10~20%混入

3号焼土



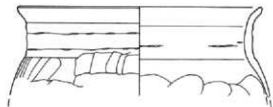
1 明赤褐色土(5YR5/8)焼土層
2 暗褐色土(10YR3/3)明赤褐色土
(5YR4/8)の焼土10~20%混入

4号焼土



1 明赤褐色土(5YR5/8)しっかりと焼けた焼土層
2 暗褐色土(10YR3/4)明赤褐色土(5YR4/8)の焼土10~20%混入
3 明黄褐色土(10YR6/8)ローム質土 人為的に持ち込まれ敷かれた土か

0 1:30 1m

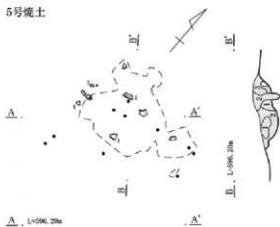


4焼-1(1/3)

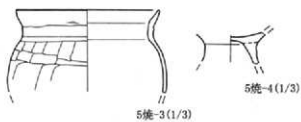
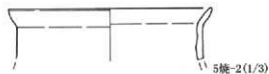
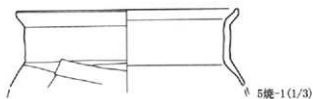
第15図 1~4号焼土

Ⅲ 三平I遺跡

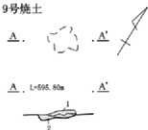
5号焼土



- 1 明赤褐色土(5YR5/8)焼土層
2 暗褐色土(10YR3/3)1層土に相当する焼土ブロック10~20%混入

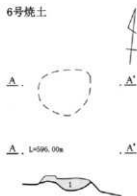


9号焼土



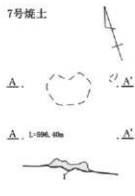
- 1 明赤褐色土(5YR5/8)焼土層
2 暗褐色土(10YR3/3)1層土に相当する焼土ブロック10~20%混入

6号焼土



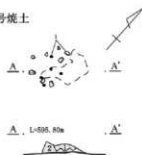
- 1 明赤褐色土(5YR5/8)焼土層

7号焼土

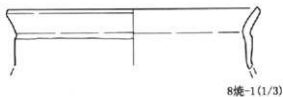


- 1 明赤褐色土(5YR5/8)焼土層

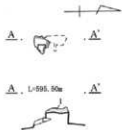
8号焼土



- 1 明赤褐色土(5YR5/8)焼土層
2 暗褐色土(10YR3/3)1層土に相当する焼土10~20%混入



10号焼土



- 1 明赤褐色土(5YR5/8)焼土層



第16図 5~10号焼土

(4) 土坑

三平Ⅰ遺跡では、Ⅲ層の平安以降遺物包含層とⅤ層の縄文遺物包含層、及びⅥ層のローム層上面で、100基の土坑を検出し調査を行った。

そのうち69基を平面形状や埋没土の観察、底部施設（逆茂木痕）などから陥し穴と判断した。

その他の土坑の時期決定にあたっては、完形土器を含む一括遺物を含む土坑は僅少であり、複数期にわたる土器片が混入するケースが多見されることから、数量的に主体を占める土器形式及び最も後続する土器型式を考慮しながら、遺構確認面と埋没土の観察を総合して決定した。その結果は、縄文時代の可能性が高い土坑が10基、平安時代以降の土坑が21基である。

①陥し穴

1-A・1-B・2～22・25～28・30～32・34～37・39～44・46～56・58～62・66・67・76・77・79・81・84・92～95・101・103号土坑の計69基が陥し穴に該当する。

長野原町における陥し穴の構築時期等に関する研究によると（石田真 2004）、花畑遺跡（群埋文303集）で検出された51基の陥し穴は、その検出時の平面形状から、大半の47基は基本的に「楕円型陥し穴」とくくれるとする。特筆すべきは、うち3基の陥し穴の底面及び壁面から金属製の刃先をもつ鋤状掘削具と考えられる掘削痕を検出したことであり、土坑覆土に含まれる炭化物の放射計炭素年代測定結果と総合して、同遺跡の楕円形の陥し穴の構築時期を弥生時代あるいは古墳時代以降の可能性が高いと位置付けたことにある。

2002年に調査された立馬Ⅰ遺跡（群埋文388集）では、10世紀前半に比定される平安住居の床下より楕円型陥し穴が検出され、花畑遺跡同様の楕円型陥し穴の構築時期が平安時代よりも明らかに古いということが判明した。また、阿住居を切る「溝型陥し穴」（上面形状が3m×1m程度の長楕円形を呈し断面形状がV字状となる）も同時に検出されている。

この「溝型陥し穴」は4基検出され、そのうち3基で底部に等間隔に並ぶピットが確認されている。

一方、立馬Ⅱ遺跡（群埋文375集）では、22基の陥し穴が検出され、その時期・形状分類は、平安時代以前が18基（筒形1、スリ鉢形7、箱形1類4、箱形2類6）、平安時代以降が4基（すべて溝状）である。そのうち、溝状陥し穴の4基は確認面に近い埋没土上層に柏川テフラ（1128年）が純堆積層に近い状態で混入し、逆茂木痕と推定される杭痕が3基の底部で確認されている。

三平Ⅰ遺跡では、調査区北側の急傾斜地と南側の舌状に張り出す尾根を除く部分で、勾配約15°～20°の傾斜地・平坦地を問わず散在する69基の陥し穴を検出した。

各陥し穴の位置、規模、平面形状、逆茂木痕等の底部施設の有無、重複関係、出土遺物等の詳細については、表3・4を参照いただき、ここでは、主な特徴を概括的に述べておきたい。まず、平面形状においては、前述した長野原町の関連遺跡の報告等を踏まえて、本報告では、以下3タイプ4類に分類する。

- ①楕円型1類：花畑遺跡の楕円型陥し穴、立馬Ⅱ遺跡の箱形1類に相当し、上面・下面形状とも長方形が基準で、壁が垂直に立ち上がるタイプ。
- ②楕円型2類の上半部が欠損したものと考えられる。
- ③楕円型2類：上面形状は楕円形、下面形状は長方形を基準とし、壁は下半部が垂直で、上半部が緩やかに外反して立ち上がるタイプ。
- ④溝型：立馬Ⅱ遺跡の溝状陥し穴に相当し、上面形状は細長い楕円か長方形、下面形状は細長い長方形か溝状のタイプ。底部施設（逆茂木痕）を伴うものがある。
- ⑤筒型：上面・下面ともほぼ円形で、壁が垂直に立ち上がるタイプ。

分類の結果は、①楕円型1類19基（7・11・12・17～19・21・25・27・31・39・43・44・47・53・55・92・94・101号土坑）、②楕円型2類43基（1-

Ⅲ 三平Ⅰ遺跡

A・1・B・3～6・8～10・13～16・26・28・30・32・34・36・37・41・46・48～52・54・58～62・66・67・76・77・79・81・84・93・95・103号土坑)、③溝型6基(20・22・35・40・42・56号土坑)、④筒型1基(2号土坑)である。このうち①の楕円型1類は上半部の欠損がなければ、②の楕円型2類と同一形態と考えられるので、69基の陥し穴のうち、①と②を合計した62基が楕円型と括って良い。つまり陥し穴のうち約90%がこの楕円型となる。

次に、楕円型陥し穴と溝型陥し穴の重複関係である。三平Ⅰ遺跡では、19号土坑(楕円型)と20号土坑(溝型)、21号土坑(楕円型)と22号土坑(溝型)、43号土坑(楕円型)と42号土坑(溝型)の3事例で重複関係が確認でき、いずれの場合も楕円型陥し穴を溝型陥し穴が切っている。これは、前述のように、平安住居との切合から判断した立馬Ⅰ遺跡の事例における新旧判断と同じ結果である。

次に、陥し穴の構築時期である。既にⅢ・1・(3) 焼土の項で触れたように、4・6号焼土はそれぞれ81・60号土坑(陥し穴)の埋没土直上に、1・5号焼土もそれぞれ79・84号土坑(陥し穴)埋没土ほぼ直上に形成されている。このことは、少なくともこの4基の焼土の形成時期は陥し穴の自然埋没後であり、陥し穴の構築時期は土師器・須恵器を伴う焼土の帰属時期(9世紀第3四半期)以前となる。陥し穴の出土遺物に関しては全般に、縄文早期～平安時代と時間差が大きく、小破片も多いため、埋没時の流れ込みの可能性が高い。またその中には平安時代の土師器・須恵器等の遺物の混入も多いことから、陥し穴の構築時期に関しては、前述の花畑遺跡の場合が弥生もしくは古墳時代以降という結果も併せて、本遺跡の場合も平安時代まで構築時期が下る可能性が高い。陥し穴埋没土が、平安時代遺物包含層の黒色土(Ⅲ層)を主体にしまりを全体に欠いていることもこのことを後押しするものである。以上を総合すると、本遺跡の陥し穴の構築時期については、「古代」と一括りにするのが妥当と考えられる。

次に、各陥し穴の埋没状況及び埋没土の特徴について触れる。本遺跡の陥し穴の埋没状況においては、Ⅲ層を基準とする黒色土あるいは黒褐色土がレンズ状に堆積し自然埋没したことを示す事例が多いが、その中で、埋没土上層に、下層の黒色土系の埋没土とは土色や土質の異なる土層がレンズ状に堆積する事例が多いことに気付く。この土層は、ロームブロックやローム粒、スコリアや小礫、場合によっては、焼土や炭化物を混入し、下層の黒色土系の埋没土と比較すると、相対的に黄色味を帯びたように見えることが多い。そこで本報告では、陥し穴埋没土上層に見られるこの土層を、「ローム質土レンズ状堆積層」と呼称し、表3・4にその有無を記す。集計すると、陥し穴全体では69基中33基(49%)、タイプ別にみると、楕円型では62基中31基(50%)、溝型では6基中2基(33%)で確認できる。周辺遺跡の陥し穴における、このローム質土レンズ状堆積層の周辺遺跡での確認状況や堆積要因、堆積時期などについては、V・4にて若干考察を試みたい。

特徴的に遺物が出土している陥し穴には、76号土坑が挙げられる。

76号土坑は、総数61点の遺物が出土する。黒浜式4点、諸磯a式12点、諸磯b式10点、弥生1点、9世紀半ばの土師器17点(2)、同時期の須恵器5点(1)、型式不明5点、時期不明の砥石1点、羽口3点(3・4・5)、鉄滓3点である。出土遺物は陥し穴に伴うものではなく、自然埋没中途段階での廃棄あるいは流れ込みと考えられる。しかし、前述の焼土と陥し穴との新旧関係から、陥し穴廃棄時期と平安遺物混入時期との時間差は極めて小さいと推定される。

②土坑(縄文時代)

82・88・91・97～100・102号土坑の8基の他に、不確定ではあるが33・83号土坑の2基を加えた10基が縄文時代の土坑に該当する。

縄文時代の土坑は、上面・下面形状とも円形を基本とし、V層(縄文遺構確認面)を浅く掘り込んで

構築される。規模は径1m前後、深度30cm未満と小規模である。

特徴的に遺物が出土している土坑については、33・97号土坑が挙げられる。

33号土坑は、総数50点の遺物（土器47点、石器3点）が出土している。土器は開山式1点（1）、黒浜式10点（2）、諸磯a式27点（3・4）、諸磯b式2点（5）、型式不明7点、石器は剥片3点である。埋没土は黒褐色土がレンズ状に堆積しており、自然埋没状況を示している。出土土器は諸磯a式を主体とするが、後続型式の諸磯b式が出土しており、該期の所産と想定される。

97号土坑は、埋没土下層から諸磯a式の深鉢土器の下半部が横位で、隣接して径約15cm大の1個の円礫を伴って出している。この深鉢土器（1）は水平の輪積痕で上半部・下半部に欠かれており、縄文地文の下半部が完形で埋設されている。埋没土はV層を基準としたしまりの強い黒褐色土がレンズ状に堆積しており、人為的な埋戻し土とはいえないが、遺物の出土状況などから、この土坑の機能・用途として、乳幼児等の墓を想定しても良いであろう。本土坑は諸磯a式期の所産と想定される。

なお、該期の土坑の位置、時期、規模、平面形状、重複関係、出土遺物等の詳細については、表3・4を参照されたい。

③土坑（平安時代以降）

29・57・63～65・68～75・78・80・85～87・89・90・96号土坑の20基が平安時代以降の土坑に該当する。

該期の土坑は、Ⅲ層（平安時代以降の遺構確認面）を掘り込んで構築され、平面形状及びその他の特徴から3分類できる。

①上面・下面形状とも長方形を基本形とし、中世の竪穴状遺構に形状が類似する土坑10基（57・69・70・71～75・87・89号土坑）である。

73号土坑は、同タイプの72号土坑に切られ、楕円型陥し穴の84号土坑を切る。平安時代9世紀後半の土師器31点（1）、時期は不確定だがおそらく同時期と考えられる須恵器壺の胴部破片が52点出土している。須恵器片は全て同一個体であると考えられるが、口縁・頸部・底部等の破片が一片も混入しない。胴部破片は転用の痕跡も認められず、一括して廃棄されたものと考えられる。なお、60・70・72号土坑出土の須恵器片は全てこの須恵器壺と同一個体と考えられ、60号土坑出土の1破片は、73号土坑出土破片と接合する。埋没土はⅢ層を基準とした黒色土がレンズ状に堆積しており自然埋没状況を示している。本土坑の帰属時期は9世紀半ばに比定される。

②上面・下面形状とも長方形または楕円形で、底部あるいは埋没土中に多量の礫を伴う土坑3基（63～65号土坑）である。

63号土坑は、東西軸1.1m×南北軸2.7m×深度0.5mの規模を計り、細長の長方形を呈する。土坑底部付近から径5～30cm大の垂角礫が80～90個出土している。埋没土はⅢ層を基準とした黒色土の人為的一括埋戻しが想定できる。

③上面・下面形状とも不定形を呈し比較的小規模の土坑7基（68・78・80・85・86・90・96号土坑）である。

なお、該期の土坑の位置、時期、規模、平面形状、重複関係、出土遺物等の詳細については、表3・4を参照されたい。

参考文献

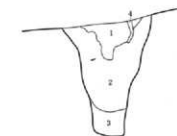
- 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『長野原一本松遺跡（1）』第287集
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『八ッ場ダム発掘調査集（1）』第303集
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『立馬Ⅱ遺跡』第375集
 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『立馬Ⅰ遺跡』第388集
 石田真 2004『群馬県北西部における陥し穴の構築時期をめぐって』『財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要22』

III 三平I遺跡

1号A土坑

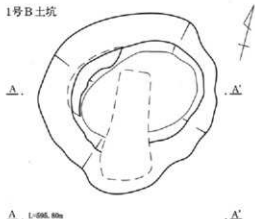


L=595.89m

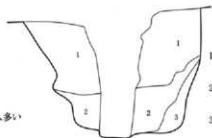


- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)やや粒粗い砂質土 YP&粒の混入多い
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ややしまりあり 混入物少ない
- 3 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック及びVP&粒の混入やや多い
- 4 黒褐色土(10YR2/2)根の侵入

1号B土坑

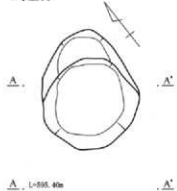


L=686.88m



- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり YP&粒1~3%混入
- 2 暗褐色土(10YR3/4)ロームブロック及びVP&粒の混入多い
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)2層土よりロームブロック及びVP&粒の混入多い

2号土坑

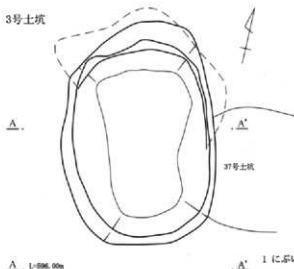


L=535.40m

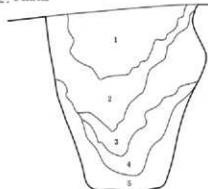


- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)砂質土 ロームブロックの混入やや多い
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり YP&粒及び炭化物少量混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)2層土にロームブロック少量混入
- 4 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロックの混入3層土より多い

3号土坑



L=596.00m

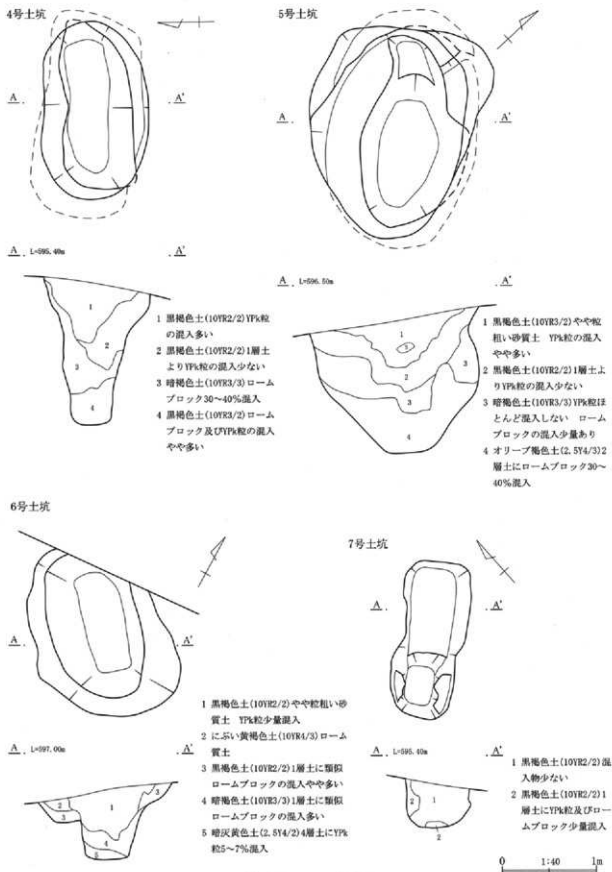


- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)やや粒粗い砂質土 YP&粒の混入多い
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1層土と3層土との混土
- 3 黒褐色土(10YR3/2)粒細かく混入物少ない
- 4 黒褐色土(10YR3/2)3層土に類似ロームブロックの混入やや多い
- 5 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)ロームブロックの混入多い

0 1:40 1m

第17図 1~3号土坑

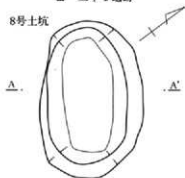
1 検出された遺構と遺物



第18図 4~7号土坑

Ⅲ 三平I遺跡

8号土坑



A, L=995.90m



- 1 黒褐色土(10YR2/2)Y%粒わずかに混入
- 2 暗褐色土(10YR3/3)
- 3 黒褐色土(10YR2/2)1層土にやや多量のY%粒及びロームブロック混入

9号土坑

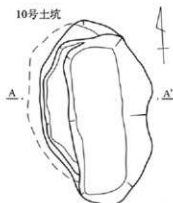


A, L=996.30m

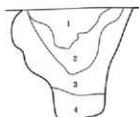


- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまりを欠き大粒Y%粒混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロックの混入やや多い
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック及びY%粒の混入多い

10号土坑



A, L=995.70m



- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまり欠くY%粒少量混入
- 2 暗褐色土(10YR3/3)1層土に類似
- 3 黒褐色土(10YR2/2)混入物少ない
- 4 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック30~40%混入

11号土坑



A, L=995.90m



- 1 黒褐色土(10YR2/2)Y%粒少量混入
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)多量のY%粒及び少量のロームブロック混入
- 3 黒褐色土(10YR3/2)1層土に類似 Y%粒の混入やや多い
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック30~40%混入
- 5 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土

12号土坑



A, L=995.30m

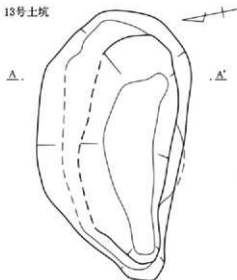


- 1 黒褐色土(10YR2/2)Y%粒少量混入
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1層土に類似Y%粒の混入やや多い
- 3 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)くすんだローム質土とY%粒の混入
- 4 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)しまり欠く
- 5 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)3層土に類似 Y%粒の混入多い

0 1:40 1m

第19図 8~12号土坑

13号土坑



A, L=886.30m



A'

- 1 黒褐色土(10YR2/2)YFk粒少量混入
- 2 暗褐色土(10YR3/3)くすんだロームブロック混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)1層土に類似YFk粒の混入やや多い

15号土坑



A, L=884.60m

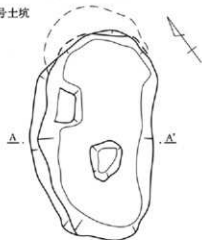


A'

- 1 黒褐色土(2.5Y3/2)現耕作土下のやや砂質土層
- 2 黒褐色土(10YR2/2)混入物少ない
- 3 黒褐色土(10YR2/2)2層土よりYFk粒及びロームブロックの混入多い
- 4 黒褐色土(10YR2/2)3層土よりYFk粒及びロームブロックの混入さらに多い
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)ロームブロック30~40%混入

1 検出された遺構と遺物

14号土坑



A, L=594.90m



A'

- 1 黒褐色土(2.5Y3/2)やや灰色味を帯びた土層 粘川テフラ混入か
- 2 黒褐色土(10YR3/2)YFk粒少量混入
- 3 黒褐色土(10YR3/2)2層土よりYFk粒の混入少ない
- 4 暗褐色土(10YR3/3)
- 5 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)YFk粒と黒色の混土
- 6 黄褐色土(2.5Y5/3)くすんだローム質土とロームブロックの混土

16号土坑



A, L=895.40m



A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)ややしまりあり
- 2 黒褐色土(10YR2/2)粒細かい
- 3 暗灰黄色土(2.5Y4/2)ロームブロック10~20%混入
- 4 黒褐色土(10YR2/2)2層土にロームブロック少量混入
- 5 黒褐色土(2.5Y3/2)ロームブロック及びYFk粒少量混入
- 6 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ

0 1:40 1m

第20図 13~16号土坑

III 三平 I 遺跡

17号土坑



A, L=995.30m A'

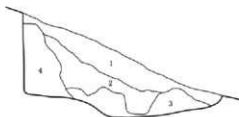


- 1 黒褐色土(10YR2/2)少量のローム粒以外に混入物少ない
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロックの混入やや多い
- 3 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロックの混入2層土より多い
- 4 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロックの混入3層土より多い
- 5 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の剥れ

18号土坑

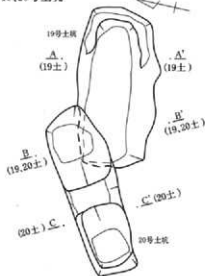


A, L=995.60m A'



- 1 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質土
- 2 黒褐色土(10YR2/2)3層への漸移層
- 3 暗褐色土(10YR3/3)粘性土 しまりあり ロームブロック南部分ほど多く混入
- 4 暗褐色土(10YR3/3)3層土とローム質土の混入

19,20号土坑



A (19土)

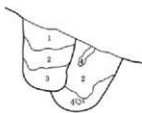
A' (19土)

B (19,20土)

C (20土)

19,20号土坑

B, L=996.60m B'



20号土坑

C, L=996.60m C'



- 1 黒褐色土(10YR2/2)YFa粒やロームブロック不均質に混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)1層土よりロームブロックの混入多い
- 3 暗褐色土(10YR3/3)YFa粒及びロームブロックの混入多い

19号土坑

A, L=996.40m A'



- 1 黒色土(10YR2/1)褐色味を帯びた凝結作土がブロック状に混入
- 2 黒色土(10YR2/1)混入物少ない
- 3 黒色土(10YR2/1)2層土に類似 バサバサ感あり
- 4 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり ロームブロックの混入やや多い
- 5 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロックの混入4層土より多い

0 1:40 1m

第21図 17~20号土坑

1 検出された遺構と遺物

21号土坑

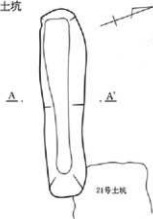


A, L=897.00m



- 1 黒褐色土(10YR2/2)褐色味を帯びた耕作土がブロック状に混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)粒細かく混入物比較的小さい
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)1層土とローム質土との混入
- 4 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ

22号土坑

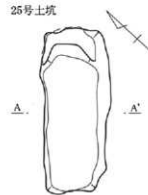


A, L=597.00m

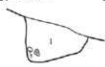


- 1 黒褐色土(10YR2/2)粒細かくサラサラした土 混入物少ない
- 2 黒褐色土(10YR2/2)1層土にロームブロック少量混入

25号土坑

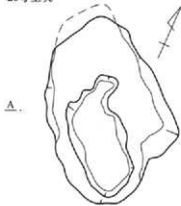


A, L=597.00m



- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまり少ない 礫の混入やや多い

26号土坑

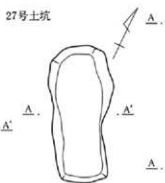


A, L=596.20m



- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまり少ない
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロックの混入やや多い
- 3 暗褐色土(7.5YR3/3)ややしまりあり YP%粒多量に混入

27号土坑

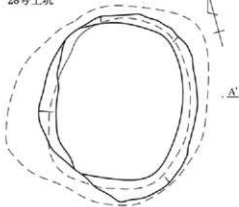


A, L=599.30m

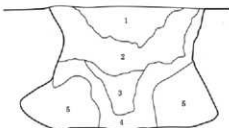


- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまり少ない 小礫少量混入
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ややしまりあり
- 3 暗褐色土(10YR3/3)2層土にローム粒帯状に混入
- 4 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック 20~30%混入
- 5 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ

28号土坑



A, L=596.30m



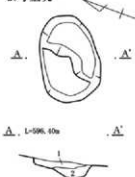
- 1 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土と2層土の混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)粒細かくしまり少ない土質
- 3 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック 20~30%混入
- 4 褐色土(10YR4/4)
- 5 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ

0 1:40 1m

第22図 21・22・25~28号土坑

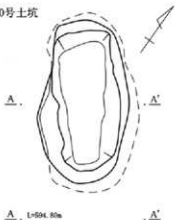
III 三平I遺跡

29号土坑



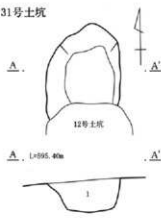
- 1 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質土
2 灰黄褐色土(10YR4/2)1層土と地山
ローム質土との混土

30号土坑



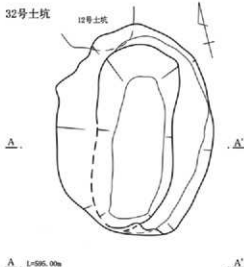
- 1 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土と2層土の混土
2 黒褐色土(10YR2/3)粒細かくしまり少ない土質
3 黒褐色土(10YR2/2)2層土に類似 混入物少ない
4 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック10~20%混入
5 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ

31号土坑



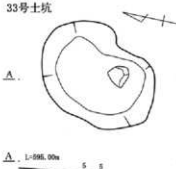
- 1 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック10~20%混入

32号土坑



- 1 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土と2層土の混土
2 黒褐色土(10YR2/3)粒細かくしまり少ない土質
3 黒褐色土(10YR2/2)2層土に類似 混入物少ない
4 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック10~20%混入
5 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ

33号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/2)Yp%粒少量混入
2 黒褐色土(10YR3/2)Yp%粒の混入1層土より多い
3 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり 混入物少ない
4 暗褐色土(10YR3/3)Yp%粒及びロームブロックの混入3層土より多い
5 黒色土(10YR2/1)根の侵入か

0 1:40 1m

- 1 黒褐色土(10YR2/2)褐色味を帯びた膠状土がブロック状に混入
2 黒褐色土(10YR2/2)しまりを欠きYp%粒少量混入
3 暗灰黄色土(2.5Y4/2)ローム質土 土坑壁の崩れ
4 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ



33土-3



33土-4



33土-5



33土-1

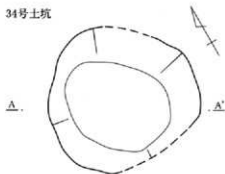


33土-2

0 1:3 10cm

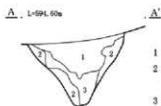
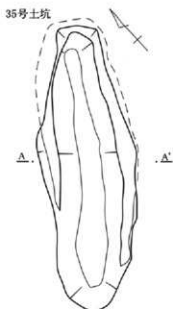
第23図 29~33号土坑

34号土坑



- 1 黒褐色土(10YR2/2)大粒YpK粒少量混入
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック及びYpK粒混入
- 3 暗褐色土(10YR3/4)YpK粒5~7%混入
- 4 暗褐色土(10YR3/3)YpK粒7~10%混入

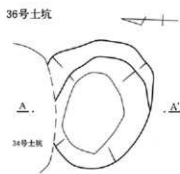
35号土坑



A. L=594.50m

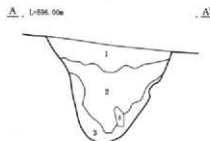
1 検出された遺構と遺物

36号土坑

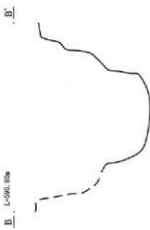


- 1 暗褐色土(10YR3/3)YpK粒7~10%混入
- 2 暗褐色土(10YR3/3)1層土よりYpK粒の混入少ない

37号土坑



- 1 黒褐色土(10YR2/2)YpK粒少量混入
- 2 黒褐色土(10YR3/2)YpK粒7~10%混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック20~30%混入



B. L=596.80m

39号土坑



A. L=599.80m



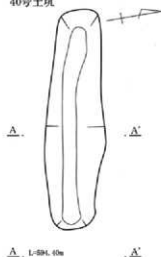
- 1 黒褐色土(10YR2/2)混入物少ない
- 2 黒褐色土(10YR2/2)YpK粒少量混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)2層土に炭化物少量混入
- 4 褐色土(10YR4/4)カクラン

0 1:40 1m

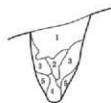
第24図 34~37・39号土坑

III 三平1遺跡

40号土坑

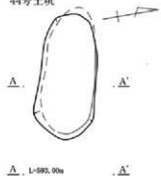


△. L=594.40m



- 1 暗褐色土(10YR3/3)やや硬食土質
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまりなく混入物少ない
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)2層土にロームブロック20~30%混入
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)2層土にロームブロック30~40%混入
- 5 褐色土(10YR4/4)ロームブロック30~40%混入

44号土坑

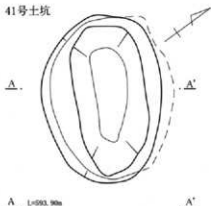


△. L=593.00m

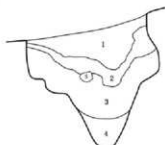


- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまりなくボソボソとした土質 褐色土ブロック混入

41号土坑

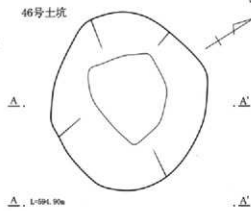


△. L=593.90m



- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまりなく混入物少ない
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック3~5%混入
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック20~30%混入
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)2層土にロームブロック30~40%混入

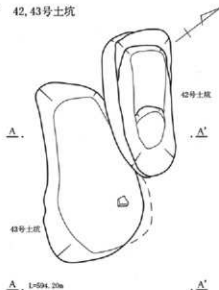
46号土坑



△. L=594.90m



42, 43号土坑



△. L=594.20m



- 1 黒褐色土(10YR3/2)混入物少ない
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1層土から3層土への漸移層
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム漸移層土を中心にYpK粒3~5%混入
- 4 明黄褐色土(10YR6/8)ローム質土
- 5 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック少量混入
- 6 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック及YpK粒の混入やや多い

第25図 40~44・46号土坑

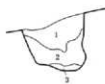
0 1:40 1m

1 検出された遺構と遺物

47号土坑

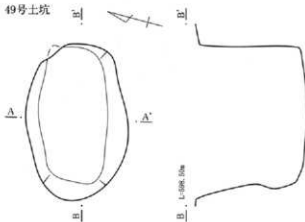


A. L=497.00m

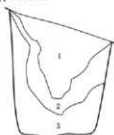


- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまりやや強い砂質土
- 2 黒褐色土(10YR2/2)1層土にYP%粒の混入やや多い
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム質土

49号土坑

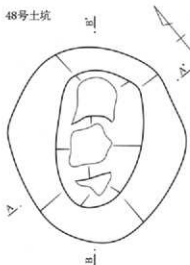


A. L=688.70m

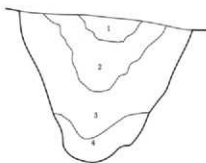


- 1 暗褐色土(7.5YR3/4)径10~30mmの角礫6~7%混入 やや砂質しまり欠く
- 2 黒褐色土(10YR2/3)1層土がブロック状に3~5%混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)粒細がやYP%粒及びロームブロックの混入少ない 2層土よりしまりあり

48号土坑



A. L=596.50m



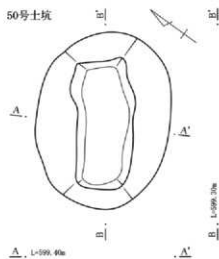
- 1 暗褐色土(10YR3/3)径10~20mmの角礫及び5As-Kkに伴うと考えられるスコリア3~6%混入
- 2 暗褐色土(7.5YR3/4)径10~30mm角礫5~7%混入 やや砂質しまり欠く
- 3 暗褐色土(10YR3/4)やや砂質しまり欠く
- 4 暗褐色土(10YR3/4)3層土に土坑壁の崩れによるロームブロック5~10%混入

0 1:40 1m

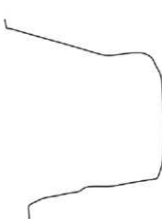
第26図 47~49号土坑

III 三平I遺跡

50号土坑

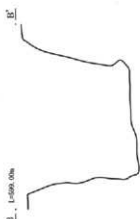
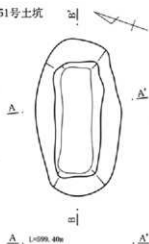


- 1 暗褐色土(7.5YR3/4)径10~30mmの角礫5~7%混入 やや砂質 しまり欠く
- 2 黒褐色土(10YR2/3)1層土がブロック状に3~6%混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)粒細かい、YF%粒及びロームブロックとも混入少ない 2層土より少ししまりあり
- 4 黒褐色土(10YR2/2)3層土にロームブロック20~30%混入

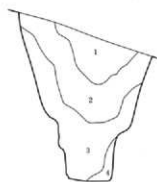


A. L=099.40m

51号土坑



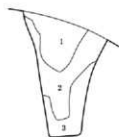
A. L=099.40m



52号土坑

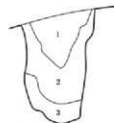


- 1 暗褐色土(7.5YR3/4)径10~30mmの角礫5~7%混入 やや砂質 しまり欠く
- 2 黒褐色土(10YR2/3)1層土がブロック状に3~6%混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)粒細かい、YF%粒及びロームブロックとも混入少ない 2層土より少ししまりあり



A. L=098.50m

- 1 暗褐色土(7.5YR3/4)径10~30mmの角礫5~7%混入 やや砂質 しまり欠く
- 2 黒褐色土(10YR2/3)1層土がブロック状に3~6%混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)粒細かい、YF%粒及びロームブロックとも混入少ない 2層土より少ししまりあり

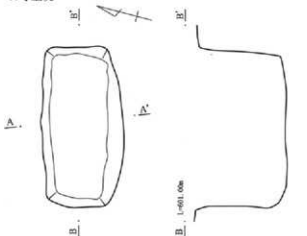


0 1:40 1m

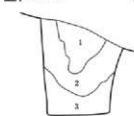
第27図 50~52号土坑

1 検出された遺構と遺物

53号土坑



A, L=601.20m



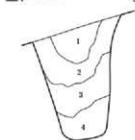
- 1 暗褐色土(7.5YR3/4)径10~30mmの角礫5~7%混入 やや砂質 しまり欠く
- 2 黒褐色土(10YR2/3)1層土がブロック状に3~5%混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)粒細かい YP%粒及びロームブロックとも混入少ない 2層土より少ししまりあり

54,59号土坑



54,59号土坑

A, L=599.00m



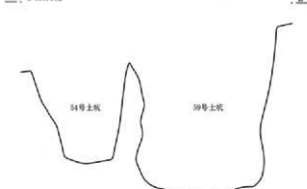
C, L=599.80m



C'

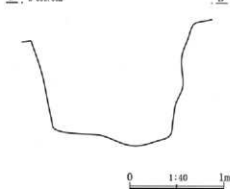
- 1 暗褐色土(7.5YR3/4)径10~30mmの角礫5~7%混入 やや砂質 しまり欠く 上層に炭化粒20~30%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/3)1層土がブロック状に3~5%混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)粒細かい YP%粒及びロームブロックとも混入少ない 2層土より少ししまりあり

B, L=599.30m



B'

D, L=599.00m

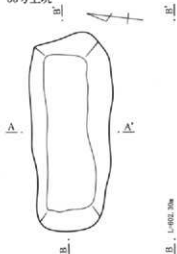


D'

第28図 53・54・59号土坑

Ⅲ 三平I遺跡

55号土坑



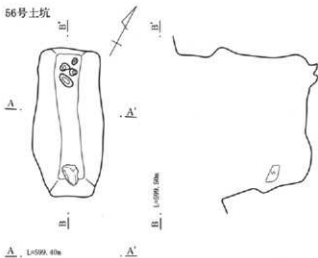
A, L=402.20m

A'



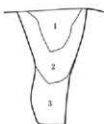
- 1 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質
しまり欠く
- 2 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土
しまり欠く
- 3 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり

56号土坑



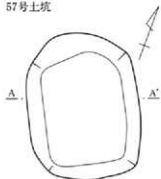
A, L=599.40m

A'



- 1 暗褐色土(7.5YR3/4)径10~30mmの角礫5~7%混入 やや砂質 しまり欠く
- 2 黒褐色土(10YR2/3)1層土がブロック状に3~5%混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)粒細かい YP%較及びロームブロックとも混入少ない 2層土より少ししまりあり

57号土坑



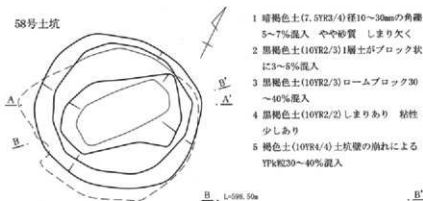
A, L=596.90m

A'



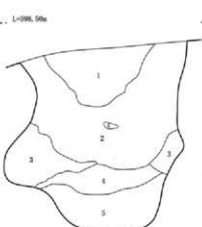
- 1 暗褐色土(7.5YR3/4)径10~30mmの角礫5~7%混入 やや砂質 しまり欠く
- 2 黒褐色土(10YR2/3)1層土がブロック状に3~5%混入

58号土坑



B, L=596.50m

B'



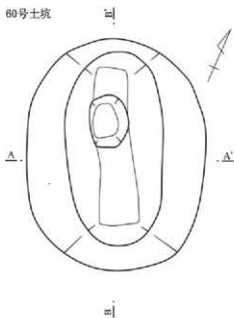
- 1 暗褐色土(7.5YR3/4)径10~30mmの角礫5~7%混入 やや砂質 しまり欠く
- 2 黒褐色土(10YR2/3)1層土がブロック状に3~5%混入
- 3 黒褐色土(10YR2/3)ロームブロック30~40%混入
- 4 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり 粘性少しあり
- 5 褐色土(10YR4/4)土坑壁の崩れによる YP%較30~40%混入

0 1:40 1m

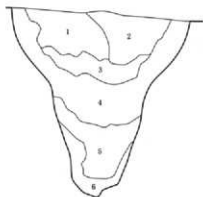
第29図 55~58号土坑

1 検出された遺構と遺物

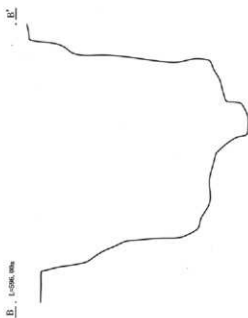
60号土坑



A, L=596.00m A'

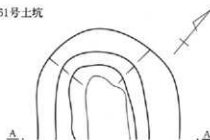


- 1 暗褐色土(10YR2/4)やや砂質 混入物少ない
- 2 褐色土(10YR4/4)1層土とローム質土の混入
- 3 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土
- 4 黒褐色土(10YR2/2)粒細かい やや砂質土 混入物少ない
- 5 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック3~5%混入
- 6 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック30~40%混入

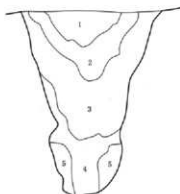


B, L=596.00m

61号土坑



A, L=596.00m A'



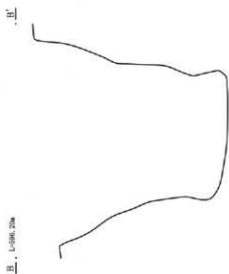
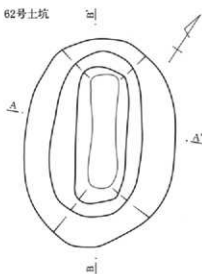
- 1 暗褐色土(7.5YR2/4)黒褐色土ブロック10~20%混入
- 2 暗褐色土(7.5YR2/4)種10~30mmの角礫5~7%混入 やや砂質 しまり欠く
- 3 黒褐色土(10YR2/3)1層がブロック状に3~5%混入
- 4 黒褐色土(10YR2/3)ロームブロック10~20%混入
- 5 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れによるYR粒20~30%混入

0 1:40 1m

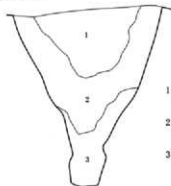
第30図 60・61号土坑

Ⅲ 三平I遺跡

62号土坑



A, 1:500, 00m



- 1 褐色土(10YR4/4)ローム粒及びYF%概10~20%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/3)しまり欠く混入物少ない
- 3 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック10~15%混入

2面目

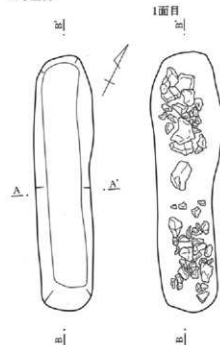


3面目



B, 1:500, 20m

63号土坑



A, 1:500, 80m



- 1 暗褐色土(10YR3/3)相川テフラ及びスコリア1~3%混入



第31図 62・63号土坑

64号土坑



A. L. 696. 90m



1 黒褐色土(10YR2/2)径10~20mmの角礫及びスコリア3~5%混入

65号土坑

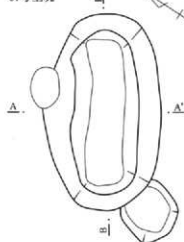


A. L. 597. 20m

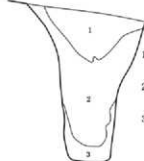


1 黒褐色土(10YR2/2)径10~20mmの角礫及びスコリア3~5%混入

67号土坑

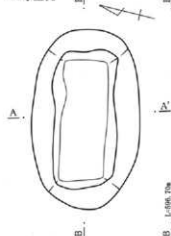


A. L. 596. 00m

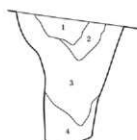


1 暗褐色土(7.5YR3/4)径10~20mmの角礫3~5%混入
2 黒褐色土(10YR2/2)砂質土しりり欠く
3 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック3~5%混入

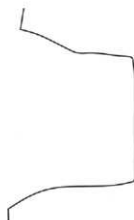
66号土坑



A. L. 596. 70m



1 検出された遺構と遺物



1 暗褐色土(7.5YR3/4)黒色土ブロック30~40%混入
2 暗褐色土(7.5YR3/4)径10~20mmの角礫3~5%混入
3 黒褐色土(10YR2/2)砂質土しりり欠く
4 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック3~5%混入

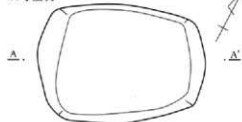
68号土坑



A. L. 597. 50m



69号土坑



A. L. 598. 20m

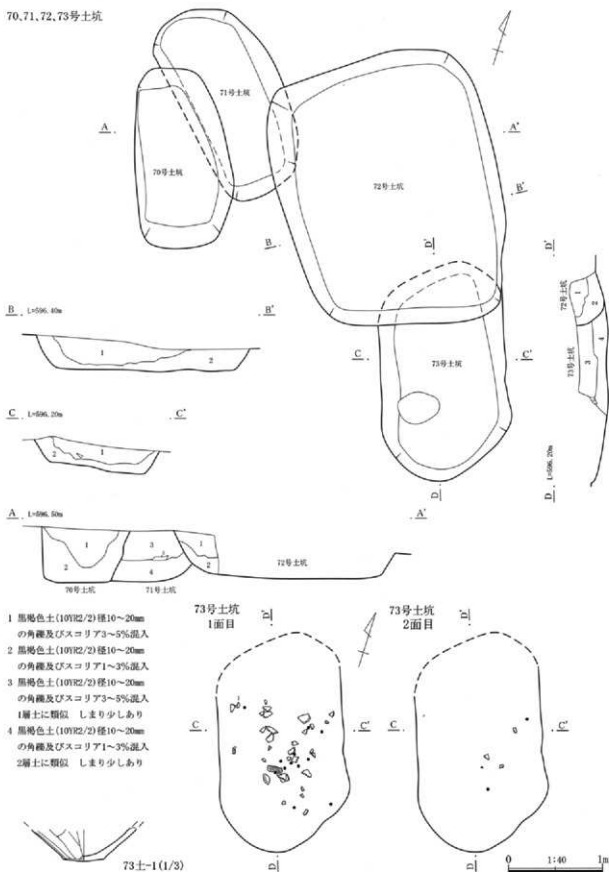


0 1:40 1m

第32図 64~69号土坑

Ⅲ 三平I遺跡

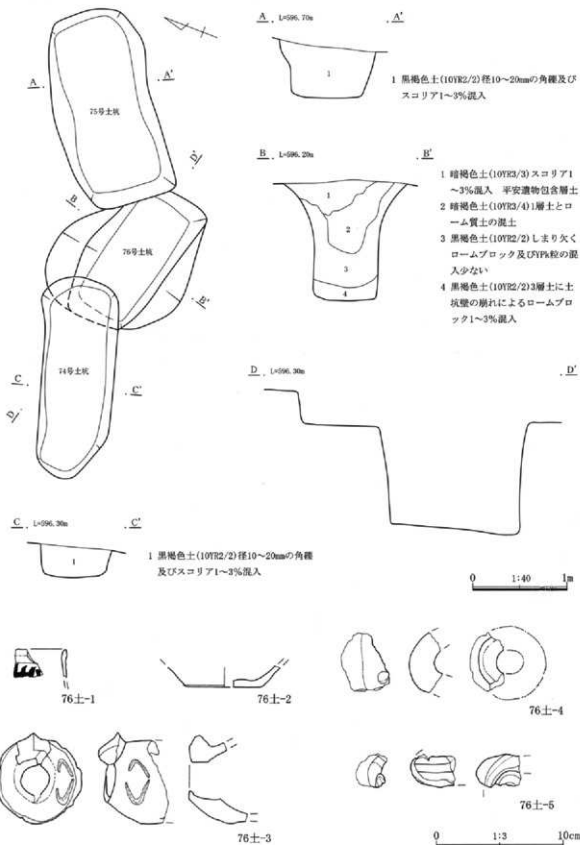
70, 71, 72, 73号土坑



第33図 70~73号土坑

1 検出された遺構と遺物

74, 75, 76号土坑



第34図 74~76号土坑

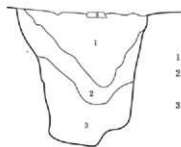
Ⅲ 三平I遺跡

77号土坑



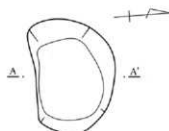
△、L=595.70m

△、



- 1 褐色土(7.5YR4/6)YPk粒1%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)1層土がブロック状に20~30%混入
- 3 暗褐色土(10YR3/3)やや粘性あり

78号土坑



△、L=596.70m

△、



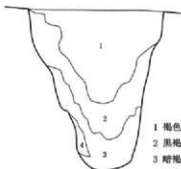
- 1 黒褐色土(10YR2/2)径10~20mmの角礫及びスコリア3~5%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)径10~20mmの角礫及びスコリア1~3%混入

79号土坑



△、L=595.50m

△、



- 1 褐色土(7.5YR4/6)YPk粒1%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)1層土がブロック状に20~30%混入
- 3 暗褐色土(10YR3/3)やや粘性あり
- 4 暗褐色土(10YR3/3)3層土に土坑壁の崩れによるロームブロック30~40%混入

80号土坑



△、L=599.60m

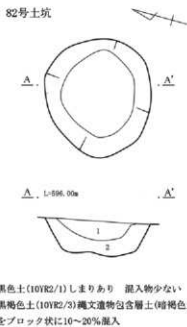
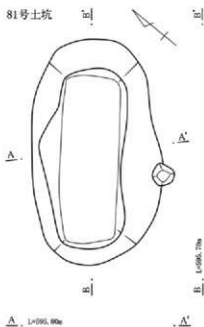
△、



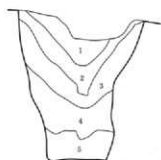
0 1:40 1m

第35図 77~80号土坑

1 検出された遺構と遺物



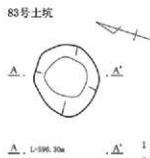
- 1 黒色土(10YR2/1)しまりあり 混入物少ない
- 2 黒褐色土(10YR2/3)縄文遺物包含層土(暗褐色土)をブロック状に10~20%混入



- 1 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質 ロームブロック 10~15%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/3)1層土と3層土の混土
- 3 黒褐色土(10YR2/2)しまり欠く 混入物少ない
- 4 暗褐色土(10YR3/3)しまり少しあり
- 5 暗褐色土(10YR3/3)土坑壁の崩れによるロームブロック10~20%混入



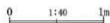
82土-1(1/3)



- 1 黒色土(10YR2/1)
- 2 黒褐色土(10YR2/3)縄文包含層土(暗褐色土)をブロック状に10~20%混入



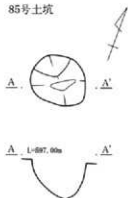
- 1 暗褐色土(10YR2/4)やや砂質 ローム質土と黒色土の混土
- 2 黒褐色土(10YR2/3)しまり欠く 混入物少ない
- 3 黒褐色土(10YR2/3)土坑壁の崩れによるロームブロック5~10%混入



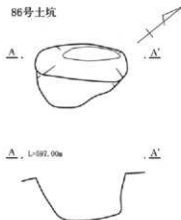
第36図 81~84号土坑

III 三平I遺跡

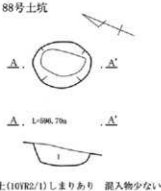
85号土坑



86号土坑

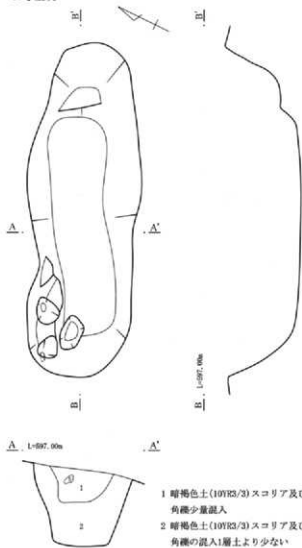


88号土坑



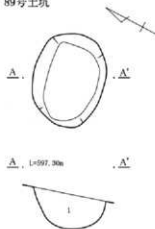
1 黒色土(10YR2/1)しまりあり 混入物少ない

87号土坑



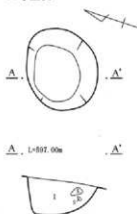
1 暗褐色土(10YR3/3)スコリア及び角礫少量混入
2 暗褐色土(10YR3/3)スコリア及び角礫の混入1層土より少ない

89号土坑



1 黒褐色土(10YR2/2)スコリア及び角礫少量混入

90号土坑



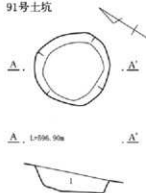
1 黒褐色土(10YR2/2)スコリア及び角礫少量混入

0 1:40 1m

第37図 85~90号土坑

1 検出された遺構と遺物

91号土坑



A. L=596.90m

1 黒色土(10YR2/1)しまりあり
混入物少ない



91土-1(1/3)

92号土坑

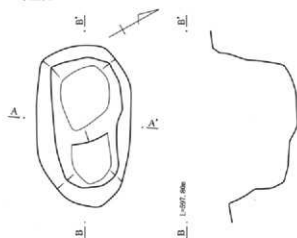


A. L=601.00m



1 黒色土(10YR2/1)粒細かくしまり
欠く
2 黒色土(10YR2/1)1層土にローム
ブロック5~7%混入

93号土坑

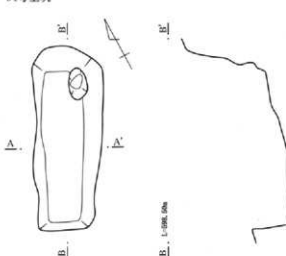


A. L=597.40m



1 黒色土(10YR2/1)粒細かくしまり欠く
2 黒色土(10YR2/1)TPk粒をブロック状に5~10%混入

94号土坑



A. L=598.20m



1 黒色土(10YR2/1)粒細かくしまり
欠く
2 黒色土(10YR2/1)1層土にローム
ブロック5~7%混入

0 1:40 1m

第38図 91~94号土坑

III 三平I遺跡

95号土坑

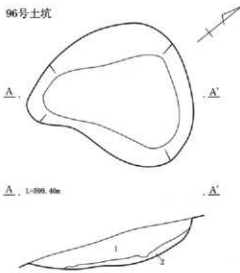


A, L=597.40m A'



- 1 黒色土(10YR2/1)粒細かくしまり欠く
2 黒色土(10YR2/1)1層土にロームブ
ロック5~7%混入

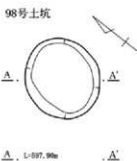
96号土坑



A, L=599.40m A'

- 1 黒色土(10YR2/1)粒細かくしまり欠く YP%粒3~6%混入
2 黒色土(10YR2/1)1層土にロームブロック5~10%混入

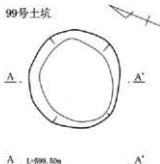
98号土坑



A, L=597.90m A'

- 1 黒褐色土(10YR2/2)やや粘性あり
しまり強い YP%粒1~3%混入
2 黒褐色土(10YR2/3)粘性あり
しまり強い ローム質土少量混入

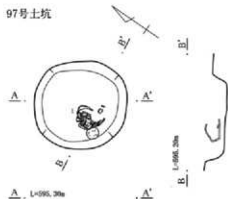
99号土坑



A, L=599.50m A'

- 1 黒褐色土(10YR2/2)やや粘性あり
しまり強い YP%粒1~3%混入
2 黒褐色土(10YR2/3)粘性あり
しまり強い ローム質土少量混入

97号土坑



A, L=595.30m A'

- 1 黒褐色土(10YR2/2)やや粘性あり しまり強い
YP%粒1~3%混入
2 黒褐色土(10YR2/3)粘性あり しまり強い ローム
質土少量混入



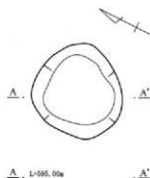
97土-1(1/3)

0 1:40 1m

第39図 95~99号土坑

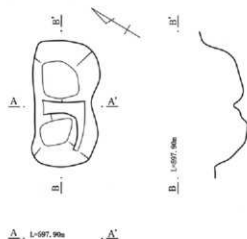
1 検出された遺構と遺物

100号土坑



- 1 黒褐色土(10YR2/2)やや粘性あり しまり強い YPk粒1~3%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/3)粘性あり しまり強い ローム質土少量混入

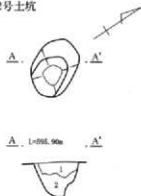
101号土坑



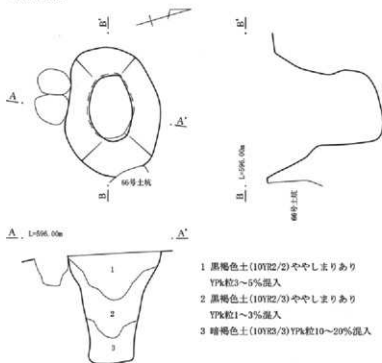
- 1 黒色土(10YR2/1)粒細かくしまり欠く
- 2 黒色土(10YR2/1)1層土にロームブロック5~7%混入

103号土坑

102号土坑



- 1 黒褐色土(10YR2/3)しまり強い YPk粒3~5%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/3)1層土にロームブロック10%混入



- 1 黒褐色土(10YR2/2)ややしまりあり YPk粒3~5%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/3)ややしまりあり YPk粒1~3%混入
- 3 暗褐色土(10YR3/3)YPk粒10~20%混入

0 1:40 1m

第40図 100~103号土坑

Ⅲ 三平Ⅰ遺跡

表3 三平Ⅰ遺跡土坑一覧表(1)

番号	位置	時期	平面形状		規模(m)		分層	埋没状況	遺構種類	重複関係	出土遺物	備考		
			上層形状	下層形状	長さ	幅							深さ	
1-A-16	古代	楕円形	楕円形	1.5	0.9	1.2	不明	○	1号土坑を知る	朱2, 黒2, 黒3, 黒3, 赤1, 不1	ほぼ完全 ほぼ完全			
1-B-16	古代	楕円形	楕円形	1.9	1.8	1.5	不明	○	1号土坑に知られる		ほぼ完全			
2	1-15	古代	楕円形	円形	1.2	1.0	0.9	不明	○		朱2, 赤2, 赤2, 黒4, 黒6, 赤4, 黒2, 赤3	下部部 埋土中より円筒多数		
3	1-17	古代	楕円形	不整長方形	2.3	1.6	1.9	楕円型2層	○	37号土坑を知る	赤1, 赤2, 黒2, 赤3, 赤3, 赤3, 黒1	ほぼ完全		
4	1-16	古代	楕円形	不整長方形	1.7	1.1	1.6	楕円型2層	○		黒3, 赤4, 不1, 黒1	ほぼ完全		
5	1-17	古代	楕円形	不整長方形	2.2	1.7	1.7	楕円型2層	○		黒1	ほぼ完全		
6	K-18	古代	楕円形	不整長方形	1.9	1.5	1.1	楕円型2層	○			下部部		
7	M-18	古代	不整長方形	不整長方形	1.6	0.6	0.8	楕円型1層	×		赤3, 黒5	底部のみ		
8	N-17	古代	楕円形	不整長方形	1.6	1.1	1.3	楕円型2層	○		黒3	下部部		
9	L-18	古代	楕円形	不整長方形	1.8	1.1	0.9	楕円型2層	不明		黒3	下部部		
10	L-17	古代	楕円形	不整長方形	1.9	1.1	1.3	楕円型2層	×			ほぼ完全		
11	K-17	古代	長方形	長方形	1.7	0.9	1.3	楕円型1層	×	中央部埋没	赤1, 黒2, 不1	下部部		
12	K-16	古代	不整長方形	不整長方形	1.13	0.9	0.8	楕円型1層	×		31号土坑・32号土坑を知る	底部のみ		
13	L-17	古代	楕円形	不整長方形	2.8	1.6	1.1	楕円型2層	×		黒6, 黒8	下部部		
14	M-17	古代	楕円形	不整長方形	2.2	1.3	1.2	楕円型2層	×		黒6, 不1	下部部 総周テラコッタ埋入		
15	N-17	古代	楕円形	不整長方形	2.2	1.9	1.0	楕円型2層	×		黒6	下部部		
16	O-17	古代	楕円形	不整長方形	1.5	1.4	1.1	楕円型2層	×		17号土坑を知る	下部部		
17	F-17	古代	不整長方形	不整長方形	1.13	0.7	1.1	楕円型1層	×		16号土坑に知られる	下部部		
18	Q-17	古代	不整長方形	不整長方形	2.3	1.4	1.3	楕円型1層	×			底部のみ	2基の陥し穴の重複のみ	
19	R-18	古代	不整長方形	不整長方形	1.7	0.8	1.0	楕円型1層	×		20号土坑に知られる	底部のみ		
20	R-18	古代	長方形	長方形	1.8	0.5	0.8	楕円型1層	○	中央部埋没	19号土坑を知る	下部部		
21	Q-18	古代	長方形	不整長方形	1.4	0.8	0.6	楕円型1層	×		22号土坑に知られる	底部のみ		
22	R-18	古代	長方形	長方形	2.0	0.5	0.8	楕円型1層	×		21号土坑を知る	ほぼ完全		
欠番	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--		
欠番	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--		
23	U-18	古代	長方形	長方形	1.7	0.7	0.7	楕円型1層	×			底部のみ		
26	U-17	古代	楕円形	不整長方形	2.1	1.3	0.9	楕円型2層	×			下部部		
27	W-18	古代	長方形	長方形	1.4	0.6	0.7	楕円型1層	×			底部のみ		
28	J-18	古代	楕円形	不整長方形	2.1	1.7	1.5	楕円型2層	○		1号住居を知る	YPM層等の土坑壁が積層本表資料ではない		
29	1-18	平安時代以降	楕円形	楕円形	0.9	0.5	0.4	楕円型2層	○					
30	1-14	古代	楕円形	不整長方形	1.9	1.9	1.2	楕円型2層	○		34号土坑に知られる	黒1	ほぼ完全	
31	K-16	古代	不整長方形	不整長方形	0.8	0.8	0.5	楕円型1層	×		12号土坑に知られる	ほぼ完全		
32	K-16	古代	楕円形	楕円形	2.2	1.6	1.7	楕円型2層	○		12号土坑に知られる	黒3, 赤1, 黒1	ほぼ完全	
33	1-16	鎌倉時代	円形	円形	1.3	1.2	0.7	不明	×		黒1(1), 黒1(2), 黒2(7-3), 黒2(5), 赤1, 黒3	ほぼ完全		
34	J-14	古代	楕円形	不整長方形	1.6	1.6	0.7	楕円型2層	○		30号土坑を併り, 39号土坑に知られる	赤1, 黒1, 黒2, 赤3, 黒3, 赤4, 土(9世紀半頃)1, 不22, 黒16	下部部	
35	H-12	古代	長方形	長方形	3.1	1.0	0.9	楕円型1層	×		赤2, 赤2, 赤1, 赤3	ほぼ完全		
36	J-14	古代	楕円形	不整長方形	1.3	1.1	0.6	楕円型1層	×		34号土坑を知る	黒3	下部部	
37	I-17	古代	楕円形	長方形	1.4	1.2	1.3	楕円型2層	×		3号土坑に知られる	黒1, 黒3	ほぼ完全	
欠番	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--		
38	S-20	古代	長方形	不整長方形	1.4	0.6	1.2	楕円型1層	×			黒1	底部のみ	
40	M-16	古代	長方形	長方形	2.3	0.6	1.2	楕円型1層	×				ほぼ完全	
41	M-15	古代	楕円形	長方形	1.8	1.0	1.7	楕円型2層	○		黒6	ほぼ完全		
42	O-16	古代	長方形	長方形	1.5	0.7	1.0	楕円型1層	×			下部部		
43	O-16	古代	不整長方形	不整長方形	1.9	0.7	1.0	楕円型1層	×		43号土坑を知る	黒1, 黒1, 黒3	ほぼ完全	
44	Q-16	古代	不整長方形	不整長方形	1.4	0.6	0.5	楕円型1層	×		42号土坑に知られる	黒1, 黒1, 黒3	底部のみ	
欠番	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--		
46	J-15	古代	楕円形	不整長方形	1.9	1.6	1.4	楕円型2層	○			赤4, 黒16, 有3, 黒6, 黒6, 黒1, 赤1	ほぼ完全	
47	O-18	古代	不整長方形	不整長方形	1.3	0.7	0.9	楕円型1層	×				底部のみ	
48	H-21	古代	楕円形	不整長方形	2.0	1.8	1.8	楕円型2層	○				ほぼ完全	
49	49-21	古代	楕円形	長方形	1.6	1.1	1.4	楕円型2層	○				下部部	
50	49-22	古代	楕円形	長方形	1.9	1.4	2.0	楕円型2層	○				ほぼ完全	
51	I-21	古代	楕円形	長方形	1.6	0.9	1.6	楕円型2層	○				ほぼ完全	
52	1-20	古代	楕円形	長方形	1.6	0.8	1.3	楕円型2層	○	中央部埋没	黒3	下部部		
53	M-22	古代	長方形	長方形	1.8	0.9	1.2	楕円型1層	×			下部部		
54	M-20	古代	楕円形	長方形	1.8	0.8	1.4	楕円型2層	○		黒3	ほぼ完全		
55	O-22	古代	長方形	長方形	2.1	0.8	0.7	楕円型1層	×			底部のみ		
56	L-20	古代	長方形	長方形	1.6	0.7	1.4	楕円型1層	×			ほぼ完全		
57	1-19	平安時代以降	長方形	長方形	1.8	1.2	0.8	不明	×		黒2, 黒1	ほぼ完全		
58	M-19	古代	楕円形	不整長方形	1.8	1.7	2.2	楕円型2層	○		黒1	ほぼ完全		
59	M-20	古代	楕円形	不整長方形	1.6	1.1	2.0	楕円型2層	○		赤1	ほぼ完全		
60	G-17	古代	楕円形	長方形	2.5	1.9	2.2	楕円型2層	○	中央部のみ	黒2, 黒8, 黒3, 赤1, 赤2, 土(9世紀前半)6, 黒1, 黒6	ほぼ完全 埋土層上に6号焼土あり 最厚層は厚さで60-70-72-77号土坑並士の両面片は全て同一個体(6号土坑片と73土坑片は一部埋没)		
61	G-17	古代	楕円形	長方形	1.9	1.5	2.2	楕円型2層	○		赤1, 赤2, 黒2, 赤2, 赤2, 赤3	調査区境界のため半蔵のみ		
62	H-17	古代	楕円形	長方形	2.2	1.5	2.0	楕円型2層	○		赤1, 黒1, 黒3, 黒2	ほぼ完全		
63	F-20	平安時代以降	長方形	長方形	2.7	0.6	0.7	不明	×		赤1, 黒1	溝多数埋入		

表4 三平Ⅰ遺跡土坑一覽表(2)

番号	位置	時期	平面形状		規模(m)		掘り穴		重複関係	出土遺物	備考	
			上層形状	下層形状	長	幅	深さ	分類				位置
64	E-20	平安時代以降	不整形方形	不整形方形	1.6	0.4	0.5				多数鉄器入	
65	G-19	平安時代以降	楕円形	不整形	1.2	0.7	0.9			溝5	多数鉄器入	
66	H-18	古代	四角形	長方形	1.9	1.1	1.6	楕円型2個		溝1, 土(9世紀半頃)3	ほぼ完全	
67	F-20	古代	不整形	本長方形	2.4	1.1	1.9	楕円型2個		溝1, 溝3, 土(9世紀半頃)10, 溝1	ほぼ完全	
68	H-20	平安時代以降	楕円形	不整形	0.9	0.6	0.8			溝2		
69	H-20	平安時代以降	長方形	長方形	1.8	1.3	0.4					
70	H-18	平安時代以降	長方形	長方形	1.9	1.0	0.7		71号土坑を切る	溝10, 溝11, 土(9世紀半頃)1, 溝1, 溝1	出土遺物の須恵器片は隻で60・70・72・73号土坑出土の須恵器片は全て同一個体(60土坑片と73土坑片は一部接合)	
71	G-19	平安時代以降	長方形	長方形	2.1	0.11	0.7		70号土坑・72号土坑に切られる	溝1, 溝1		
72	G-19	平安時代以降	長方形	長方形	3.1	2.3	0.6		71・73-84号土坑を切る	溝16, 土(9世紀半頃)15, 溝4, 溝3	出土遺物の須恵器片は隻で60・70・72・73号土坑出土の須恵器片は全て同一個体(60土坑片と73土坑片は一部接合)	
73	G-18	平安時代以降	不整形長方形	不整形長方形	2.3	1.3	0.6		84号土坑を切り, 72号土坑に切られる	溝1, 溝3, 溝11, 土(9世紀半頃)31(1), 溝5, 溝1	須恵器片は隻で60・70・72・73号土坑出土の須恵器片は全て同一個体(60土坑片と73土坑片は一部接合)	
74	H-18	平安時代以降	本長方形	本長方形	2.1	0.8	0.5		76号土坑を切る	溝8, 溝3, 土(9世紀半頃)2, 溝1		
75	G-18	平安時代以降	本長方形	本長方形	2.1	1.0	0.8		76号土坑を切る	溝1, 溝1, 溝1, 溝2		
76	G-17	古代	楕円形	長方形	1.7	1.3	1.5	楕円型2個		溝5, 溝3, 溝11, 土(9世紀半頃)42(17)(2), 溝5(1), 溝4, 溝1, 溝13(3-4-5), 溝3	ほぼ完全	
77	F-17	古代	楕円形	長方形	1.2	1.1	1.8	楕円型2個				調査区境界のため半掘のみ
78	G-19	平安時代以降	長方形	長方形	1.2	0.9	0.9					調査区境界のため半掘のみ 埋没土坑直上に1号検土あり
79	E-18	古代	楕円形	長方形	1.2	1.4	2.0	楕円型2個		溝2, 溝1, 溝2, 土(9世紀半頃)6		
80	J-21	平安時代以降	楕円形	不整形	0.9	0.6	1.2					
81	E-19	古代	楕円形	長方形	2.3	1.3	1.9	楕円型2個		溝1, 溝2	ほぼ完全 埋没土坑直上に4号検土あり	
82	H-17	原長式期	円形	円形	1.2	1.0	0.6			溝1(1), 溝4		
83	H-17	縄文	円形	円形	0.7	0.6	0.5			溝1		
84	G-18	古代	楕円形	長方形	1.6	1.1	1.4	楕円型2個		72号土坑・73号土坑に切られる	溝5, 土(9世紀半頃)5, 溝(9世紀半頃)4	
85	H-19	平安時代以降	円形	不整形	1.0	0.5	0.5			溝2		
86	H-19	平安時代以降	不整形	不整形	1.0	0.5	0.7			溝2		
87	H-19	江戸川期	本長方形	長方形	3.5	1.2	1.0			溝5, 江戸時代陶器片		
88	H-19	縄文	楕円形	楕円形	0.6	0.5	0.4					
89	H-19	平安時代以降	本長方形	本長方形	1.0	0.7	0.6					
90	J-18	平安時代以降	円形	円形	0.9	0.7	0.6					
91	G-19	縄縄式期	円形	円形	0.8	0.8	0.5			溝3(1)		
92	N-21	古代	長方形	本長方形	1.3	0.7	0.8	楕円型1個	×		底部のみ	
93	N-19	古代	楕円形	本長方形	1.7	1.0	1.1	楕円型2個	×	溝1	1号検土あり	
94	O-20	古代	長方形	長方形	2.0	0.7	0.9	楕円型1個	×		底部のみ	
95	N-19	古代	長方形	長方形	1.8	0.7	0.9	楕円型2個	×		1号検土あり	
96	O-20	平安時代以降	不整形	不整形	1.8	1.5	0.7				ガラス・磁器不明物	
97	F-20	縄縄式期	円形	円形	1.0	0.9	0.5			溝8(2)(1)	埋没土1個体出土 土層より炭素塊の出土物	
98	K-20	縄文	円形	円形	0.9	0.8	0.6					
99	J-21	縄文	円形	円形	1.0	0.9	0.6					
100	F-20	縄文	円形	円形	1.0	0.9	0.5					
101	J-21	縄文	本長方形	本長方形	1.3	0.7	0.8	楕円型1個	×		底部のみ	
102	J-18	縄文	楕円形	楕円形	0.6	0.5	0.6					
103	J-18	古代	楕円形	楕円形	1.3	1.0	1.4	楕円型2個	×	1号検土を切る	溝1	ほぼ完全

出土遺物の凡例 数字は点数または検片数を示す。 () は縄縄遺物番号を示す。 () は時期を示す。

表: 表面縄文	罫: 凹み石	埴: 埴型土	瓦: 沈箱文	龜: 早期条瓦文	花: 花屋下瓦式	二: ニツ木式	龜: 岡山式	鳥: 鳥瓦式	骨: 有足式	溝A: 溝縄式	溝B: 溝縄式	溝C: 溝縄式
溝: 溝縄式	十: 十三字瓦式	五: 五箇字瓦式	阿: 阿瓦台式	鷹: 鷹瓦式	加: 加賀利式	鶯: 鶯瓦台・中周	土: 平安土師器	須: 平安須恵器	帝: 中世庄土師	不: 不式式不明	龍: 石龍	飛: 石飛
石: 石	鏡: 石鏡	斧: 石斧	石: 石	石: 石	石: 石	石: 石	石: 石	石: 石	石: 石	石: 石	石: 石	石: 石

本規程の() の数値は任意値

2 遺構外の出土遺物

(1) 出土状況

三平I遺跡では平成16年度発掘調査分1,382m²、平成17年度分814m²、計2,196m²の全調査範囲の中で、縄文草創期から近世までの遺物を遺構外から検出している。縄文・平安時代の包含層としては、Ⅲ層・Ⅴ層に相当する黒色土が主体であり、1号住居及び1～3号掘立柱建物を検出した平垣部では計1mを超える厚さで堆積している。ただし、各時期の遺物は層位的には出土せず、混在している状況であった。また、古代に比定される陥し穴埋没土からの出土遺物も流れ込みと考え、遺構外遺物として扱った。出土土器はいずれも破片を主体としており、完形品や一括的な出土状況もほとんど認められなかった。

遺物の内訳を総点数で見ると、三平I遺跡では土器1,880点、近世陶磁器40点、剥片を含む石器298点である。総量的には三平II遺跡をかなり下回る。

尚、グリッド出土の遺構外遺物の型式別・器種別の分布状況については第149～161図で示したので、併せて参照頂きたい。

(2) 出土土器

①土器の概要

出土土器の時期毎の大別では、草創期前半1点、同期後半2点、早期33点、前期889点、中期5点、弥生中期37点、平安629点（土器器604点、須恵器25点）、中世8点、時期不明276点である。時期不明を除いた総点数に占める比率は、草創期0.2%、早期2.1%、前期55.4%、中期0.3%、弥生中期2.3%、平安39.2%、中世0.5%であり、縄文前期と平安が突出している。こうした傾向については、三平I遺跡で検出した縄文住居2軒と、9世紀第3四半期に比定される焼土10基が同時期を主体とすることと相関関係にあると見て良い。

②土器の内容

A. 縄文草創期・早期の土器

第I群 草創期の土器及び第II群 早期の土器（第41図1～17）

1は草創期の表裏縄紋土器。口縁部が緩く外反する器形を呈する。単筋Rを横位、斜位に施紋する。口唇部および内面にも横位施紋する。器壁は4mm程と薄いつくりである。2は稲荷台式。細かい条の蒸糸紋Rを縦位施紋する。胎土に細礫を多く含む。3、4は精円押型紋を横位施紋する。5、6は同一個体で田戸上層式。鋸歯状紋を挟んだ横位沈線により区画し、上位には貝殻縁紋を斜位に施す。区画紋下は2条の沈線が観察できるが、幾何学状モチーフになるのかは認識できない。胎土に石英粒を多く含むが、内外面ともに研磨されて平滑である。7は中部系と思われる沈線紋土器。太沈線で紋様帯下端を横位区画し、紋様帯内は横位鋸歯状のモチーフになると思われる。8は薄手の無文土器で、外反する器形を呈する。口縁部に横位1条の太沈線を施す。8は早期に含めたが、帰属時期については判然としない。9～17は糸痕を施すものである。（橋本 洋）

B. 縄文前期以降の土器

第III群 縄文前期の土器

- 第1類 花積下層式（第42図18・19）
- 第2類 二ツ木式～関山式（第42図20・21）
- 第3類 関山式（第42図22～26）
- 第4類 黒浜・有尾式（第42図27～34）
- 第5類 諸磯a式（第42図35～第43図76）
- 第6類 諸磯b式（第43図77～第44図116）
- 第7類 十三菩提式（第44図117）

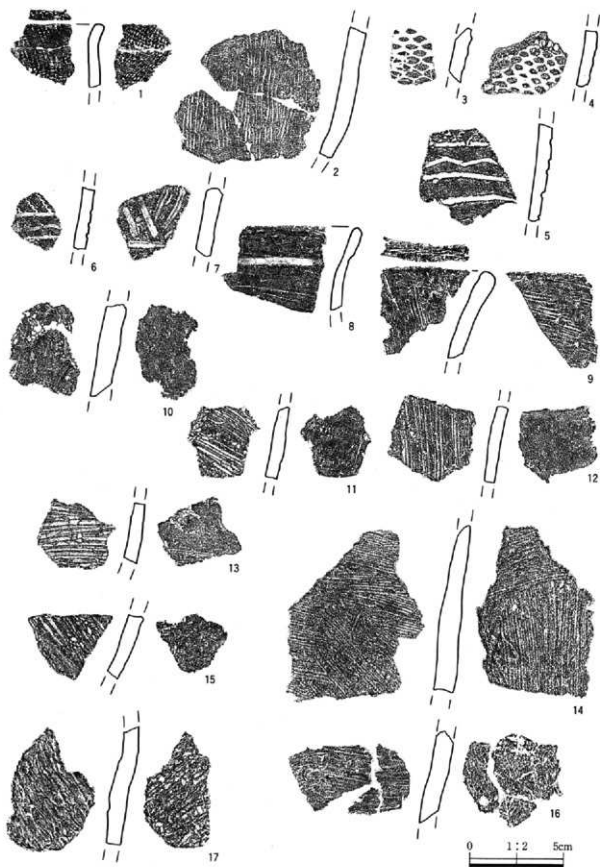
第IV群 縄文中期の土器

- 第1類 五領ヶ台式（第44図118）

第V群 弥生時代の土器（第45図1～13）

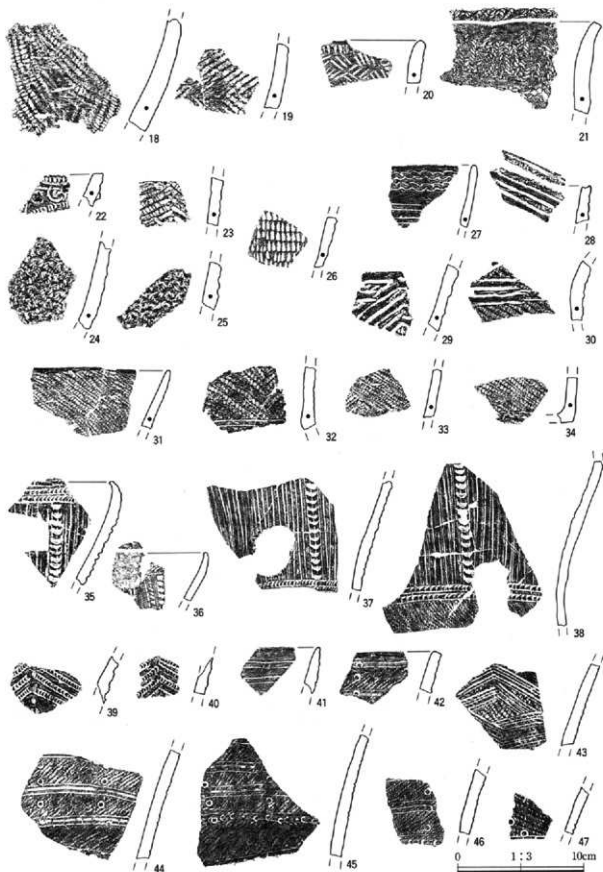
第VI群 平安時代の土器（第46図1～12）

第VII群 中世の土器（第46図13）

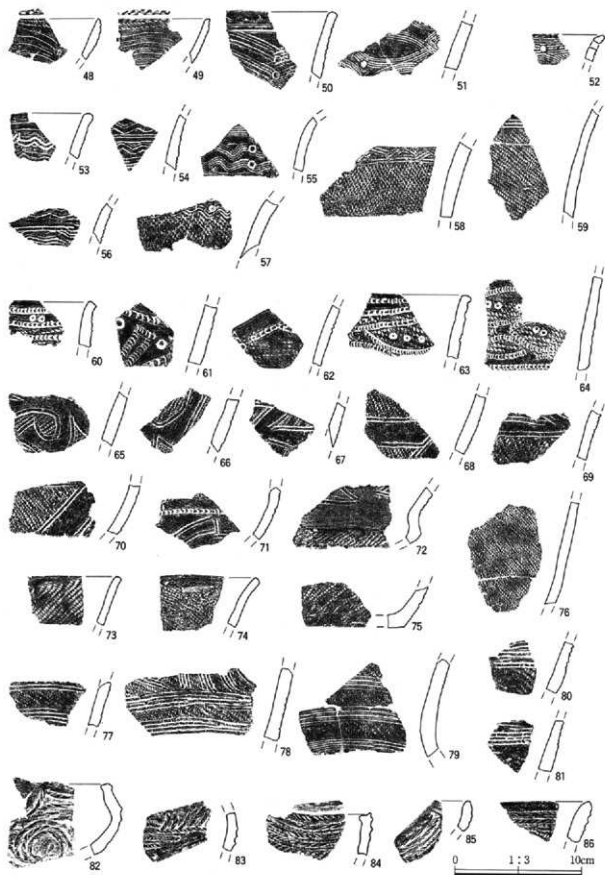


第41図 遺構外出土土器 (1)

III 三平I遺跡

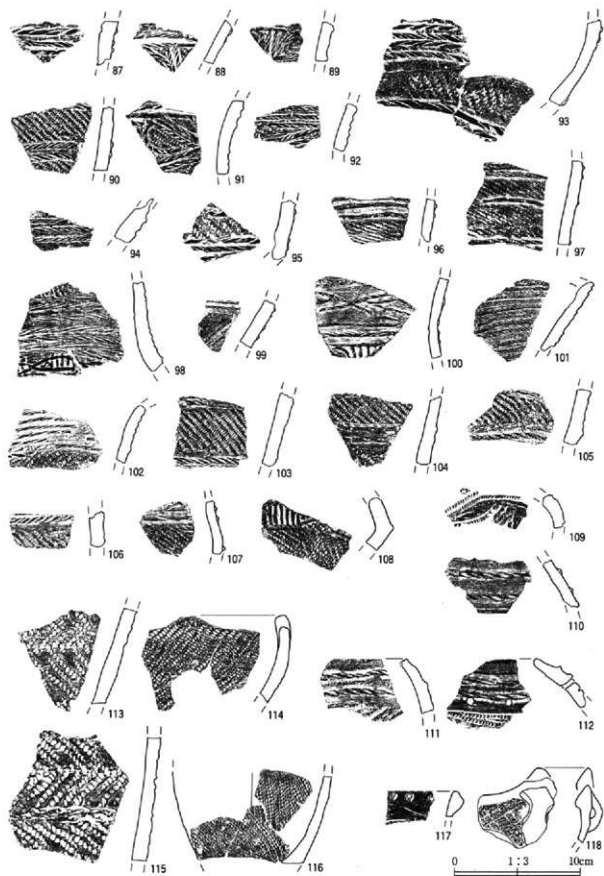


第42図 遺構外出土土器(2)

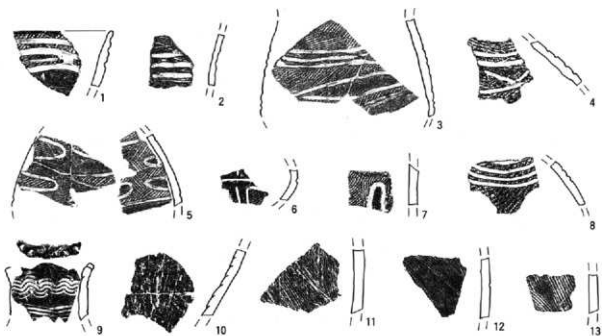


第43図 遺構外出土土器(3)

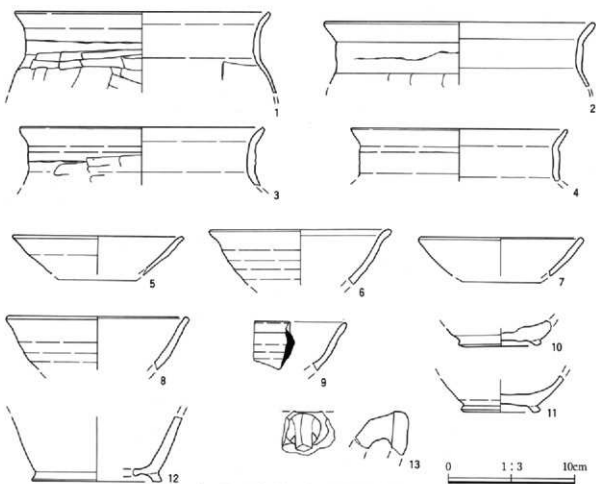
III 三平I遺跡



第44図 遺構外出土土器(4)



第45図 弥生時代遺構外出土土器



第46図 平安時代・中世遺構外出土土器

Ⅲ 三平Ⅰ遺跡

(3) 出土石器

①石器の概要

三平Ⅰ遺跡の遺構外では、剥片を含む石器298点が出土する。器種別では、石鏃17点、石鏃未製品4点、石匙2点（縦型1点、横型1点）、石槍2点、スクレイパー4点、石飾1点、石製品1点、打製石斧1点、笥状石器1点、磨製石斧1点、凹み石3点、磨石2点、スタンプ形石器1点、石皿1点、砥石3点、剥片254点である。

石器の総出土数は、三平Ⅱ遺跡と比較すると圧倒的に少ないが、その中で特徴的なことは、剥片が総点数の85.2%の割合を占めること、剥片を除く器種の中では石鏃が47.7%の割合を占めることを挙げておく。

②石器の内容

a 石鏃（第47図1～18）

石鏃18点が出土し、A類4点（黒曜石3点、珪質変質岩1点）、B類12点（黒曜石8点、珪質変質岩1点、凝灰岩1点、黒色安山岩1点、チャート1点）、E類2点（黒曜石1点、黒色安山岩1点）である。また石鏃F類未製品が4点（黒曜石2点、珪質変質岩1点、頁岩1点）出土する。

b 石匙（第47図19・20）

石匙は2点出土する。珪質頁岩の縦型石匙1点と横型石匙1点が出土する。

c 石槍（第47図21・22）

石槍は2点出土する。東北地方或いは新潟方面産の可能性のある珪質頁岩1点、頁岩1点である。

d スクレイパー（第47図23）

スクレイパーは4点出土する。珪質頁岩1点、頁岩1点、黒色安山岩1点、細粒輝石安山岩1点である。

e 石飾（第47図24）

石飾は1点出土し、滑石の耳飾である。

f 石製品（第47図25）

石製品は1点出土し、デイサイトである。

g 打製石斧（第48図26）

打製石斧は1点出土し、安山岩である。

h 笥状石器（第48図27）

笥状石器は1点出土し、頁岩である。

i 磨製石斧（第48図28）

磨製石斧は1点出土し、蛇紋岩である。

j 凹み石（第48図29～31）

凹み石は3点出土し、安山岩である。

k 磨石（第49図32・33）

磨石は2点出土し、安山岩である。

l スタンプ形石器（第49図34）

スタンプ形石器は1点出土し、安山岩である。

m 石皿（第49図35）

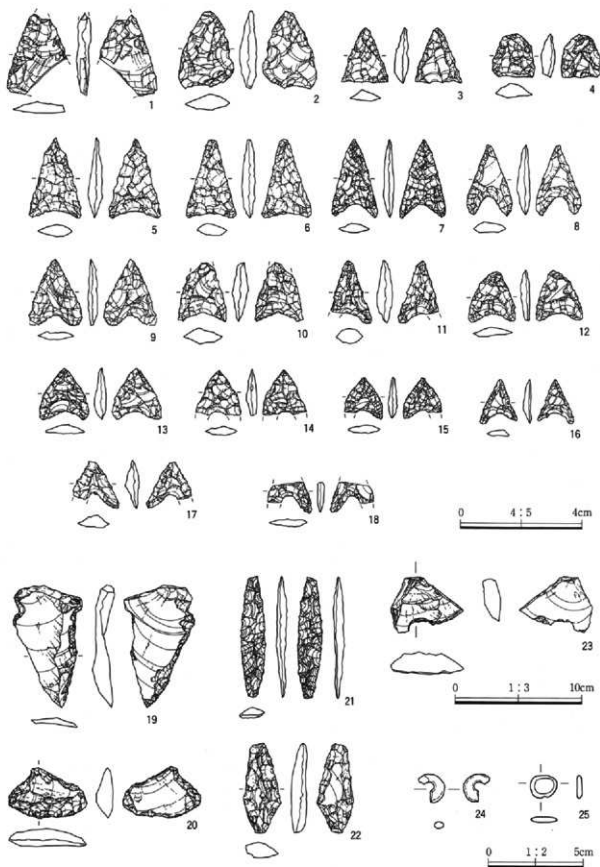
石皿は1点出土し、安山岩である。

n 砥石（第49図36～38）

砥石は3点出土し、安山岩2点、砥沢石1点である。

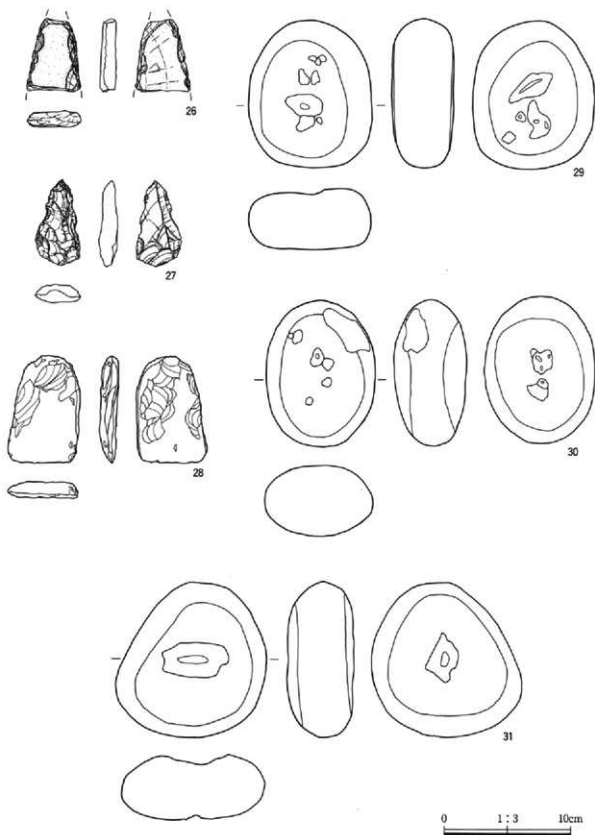
o 剥片

剥片は254点出土し、黒曜石158点、珪質変質岩47点、チャート19点、安山岩8点、頁岩6点、珪質頁岩6点、黒色安山岩6点、石英1点、その他3点である。

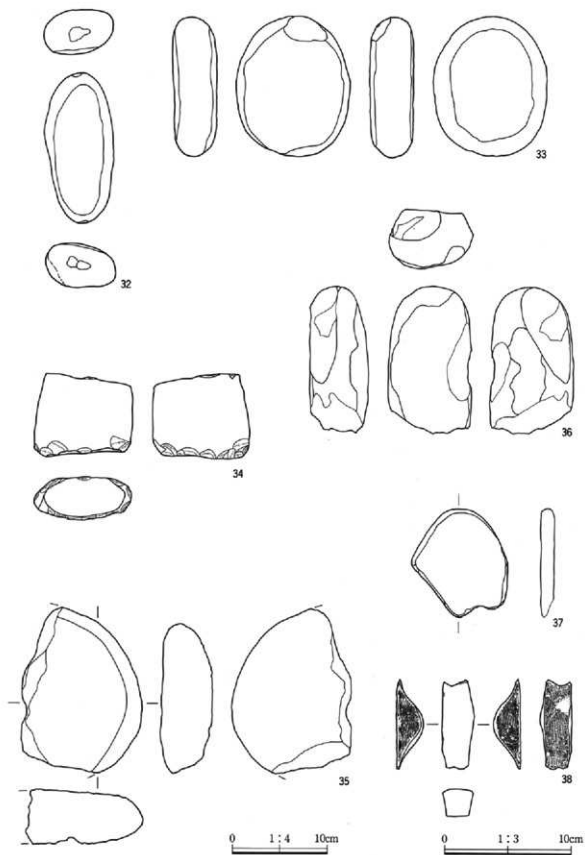


第47図 遺構外出土石器(1)

III 三平 I 遺跡



第48図 遺構外出土石器(2)



第49図 遺構外出土石器(3)

Ⅲ 三平 I 遺跡

1号住居土器観察表 (第10図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	17	二ツ木	覆土	深鉢	口縁	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。波状口縁か。口唇部は内削ぎ状に面取り。口唇部外面及び口縁部には4条の隆帯を貼付け、隆帯上には笄状工具による刻みを施す。口縁部文様帯にも同一工具による縦・横の刻みを充積する。	胎土に繊維混入 遺構外20と同一 個体
2	17	二ツ木	覆土	深鉢	胴部	粒の細かい長石を少量含む。良好。黒褐色。	上位は0段多条LRによるやや足長のループ文。下位は多段ループ文。内面は器面調整を十分施さずやや凹凸あり。	胎土に繊維混入
3	17	二ツ木	覆土	深鉢	口縁	石英粒及び白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	口縁はほぼ直立する。波状口縁か。口唇部はやや細く尖る。口縁部は太い原体0段多条RLによるループ文を施す。内面は丁寧な器面調整を行わない。	胎土に繊維混入
4	17	関山	覆土	深鉢	底部	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	形状はやや上げ底。外面は0段多条LRを横位施文。一部に同一原形による縦位施文ありか。	胎土に繊維混入
5	17	関山	覆土	深鉢	底部	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	形状はやや上げ底。底表面は無文。外面は地文縄文小か。内面は繊維混入あり。	胎土に繊維混入
6	17	関山	覆土	深鉢	底部	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	形状は平底。底表面は丁寧に調整し無文。内面も適度に器面調整を施す。	胎土に繊維混入
7	17	関山	覆土	深鉢	底部	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	形状はやや上げ底。底表面は無文か。外面は0段多条LRを横位施文。内面は器面調整を施す。	胎土に繊維混入
8	17	有尾	覆土	深鉢	胴部	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	LR・RLを横位に重複施文後、半截竹管による平行沈線により菱形形状の文様を描出か。内面は適度に器面調整を施す。	胎土に繊維混入
9	17	有尾	覆土	深鉢	口縁	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	口縁はほぼ直立する。口唇部は平坦に面取り。外面はLRを縦位施文後、やや幅広い半截竹管により平行沈線を施らせる。内面は丁寧に器面調整を施す。	胎土に繊維混入
10	17	有尾	覆土	深鉢	口縁	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	口縁はほぼ直立する。口唇部はやや内削ぎ状に面取り。外面は幅広い半截竹管による2条の爪形文を施らす。内面は適度に器面調整を施す。	胎土に繊維混入
11	17	有尾	覆土	深鉢	胴部	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	幅広い半截竹管による平行沈線で菱形形状の文様を描出か。内面は適度に器面調整を施す。擦痕あり。	胎土に繊維混入
12	17	有尾	覆土	深鉢	口縁	長石粒やや多く含む。良好。黒褐色。	口縁は直立し、形状は波状口縁。口唇部はやや丸みを帯びる。外面は0段多条LR・RLによる横位羽状縄文を構成。内面は適度に器面調整を施す。	胎土に繊維混入
13	17	有尾	覆土	深鉢	胴部	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	中で大きくくびれる。地文は0段多条LR・RLによる縦位羽状縄文を構成か。上位は半截竹管による平行沈線を施らせる。内面は適度に器面調整を施す。	胎土に繊維混入
14	17	諸磯a	覆土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	地文にLRの縄文を横位に施文する。	
15	17	諸磯a	覆土	深鉢	口縁	細砂粒を若干含む。良好。橙色。	地文にLRの縄文を横位に施文する。	
16	17	諸磯b	覆土	深鉢	胴部	糠や砂粒を含む。良好。赤褐色。	横位に隆帯を貼付し、平行沈線を横位と斜位に施文する。	

1号住居石器計測表 (第10図)

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重さ(g)				石材	備考
17	17	覆土	石鏃	B	24	17	3	1.0	黒色安山岩	
18	17	覆土	石鏃	B	15	14	3	0.4	黒曜石	
19	17	覆土	石鏃	B	20	13	4	0.4	黒曜石	
20	17	覆土	磨製石斧		(164)	58	37	576.3	輝緑岩	
21	17	覆土	磨製石斧		151	110	53	1,383.9	安山岩	

3号住居土器観察表 (第11図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・支脚の特徴等	備考
1	18	縄文a	覆土	深鉢	口縁	砂粒を少量含む。良好。にぶい棕色。	胎地にRLの縄文を横位に施す。	
2	18	縄文a	覆土	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい棕色。	胎地は横位ないしは斜位の条線を施し、縦位の円形刺突文を施す。	
3	18	縄文a	覆土	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。棕色。	底頂部で、半截竹管で斜位に施す。	
4	18	縄文a	床面直上	深鉢	胴部	砂粒を含む。良好。明赤褐色。	胎地にRLの縄文を横位に施す。	
5	18	縄文a	覆土	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。棕色。	横位の條帯を附し、半截竹管で斜位に施す。胴下部にはRLの縄文を施す。	

3号住居石器計測表 (第11図)

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重さ(g)				石材	備考
6	18	覆土	石鏃	B	21	19	4	0.6	黒曜石	
7	18	覆土	磨製石斧		94	53	22	146.8	輝緑岩	

4号焼土土器観察表 (第15図)

番号	P.L.	出土位置	器種	計測値(cm)	復元状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他	器形・製作技法の特徴
1	18	焼土中	土師器 甕	口 [19.0] 高 [7.0]	2片 図示部の1/2	①素地普通。赤褐色底物混じりの砂粒を少量含む。②酸化焙。やや硬調。③にぶい赤黒5YR5/4。外面は一部で黒色味をおびるムラあり。内面は赤色味がやや強い。	外面胴部の削りは幅広く鋭い。胴部のナデも強いが、一部で無調整部分が残る。内面は強く丁寧なナデで平滑に仕上げる。

5号焼土土器観察表 (第16図)

番号	P.L.	出土位置	器種	計測値(cm)	復元状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他	器形・製作技法の特徴
1	18	焼土中	土師器 甕	口 [17.2] 高 [5.9]	図示部の1/6	①素地普通。輝石等の混じる砂粒を混入する。②酸化焙。やや硬調。③にぶい赤黒5YR5/4。外面に黄色味をおびるムラあり。	口縁端部は上方へわずかに尖る。外面胴部は乾燥状態で鋭い削り。胴部ナデも無調整部分少ない。内面は丁寧なナデで平滑に仕上げる。
2	18	焼土中	土師器 甕	口 [16.0] 高 [4.1]	図示部の1/6	①ややザクザクした素地。輝石等の混じる砂粒やや多い。②酸化焙。普通。③にぶい黄緑10YR7/4で断面までほぼ一様。④二次焼痕は不明瞭だが、外面にカマド粘土の付着あり。	口縁上端はつまみ上げるようにならずに尖る。布目のようなやや粗い擦痕の残る強いナデで仕上げる。
3	18	焼土中	土師器 小型甕	口 [11.2] 高 [6.4]	5号焼土2片 □73土坑□76土坑 図示部の2/3	①素地普通。粗砂の混入多い。②酸化焙。普通。③黄7.5YR4/3。黒色味の強いムラあり。一様でない。④破損後にも二次焼痕。外面と一部断面ともにスス付着。	口縁外面に指原直残り平滑さ欠く。体部外面は乾燥状態で強い横位の削りで胴下半では縦位となる。内面は指原の強いナデで平滑。
4	18	焼土中	土師器 高杯か	高 [2.2]	図示部の1/2	①素地やや緻密。微細な黒色底物等の混じる細砂を含む。②酸化焙。やや硬調。③にぶい黄7.5YR6/4で内外面ほぼ一様。④二次焼痕はない。	内外とも底部付近は丁寧に仕上げているので高杯と推定するが、内面の凹凸大きい。付合き甕の可能性もある。

Ⅲ 三平I遺跡

8号焼土土器観察表 (第16図)

番号	P.L	出土位置	器種	計測値(cm)	復元状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他	器形・製作技法の特徴
1	18	焼土中	土師器 甕	口 (19.6) 高 [4.4]	2片 図示部の1/4	①當地普通。混入物は少ない。②酸化焼。土師器としては硬調。③にぶい赤褐色5YR5/4。内面は赤色味やや強い。④二次被熱。外面にスス付着。	頸部が厚めで、口縁外面下端が強く窪む。残存部分では内外面とも強いナデで平滑に仕上げている。

33号土坑土器観察表 (第23図)

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	18	関山	覆土	深鉢	口縁	やや粒の大きい長石を多く含む。良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。口唇部はやや内閉じ状に面取り。外面は0段多糸LRによる斜縄文と0段多糸RLによるループ文との組み合わせ。内面は適度に器面調整を施す。	胎土に繊維混入
2	18	馬浜	覆土	深鉢	胴部	長石粒少量含む。良好。黒褐色。	細めの平載竹管による平行沈線文とコンパス文。内面は適度に器面調整を施す。	胎土に繊維混入
3	18	踏磯a	覆土	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	地文は正反の合割を横位に施文する。	
4	18	踏磯a	覆土	深鉢	口縁	細砂粒を含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部に刺突文を施文し、地文は横位ないしは斜位の条線を施し、縦位の円形刺突文を施文する。	
5	18	踏磯b	覆土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、平行沈線を横位に施文する。	

73号土坑土器観察表 (第33図)

番号	P.L	出土位置	器種	計測値(cm)	復元状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他	器形・製作技法の特徴
1	18	覆土 90区79土	土師器 甕	底 (3.2) 高 [2.4]	図示部の1/3	①當地普通。赤褐色鉱物等、種多で細かな混入物やや多い。②酸化焼。やや軟調か。③外面褐7.5YR4/3。内面にぶい黄褐色10YR3/3。	コの字口縁甕の底部。外面の削りは細かく丁寧。内面も丁寧なナデのようなのだが、液でハゼと思われる器面の荒れで不明瞭。

76号土坑土器観察表 (第34図)

番号	P.L	出土位置	器種	計測値(cm)	復元状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他	器形・製作技法の特徴
1	18	覆土	須恵器 杯	高 [2.2]	図示部小片	①やや緻密で混入物少ない。②酸化焼気味。普通。③灰黄褐10YR5/2。端部黒色味をおびる。④外面に墨書あり。墨痕鮮明だが、残存わずかで釈文不明。	薄手。口縁外縁肥厚。右回転口クロ。口クロ良や強い。
2	18	覆土	須恵器 鉢小	底 (6.0) 高 [1.5]	図示部小片	①埃のような細かな素地。②還元不十分。焼き締まらないのは胎土にも原因。③にぶい黄褐色10YR7/3。外面一部で灰色味をおびる。	底径の大きさに比べて薄手。器面摩滅し整形痕不明瞭。外底に回転削り痕残る。

76号土坑鉄関連遺物観察表 (第34図)

番号	P.L	出土位置	器種	計測値①口径(cm) ②径(mm)③高さ(mm)	復元状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④その他	器形・製作技法の特徴	
3	18	覆土	羽口	23 [71]	[51]	先端部はぼろ存在	①軽量やや砂質。スサ等の混入物は少ない。②外面はガラス化顕著。内面も混入物が発泡し、本来の焼成は不明。③内面にぶい褐7.5YR5/4。	太きより鉄羽口。先端部やや実る。
4	18	覆土	羽口	[21]	[45]	図示部小片	①軽量やや砂質。スサ等の混入物も見られる。②1次焼成は酸化焼気味。ガラス化した表面は顕著すむ。③内面にぶい褐7.5YR6/4。④割れ口もガラス化する部分あり。破損後も使用可。	比較的小径で鋼羽口の可能性あり。先端のわずかな付着物は緑青の可能性あり。
5	18	覆土	羽口		[35]	図示部小片	①軽量砂質。混入物少ない。②1次焼成は酸化焼気味。ガラス化顕著。③残存する内面にはぶい赤褐色5YR5/4。	先端部破片だが、歪み顕著で原形がわからなくなっている。

76号土坑関連遺物観察表

番号	P.L.	出土位置	器種	計測値①口径(mm) ②径(mm) ③高さ(mm) ④重さ(g)	備考
6	18	覆土	輪形滓	110 78 32 294.1	

82号土坑土器観察表 (第38図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	18	黒浜	覆土	深鉢	口縁	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	口縁は直立する。口唇部は丸みを帯びる。外面は匙状工具による幅広い沈線をはば平行に4条廻らす。内面は丁寧に器面調整を施す。	胎土に繊維混入

91号土坑土器観察表 (第38図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	18	溝端a	覆土	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文を施文し、胴部が「く」の字状に屈曲する。	遺構外65・67・72と同一個体

97号土坑土器観察表 (第39図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	18	溝端a	底部付近	深鉢	胴部～底部	細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	地文はRLの縄文を施文する。残存器高19.1cm、底径9cmを測る。	

遺構外出土土器観察表 (第41～44図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	19	草創期	90区J-20		口縁	石英・金雲母も含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	第I群第1類	
2	19	福岡台	90区J-21		胴部	長石・小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。にぶい赤褐色。	第I群第1類	
3	19	押型杖	90区H-12		胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第II群第1類b種	
4	19	押型杖	90区E-18		胴部	長石・小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。にぶい褐色。	第II群第1類b種	
5	19	田戸上層	90区F-18		胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	第II群第4類	
6	19	田戸上層	90区F-17		胴部	雲母・石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	第II群第4類	
7	19	早期	表探		胴部	長石を含む細砂粒を含む。良好。暗赤褐色。	第II群第5類c種	
8	19	早期	90区F-18		口縁	長石を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第II群	
9	19	早期	90区58土		口縁	砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	第II群第13類	
10	19	早期	90区71土		胴部	長石を含む小礫を多く含む。良好。灰褐色。	第II群第13類	
11	19	早期	90区F-19		胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	第II群第13類	

Ⅲ 三平1遺跡

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
12	19	早期	90区57土		胴部	長石を含む砂礫をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第13類	
13	19	早期	90区F-18		胴部	長石を含む砂礫を多く含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第13類	
14	19	早期	90区H-16		胴部	白色粒子を含む細砂粒を多く含む。普通。にぶい褐色。	第Ⅱ群第13類	
15	19	早期	90区E-16		胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第13類	
16	19	早期	90区I-13		胴部	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第13類	
17	19	早期	90区1土		胴部	白色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第13類	

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
18	20	花横下層	90区I-16	深鉢	胴部	石英粒少量、礫やや多く含む。良好。黒褐色。	器壁は厚い。外面は0段多糸LR・RLを横位に重複施文。内面は十分な器面調整を施さず繊維痕あり。	胎土に繊維混入
19	20	花横下層	90区J-15	深鉢	胴部	石英粒少量、礫やや多く含む。良好。黒褐色。	器面はやや厚い。外面はLR・RLによる横位羽状縄文を構成。内面はやや渾度あり。	胎土に繊維混入
20	20	二ツ木～関山	90区34土	深鉢	口縁	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。波状口縁か。口唇部は内削ぎ状に面取り。口唇部外面には1条の隆帯を貼付け、隆帯上には籠状工具による刻みを施す。口縁部文様帯にも同一工具による縦・横の刻みを充填する。	胎土に繊維混入 1住-1と同一個体
21	20	二ツ木～関山	90区3土	深鉢	口縁	長石粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。口唇部は丸みを帯びやや波打つ。口唇部外面にはL・Rによる矢羽根状の刻みを施す。口唇部文様帯にはL・Rを1単位とする器面調整を施す。内面は適度な器面調整を施すが凹凸あり。	胎土に繊維混入
22	20	関山	90区I-16	深鉢	口縁	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	口縁はほぼ直立する。口唇部は内削ぎ状に面取り。口唇部外面は籠状工具による刻みを施す。口縁部文様帯には半截竹管による平行沈線文と渦巻文を挿出し瘤状貼付文を施す。口唇部文様帯にはまた工具による連続刻みも施す。内面は丁寧に器面調整を施し滑沢である。	胎土に繊維混入
23	20	関山	90区F-18	深鉢	胴部	長石粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段多糸LR・RLによる縦位羽状縄文を構成。内面は繊維痕顕著。	胎土に繊維混入
24	20	関山	90区75土	深鉢	胴部	白色砂粒やや多く含む。良好。黒褐色。	やや太めの器体0段多糸LR・RLによる多段のループ文。内面は適度に器面調整を施す。	胎土に繊維混入
25	20	関山	90区F-17	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	0段多糸LR・RLによる多段のループ文。内面は適度に器面調整を施す。	胎土に繊維混入
26	20	関山併行	90区E-18	深鉢	胴部	白色砂粒及び小礫を少量含む。良好。赤褐色。	縦位の列点を横位多段に施す。	胎土に繊維混入

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
27	20	黒浜・有尾	90区2土	深鉢	口縁	白色砂粒僅かに含む。良好。黒褐色。	口縁はやや内彎する。口唇部は丸みを帯びる。口縁部には半截竹管による2条のコンパス文を廻らせ下位には平行沈線文を廻らす。内面は丁寧に器面調整を施し滑沢である。	胎土に繊維混入
28	20	黒浜・有尾	90区46土	深鉢	口縁	長石粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。口唇部は内側弓状に凹取り。口唇部外面には一部工具による刻みあり。外面は幅広い半截竹管による平行沈線を廻らす。内面は丁寧に器面調整を施し滑沢である。	胎土に繊維混入
29	20	黒浜・有尾	90区46土	深鉢	胴部	長石粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	幅広い半截竹管による平行沈線で変形した文様を描出か。内面は適度に器面調整を施す。縦痕あり。	胎土に繊維混入
30	20	黒浜・有尾	90区46土	深鉢	胴部	長石粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	中位で大きくくびれる。太めの原体り段多条RLを横位施文後、幅広い半截竹管による平行沈線を廻らす。内面は適度に器面調整を施す。縦痕あり。	胎土に繊維混入
31	20	黒浜・有尾	90区34土	深鉢	口縁	石英粒少量含む。良好。黒褐色。	口縁はほぼ直立する。口唇部は丸みを帯びる。外面はRLを横位施文。内面は適度に器面調整を施すが縦線痕あり。	胎土に繊維混入
32	20	黒浜・有尾	90区J-13	深鉢	胴部	白色砂粒僅かに含む。良好。黒褐色。	上位で外側へくびれる。LR・RLによる縦位羽状織文を施文後、半截竹管による平行沈線をくびれに沿って廻らす。内面は丁寧な器面調整を施す。	胎土に繊維混入
33	20	黒浜・有尾	90区46土	深鉢	胴部	長石粒及び礫やや多く含む。良好。黒褐色。	胴部織文は正と反の合拵か。内面は適度に器面調整を施す。	胎土に繊維混入
34	20	黒浜・有尾	90区I-14	深鉢	底部	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	付加条RLを横位施文。底部直上に工具による連続刺突あり。	胎土に繊維混入
35	20	諸磯a	90区34土	深鉢	口縁	細砂粒を多量に含む。良好。暗赤褐色。	口縁部は内彎し、連続爪形文と平行沈線を施文する。	
36	20	諸磯a	90区34土	深鉢	口縁	細砂粒を多量に含む。良好。暗赤褐色。	口縁部は内彎し、連続爪形文と平行沈線を施文する。	
37	20	諸磯a	90区34土	深鉢	胴部	細砂粒を多量に含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文と平行沈線を施文する。	
38	20	諸磯a	90区34土	深鉢	胴部	細砂粒を多量に含む。良好。暗赤褐色。	地文はRLの縄文で、連続爪形文と平行沈線を施文する。	
39	20	諸磯a	90区59土	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	逆V字状の連続爪形文と縦位の押圧文を施文する。	
40	20	諸磯a	90区72土	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	逆V字状の連続爪形文と縦位の押圧文を施文する。	
41	20	諸磯a	90区E-19	深鉢	口縁	小礫をやや多く含む。良好。明赤褐色。	横位の集合条線を施す。	
42	20	諸磯a	90区G-20	深鉢	口縁	砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	地文はLRの縄文で、横位の平行条線と半截竹管文を施文する。	
43	20	諸磯a	90区I3土	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。黒灰色。	地文はRLの縄文で、平行沈線で変形を描出する。	
44	20	諸磯a	90区E-18	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	地文はLRの縄文で、横位の平行と円形刺突文と刺突文を施文する。	
45	20	諸磯a	90区G-20	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	地文はLRの縄文で、横位の平行沈線と円形刺突文と半截竹管文を施文する。	
46	20	諸磯a	90区G-20	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	地文はLRの縄文で、横位の平行沈線と円形刺突文と半截竹管文を施文する。	

Ⅲ 三平Ⅰ遺跡

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
47	20	踏碇a	90区J-19	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	地文はRLの縄文で、横位の沈線と円形刺突文を施文する。	
48	21	踏碇a	90区E-18	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部に押圧文を施文し、2列の列点文と沈線と円形刺突文で肋骨文を表現する。	
49	21	踏碇a	90区I3土	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口唇部に押圧文を施文し、2列の列点文と沈線と円形刺突文で肋骨文を表現する。	
50	21	踏碇a	90区I3土	深鉢	口縁	細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	横位・斜位の平行沈線と円形刺突文で肋骨文を表現する。	
51	21	踏碇a	90区H-20	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	弧状の平行沈線と押圧文で肋骨文を表現する。	
52	21	踏碇a	90区2土	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	平行沈線を施す。補修孔を開ける。	
53	21	踏碇a	90区H-20	深鉢	口縁	細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	横位の条線と波状文を施す。	
54	21	踏碇a	90区2土	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	横位の平行沈線と波状文を施文する。	
55	21	踏碇a	90区H-18	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	横位の平行沈線と波状文と円形刺突文を施文する。	
56	21	踏碇a	90区H-20	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	横位の平行沈線と波状文を施文する。	
57	21	踏碇a	90区I-20	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	地文はRLの縄文で、波状文と円形刺突文で施文する。	
58	21	踏碇a	90区H-19	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。浅黄褐色。	地文はRLの縄文で、波状文と平行沈線で文様を描く。	
59	21	踏碇a	90区K-19	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、平行沈線を施文する。	
60	21	踏碇a	90区46土	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	横位の連続爪形文と円形刺突文を施文する。	
61	21	踏碇a	90区	深鉢	胴部	細砂粒と小礫をやや多く含む。良好。明赤褐色。	連続爪形文と円形刺突文を施文する。	
62	21	踏碇a	90区K-19	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文で、連続爪形文と円形刺突文を施文する。	
63	21	踏碇a	90区46土	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	横位の連続爪形文と円形刺突文で木葉文を描く。	
64	21	踏碇a	90区46土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	連続爪形文と円形刺突文で木葉文を描く。	
65	21	踏碇a	90区H-20	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	地文はLRの充填縄文と平行沈線で文様を描く。	91土-1、遺構外66・67・72と同一個体
66	21	踏碇a	90区F-19	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	LRの充填縄文と平行沈線で文様を描く。	91土-1、遺構外66・67・72と同一個体
67	21	踏碇a	90区H-19	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	地文はLRの充填縄文と平行沈線で文様を描く。	91土-1、遺構外66・67・72と同一個体
68	21	踏碇a	90区J-19	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。褐色。	地文はRLの充填縄文と平行沈線で施文する。	
69	21	踏碇a	90区J-19	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、横位の沈線と円形刺突文を施文する。	
70	21	踏碇a	90区J-19	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。褐色。	地文はRLの充填縄文と平行沈線で施文する。	

2 遺構外の出土遺物

番号	PL	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
71	21	踏破a	90区43土	深鉢	胴部	細砂粒を含む。良好。橙色。	連続爪形文と集合条線を施文する。	
72	21	踏破a	90区H-20	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	地文はLRの縄文と平行沈線で文様を描く。	91土-1、遺構外65-67と同一個体
73	21	踏破a	90区J-15	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	地文はLRの縄文を施文する。	
74	21	踏破a	90区	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	地文はRLの縄文を施文する。	
75	21	踏破a	90区K-19	深鉢	底部	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	地文はLRの縄文を施文する。	
76	21	踏破a	90区2土	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	地文はRLの縄文を施文する。内面に炭化物が付着。	
77	21	踏破b	90区34土	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	地文はRLの縄文で、横位の集合沈線を施文する。	
78	21	踏破b	90区46土	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。黄褐色。	地文はRLの縄文で、集合沈線で文様を描く。	
79	21	踏破b	90区34土	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。黄褐色。	地文はRLの縄文で、横位の集合沈線を施文する。	
80	21	踏破b	90区G-17	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文で、横位の集合沈線を施す。	
81	21	踏破b	90区G-17	深鉢	胴部	砂粒を含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文で、横位の集合沈線を施す。	
82	21	踏破b	90区70土	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。灰黄褐色。	口縁部は波状を呈する。地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
83	21	踏破b	90区H-17	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
84	21	踏破b	81区A-18	深鉢	口縁	砂粒をやや多く含む。良好。黄褐色。	口縁部は波状を呈し、地文はLRの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
85	21	踏破b	90区H-17	深鉢	口縁	砂粒をやや多く含む。良好。黄褐色。	口縁部は波状を呈し、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
86	21	踏破b	90区60土	深鉢	口縁	砂粒を多く含む。良好。黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
87	22	踏破b	90区H-17	深鉢	胴部	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
88	22	踏破b	90区4土	深鉢	胴部	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
89	22	踏破b	90区61土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
90	22	踏破b	90区F-17	深鉢	胴部	砂粒を多量に含む。良好。黒褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
91	22	踏破b	90区H-17	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
92	22	踏破b	90区60土	深鉢	胴部	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
93	22	踏破b	90区76土	深鉢	胴部	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	

Ⅲ 三平Ⅰ遺跡

番号	P L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
94	22	踏碇b	90区75土	深鉢	胴部	砂粒を多量に含む。良好。黒褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
95	22	踏碇b	90区H-19	深鉢	胴部	砂粒を含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
96	22	踏碇b	90区2土	深鉢	胴部	砂粒を含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
97	22	踏碇b	90区6土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
98	22	踏碇b	90区F-17	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
99	22	踏碇b	90区2土	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はLRの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
100	22	踏碇b	90区H-17	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
101	22	踏碇b	90区H-18	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
102	22	踏碇b	90区74土	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	地文はLRの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
103	22	踏碇b	90区75土	深鉢	胴部	砂粒を多量に含む。良好。にぶい黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
104	22	踏碇b	90区F-17	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
105	22	踏碇b	90区60土	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
106	22	踏碇b	90区60土	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。灰黄褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
107	22	踏碇b	90区13土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	地文はLRの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
108	22	踏碇b	90区J-19	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	地文はRLの縄文で、刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
109	22	踏碇b	90区60土	浅鉢	胴部	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	連続爪形文と沈線と木葉文を描く。	
110	22	踏碇b	90区2土	浅鉢	胴部	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。	赤色塗彩
111	22	踏碇b	90区76土	浅鉢	口縁	小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。暗赤褐色。	刻みを持つ浮線文と沈線と文様を描く。	赤色塗彩
112	22	踏碇b	90区61土	浅鉢	口縁	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁下部に2つの穿孔あり。連続爪形文と刻みを持つ浮線文で文様を描く。	
113	22	踏碇b	90区G-17	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	地文は結束の羽状縄文である。	
114	22	踏碇b	90区60土	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部は波状を呈し、地文はLRの縄文である。	
115	22	踏碇b	90区34土	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	地文は結束の羽状縄文である。	

2 遺構外の出土遺物

番号	P L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
116	22	彌生B	90区22土	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	地文はLRの縄文を施文する。	
117	22	十三番掘	90区60土	深鉢	口縁	細砂粒を若干含む。良好。にぶい藍色。	口唇部に押圧文を施文し、沈線を施文する。	
118	22	五箇ヶ台	90区	深鉢	口縁	長石や石英などの砂粒を多量に含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部は波状を呈し、内側に肥厚する。地文は、格子目状の沈線で、ブリッジ状の把手が付く。	

弥生時代遺構外出土土器観察表 (第45図)

番号	P L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等
1	23	中期前半	90区60土	浅鉢	口縁	径1～2mmの長石、褐色鉱物、黒褐色鉱物を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	整形は内外面ともナデ。口縁はやや反折する。口縁部文様帯には、地文にLRを横位施文後、幅約4mmのやや丸みを有する棒状工具によって、3条の沈線を廻らせ、下位2条の沈線間(隆帯部)には同工具によりやや浅めに沈線を施すとともに、指によるかか工具によるかは不明であるが、変形工字文の交点部に相当する割みを施す。その結果、下位2条の沈線間には2分岐の変形工字文が作出される。胴部は無文。文様や手法には弥生前期からの古型が窺える。
2	23	中期前半	90区3土	壺	胴部	径1～2mmの長石、黒褐色鉱物をやや多く含む。良好。明黄褐色。	整形は内外面ともナデ。単位は不明であるが、おそらく基床状工具による条痕文を施文後、幅4mmのやや丸みを有する棒状工具により3条の平行沈線を廻らせる。
3	23	中期前半 (岩櫃山 式併行)	90区E-18 90区F-18	壺	胴部	径1～3mmの長石、黒褐色鉱物をやや多く含む。良好。灰褐色。	整形は内外面ともナデが基本であるが、内面には一部斜位のケズリ痕や成形時の指頭痕も観察できる。外面は幅3mmのやや丸みを有する棒状工具を使用し、上位に沈線技法による2分岐の変形工字文を施出する。交点は2箇所確認でき、どちらもやや上下からつまみ上げるような手法により作出する。下位の文様モチーフは不確定ではあるが、おそらく沈線と磨消縄文による三角連環文であろう。縄文は極めて細かい形のLRを横位に施文する。
4	23	中期前半 (岩櫃山 式併行)	90区34土	壺	胴部	径1～2mmの長石及び砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	整形は内外面ともナデであるが、内面には一部成形時の指頭痕も確認できる。外面は、幅3mmのやや丸みを有する棒状工具を使用し、上位には2条の平行沈線、下位にはおそらく沈線技法による三角連環文を施す。文様帯の上位・下位・文様帯内にはLRを横位・斜位に施文する。
5	23	中期前半	90区79土 90区E-18 90区E-19 90区F-18	壺	胴部	径1～1.5mmの細かい長石及び砂粒を少量含む。良好。褐色。	整形は内外面ともナデであるが、内面には一部成形時の指頭痕や擦合痕も確認できる。外面は、幅2.5mmのやや丸みを有する棒状工具を使用し、沈線と磨消縄文による王字文を施出する。縄文は細いLRを横位・縦位に施文する。文様モチーフからは南東北地方南御山1式、野沢1式の痕相も窺える。
6	23	中期前半 (岩櫃山 式併行)	90区H-18	壺?	胴部	径0.5mmの石英粒及び径1～2mmの砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	整形は内外面ともナデ。外面は、幅3mmのやや丸みを有する棒状工具を使用し、沈線と磨消縄文による縦・横の方形区面のモチーフを配す。縄文は極めて細いLRを横位に施文する。外面は全面赤彩が施される。
7	23	中期前半 ～中葉	90区34土	筒型土器?	胴部	径1mmの長石及び砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	整形は内外面ともナデ。外面は、幅3mmのやや丸みを有する棒状工具を使用し、沈線と磨消縄文による「U」状のモチーフを施出する。「U」状の沈線の右端は直線状・曲線状は不明だが、文様構成が伸びている。縄文はLRを横位・斜位に施文する。
8	23	中期前半 (岩櫃山 式併行)	90区3土	壺?	胴部	径1mmの長石、赤褐色鉱物、黒褐色鉱物を少量含む。良好。黒褐色。	整形は内外面ともナデ。外面は、地文にLRを横位施文後、幅3mmのやや丸みを有する棒状工具を使用し、3条の平行沈線を廻らせる。

Ⅲ 三平I遺跡

番号	P L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等
9	23	中期前半 (岩盤山 式併行)	90区G-21	小型甕	胴部	径1～2mmの白色砂粒 及び黒褐色砂粒を少量 含む。良好。赤褐色。	整形は内外面ともナデ。外面は幅14mm本数5本の横溝文。口 唇部及び口縁内外面とも成形の精緻さに欠ける。口唇部には 指痕による割みが6カ所確認できる。腹口縁の可能性もある。
10	23	中期前半	90区I3土	甕?	胴部	径1～2mmの褐色砂粒 及び赤褐色砂粒をやや 多く含む。良好。灰褐色。	整形は外面がケズリ。内面はナデ。内面の調整は粗く接合痕 残る。外面は無文。
11	23	中期前半	90区I6土	甕?	胴部	径0.5mmの微細砂粒わ ずかを含む。良好。黒 褐色。	整形は内外面ともナデ。外面はおそらく基床状工具使用と思 われる粗い条痕文。
12	23	中期前半	90区F-19	甕?	胴部	径0.5mmの微細砂粒わ ずかを含む。良好。黒 褐色。	整形は内外面ともナデ。外面は幅14mm本数11本の木口による と思われる繊細な条痕文。
13	23	中期前半	90区G3土	甕?	胴部	径1mmの長石及び砂粒 わずかを含む。良好。 黒褐色。	整形は内外面ともナデ。外面は幅16mm本数8本の木口による と思われる条痕文。

平安時代遺構外出土土器観察表 (第46図)

番号	P L	出土位置	器種	計測値(cm)	復元状態	器形・製作技法の特徴
1	23	90区E-19	土師器 甕	口 (20.0) 高 [6.4]	3片 図示部の1/3	薄手。胴部外面に明確な水平な接合痕。外面は乾燥がすすん だ状態で強く削る。内面のナデも丁寧で、平滑に仕上げる。
2	23	90区F-18	土師器 甕	口 (21.0) 高 [4.9]	図示部の1/6	外面両部に細かな削り。胴部中央に接合痕顕著。胴部上半は 無調整。内面は比較的平滑に仕上げる。
3	23	90区E-18	土師器 甕	口 (19.0) 高 (4.6)	3片 図示部の1/8	口の字口縁部としてはやや厚手。横位ナデは強く、内面は平 滑に仕上げる。
4	23	90区E-18	土師器 甕	口 (16.8) 高 [4.0]	図示部小片	胴部外面に緩なナデ。他は比較的丁寧なナデで仕上げる。
5	23	90区E-19	須恵器 杯	口 (13.4) 高 [3.0]	2片 図示部の1/5	小ぶりで薄手。右回転クロコ。口口縁は弱く、器面に平滑 さ欠く。
6	23	90区F-18	須恵器 杯	口 (14.0) 高 [4.3]	2片 図示部の1/6	口縁端部外反。右回転クロコ。外面は口口縁やや強い。
7	23	90区G-18 90区I-18	須恵器 杯	口 (13.0) 高 [3.0]	図示部の1/6	右回転クロコ。口口縁は弱く不明瞭。
8	23	90区F-17	須恵器 杯	口 (14.0) 高 [4.2]	2片 図示部の1/5	やや厚手。右回転クロコ。口口縁はやや弱く、外面のみ。
9	23	90区E-19	須恵器 杯	高 [3.8]	図示部小片	口縁端部小さく内彎する。右回転クロコ。口口縁やや弱 い。
10	23	90区E-18	須恵器 高台付き輪	台 (6.4) 高 (1.4)	図示部は12完存	底部厚手。右回転クロコ→回転糸切り→高台貼り付け。内底 は平滑。
11	23	90区F-17	須恵器 高台付き輪	台 (6.2) 高 (2.6)	図示部は12完存	やや厚手。右回転クロコ→回転糸切り→緩な高台貼り付け。 残存範囲では口口縁弱い。内面に重ね焼き時の高台痕が残 る。
12	23	90区G-17	須恵器 瓶小	台 (10.1) 高 (5.0)	図示部の1/5	幅広い高台の形状より瓶類と判断。右回転クロコ。外面は工 具仕様のナデか。

2 遺構外の出土遺物

中世遺構外出土石器観察表 (第46回)

番号	P.L.	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調・特徴	備考
13	23	表採	土網	口縁内耳部	細砂粒を含む。良好。藍色。内耳貼り付け。	

遺構外出土石器計測表 (第47-49回)

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重さ(g)	石材	備考
1	24	90区I-17	石鏃	A	27 18 4	1.7	黒曜石
2	24	90区G-18	石鏃	A	26 18 6	2.1	黒曜石
3	24	90区O-19	石鏃	A	18 16 5	0.9	珧質燧石(凝灰岩)
4	24	90区H-18	石鏃	A	15 13 4	0.8	黒曜石
5	24	90区46土	石鏃	B	26 17 5	1.5	黒色安山岩
6	24	90区I-18	石鏃	B	26 17 5	1.2	珧質燧石
7	24	90区G-18	石鏃	B	26 15 4	1.0	黒曜石
8	24	90区I-16	石鏃	B	23 16 5	0.9	凝灰岩
9	24	90区O-18	石鏃	B	22 19 3	0.9	黒曜石
10	24	表採	石鏃	B	19 17 5	1.1	チャート
11	24	90区63土	石鏃	B	21 11 5	0.8	黒曜石
12	24	90区G-19	石鏃	B	17 19 3	0.6	黒曜石
13	24	90区37土	石鏃	B	17 16 4	0.8	黒曜石
14	24	90区I-18	石鏃	B	15 15 4	0.6	黒曜石
15	24	90区J-14	石鏃	B	13 12 3	0.3	黒曜石
16	24	90区E-18	石鏃	B	15 12 3	0.2	黒曜石
17	24	90区K-15	石鏃	E	16 15 4	0.7	黒色安山岩
18	24	90区P-17	石鏃	E	10 18 2	0.3	黒曜石
19	24	90区F-20	石匙	縦	64 36 9	14.0	珧質燧石
20	24	90区T-19	石匙	横	27 41 9	10.0	珧質燧石(元流紋岩質凝灰岩)
21	24	90区H-17	石槍		64 14 4	4.1	珧質燧石 草創期か? 新潟・東北の石材
22	24	90区E-19	石槍		47 20 8	7.8	頁岩
23	24	90区I-23	スクレイパー		44 56 16	30.5	頁岩

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①直径(mm)②孔径(mm)③厚さ(mm)④重さ(g)	石材	備考
24	24	90区K-14	石鐏		22 6 5	2.3	滑石

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①長径(mm)②短径(mm)③厚さ(mm)④重さ(g)	石材	備考
25	24	90区J-19	石製品		21 18 4	1.8	デイサイト

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重さ(g)	石材	備考
26	24	90区59土	打製石斧		57 43 13	42.0	安山岩 中期
27	24	90区F-18	鹿状石器		68 36 14	32.0	頁岩
28	25	90区F-17	磨製石斧		84 52 14	99.0	凝灰岩
29	25	90区G-17	凹み石		116 96 48	941.2	安山岩
30	25	90区H-17	凹み石		115 86 55	809.0	細粒輝石安山岩
31	25	90区2土	凹み石		123 116 51	1,012.1	粗粒輝石安山岩
32	25	90区2土	磨石		118 55 34	347.0	安山岩
33	25	90区H-16	磨石		110 90 35	582.1	安山岩
34	25	表採	スタンプ		67 75 35	310.9	安山岩
35	25	90区93土	石皿		(290) (185)	5,200.0	安山岩
36	25	90区P-18	砥石		115 65 46	444.6	安山岩
37	25	90区76土	砥石		85 75 11	94.7	安山岩
38	25	90区Q-17	砥石		70 25 21	39.6	砥沢石

IV 三平Ⅱ遺跡(71・81・90区)

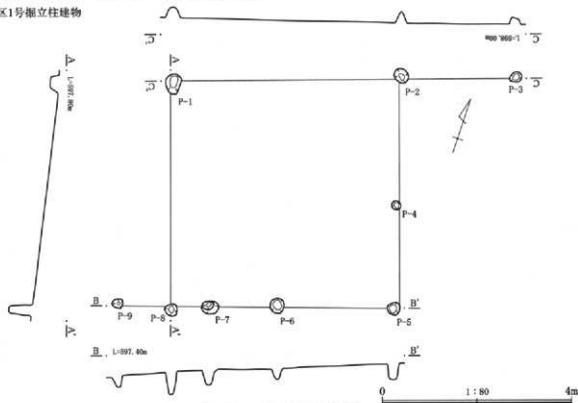
1 検出された遺構と遺物

三平Ⅱ遺跡では、中世の掘立柱建物7棟、集石1基、中世に比定される可能性のある集石2基、柱穴列1基、礎石2基、溝1条、平安時代以降の焼土2基、土坑124基（古代の陥穴43基、縄文時代或いは縄文時代の可能性の高い土坑39基、平安時代以降の土坑40基、中世以降の土坑2基）、縄文時代の倒木痕1基を検出した。

(1) 掘立柱建物

三平Ⅱ遺跡では、81区で2棟、90区で5棟、計7棟の掘立柱建物を検出し調査した。本遺構は、帰属時期を直接示す遺物の出土はないが、北側の谷地や周辺で中世在地土器が比較的多く出土するとともに、建物が掘立柱建物構造であることを加味して、中世に比定されると考える。本遺構に関する形態的な特徴、建物配置や立地などから観る城郭的な役割

81区1号掘立柱建物



第50図 81区1号掘立柱建物

の可能性等、詳細な分析については、飯森康広氏によるV・5の項を参照されたい。

◆81区1号掘立柱建物

位置 北西から南東へと延びる馬蹄状の調査区最南端の81区A・B-1・2グリッドに位置する。

重複 90区4号掘立柱建物、90区5号掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明。

主軸方向 N-71°-E

形状 身舎は2×2間の東西棟。北壁・南壁に張り出しを有する。桁行平均4.74mで桁行平均柱間2.37m、梁間平均4.85mで梁間平均柱間2.425m、面積22.99m²の規模を測る。柱穴はP-1～P-9を確認する。柱穴の平面形状はほぼ円形である。規模は長径19～42cm、深さ16～48cmを測り、径・深さとも、数値にややばらつきがある。底面は、東壁・西壁では北を上位方向、北壁・南壁では東を上位方向とする、やや傾斜面となっている。

内部施設 なし 出土遺物 なし

1 検出された遺構と遺物

◆81区2号掘立柱建物

位置 北西から南東へと延びる馬背状の調査区最南端、かつ掘立柱建物群の西端にあたる81区C-2グリッドに位置する。

重複 なし

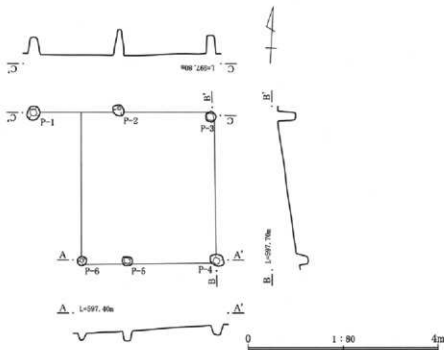
主軸方向 N-86.5° -E

形状 1×1間の東西棟の可能性が高い。北壁に張り出しを有する。桁行平均1.92m、梁間平均3.13m、面積6.01m²の規模を測る。柱穴はP-1～P-6を確認

する。柱穴の平面形状はP-3・P-5は隅丸方形、他は円形である。規模は長径18～32cm、深さ15～56cmを測り、径の数値にはまとまりがあるが、深さにはややばらつきがある。しかしながら、柱穴は全てしっかりとした掘り込みをもち、柱軸にも載っている。底面は、東壁では北を上位方向、南壁では東を上位方向とする、やや傾斜面となっている。

内部施設 なし **出土遺物** なし

81区2号掘立柱建物



第51図 81区2号掘立柱建物

◆90区1号掘立柱建物

位置 北西から南東へと延びる馬背状の調査区最南端、かつ掘立柱建物群の東端にあたる90区U・V・W-3・4グリッドに位置する。

重複 P-5が90区1号土坑と重複するが、新旧関係不明。

主軸方向 N-75° -E

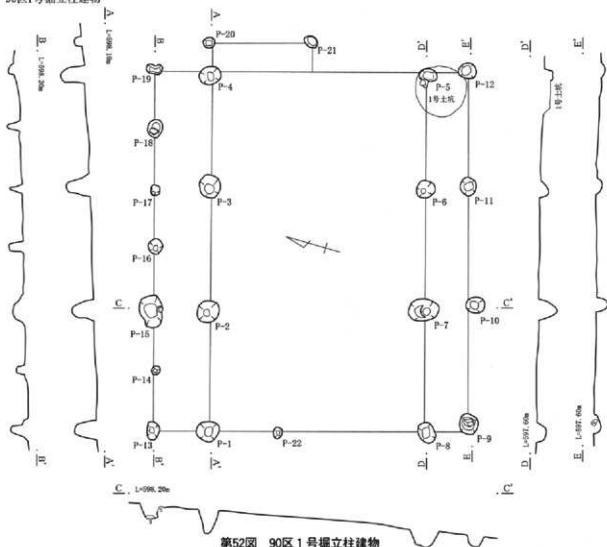
形状 身舎は1×3間の東西棟。南北両面に庇、東面に張り出しを有する。桁行平均7.53mで桁行平均柱間2.51m、梁間平均4.59m、面積は34.56m²の規

模を測る。柱穴はP-1～P-22を確認する。柱穴の平面形状は円形或いは不整形である。規模は長径18～66cm、深さ10～50cmを測り、径・深さともばらつきがあるが、張り出し部の柱穴や北庇部の半間の位置に確認できる小規模の柱穴も含まれており、身舎部の柱穴は規模がまとまっているといえる。なお、P-9・P-15・P-18内には礎が確認できる。底面は北を上位方向とする、やや傾斜面となっている。

内部施設 なし **出土遺物** なし

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

90区1号掘立柱建物



第52図 90区1号掘立柱建物

◆90区2号掘立柱建物

位置 掘立柱建物群の北端にあたる90区Y-4・5グリッドに位置する。

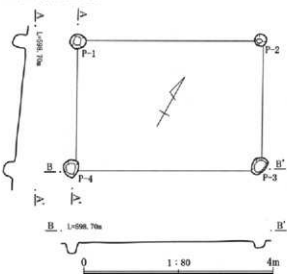
重複 90区3号掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明。

主軸方向 N-27°-W

形状 1×1間の南北棟の可能性が高い。桁行平均2.65m、梁間平均3.92m、面積10.39m²の規模を測る。柱穴はP-1～P-4を確認する。柱穴の平面形状は円形である。規模は長径25～40cm、深さ16～28cmを測り、数値にはまとまりがある。底面は北を上位方向とする、やや傾斜面となっている。

内部施設 なし 出土遺物 なし

90区2号掘立柱建物



第53図 90区2号掘立柱建物

1 検出された遺構と遺物

◆90区3号掘立柱建物

位置 掘立柱建物群の北端にあたる90区Y-4グリッドに位置する。

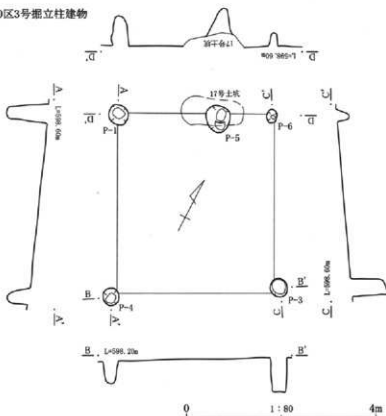
重複 90区2号掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明。またP-5が90区17号土坑と重複するが新旧関係不明。

主軸方向 N-61°-E

形状 1×1間の東西棟の可能性が高い。桁行平均3.4m、梁間平均3.74m、面積12.72m²の規模を測る。柱穴はP-1～P-6を確認する。柱穴の平面形状は円形である。規模は長径29～46cm、深さ26～86cmを測る。P-6の規模がやや小さいが、他はしっかりとした柱穴である。底面は北を上位方向とする、やや傾斜面となっている。

内部施設 なし **出土遺物** なし

90区3号掘立柱建物



第54図 90区3号掘立柱建物

主軸方向 N-67.5°-E

形状 1×2間の東西棟。南壁に張り出しを有する。桁行平均4.61mで桁行平均柱間2.305m、梁間平均2.56m、面積11.8m²の規模を測る。柱穴はP-1～P-8を確認する。柱穴の平面形状は不整円形である。規模は長径24～42cm、記録の残るP-4～P-8の深さ18～38cmを測る。

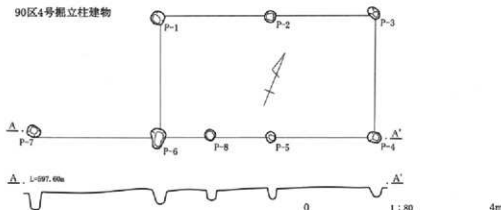
内部施設 なし **出土遺物** なし

◆90区4号掘立柱建物

位置 掘立柱建物群の中央部にあたる90区X・Y-2・3グリッドに位置する。

重複 81区1号掘立柱建物、90区5号掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明。

90区4号掘立柱建物



第55図 90区4号掘立柱建物

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

◆90区5号掘立柱建物

位置 掘立柱建物群の中央部にあたる90区X・Y・81区A-2・3グリッドに位置する。

重複 81区1号掘立柱建物、90区4号掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明。

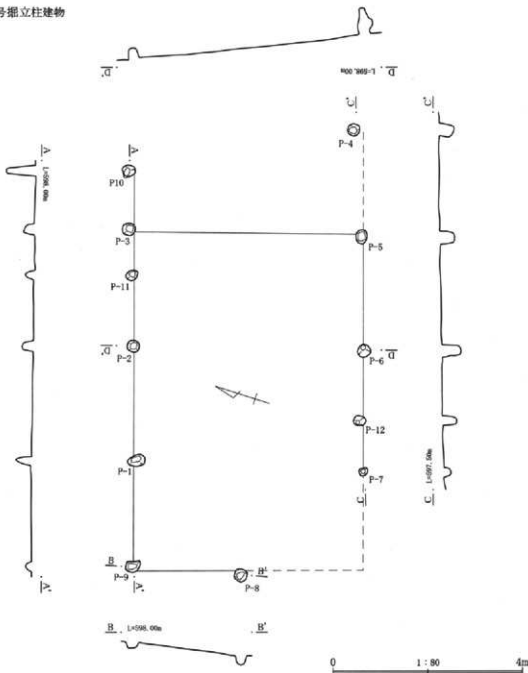
主軸方向 N-72.5°-E

形状 2×3間の東西棟。北・南壁に張り出しを有

する。桁行7.1mで桁行平均柱間2.37m、梁間4.92mで梁間平均柱間2.46m、面積34.93m²の規模を測る。柱穴はP-1～P-12を確認する。柱穴の平面形状は円形である。規模は長径18～38cm、深さ14～62cmを測る。

内部施設 なし 出土遺物 なし

90区5号掘立柱建物



第56図 90区5号掘立柱建物

(2) 柱穴列

三平Ⅱ遺跡では柱穴列1基を確認した。本遺構の帰属時期を示す具体的な遺物の出土はないが、立地や主軸方向、掘立柱構造等を加味し、掘立柱建物群同様、中世に比定される可能性が高い。

◆90区1号柱穴列

位置 90区Y・81区A-1・2グリッド

重複 P-1が81区74号土坑を切る。

主軸方向 N-76°-E

形状 全長3.65mで東西に走行する。柱間はP-2とP-3がやや狭いが、他は1.35mでほぼ一定する。柱穴の径は30~40cm、深さ50~55cmで規模も一定する。

出土遺物 なし

(3) 礎石

三平Ⅱ遺跡では礎石2基を確認した。本遺構の帰属時期を示す具体的な遺物の出土はないが、掘立柱建物群及び柱穴列に伴う遺構の可能性も考えられる。

◆90区1号礎石

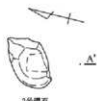
位置 90区T-5グリッド

形状 径約30cm×厚25cmのやや平たい山石の上面に縦25cm×横20cmの方形の加工された平坦面を有す

1,2号礎石



△、L=598.00m

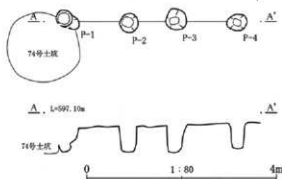


△、



第58図 90区1・2号礎石

1号柱穴列



第57図 90区1号柱穴列

礎石は地山ローム面に下半部15cm程度が沈み込んだ状態で据えられているが、土坑状の掘り込みは確認できない。

◆90区2号礎石

位置 90区T-4グリッド

形状 径40~50cm×厚30cm以上の山石の上面に、1号礎石と同規模(縦25cm×横20cm)の方形の加工された平坦面を有する。礎石は地山ローム面に下半部15cm程度が沈み込んだ状態で据えられているが、土坑状に掘り込みは確認できない。1・2号礎石において、柱が据え置かれたと想定される加工面間隔(柱芯間)は3.80m、主軸方向はN-13°-Wである。

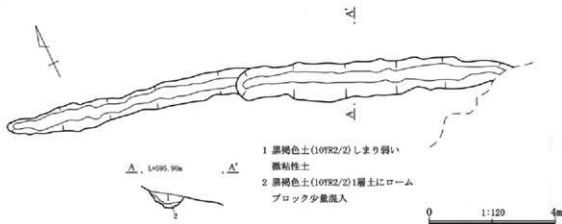
(4) 溝

◆90区1号溝

位置 90区U・V・W-13グリッド

形状 最大幅0.6m×長さ7.1m超×深さ0.45mの規模を測り、N-68°-Wを主軸に走行する。溝は南西1号溝

側の馬背状の台地から北東側の谷状低地へと向かう傾斜地の裾部に、等高線に並行して構築される。90区1号掘立柱建物を中心建物とする7棟の中世屋敷群が、要害的な立地から城郭としての要素を有するとすれば、そこには有機的な関連も窺われる。



第59図 90区1号溝

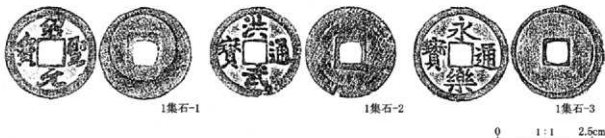
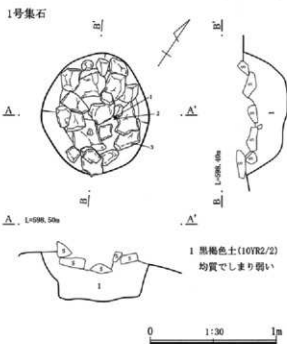
(5) 集石

◆81区1号集石

位置 81区C-12グリッド

形状 長径95cm×短径85cm×深さ37cmの規模を測る円形状の土坑に、人為的と考えられる均質な埋没土が充填され、埋没土上位に径10~25cmの垂角礫が20個余り円形状に敷き詰められる。

出土遺物 集石状の礫の下位、埋没土中層より、招聖元宝(北宋)(1)、永楽通宝(明)(3)、洪武通宝(明)(2)の3枚の古銭が出土している。土器は早期熟糸文3点、関山式1点、黒浜式1点、諸磯a式1点、諸磯b式1点、諸磯c式1点、型式不明14点が出土し、石器は剥片4点が出土するが、全て流れ込みと考えられる。出土古銭より本遺構の帰属時期は中世に比定される。



第60図 81区1号集石

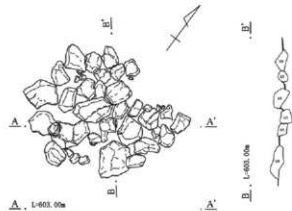
◆81区2号集石

位置 81区M-18グリッド

形状 径5～30cmの亜角礫が40個余り、ほぼ円形状にまとまって敷き詰められる。土坑状の掘り込みは確認できない。調査時、集石部上位では炭化物・焼土粒が僅かに確認できた。

出土遺物 土器は型式不明が1点、石器は剥片6点出土しているが、全て流れ込みと考えられる。

2号集石



第61図 81区2号集石

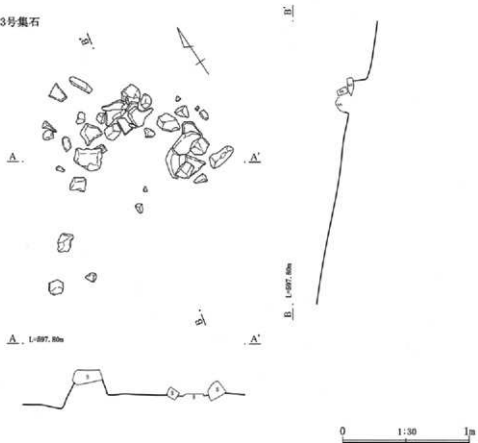
◆81区3号集石

位置 81区B-13グリッド

形状 径5～25cmの亜角礫が40個余り多少散乱した状態で敷き詰められる。土坑状の掘り込みは確認できない。

出土遺物 遺構には伴っていないが、周辺グリッドより石白片が出土している。

3号集石



第62図 81区3号集石

(6) 焼土

◆90区1号焼土

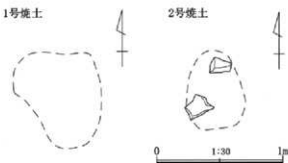
位置 90区Y-1グリッド

形状 地山のYPk純堆積層面が、径70～80cmの範囲ではほぼ円形状に被熱し赤化している。炭化粒も少量混入。土坑状の掘り込みは伴わないが、焼土面は少し凹んだ状態である。

◆90区2号焼土

位置 90区X-9グリッド

形状 地山の黒色土面が、径45～65cmの範囲ではほぼ円形状に被熱し赤化している。土坑状の掘り込みは伴わない。



第63図 90区1・2号焼土

(7) 土坑

三平Ⅱ遺跡では、Ⅲ層の平安以降遺物包含層とⅤ層の縄文遺物包含層、及びⅤ層のローム層上面で、124基の土坑の検出・調査を行った。

そのうち43基を形状や埋没土の観察、底部施設(逆茂木痕)などから陥し穴と判断した。

その他の土坑の時期決定にあたっては、完形土器を含む一括遺物を含む土坑は僅少であり、複数期にわたる土器片が混入するケースが多見されることから、数量的に主体を占める土器形式及び最も後続する土器型式を考慮しながら、遺構確認面と埋没土の観察を総合して決定した。その結果は、縄文時代或いは縄文時代の可能性が高い土坑が39基、平安時代以降の土坑が40基、中世以降の土坑2基である。

①陥し穴

陥し穴の平面形状による分類の観点や方法、構築

時期の判断等についてはⅢ・Ⅰ・(4)・①陥し穴の項を参照されたい。また、位置、規模、埋没土中に確認できるローム質土レンズ状堆積層の有無、逆茂木痕等の底部施設の有無、出土遺物などについては、表5・6を併せて参照されたい。

43基の陥し穴のうち、その平面形状から3タイプ4類に分類すると、①楕円型1類が16基(81区3・5・11・39・45・52・62・64・68号土坑、90区8・15-B・34・37・40・45・51号土坑)、②楕円型2類が15基(81区2・20・32・33・35・46・48・50・51・57号土坑、90区27・29・33・39・49号土坑)、③溝型10基(81区17・19・31・34・40・41・43・47・49・56号土坑)、④筒型2基(81区9・28号土坑)である。

基本的には同一タイプであるが、掘り込み面近くの残存状況が良好で、上面形状が確認できる類(楕円型2類)、上半部が破壊され下半部もしくは底部のみしか残存しない類(楕円型1類)を楕円型とひとくくりすると、43基中31基(72%)がこのタイプとなる。また溝型は43基中10基(23%)、筒型は43基中2基(5%)である。

埋没土層に確認できるローム質土レンズ状堆積層は、43基中17基(40%)、タイプ別にみると、楕円型では31基中14基(45%)、溝型では10基中2基(20%)、筒型では2基中1基(50%)で確認できる。

底部施設については、逆茂木痕と考えられるピットが、81区31・40・41・47・56号土坑で確認できる。この5基の陥し穴はすべて溝型である。逆茂木痕は溝型陥し穴に特徴的に伴出する事例が、立馬Ⅰ遺跡(群埋文388集)や立馬Ⅱ遺跡(群埋文375集)等で報告されているが、三平Ⅱ遺跡では、この事例が当てはまることになる。

楕円型陥し穴と溝型陥し穴との重複関係を示す事例は1例ある。81区35号土坑(楕円型)と81区34号土坑(溝型)で、楕円型を溝型が切っけている。

81区41(溝型)・56(溝型)・57(楕円型)号土坑の3基の陥し穴の埋没土層では、ブロック状も

しくは部分的に純堆積層として混入する粕川テフラ(1128年)が確認できた。これは遺構構築時期あるいは埋没時期を決定する上での一資料となろう。

②土坑(縄文時代)

81区58・60・61号土坑の3基の他に、不確定ではあるが81区4・8・10・12・13・16・18・23～25・27・29・30・36～38・42・59・63・65・66・70・71・74・75号土坑、90区4～7・26・36・46～48・50・52号土坑の36基を加えた39基が縄文時代の土坑に該当する。

縄文時代の土坑は、上面・下面形状とも円形を基本とし、規模は径1m前後、深度30cm未満の比較的浅い土坑と径1m前後、深度50～100cmの掘り込みの深い土坑とにおおむね2分類が可能である。

特徴的に遺物が出土している土坑は、81区13・25・58・60・63・66・70号土坑、90区7・46号土坑が挙げられる。

81区13号土坑は、総数32点の遺物(土器24点、石器8点)が出土する。土器は早期燕糸文1点、早期沈線文4点、早期条痕文3点、花積下層～二ツ木式1点(1)、関山式1点、諸磯a式1点(2)、諸磯b式9点(3・4・5・6)、型式不明4点、石器は石鏃未製品1点、剥片7点である。遺物は埋没土中層・下層からの出土が多く、土坑底に最も近い遺物は3の諸磯b式土器である。従って、本土坑は該期の所産と想定される。埋没状況はレンズ状の自然埋没状況を示している。

81区25号土坑は、総数24点の遺物(土器12点、石器12点)が出土する。土器は早期燕糸文1点、早期沈線文3点、関山～黒浜式1点(1)、関山式3点(2)、型式不明4点、石器は石鏃B類2点(3・4)、石鏃F類1点(5)、凹み石1点(6)、剥片8点である。遺物とともに土坑底付近からは最大径40cmを測る礫が多出している。本土坑は関山式期の所産と想定される。

81区58号土坑は、総数62点の遺物(土器60点、石器2点)が出土する。土器は諸磯b式60点(1・

2・3)、石器は剥片2点である。埋没土はV層を基準とした微粘性の黒褐色土にYPk粒およびロームブロックが混入した自然埋没土と考えられる。諸磯b式土器片は埋没土最上層より出土しており、埋没途中で坑内に廃棄されたことを示唆している。土器片は遺物接合の結果、口縁部の欠損はあるものの、およそ2/3程度の残存である。土器は埋没土最上層からの出土であるが、本土坑は諸磯b式期の所産と想定される。

81区60号土坑は、総数72点の遺物(土器69点、石器3点)が出土する。土器は諸磯b式1点(3)、諸磯c式68点(1・2)である。土坑は深度約100cmを測り、縄文時代の土坑の中でも最も深い掘り込みを有する。埋没土はややしまりを欠いた黒褐色土を基本にYPk粒が混入した土質であり、埋没状況は人為的埋戻しによるものと想定される。坑内からは2個体の土器片が出土している。どちらも諸磯c期に比定される土器だが、1は埋没土下位及び土坑底部より、2は埋没土上位よりの出土である。土器接合の結果、1は下半部を欠損し約1/2程度の残存、2は底部を欠損し約4/5程度の残存状況である。それぞれの個体は同一遺構における一括遺物であり、且つ埋没土上位及び下位からの出土であることから、群馬県北西部及び周辺地域における諸磯c式期土器罹年上の一資料となろう。

81区63号土坑は、総数36点の遺物(土器26点、石器10点)の遺物が出土する。土器は花積下層～二ツ木式1点(1)、関山式4点、関山～黒浜式2点(2・3)、型式不明19点、横型石匙1点(4)、剥片9点である。埋没土は黒褐色土を主体にYPk粒や褐色土を混入させた人為的埋戻し土の可能性が高い。土器の中には、関山～黒浜式のやや時期幅を含むものが出土しているが、主体は関山式であり、本土坑は該期の所産と考えたい。

81区66号土坑は、総数20点の遺物(土器19点、石器1点)の遺物が出土する。土器は早期条痕文4点、花積下層式1点、関山式4点、関山～黒浜式2点(1・2)、諸磯a式4点(3)、型式不明4点、石器

IV 三平Ⅱ遺跡(71・81・90区)

は剥片1点である。埋没土はローム質土を主体にYpk粒や炭化物を混入させた人為的埋戻し土である。本土坑は諸磯a式期の所産と想定される。

81区70号土坑は、総数101点の遺物(土器87点、石器14点)が出土している。土器は早期沈線文1点、早期条痕文1点、関山式14点(1)、関山～黒浜式2点(2・3)、諸磯a式7点(4・5・6)、型式不明62点、剥片14点である。出土遺物数は型式不明の小破片を含め多い。埋没土はローム質土と暗褐色土の混土による人為的埋戻し土の可能性が高い。本土坑は諸磯a式期の所産と想定される。

90区7号土坑は、総数25点の遺物(土器22点、石器3点)が出土する。土器は早期条痕文5点、諸磯b式2点(1)、十三菩提式4点(2・3)、型式不明11点、石器は剥片3点である。埋没状況はレンズ状の自然埋没状況を示している。本土坑は十三菩提式期の所産と想定される。

90区46号土坑は、総数6点の遺物(土器3点、石器3点)が出土する。土器は早期条痕文1点、諸磯b式1点、型式不明1点、石器は砥石1点(1)、石臼1点(2)、剥片1点である。本土坑の帰属時期に関しては、平面形状や埋没土観察、出土土器型式などを総合し、前期諸磯b式期とした。石臼片1点と砥石1点は、自然埋没中途段階の流れ込みか、或いは廃棄されたものの可能性が高い。なお、石臼片は本土坑より北へ28mほど離れた90区Y-11グリップ出土の石臼片5片と接合する。

以下、土坑の位置、時期、規模、平面形状、重複関係、出土遺物等の詳細については、表5・6を参照されたい。

③土坑(平安時代以降)

71区1号土坑、81区1・6・7・14・15・21・22・26・44・53・67・69・72・73・76号土坑、90区1～3・9～15-A・16～21・23・25・31・32・41～44号土坑の40基が平安時代以降の土坑に該当する。

該期の土坑は平面形状及びその他の特徴から3分類できる。

①上面・下面形状とも長方形を基本形とし、中世の堅穴状遺構に形状が類似する土坑12基(71区1号土坑、81区1・6・7・14・53号土坑、90区2・3・15-A・18・25・31号土坑)である。

②上面・下面形状とも円形を基本形とする土坑24基(81区15・21・22・26・44・69・72・73・76号土坑、90区1・9～13・16・19～21・32・41～44号土坑)である。

③平面形状が楕円形あるいは不定形を呈す土坑4基(81区67号土坑、90区14・17・23号土坑)である。

90区14号土坑は、90区15-A・15-B(楕円型陥し穴)土坑と重複し後出する。土坑北壁際の底部直上で、規模縦55cm×横10cm×厚6cmを最大とする炭化材が3～4点出土している。炭化材は、建物の柱や板など部材として使用されたもの、あるいは何らかの目的の農具や木製品とも判別できないが、いわゆる丸太材ではなく裁断面としての平坦面を有する。埋没状況は人為的な埋戻しによるものである。埋没土上位には少量の炭化物が混入している程度で、顕著な焼土や炭化物は看守できないが、炭化材廃棄の可能性も考えられる。

④土坑(中世以降)

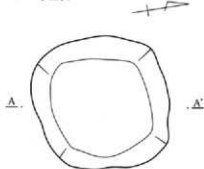
81区54・55号土坑が中世以降の土坑に該当し、どちらの土坑も規模が大きい。

81区54号土坑は長さ5m超、深度1.5m超を測る。上面・下面形状とも定形を示さない。発掘調査時、壁部の立ち上がりが不明瞭で、地山ローム土に埋没土の黒色土が地割れ状に入り込んでいた。遺物は縄文前期を中心として多量に出土しているが流れ込みの可能性が高い。その中でも中世在地土器片が出土しており、該期の所産と想定される。

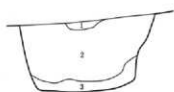
81区55号土坑も81区54号土坑同様に、東壁の立ち上がりが不明瞭で地割れ状であった。遺物は関山式・黒浜式を主体に多量に出土しているが流れ込みの可能性が高い。最も後続する土器型式は加曾利E式であるが、81区54号土坑と形状や性質が類似するため同時期中の中世の所産と考えたい。

1 検出された遺構と遺物

71区1号土坑

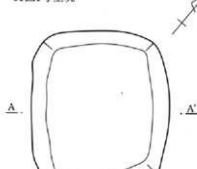


A. L=596.60m

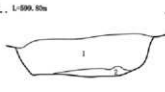


- 1 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質 炭化物少量混入
- 2 黒褐色土(10YR3/2)混入物少ない
- 3 黒褐色土(10YR3/2)2層土にロームブロック5~10%混入

81区1号土坑

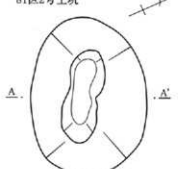


A. L=599.80m

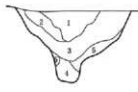


- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまり欠く 大粒のY%粒1~3%混入
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1層土に類似 Y%粒の混入やや多い

81区2号土坑



A. L=599.70m



- 1 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質土 ロームブロック10~20%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)混入物少ないしまり欠く
- 3 黒褐色土(10YR3/2)混入物少ないしまり欠く
- 4 黒褐色土(10YR2/2)混入物少ないしまり欠く
- 5 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ

81区3号土坑

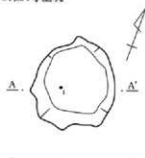


A. L=599.60m



- 1 黒褐色土(10YR2/2)混入物少ないしまり欠く
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック5~10%混入
- 3 暗褐色土(10YR3/3)Y%粒の混入多い

81区4号土坑



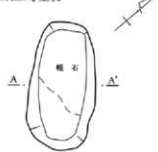
A. L=595.40m



- 1 黒褐色土(10YR3/2)ややしまりあり 褐色味を帯びたローム質土と黒色土との混入
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック5~10%混入



81区5号土坑



A. L=600.50m



- 1 暗褐色土(10YR3/3)ややしまり欠く 大粒Y%粒の混入少量あり
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)ロームブロック 10~15%混入

0 1:40 1m

第64図 71区1号土坑、81区1~5号土坑

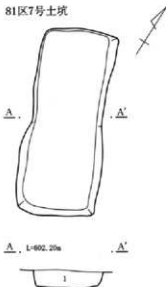
IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

81区6号土坑



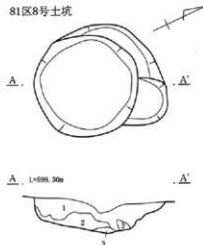
- 1 黄褐色土(2.5Y5/3)Yp%粒混じりのローム質土 しまり欠く
- 2 黄褐色土(2.5Y5/3)1層土に類似 Yp%粒の混入多い
- 3 黒褐色土(10YR3/2)しまりやや欠く
- 4 黒褐色土(10YR3/2)3層土にロームブロックの混入やや多い

81区7号土坑



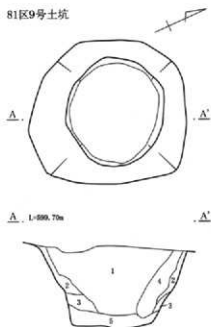
- 1 黒褐色土(10YR2/2)ややしまり欠くロームブロック3~5%混入

81区8号土坑



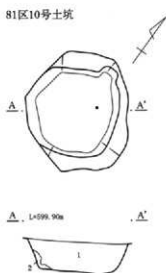
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)ロームブロック3~5%混入
- 2 褐色土(10YR4/4)くすんだローム質土
- 3 褐色土(10YR4/6)ローム質土

81区9号土坑



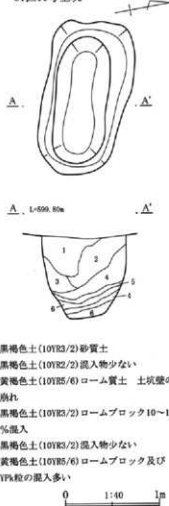
- 1 黒褐色土(10YR2/2)大粒Yp%粒5~7%混入
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック少量混入
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)2層土に類似ロームブロックの混入多い
- 4 黒褐色土(10YR2/2)混入物少ない
- 5 黒褐色土(10YR2/2)大粒Yp%粒10~15%混入

81区10号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/2)ややしまりあり褐色味を帯びたローム質土と黒色土との混土
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1層土にYp%粒の混入やや多い

81区11号土坑



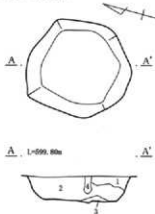
- 1 黒褐色土(10YR2/2)砂質土
- 2 黒褐色土(10YR2/2)混入物少ない
- 3 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ
- 4 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック10~15%混入
- 5 黒褐色土(10YR3/2)混入物少ない
- 6 黄褐色土(10YR5/6)ロームブロック及びYp%粒の混入多い

0 1:40 1m

第65図 81区6~11号土坑

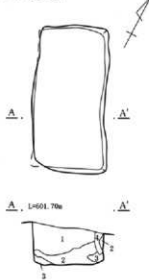
1 検出された遺構と遺物

81区12号土坑



- 1 黒褐色土(2.5Y3/2)ややしまり欠く ロームブロック1~3%混入
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック及YFk粒少量混入
- 3 黒褐色土(10YR3/2)2層土に類似 ロームブロックの混入多い
- 4 黒褐色土(10YR2/2)しまり欠く 根の侵入か

81区14号土坑



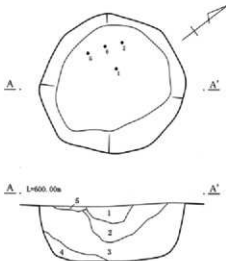
- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)しまり欠く 褐色味の強い砂質土に黒色土やローム質土がブロック状に混入
- 2 黒褐色土(10YR3/2)しまり欠く ロームブロック20~30%混入
- 3 黄褐色土(2.5Y5/3)くすんだローム質土
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)根の侵入か

81区15号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/2)大粒YFk粒1~3%混入 ややしまりあり
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1層土に類似 YFk粒の混入多い
- 3 におい黄褐色土(10YR4/3)くすんだローム質土と黒色土の混入 土坑壁の崩れ
- 4 黄褐色土(10YR5/6)YFkの2次堆積層
- 5 におい黄褐色土(10YR4/3)ローム質土 2次堆積層
- 6 黒褐色土(10YR2/2)1層土に類似 しまりあり

81区13号土坑



- 1 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)ローム質土 YFk粒20~40%混入
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)1層土と2層土の混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)ややしまり欠く YFk粒少量混入
- 4 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック及YFk粒の混入多い
- 5 黒褐色土(10YR2/2)混入物少ない

0 1:40 1m



13土-1



13土-2



13土-3



13土-5



13土-4



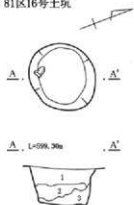
13土-6

0 1:3 10cm

第66図 81区12~15号土坑

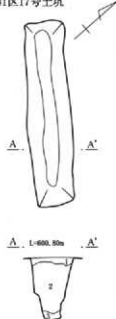
IV 三平II遺跡 (71・81・90区)

81区16号土坑



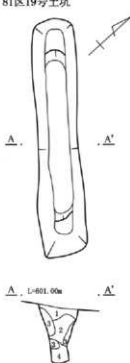
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)ややしまり欠く ロームブロック少量混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)黒色土と1層土の混土
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)1層土に類似 ロームブロックの混入多い

81区17号土坑



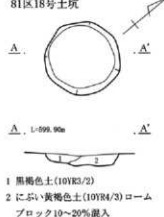
- 1 暗褐色土(10YR3/3)現耕作土
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまり欠く ロームブロック6~7%混入
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)くすんだローム質土

81区19号土坑



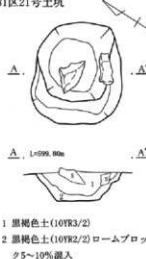
- 1 黒褐色土(10YR3/2)ややしまり欠く 耕作土混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまり欠く 混入物少ない
- 3 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ
- 4 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック20~30%混入

81区18号土坑



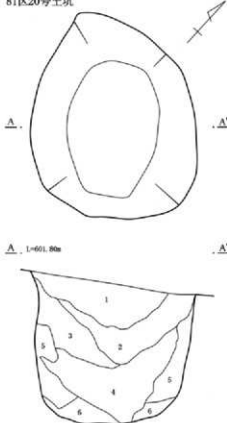
- 1 黒褐色土(10YR3/2)
- 2 ぶい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック10~20%混入

81区21号土坑



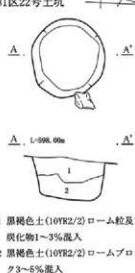
- 1 黒褐色土(10YR3/2)
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック5~10%混入

81区20号土坑



- 1 ぶい黄褐色土(10YR4/3)黒色土とローム質土の混土
- 2 黒褐色土(10YR3/2)褐色土をブロック状に混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)黒色土とローム質土の互層(斜位流れ込みの狀態)
- 4 黒褐色土(10YR3/2)3層土同様に黒色土とローム質土の互層
- 5 褐色土(10YR4/4)くすんだローム質土 土坑壁の崩れ
- 6 黒褐色土(10YR3/2)4層土に類似 ロームの比率高い

81区22号土坑



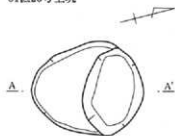
- 1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒及び炭化物1~3%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック3~6%混入

0 1:40 1m

第67図 81区16~22号土坑

1 検出された遺構と遺物

81区23号土坑

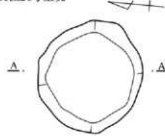


A. L=999.10m



- 1 暗褐色土(10YR2/2)粒細かく混入物少ない
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム質強い
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)2層土に類似
ロームブロックの混入多い

81区24号土坑

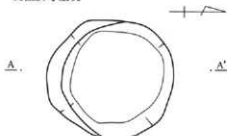


A. L=999.30m



- 1 暗褐色土(10YR3/3)粒細かい
- 2 黒褐色土(10YR3/2)混入物少ない
- 3 黒褐色土(10YR2/2)2層土にローム
ブロック少量混入

81区26号土坑

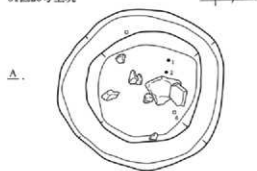


A. L=999.10m



- 1 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック30~40%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)混入物少ない
- 3 黒褐色土(10YR2/2)ややしまりあり

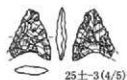
81区25号土坑



A. L=999.10m



- 1 暗褐色土(10YR3/3)現耕作土と2層土の混土
- 2 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり Y%粒1~3%混入
- 3 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ
- 4 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック3~6%混入



25士-3(4/5)



25士-5(4/5)



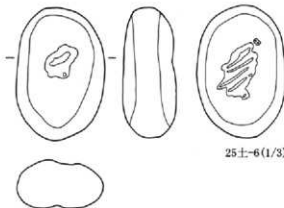
25士-4(4/5)



25士-1(1/3)



25士-2(1/3)



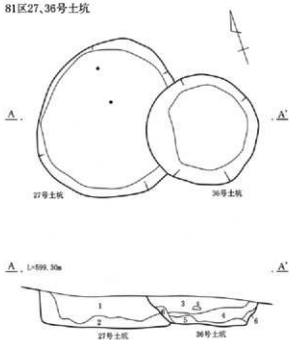
25士-6(1/3)

0 1:40 1m

第68図 81区23~26号土坑

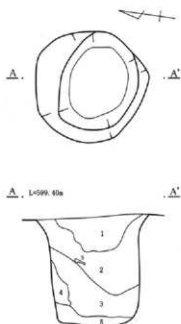
IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

81区27,36号土坑



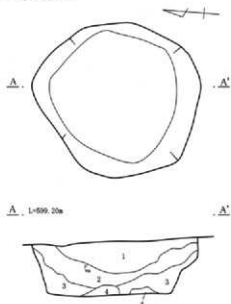
- 1 黒褐色土(10YR2/2)粒細かく混入物少ない
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック3~5%混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)YF%粒1~3%混入
- 4 褐色土(10YR4/4)しまりあり ロームブロック5~10%混入
- 5 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック5~10%混入
- 6 褐色土(10YR4/4)しまりあり

81区28号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック3~5%混入 やや砂質土
- 2 黒褐色土(10YR2/2)粒細かく混入物少ない
- 3 黒褐色土(10YR2/2)層土にロームブロック5~10%混入
- 4 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ
- 5 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック及びYF%粒の混入多い

81区29号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり YF%粒1~3%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり 混入物少ない
- 3 褐色土(10YR4/4)しまりあり
- 4 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土

第69図 81区27~29・36号土坑

1 検出された遺構と遺物

81区30号土坑



A, L=603.00m



- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)やや砂質
- 2 黒褐色土(10YR2/2)しまり欠くボンボンとした土質
- 3 黒褐色土(10YR3/2)2層土に類似
- 4 黒褐色土(10YR2/2)Yp&粒少量混入
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)ロームブロック及びYp&粒の混入多い



30土-1



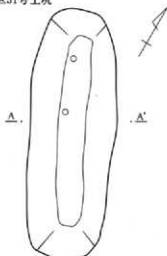
30土-2



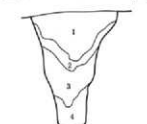
30土-3



81区31号土坑

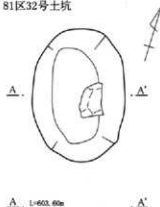


A, L=603.70m



- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム質の強い砂質土
- 2 黒褐色土(10YR 3/2)しまり欠くボンボンとした土質
ロームブロック8~10%混入
- 3 褐色土(10YR4/4)暗褐色土ブロック混入
- 4 褐色土(7.5YR4/6)ローム質土 鉄分の沈着あり

81区32号土坑



A, L=603.60m



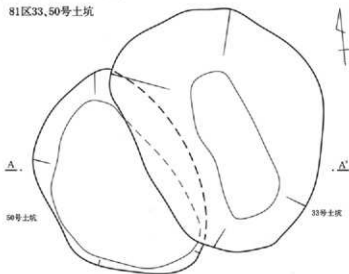
- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム質の強い砂質土
- 2 褐色土(10YR4/4)1層土と3層土の混入
- 3 黒褐色土(10YR3/2)しまり欠くボンボンとした土質
- 4 褐色土(10YR4/4)2層土にロームブロックの混入多い



第70図 81区30~32号土坑

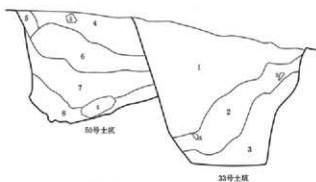
IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

81区33,50号土坑



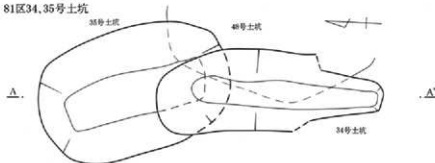
△, L=604.10m

△



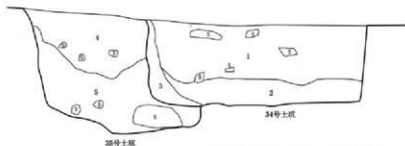
- 1 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土
- 2 褐色土(10YR4/4)ロームブロック10~15%混入
- 3 黒褐色土(10YR3/2)粒細かく混入物少ない
- 4 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土
- 5 褐色土(10YR4/4)ロームブロック15~20%混入
- 6 黄褐色土(10YR5/6)褐色土ブロック混入
- 7 褐色土(10YR4/4)ボサボサとした土質 ロームブロック8~10%混入
- 8 暗褐色土(10YR3/4)7層土よりしまりあり YPK粒1~3%混入

81区34,35号土坑



△, L=604.00m

△



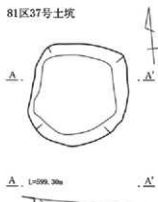
- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3)しまりやや欠く 亜角礫の混入多い
- 2 黒褐色土(10YR3/2)褐色土ブロック混入
- 3 褐色土(10YR4/4)34号土坑の壁の立ち上がり部相当
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3)しまりやや欠く 炭化物の混入やや多い
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)ややボサボサとした土質 底面付近にYPK粒の混入やや多い

0 1:40 1m

第71図 81区33~35・50号土坑

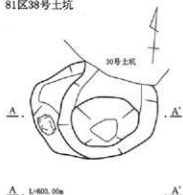
1 検出された遺構と遺物

81区37号土坑



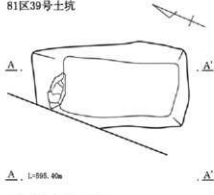
- 1 黒褐色土(10YR2/2)Yk粒1~3%混入
2 黒褐色土(10YR3/2)Yk粒1~3%混入

81区38号土坑



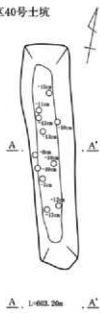
- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり Yk粒3~5%混入
2 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック10~20%混入
3 黒褐色土(10YR3/2)混入物少ない
4 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土

81区39号土坑



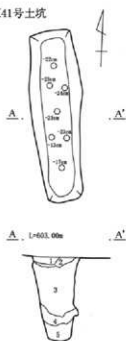
- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまり欠きボサボサとした土質
2 黒褐色土(10YR2/2)ややしまり欠く ロームブロック5%混入
3 灰黄褐色土(10YR4/2)ややしまりありローム質土

81区40号土坑



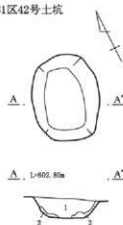
- 1 暗褐色土(10YR3/3)しまり欠きボサボサとした土質
2 暗褐色土(10YR3/3)1層土にロームブロック5~10%混入
3 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム質土

81区41号土坑



- 1 黒褐色土(2.5Y3/2)青灰色の柏川テフラ混入
2 暗褐色土(10YR3/3)青灰色の柏川テフラ混入
3 暗褐色土(10YR3/3)しまり欠く ロームブロック3~5%混入
4 黒褐色土(10YR2/2)しまり欠くボサボサとした土質混入物少ない
5 暗褐色土(10YR3/3)3層土に類似 ロームブロックの混入やや多い

81区42号土坑



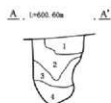
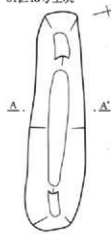
- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり Yk粒1~3%混入
2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム質土

第72図 81区37~42号土坑

0 1:40 1m

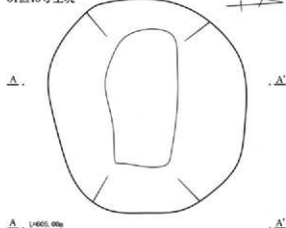
IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

81区43号土坑

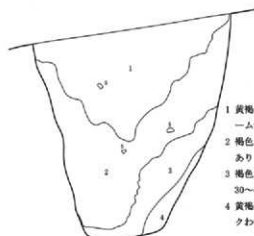


- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまりやや欠く 黒色土とローム質土の混土
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1層土に類似 ローム質土の比率高い
- 3 褐色土(10YR4/4)しまり欠く
- 4 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック及びYPK粒の混入多い

81区46号土坑



A, L=605.00m

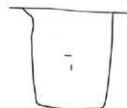


- 1 黄褐色土(10YR5/6)やや砂質 ローム質土
- 2 褐色土(7.5YR4/4)1層土より粘性あり 炭化粒少量混入
- 3 褐色土(7.5YR4/4)ロームブロック30~40%混入 土坑壁の崩れ
- 4 黄褐色土(10YR5/6)黒色土ブロックわずかに混入 土坑壁の崩れ

81区44号土坑

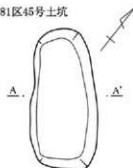


A, L=599.60m



- 1 黒褐色土(2.5Y3/2)ややしまりある砂質土 大粒YPK粒3~5%混入 下層部ほど黒味増しYPK粒はより大粒となる

81区45号土坑

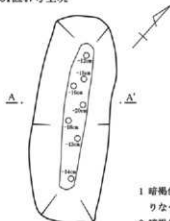


A, L=596.60m



- 1 ぶい黄褐色土(10YR4/3)黒色土ブロック5~7%混入
- 2 ぶい黄褐色土(10YR4/3)黒色土ブロック10~20%混入
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック3~5%混入

81区47号土坑



A, L=601.90m



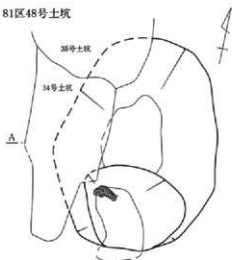
- 1 暗褐色土(10YR3/3)しまりなく砂質 現積作土か
- 2 暗褐色土(10YR3/3)黒色土及びローム質土が小ブロック状に混入
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック5~10%混入
- 4 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック20~30%混入
- 5 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土
- 6 暗褐色土(10YR3/4)ローム質土と黒色土の混土

0 1:40 1m

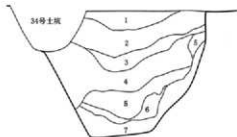
第73図 81区43~47号土坑

1 検出された遺構と遺物

81区48号土坑

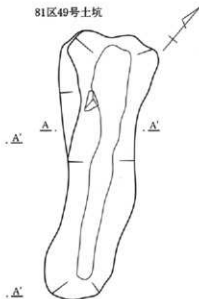


A, L=602.40m



- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり YP&粒1%混入
- 2 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり YP&粒2~3%混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)しまりあり 混入物少ない
- 4 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり 混入物少ない
- 5 暗褐色土(10YR3/4)しまりあり 4層土にロームブロック10%混入
- 6 黄褐色土(10YR5/6)しまりあり ローム質土 暗褐色土ブロック 20~30%混入
- 7 黄褐色土(10YR5/6)しまりあり ローム質土 土坑壁の崩れ

81区49号土坑

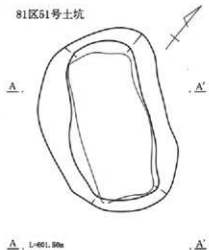


A, L=602.30m



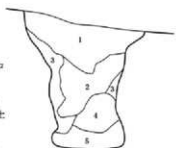
- 1 暗褐色土(10YR3/3)しまり欠きボサボサとした土質
- 2 黒褐色土(10YR2/2)粒細か4い 混入物少ない
- 3 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック 5~10%混入

81区51号土坑

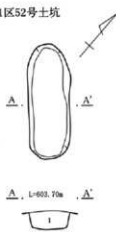


A, L=601.90m

- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまり欠く ロームブロック10%混入
- 2 暗褐色土(10YR3/4)ロームブロック6%混入
- 3 褐色土(10YR4/4)ローム質土と黒色土の混土
- 4 暗褐色土(10YR3/3)混入物少ない
- 5 暗褐色土(10YR3/3)4層土にYP&粒少量混入



81区52号土坑



A, L=603.70m



- 1 暗褐色土(10YR3/4)YP&粒1%混入

81区53号土坑



A, L=602.00m



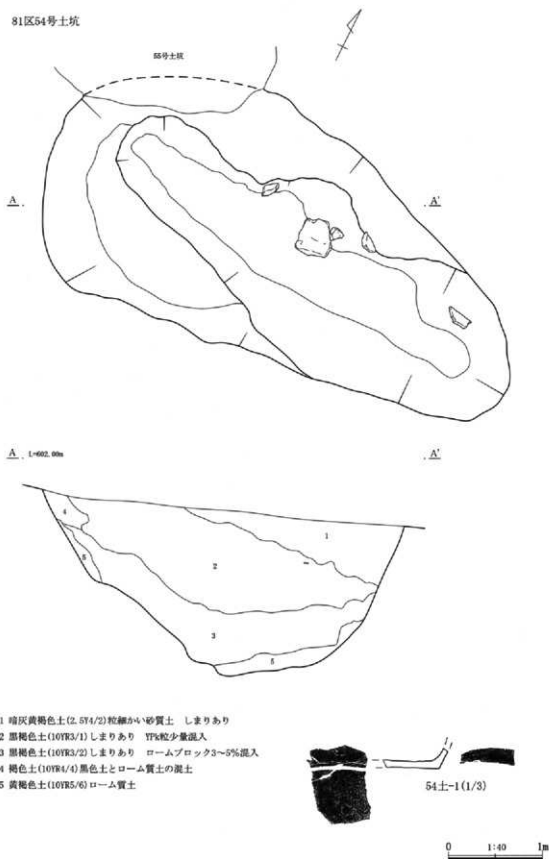
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)黒色土ブロック及びロームブロック混入
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)しまりあり ロームブロック5~10%混入
- 3 褐色土(10YR4/4)YP&粒及びロームブロック混入 土坑壁の崩れ

0 1:40 1m

第74図 81区48・49・51~53号土坑

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

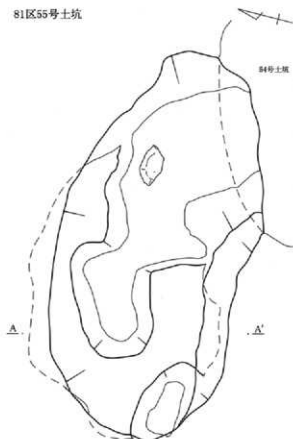
81区54号土坑



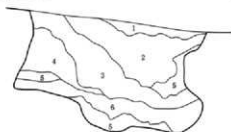
第75図 81区54号土坑

1 検出された遺構と遺物

81区55号土坑



A. L=402.20m A'



- 1 黒褐色土(10YR3/2)現耕作土
- 2 褐色土(7.5YR4/3)しまりあり 大粒Yp&粒1~3%混入
- 3 褐色土(7.5YR4/3)しまりあり Yp&粒の粒径2層土より小さい
- 4 暗褐色土(10YR3/3)しまりあり やや粘性あり Yp&粒1%混入
- 5 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)ローム粒と褐色土の混土 土坑壁の崩れ
- 6 暗褐色土(10YR3/3)4層土に類似 ロームブロックの混入やや多い

81区56号土坑

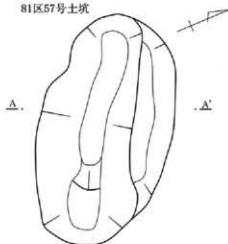


A. L=403.50m A'

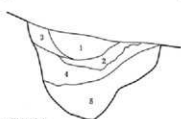


- 1 黒褐色土(10YR3/2)粘川テフラをブロック状に混入
- 2 暗青灰色土(10B6/1)粘川テフラブロック 純層ではなく耕作あるいは崩落等により攪拌されている
- 3 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロック3~5%混入 しまりなし粘性なし 粘礫か4
- 4 黒褐色土(10YR3/2)3層土に類似 ロームブロック30~40%混入
- 5 黒褐色土(10YR3/2)3層土に類似 ローム質土の崩れ込みほとんどない

81区57号土坑



A. L=597.20m A'



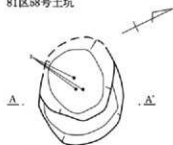
- 1 黒褐色土(10YR3/2)粒細かい微粘性土
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)1層土と粘川テフラの混土 粘川テフラはブロック状に混入
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)2層土に類似 粘川テフラの混入やや少ない
- 4 黒褐色土(10YR2/2)粒細かくボサボサとした土質 混入物少ない
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)Yp&粒1~3%混入

0 1:40 1m

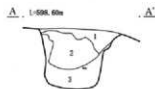
第76図 81区55~57号土坑

IV 三平II遺跡 (71・81・90区)

81区58号土坑



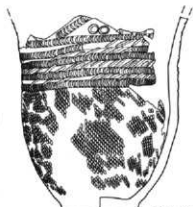
- 1 暗褐色土(10YR3/3)微粘性土 礫礫h式土器出土
- 2 黒褐色土(10YR3/2)Y%粒及び炭化物少量混入
- 3 黒褐色土(10YR3/2)2層土にY%粒及びロームブロック混入



58土-1(1/3)

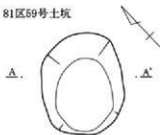


58土-2(1/3)



58土-3(1/4)

81区59号土坑

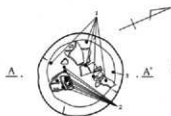


- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)やや粗粒の黄褐色粘性土と黒色土の混入 しまり強い 大粒Y%粒3~5%混入
- 2 黒褐色土(10YR3/2)粘性あり Y%粒1~3%混入
- 3 黒褐色土(10YR3/2)2層土にロームブロック混入

0 1:40 1m

第77図 81区58・59号土坑

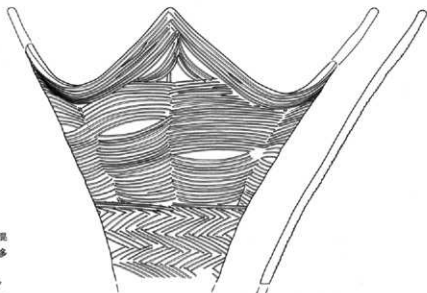
81区60号土坑



△. L-599.20m △.



- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)Y%粒やや多量に混入
しまりを欠く 炭化物の混入やや多い 人為的埋戻し土
- 2 黒褐色土(10YR3/2)やや粗粒でボンボン
した土質 ややしまり欠く Y%粒の混入
1層土より少ない 人為的埋戻し土



60土-1(1/4)

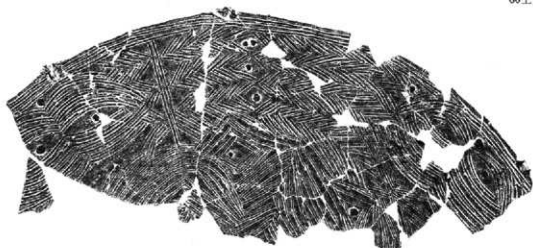
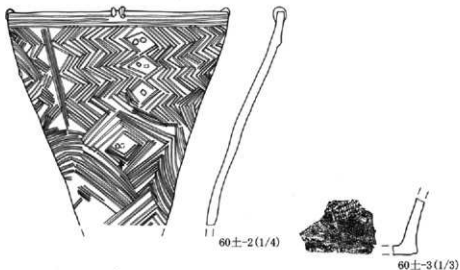


0 1:40 1m

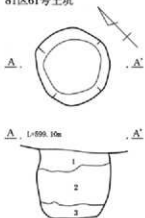
第78図 81区60号土坑(1)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

81区60号土坑

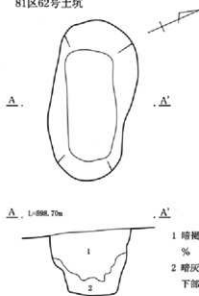


81区61号土坑



- 1 にふい黄褐色土(10YR5/4)やや砂質 ローム質土と暗褐色土の混入
2 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり ロームブロック3~5%混入
3 黒褐色土(10YR3/2)2層土よりロームブロックの混入多い

81区62号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック3~5% YP%粒1~3% 炭化物少量混入
2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)YP%主体の土質 下部に黒色土の混入あり

0 1:40 1m

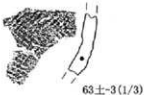
第79図 81区60号土坑(2)、61・62号土坑

1 検出された遺構と遺物

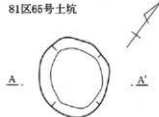
81区63号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/2)やや粘性あり 褐色土ブロック混入
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1層土にY%粒の混入やや多い
- 3 黒褐色土(10YR3/2)Y%粒3~5%混入

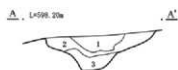
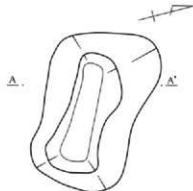


81区65号土坑



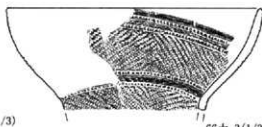
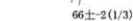
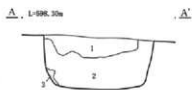
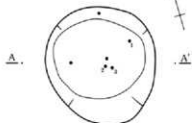
- 1 暗褐色土(10YR3/3)褐色味を帯びた粘性土が小ブロック状に混入 Y%粒1~3%混入

81区64号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック5~10%混入
- 2 黄褐色土(2.5Y5/6)ローム質土褐色土ブロック混入
- 3 黒褐色土(10YR3/2)混入物少ない

81区66号土坑



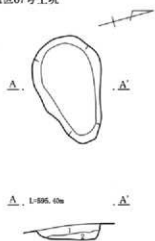
- 1 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質 褐色土ブロック少量混入 Y%粒及び炭化物や多く混入 人為的埋戻し土
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム質土に褐色土ブロック5~10%混入 炭化物1層土より少ない 人為的埋戻し土
- 3 褐色土(10YR4/4)くすんだローム質土

0 1:40 1m

第80図 81区63~66号土坑

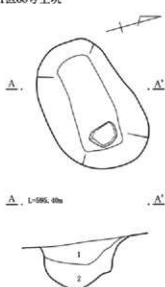
IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

81区67号土坑



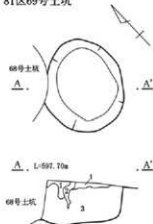
- 1 暗褐色土(10YR3/3)やや粘性のある黒色土中にロームブロック10~15%混入
2 褐色土(10YR4/4)ローム質土 黒色土ブロック10~20%混入 炭化物及び焼土が層状に混入する部分あり

81区68号土坑



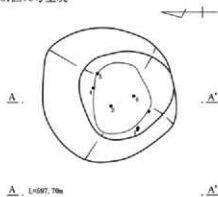
- 1 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質
2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)YpK主体 黒色土ブロック及びロームブロック混入

81区69号土坑

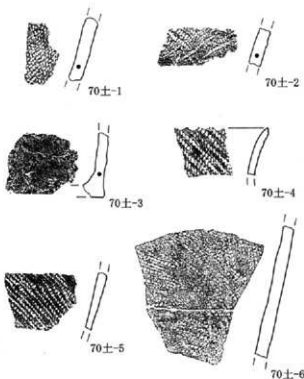


- 1 黒褐色土(10YR2/2)YpK粒1~3% ロームブロック3~5%混入
2 暗褐色土(10YR3/3)塊の侵入か
3 灰黄褐色土(10YR4/2)大粒YpK粒5~7% ロームブロック10~15% 黒色土ブロック20~30%混入 人為的埋戻し土

81区70号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質
2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)暗褐色土とローム質土の混入
3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)2層土よりローム質土の混入多い
4 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック5~10%混入

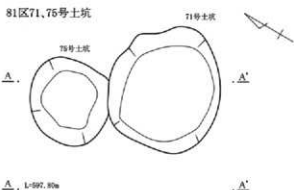


0 1:40 1m

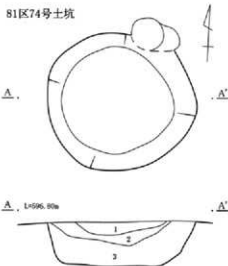
0 1:3 10cm

第81図 81区67~70号土坑

1 検出された遺構と遺物



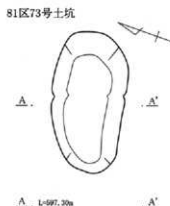
- 1 黒褐色土(10YR3/2)褐色土主体 ロームブロック及び黒色土ブロック混入 人為的埋戻し土
- 2 黒褐色土(10YR2/2)攪乱 しまりなし
- 3 暗褐色土(10YR3/3)黒色土とローム質土の混入 YPK粒3~5%混入



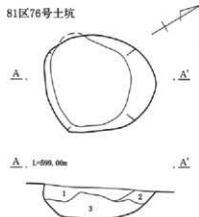
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム質土 黒色土ブロック20~30%混入 YPK粒1~3%混入 人為的埋戻し土
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)1層土に類似 黒色土ブロックの混入少ない
- 3 暗褐色土(10YR3/3)粒粗い YPK粒及び炭化物の混入やや多い 人為的埋戻し土



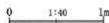
- 1 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒1~3%混入



- 1 暗褐色土(10YR3/3)YPK粒の混入やや多い



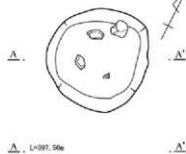
- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまりやや欠く 褐色土の混入多い ロームブロック不均等に3~5%混入 人為的埋戻し土
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)褐色土主体 ロームブロック5~10%混入 人為的埋戻し土
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)2層土に類似 ロームブロックの混入多い



第82図 81区71~76号土坑

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

90区1号土坑



- 1 黒褐色土(2.5Y3/2)Yp%粒1~3%混入
ロームの混入ほとんどない

90区2号土坑



- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)Yp%粒20~30%混入
人為的埋戻し土

90区3号土坑

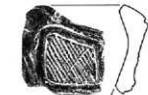


- 1 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック3~5%混入 Yp%面まで掘り込んでいるが Yp%粒の混入ほとんどない

90区4号土坑



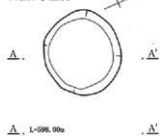
△ L=0.98.50m



4土-1(1/3)

- 1 暗褐色土(10YR3/3)塊餅作土
- 2 黒褐色土(10YR3/2)黒色土と褐色土の混土 Yp%粒1~3%混入
- 3 暗灰黄色土(2.5Y4/2)やや砂質
- 4 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ
- 5 暗灰黄色土(2.5Y4/2)3層土にロームブロック3~5%混入

90区5号土坑



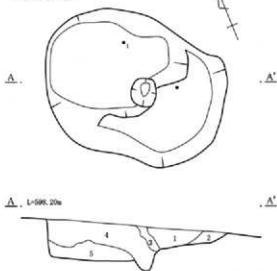
△ L=0.98.00m

- 1 暗褐色土(10YR3/3)Yp%粒1~3%混入



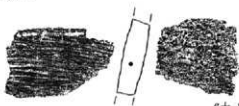
5土-1(1/3)

90区6号土坑



△ L=0.98.20m

- 1 黒褐色土(10YR2/2)Yp%粒1%混入
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム質土と1層土の混土
- 3 黒褐色土(10YR2/2)1層土に類似 Yp%粒の混入多い
- 4 黒褐色土(10YR2/2)大粒のYp%粒5~7%混入 人為的埋戻し土
- 5 にぶい黄褐色土(10YR4/3)3層土にロームブロック混入 人為的埋戻し土



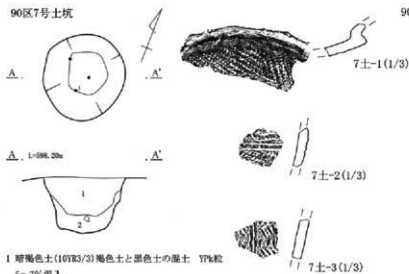
6土-1(1/2)

0 1:40 1m

第83図 90区1~6号土坑

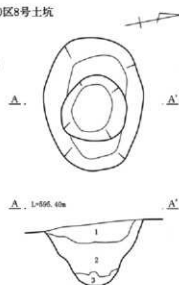
1 検出された遺構と遺物

90区7号土坑



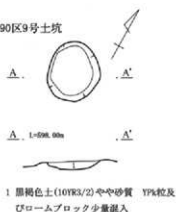
- 1 暗褐色土(10YR3/3)褐色土と黒色土の混土 YPK粒
5~7%混入
2 灰黄褐色土(10YR4/2)層土にロームブロック5~
10%混入

90区8号土坑



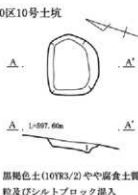
- 1 暗褐色土(10YR3/3)ややしまり欠くロームブロック3
~5%混入
2 黄褐色土(2.5Y5/4)くすんだYPK粒主体
3 黄褐色土(2.5Y5/4)2層土に類似 黒色土の混入あり

90区9号土坑



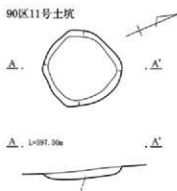
- 1 黒褐色土(10YR3/2)やや砂質 YPK粒及
びロームブロック少量混入

90区10号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/2)やや腐食土質 YPK
粒及びシルトブロック混入

90区11号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/2)灰色味を帯びる固粘性土に黒
色土ブロック及びロームブロックの混入やや多い

90区12号土坑



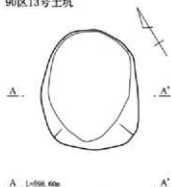
- 1 黒褐色土(10YR2/2)黒色土と灰色味
を帯びた土(農耕作土?)の混土 YPK
粒1~3%混入

0 1:40 1m

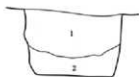
第84図 90区7~12号土坑

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

90区13号土坑



△ L=598.60m



- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック5~10%混入
しまりやや欠く
2 黒褐色土(10YR3/2)黒色土とYpK粒の混土

90区14号土坑

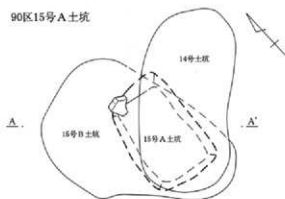


△ L=598.70m



- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)褐色味帯びた弱粘性土 ロームブロック5
~7%混入 YpK粒及び炭化物混入
2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)多量のYpK粒とロームブロックの混土
3 灰黄褐色土(10YR4/2)1層土に類似 ロームブロックの混入多い

90区15号A土坑

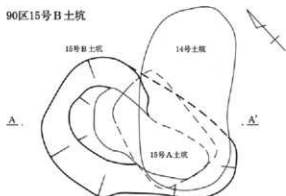


△ L=598.70m



- 1 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック1~3%混入

90区15号B土坑



△ L=598.70m



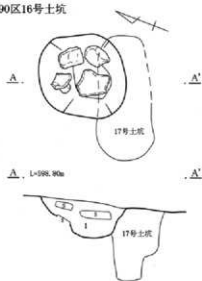
- 1 暗褐色土(10YR3/4)ロームブロック3~5%混入
2 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック5~7%混入
3 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロックの混入少ない
4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ややしまりあり
5 暗褐色土(10YR3/3)YpK粒多量に混入

0 1:40 1m

第85図 90区13~15号土坑

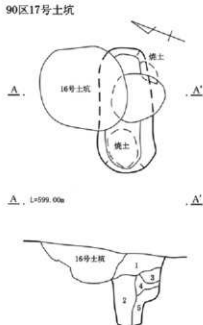
1 検出された遺構と遺物

90区16号土坑



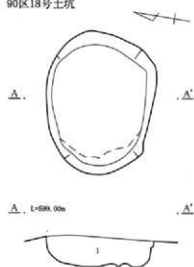
- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまりやや欠く YPk粒の混入やや多い

90区17号土坑



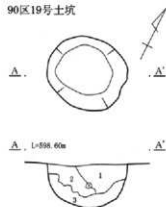
- 1 黒褐色土(10YR3/2)ややしまり欠く砂質土
2 黒褐色土(10YR3/2)しまり欠く ロームブロック少量混入
3 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土
4 灰黄褐色土(10YR4/2)しまりあり ローム質土とYPk粒の混入
5 灰黄褐色土(10YR4/2)4層土に類似 しまり欠く

90区18号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3)粒細かい弱粘性土 YPk粒3~5% ロームブロック3~5%混入

90区19号土坑



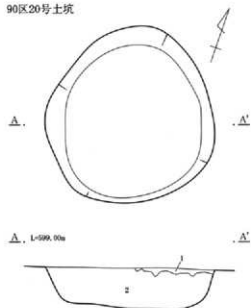
- 1 ぶい、黄褐色土(10YR4/3)褐色土とローム質土の混入 YPk粒3~5%混入
2 黒褐色土(10YR3/2)しまり欠く粘性土
3 黒褐色土(10YR3/2)2層土にロームブロック及びYPk粒混入

0 1:40 1m

第86図 90区16~19号土坑

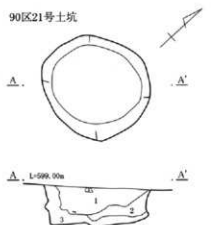
IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

90区20号土坑



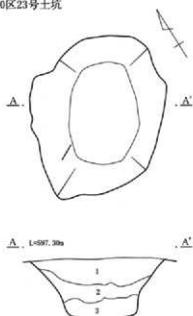
- 1 黒褐色土(10YR2/2)黒色土と現耕作土の混土
 2 暗褐色土(10YR3/3)YFk粒3~5% ロームブロック3~5%混入
 3 暗褐色土(10YR3/2)1層土にロームブロック5~7%混入

90区21号土坑



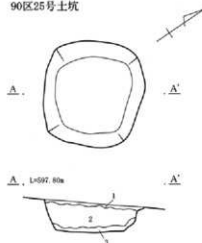
- 1 黒褐色土(10YR3/2)やや砂質 混入物少ない
 2 黒褐色土(10YR3/2)1層土にロームブロック3~5%混入
 3 黒褐色土(10YR3/2)1層土にロームブロック5~7%混入

90区23号土坑



- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)弱粘性土に多量のYFk粒混入
 ロームブロック及び黒色土ブロックも不均等に混入
 人為的埋戻し土
 2 黒褐色土(10YR3/2)黒色土中に比較的大きなロームブ
 ロック混入 YFk粒も不均等に混入 人為的埋戻し土
 3 暗灰黄色土(2.5Y4/2)1層土に黒色土ブロック混入

90区25号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3)現耕作土
 2 灰黄褐色土(10YR4/2)褐色味を帯びる粘性土中に不揃
 いのロームブロック20~30%混入 人為的埋戻し土
 3 暗褐色土(10YR3/3)黒色土中にロームブロック及びYFk
 粒少量混入 人為的埋戻し土

0 1:40 1m

第87図 90区20・21・23・25号土坑

1 検出された遺構と遺物

90区26号土坑

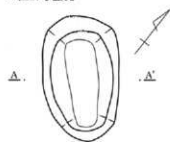


△, L=598.00m △'

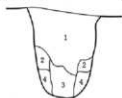


- 1 暗褐色土(10YR3/3)ややしまりある弱粘性土 ロームブロック3~5%混入
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロックの混入やや多い

90区27号土坑

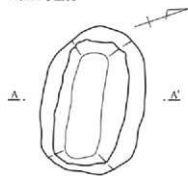


△, L=598.10m △'



- 1 黒褐色土(10YR2/2)しまり欠くやや粘性あり
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム質土と黒色土の混入
- 3 黒褐色土(10YR2/2)1層土に類似ロームブロック及びYp%粒混入
- 4 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土土坑壁の崩れ

90区29号土坑

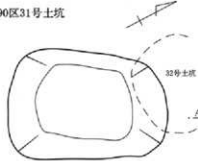


△, L=598.50m △'



- 1 黒褐色土(10YR2/2)粒細かい黒色土と褐色粘性土の混入
- 2 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れか
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)黒色土中に壁からのロームの崩れ混入
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)3層土にYp%粒混入
- 5 褐色土(10YR4/6)多量のYp%粒混入

90区31号土坑

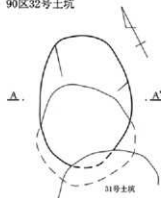


△, L=597.60m △'

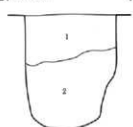


- 1 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック7~10%混入 人為的埋戻し土
- 2 暗褐色土(10YR3/3)鬼斬作土

90区32号土坑



△, L=597.40m △'



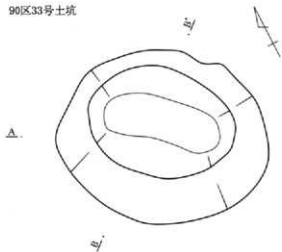
- 1 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック7~10%混入 人為的埋戻し土
- 2 暗褐色土(10YR3/3)1層土にYp%粒多量に混入

0 1:40 1m

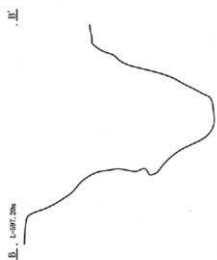
第88図 90区26・27・29・31・32号土坑

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

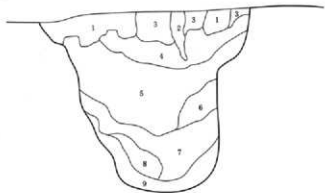
90区33号土坑



A. L=897.20m

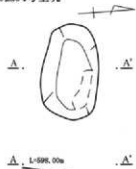


B. L=897.20m



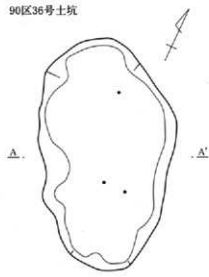
- 1 暗褐色土(10YR3/3)現耕作土
- 2 暗褐色土(10YR3/3)根の侵入か
- 3 黒褐色土(10YR2/2)Y%粒わずかに混入
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム質土 褐色土ブロック20~30%混入
- 5 黒褐色土(10YR3/2)粒細かい微結性土 混入物少ない
- 6 黒褐色土(10YR3/2)5層土に褐色土ブロックの混入あり
- 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3)黒色土中に多量のロームブロック不均等に混入 しまりやや欠く
- 8 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ
- 9 黄褐色土(10YR5/6)8層土にY%粒の混入あり

90区34号土坑



A. L=898.00m

90区36号土坑



A. L=898.60m

- 1 暗褐色土(10YR3/3)弱結性土 上層に亀川テフラがブロック状に混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)混入物少ない

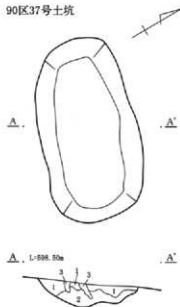
- 1 暗褐色土(10YR3/3)砂質土 現耕作土
- 2 黒褐色土(10YR3/2)黒色土と褐色土の混土 ロームブロック1~3%混入 ややしまりあり
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)黒色土混じりのローム質土



第89図 90区33・34・36号土坑

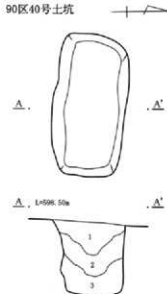
1 検出された遺構と遺物

90区37号土坑



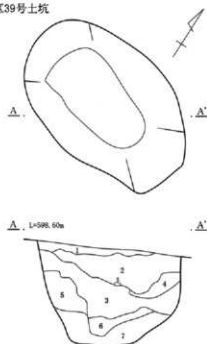
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)弱粘性土 黒色土ブロック10~20%混入
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム質土と褐色土の混入

90区40号土坑



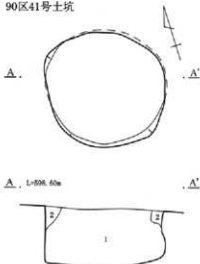
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)中央付近を中心にYp%粒がやや多量に混入
- 2 黒褐色土(10YR3/2)粒細かい弱粘性土 炭化物散見
- 3 黒褐色土(10YR3/2)2層土にYp%粒及びロームブロックの混入あり

90区39号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3)塊耕作土
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック5~10%混入 炭化物及び焼土粒散見
- 3 黒褐色土(10YR3/2)2層土に類似 ロームブロックの混入少ない
- 4 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)ローム質土 土坑壁の崩れ
- 5 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)ローム質土 褐色土の混入あり
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2)くすんだYp%粒主体 黒色土ブロック混入
- 7 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 土坑壁の崩れ

90区41号土坑



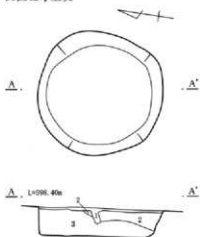
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)弱粘性の褐色土中に不揃いのロームブロック多量に混入 下半部は一部で黒色土が腐状に堆積 人為的埋戻し土
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)ロームブロック少量混入

0 1:40 1m

第90図 90区37・39~41号土坑

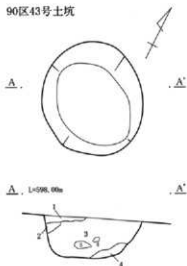
Ⅳ 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

90区42号土坑



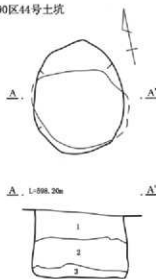
- 1 暗褐色土(10TR3/3)現耕作土
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)弱粘性の褐色土中に不揃いのロームブロック多量に混入 人為的埋戻し土
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)2層土に類似 ロームブロックの塊径がより大きくなる

90区43号土坑



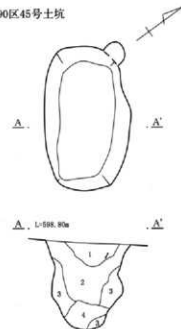
- 1 暗褐色土(10TR3/3)現耕作土
- 2 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土
- 3 黒褐色土(10YR3/2)黒色土中に不揃いのロームブロック10~15%混入 人為的埋戻し土
- 4 黒褐色土(10YR3/2)3層土に類似 ロームブロックの混入少ない

90区44号土坑



- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)塊径のやや大きいロームブロック7~10%混入 人為的埋戻し土
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)1層土より種の小さいロームブロック5~7%混入 人為的埋戻し土
- 3 褐色土(10YR4/4)混入物比較的小さい 人為的埋戻し土

90区45号土坑

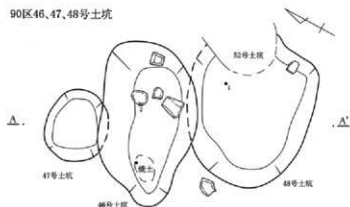


- 1 黒褐色土(10YR3/2)やや砂質 1%粒3~5%混入
- 2 黒褐色土(10YR2/2)粒細かい 混入物少ない
- 3 黒褐色土(10YR2/2)2層土に土坑壁の崩れによるロームブロック5~10%混入
- 4 黒褐色土(10YR2/2)2層土に類似 やや粘性あり

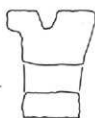
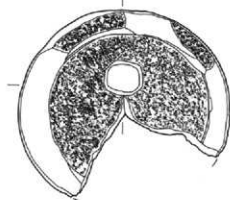
0 1:40 1m

第91図 90区42~45号土坑

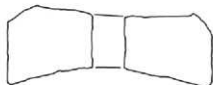
90区46、47、48号土坑



△、L=500.50m



46土-2(1/6)



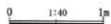
47土-1(1/3)



48土-1(1/2)

1 検出された遺構と遺物

- 1 黒褐色土(10YR3/2)粒細かい凝粘性土 粘土粒及び炭化物粒散見 人為的堆積し土
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1層土に類似 YP&粒の混入あり
- 3 黒褐色土(10YR3/2)しまりやや欠く ビットの痕跡あり
- 4 暗灰黄色土(2.5Y4/2)褐色土中にくすんだYP&粒多量に混入
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)1層土に類似 塊径の大きなロームブロック及びYP&粒不均等に混入



46土-1(1/3)

第92図 90区46~48号土坑

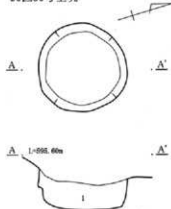
IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

90区49号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質 YP&粒及びローム粒少量混入
- 2 暗褐色土(10YR3/2)粒細かいうね粘性土 混入物少ない
- 3 黄褐色土(10YR5/6)ローム質土 黒色土ブロック混入土坑壁の崩れ
- 4 褐色土(10YR4/4)くすんだYP&粒主体

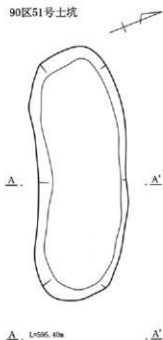
90区50号土坑



- 1 黒褐色土(2.5Y3/2)ややしまり欠く YP&粒及び炭化粒が不均等に混入

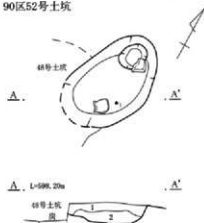


90区51号土坑

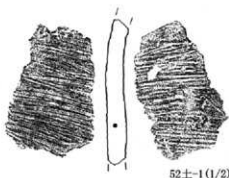


- 1 黒褐色土(10YR3/2)ややしまり欠く ロームブロック1~3%混入

90区52号土坑



- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック20~30%混入
- 2 黒褐色土(10YR3/2)YP&純層の直上にもかかわらずYP&粒混入しない



0 1:40 1m

第93図 90区49~52号土坑

1 検出された遺構と遺物

表5 三平Ⅱ遺跡土坑一覧表(1)

区	番号	位置	時期	平面形状		規模(m)	掘削		調査施設	遺構関係	出土遺物	備考	
				上層形状	下層形状		長さ	幅					方法
71	C25	平安時代前期	円形	円形	1.4	1.4	1.0				漆	埋没土層より検出された土	
	G7	平安時代前期	長方形	長方形	1.7	1.4	0.7				土器類		
	D7	古代	埋没形	長方形	1.6	1.4	1.6	掘削2層	○		銅土、銅1、銅2	完全	
	C6	古代	長方形	長方形	1.6	1.7	1.6	掘削1層	×		漆土、漆6、漆5、漆1、漆1、漆2	下部層	
	F9	鎌倉式瓦	不定形	円形	1.0	0.8	0.4				漆土、漆10、漆11、漆5、漆7	埋没のみ	
	H9	埋没形	長方形	長方形	1.5	0.7	0.4	掘削1層	×		漆土、漆1	埋没のみ	
	K12	平安時代前期	不定形	長方形	1.6	0.8	0.5						
	L12	平安時代前期	長方形	長方形	2.0	0.8	0.4						
	R7	縄文	円形	円形	1.3	1.1	0.5						土器の土坑の遺構*
	D8	古代	円形	円形	1.7	1.6	1.2	掘削	○		漆土、漆1、漆2、漆3、漆5、漆14	完全	
	B8	早期鎌倉式瓦	不定形	不定形	1.3	1.1	0.5				漆土、漆5	埋没のみ	
	E10	古代	不定形	不定形	1.6	0.9	1.1	掘削1層	×		漆土、漆1、漆2、漆5、漆7	下部層	
	E8	鎌倉式瓦	円形	円形	1.0	1.1	0.5				漆土、漆1、漆2	埋没のみ	
	G8	鎌倉式瓦	円形	円形	1.5	1.4	0.7				漆土、漆1、漆2、漆3、漆4、漆5、漆6、漆7、漆8、漆9、漆10、漆11、漆12、漆13、漆14、漆15、漆16、漆17	完全	
	K13	平安時代前期	長方形	長方形	1.6	0.8	0.6						
	L12	平安時代前期	円形	円形	1.0	0.9	0.6						
	B7	縄文	円形	円形	0.7	0.7	0.6						ローン・YPKの埋没しあり
	L17	縄文	長方形	長方形	2.0	0.5	0.8						
	E8	縄文	円形	円形	0.8	0.8	0.3						下部層
	L12	古代	長方形	長方形	2.5	0.5	0.7	掘削	×				下部層
	K14	古代	埋没形	不定形	2.2	1.6	1.8	掘削1層	○			漆土、漆4	埋没土層
	E9	平安時代前期	円形	円形	1.1	0.9	0.4						
	A10	平安時代前期	円形	円形	0.8	0.8	0.6						
	B8	鎌倉式瓦	不定形	不定形	1.0	1.0	0.5					漆土、漆1、漆2、漆3	土器の土坑の遺構*
	C8	鎌倉式瓦	円形	円形	1.2	1.0	0.4						
	B9	岡山式瓦	円形	円形	1.7	1.7	0.9					漆土、漆1、漆2、漆3、漆4、漆5、漆6、漆7、漆8、漆9、漆10、漆11、漆12、漆13、漆14、漆15、漆16、漆17、漆18、漆19、漆20、漆21、漆22、漆23、漆24、漆25、漆26、漆27、漆28、漆29、漆30、漆31、漆32、漆33、漆34、漆35、漆36、漆37、漆38、漆39、漆40、漆41、漆42、漆43、漆44、漆45、漆46、漆47、漆48、漆49、漆50、漆51、漆52、漆53、漆54、漆55、漆56、漆57、漆58、漆59、漆60、漆61、漆62、漆63、漆64、漆65、漆66、漆67、漆68、漆69、漆70、漆71、漆72、漆73、漆74、漆75、漆76、漆77、漆78、漆79、漆80、漆81、漆82、漆83、漆84、漆85、漆86、漆87、漆88、漆89、漆90、漆91、漆92、漆93、漆94、漆95、漆96、漆97、漆98、漆99、漆100	埋没土層
	C9	平安時代前期	円形	円形	1.2	1.2	0.8						埋没土層に埋土あり
	D10	鎌倉式瓦	円形	円形	1.2	1.4	0.6						
	D10	古代	円形	円形	1.2	1.1	1.4	掘削	×				埋没土層に埋土あり
	D10	埋没土層	円形	円形	1.6	2.3	0.8						
	N12	十二世紀式瓦	不定形	不定形	1.9	0.9	1.4						81区38号土坑に切られる
	N18	古代	長方形	長方形	2.6	0.9	1.4	掘削	○				埋没土層に切られる
	N18	古代	埋没形	不定形	1.4	0.9	1.1	掘削1層	○				埋没土層に切られる
	N18	古代	埋没形	不定形	1.4	0.9	1.1	掘削1層	○				埋没土層に切られる
	N19	古代	埋没形	長方形	2.6	1.6	2.0	掘削2層	○				埋没土層に切られる
	O18	古代	埋没形	長方形	1.9	1.3	1.6	掘削2層	○				埋没土層に切られる
	D5	十二世紀式瓦	円形	円形	1.2	0.5	0.6						81区29号土坑を切る
	D10	縄文	円形	円形	1.1	1.0	0.4						埋没
	N18	古代	不定形	不定形	1.5	1.0	0.5						81区29号土坑を切る
	D17	古代	長方形	長方形	1.2	0.5	0.9	掘削1層	×				埋没のみ
	D17	古代	長方形	長方形	2.4	0.5	0.9	掘削	×			漆土、漆1	埋没土層
	N17	古代	長方形	長方形	1.8	0.5	1.1	掘削	×			漆土、漆1	埋没土層
	N16	縄文	円形	円形	0.9	0.7	0.4						埋没のみ
	D9	古代	長方形	長方形	2.3	0.6	0.9	掘削	×				埋没土層
	D6	平安時代前期	円形	円形	1.2	1.0	1.2						埋没土層より検出された土
	N18	古代	不定形	長方形	1.5	0.6	1.0	掘削1層	○				下部層
	D20	古代	埋没形	長方形	2.3	2.0	1.6	掘削1層	○				埋没土層
L12	古代	長方形	長方形	2.2	0.9	1.4	掘削	×				埋没土層	
O18	古代	埋没形	長方形	2.2	1.7	1.4	掘削2層	○				81区29号土坑に切られる	
M16	古代	不定形	長方形	2.8	0.7	1.8	掘削	×				埋没のみ	
N19	古代	埋没形	不定形	2.8	1.1	1.5	掘削1層	○				81区33号土坑に切られる	
L14	埋没形	長方形	長方形	1.9	1.1	1.5	掘削1層	○				埋没のみ	
M20	古代	不定形	不定形	1.2	0.4	0.5	掘削1層	×				埋没のみ	
K14	平安時代前期	長方形	長方形	1.5	0.8	0.9							
K16	中世以降	不定形	不定形	5.5	2.4	2.3						81区30号土坑を切る	
L16	中世以降	不定形	不定形	4.1	2.0	1.4						81区34号土坑に切られる	
P18	古代	長方形	長方形	2.0	0.7	1.4	掘削	×				埋没土層	
C13	古代	埋没形	長方形	2.6	1.4	1.9	掘削2層	○				漆土、漆5、漆6、漆7	
E12	鎌倉式瓦	円形	円形	1.1	0.9	0.7						埋没土層より検出された土	
B11	縄文	円形	円形	1.1	0.9	1.0						埋没のみ	
B6	鎌倉式瓦	円形	円形	0.9	0.9	1.1						埋没土層より検出された土	
B1	縄文	円形	円形	0.8	0.8	0.8						埋没のみ	
B4	古代	不定形	長方形	1.7	0.9	0.8	掘削1層	×				埋没のみ	
A4	鎌倉式瓦	円形	円形	1.2	1.2	0.6						下部層	
A3	不定形	長方形	長方形	2.8	1.0	0.6	掘削1層	×				埋没のみ	
B3	埋没形	円形	円形	0.8	0.8	0.3						埋没のみ	
B3	鎌倉式瓦	円形	円形	1.3	1.2	0.7						埋没のみ	
A3	平安時代前期	不定形	不定形	1.2	0.6	0.4						埋没のみ	
A2	古代	不定形	長方形	1.4	0.9	0.9	掘削1層	×				埋没のみ	
A2	平安時代前期	円形	円形	1.0	0.8	0.6						埋没のみ	
B2	鎌倉式瓦	円形	円形	1.4	1.4	0.8						埋没のみ	
D2	鎌倉式瓦	円形	円形	1.3	1.2	0.7						81区35号土坑を切る	
D1	平安時代前期	円形	円形	0.7	0.8	0.2							
A1	平安時代前期	不定形	不定形	1.8	0.8	0.5						土器の土坑の遺構	

1 検出された遺構と遺物

(8) 倒木痕

◆81区1号倒木痕

位置 81区C・D-7・8グリッド

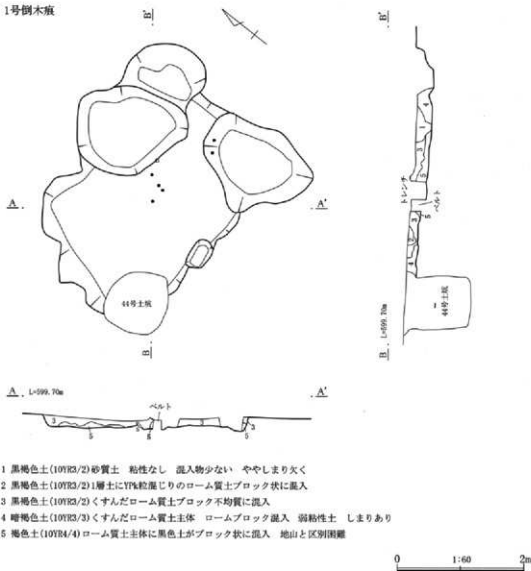
重複 81区44号土坑に切られる。

形状 最大径約5m、平面形状は不定形状を呈す。
Ⅶ層ローム層面で検出しているためか、掘り込み部は浅く、根の横転・転倒部分の下部のみが残存している状況である。従ってその転倒方向・方位は不明である。

出土遺物 土器は早期条痕文4点、花積下層式6点、関山式8点、黒浜式8点、諸磯a式4点、諸磯b式6点、阿玉台式4点、加曾利E式2点出土し、石器は石鎌B類2点、石鎌F類1点、筒状石器1点、凹み石1点、剥片72点(頁岩4点、珪質頁岩2点、黒色安山岩1点、チャート3点、黒曜石62点)が出土している。

出土遺物から、倒木痕は縄文中期加曾利E式期に帰属すると想定される。

1号倒木痕



第94図 81区1号倒木痕

2 遺構外の出土遺物

(1) 出土状況

三平Ⅱ遺跡では平成16年度に計3,754m²の発掘調査を実施し、縄文草創期から近世までの遺物を遺構外から検出している。包含層としては、V層に相当する黒色土が主体であり、三平Ⅱ遺跡と三平Ⅰ遺跡とを隔っている「イドクボ」と呼ばれる谷地へ向かう緩斜面や調査区北西隅の尾根上の緩傾斜面に0.5～1mの厚さで堆積する。ただし、各時期の遺物は層位的には出土せず、混在している状況であった。また、古代の陥し穴埋没土からの出土遺物も流れ込みと考え、遺構外遺物として扱った。出土土器はいずれも破片を主体としており、完形品や一括的な出土状況もほとんど認められなかった。

遺物の内訳を総点数で見ると、三平Ⅱ遺跡では土器11,061点、近世陶磁器片448点、剥片を含む石器5,861点、キセル3点、礫1点、古銭7点が出土している。三平Ⅰ遺跡と比較すると、総量的には土器で5.9倍、近世陶磁器で11.2倍、石器で19.7倍と圧倒している。

尚、グリッド出土の遺構外遺物の型式別・機種別の分布状況については第149～161図で示したので、併せて参照頂きたい。

(2) 出土土器

①土器の概要

出土土器の時期毎の大別では、草創期前半3点、同期後半55点、早期350点、前期2,476点、中期180点、弥生中期1点、平安153点(土師器149点、須恵器4点)、中世66点、時期不明7,777点である。時期不明を除いた総点数に占める比率は、草創期が1.8%、早期10.7%、前期75.4%、中期5.5%、平安4.6%、中世2.0%であり、前期が突出しているが、三平Ⅰ遺跡と比較すると、草創期、早期、中世の比率が上がり、逆に弥生中期と平安の比率が下がる。三平Ⅱ遺跡では、堅穴住居は検出されなかったが、遺構外の遺物量やその時期別の比率を見る限り、縄

文早期～前期の住居及び集落が遺跡内もしくは遺跡周辺に存在した可能性は高いように思える。

②土器の内容

A. 縄文草創期・早期の土器

第1群 草創期の土器を一括した(第95図1～23)。

第1類 燃糸紋土器を一括した(第95図1～23)。

a種 燃糸紋を施紋するもの(第95図1～18)

1～3は同一個体。丸頭状の口唇部で、細かい条の燃糸紋Rを縦位施紋する。4はやや肥厚する口唇部で、口縁部に比較的広めの無紋帯を形成し、燃糸紋Lを縦位施紋する。5もやや肥厚する口唇部で、燃糸紋Rを縦位施紋する。6、7は同一個体。口唇外側に若干ふくらみをもつ器形を呈し、燃糸紋Rを縦位施紋する。8は口縁部に無紋帯を形成し、その無紋帯部分が肥厚する。燃糸紋Rを縦位施紋する。9は口唇外側がやや肥厚し、条間隔の空いた燃糸紋Rを縦位施紋する。10は口縁部に広めの無紋帯をもつ。燃糸紋Lを縦位施紋する。11～18は胴部破片。11は条が細かく間隔の空いた燃糸紋Rを縦位施紋する。12も細かい条のRを縦位施紋する。13～16はR、17、18はLをそれぞれ縦位施紋する。本種は稲荷台式にもっとも近い様相を呈しているといえよう。

b種 無紋のもの(第95図19～23)

19は口唇部が丸頭状で肥厚する。20は角頭状の口唇部である。21、22は同一個体。丸頭状口唇で、器面は内外面ともによく研磨されて平滑である。23は胴部破片。他に比べてやや厚手である。本種は口唇部形態や器面調整が似ることから、a種に伴うものと考えられる。

第Ⅱ群 早期の土器を一括した(第96図24～第107図239)。

第1類 押型紋土器を一括した(第96図24～第97図65)。

a種 山形押型紋を施すもの(第96図24～34)

24～28は同一個体。山形押型紋を横位帯状施紋する。27から無紋帯に縦位刺突列が施されていること

が確認できる。29は口縁部破片。緩やかな山形押型紋を横位施紋する。30~34は胴部破片。30、31は横位、32は縦位施紋する。33は縦位、横位を組み合わせている。34は底部に近い部位で、山形押型紋が斜位、縦位とやや乱れている。

b種 楕円押型紋を施すもの(第96図35~50)

35~39は口縁部破片。35、36は口縁部に無紋帯を残して楕円押型紋を横位施紋する。37、38は同一個体。長さが4.5cmほどある原体を用いて施紋されている。39、42、43も同一個体。楕円押型紋を横位密接施紋する。40、41、44~50は胴部破片で、楕円押型紋を横位施紋する。47は部分的に斜位に施紋されている。

c種 平行押型紋を施すもの(第97図51~58)

51~54は同一個体。やや幅のある平行線の押型紋を横位施紋する。55~57も同一個体。51~54ほど幅広ではないが、平行線の押型紋を横位施紋する。58は斜位に施紋している。すべての個体の胎土に繊維の混入が認められる。

d種 2種の原体が併用されるもの(第97図59~65)

59、60は同一個体。59は角頭状口唇の口縁部破片で、口唇直下に山形紋、その下に平行線紋さらに山形紋と交互に原体を換えて横位密接施紋している。61~63も同一個体。平行線紋とその下に楕円紋を横位施紋している。61には平行線紋の上位に無紋帯があり、縦位刺突列なのか平行線紋を縦位帯状施紋しているのか判然としなが、無紋帯部の施紋が確認できる。胎土に微量ではあるが繊維を含む。64は重層山形紋に平行線と斜線を充填する押型紋と楕円押型紋を横位施紋する。65は梯子状の平行線紋と楕円押型紋を横位施紋する。

第2類 三戸式を一括した(第97図66、67)。

66、67は同一個体。横位に沈線を施す。3段の縦位刺突列が横帯区画として沈線帯に挟み込まれている。

第3類 田戸下層式を一括した(第97図68~71、第

100図140)。

68は口縁部破片。沈線を横位に施紋する。69、70は胴部破片で沈線を横位、斜位に施紋する。71は底部に近い部位で、沈線を横位に施紋する。140は底部破片であるが、肉厚な器壁は本類に近いといえよう。

第4類 田戸上層式を一括した(第97図72、73)。

72は貝殻腹線紋を斜位に充填した平行沈線を横位多段に施紋する。73は横位沈線により紋様帯を圍し、紋様帯内には幾何学状のモチーフを描く。モチーフ内に貝殻腹線紋を充填する。

第5類 中部系と思われる沈線紋土器を一括した(第98図74~第100図133、141、142)。

a種 V字状押引紋を施すもの(第98図74、75)

74はV字状押引紋を横位施紋する。75はV字状押引紋を2条横位施紋し、間に角押状の刺突を横位に施す。本種はV字状押引紋が東北地方南部の明神裏Ⅲ式に類似する。

b種 貝殻腹線紋を施すもの(第98図76)

76は緩やかに外反する胴部破片で、横位沈線間に貝殻腹線紋を斜位に押捺する。

c種 沈線あるいは刺突で区画し、区画内に短沈線を施すもの(第98図77~82)

77、78は口縁部破片で、2条の沈線を横位にめぐらせ、沈線間に短沈線を斜位に充填施紋する。77は角頭状口唇で、口唇部に斜位のきざみを付す。79~81は胴部破片で、平行沈線間に斜位の短沈線を施す。80、81は同一個体。81は曲線状モチーフが描かれる。82は口縁部破片で、口縁部に2条の刺突列をめぐらせて区画し、区画内に短沈線を斜位に施す。2段目の刺突列は若干弧を描く。その下は無紋帯を残し、さらに同様の紋様を重畳するようであるが、刺突列が弧状になっている。

d種 曲線状のモチーフを描くもの(第98図83~86)

83は斜位と弧状の沈線が施される。口唇部には斜

IV 三平II遺跡 (71・81・90区)

位のきざみが付される。84は曲線状のモチーフが描かれるが、沈線間に半載竹管による刺突が施される。85は段を有し、外反する器形を呈する。曲線状のモチーフが横位に連結する部分である。86は太沈線により曲線状モチーフを描くようである。

e種 格子目紋を施すもの (第98図87、88)

87は縦位の格子目紋、88は斜位の格子目紋を描く。

f種 沈線と刺突を施すもの (第98図89～第99図110)

本種は第5類の主体となる土器群である。

89は角頭状口唇を呈し、口唇直下に刺突列をめぐらす。縦位の沈線により紋様帯を分割し、縦位鋸歯状の沈線を施す。紋様帯下端は横位ではなく、鋸歯状沈線の終焉に合わせて刺突を沿わせるため、鋸歯状の刺突列で区画されている。紋様帯下は無紋となるようである。胎土には石英粒を多く含み、ざらつく印象を受ける。

90は外削ぎの口唇で、口唇直下に爪形状の刺突列を横位にめぐらす。口唇部には斜位のきざみが付される。91は口唇直下に半載竹管の先端の刺突を横位にめぐらせ、以下、半載竹管による平行沈線を鋸歯状に重畳させる。口唇部にも半載竹管による刺突が施される。92～94は同一個体。口縁部に半載竹管の先端の刺突列を2条横位にめぐらせて区画し、上位の幅狭な区画には細沈線を斜位に施す。刺突列下には沈線を鋸歯状に充填させるようなモチーフになると思われる。紋様帯の下端には横位平行沈線と半載竹管による刺突列が確認できる。口唇部には半載竹管による刺突が施される。95は口唇部がややふくらむ器形を呈す。口唇下に2条の刺突列をめぐらせ、区画内にも縦位の刺突列が見られる。口唇部には斜位のきざみが付される。96は口唇直下に半載竹管による刺突列をめぐらせ、半載竹管による平行沈線を複数条施して縦位区画する。区画内は縦位鋸歯状に沈線を充填させると思われる。口唇部には斜位にきざみが付される。97はやや外反する口縁部形状を呈す。口唇直下に刺突列を2条横位にめぐらせ、以下

は沈線により菱形のモチーフが描かれる。菱形区画内には沈線に沿うように刺突が施される。98は沈線と刺突列により三角形のモチーフが描かれている。99は横位の沈線と横位の刺突が施される。100は半載竹管による複数条の沈線で縦位の菱形区画を描き、菱形区画内に刺突を充填させる。101～106は紋様帯下部の部位と思われ、それぞれ刺突列によって紋様帯が区画されている。101は半載竹管による刺突列によって紋様帯が画され、紋様帯内は半載竹管による沈線で菱形のモチーフが描かれている。紋様帯下は無紋となる。102、103は半載竹管による刺突列によって紋様帯が画され、紋様帯内は縦位区画の沈線と斜位の沈線が施される。96と同様の紋様構成になろう。104も斜位の沈線は確認できないが、同様の構成になると思われる。105は横位沈線とそれに沿わせた刺突列で紋様帯を区画する。さらに沈線と刺突列で縦位区画し、区画内に斜位の沈線を施す。106は刺突列の下に部分的に条痕が施されている。107は半載竹管による平行沈線を横位多段に施し、沈線間に挟むように半載竹管による刺突列が施される。口唇部には斜位のきざみが付される。108、109は同一個体。横位沈線と刺突列を交互に多段に施す。109から施紋は胴部の途中で終了し、以下は無紋となることが確認できる。胎土に石英粒と金雲母を含む。110は施紋の間隔は空くが、沈線と刺突列を交互に施紋する。

g種 沈線を施すもの (第99図111～第100図130)

本種は刺突を施さないのみでf種と共通するものも多く、両者の関連性は強いと考えられる。

111は口唇下から沈線を縦位に施紋する。112、113は同一個体。複数条の沈線で縦位区画し、区画内に斜位の沈線を施す。114、115も同一個体。沈線を横位、斜位に施す。紋様構成は116のようになると考えられる。116～118は沈線を鋸歯状に施すと思われる。119は縦位区画と鋸歯状沈線を施す。120は紋様帯内のモチーフと見られ、半載竹管による沈線を鋸歯状に施す。紋様帯上端は横位沈線により区画される。121、122は鋸歯状に、123は斜位に沈線を

施す。124は半截竹管による沈線を横位にめぐらせて区画し、紋様帯内は鋸歯状のモチーフになると思われる。125は沈線を横位、斜位に施す。126は紋様帯下端の区画の部位と思われ、半截竹管による平行沈線を3条横位に施している。以下は無紋となる。127は沈線を横位多段に施す。128～130は太沈線を施すもので、128は横位、129は縦位、斜位、130は格子目に施す。129の口唇部にはきざみが付される。130は沈線を横位に施した後、縦位に深く施紋するので横位の沈線はかすかにしか残っていない。

h種 櫛歯状刺突を施すもの(第100図131～133)

131は外反する口縁部破片。口縁直下に刺突列と沈線を4条めぐらせて区画する。紋様帯内は斜位に沈線を施して区画し、沈線間に櫛歯状刺突を充填施紋する。胎土に金雲母を含む。132は沈線を斜位、133は横位に施し、間にそれぞれ櫛歯状刺突を充填施紋する。

141、142は尖底の底部破片である。無紋であるが、胎土の様相から本類に伴うものと考えられる。

第6類 第5類に伴うと思われる無紋土器を一括した(第100図134～139)。

本類は無紋土器であるが、胎土や器面調整の様相から第5類に伴うものと判断した。134は小波状を呈する口縁部破片。135、136は外反する口縁部破片である。

第7類 椀木式を一括した(第101図143～153)。

比較的薄手のつくりで、微隆起線を貼付してモチーフを描く。143～145は口縁部破片で、それぞれやや外反する器形を呈す。143、144は縦位、145は曲線状に微隆起線が貼付される。146～153は胴部破片で、それぞれ縦位、斜位、横位に微隆起線が貼付される。148、153には横位区画と考えられる微隆起線が確認できる。それぞれ地紋として条痕を施した後、微隆起線を貼付しているようだが、微隆起線を貼付した後の調整によりほとんどは地紋が消されている。147、150は比較的に明瞭に地紋の条痕が残っている。

内面にはすべてに条痕が施される。

第8類 野鳥式を一括した(第101図154～157)。

154、155は同一個体。角頭状口唇で、154には小突起が見られる。縦位に太くえぐるように沈線を施すことにより、微隆起状の効果を出している。156は沈線を斜位に施して幾何学状のモチーフを描くようである。157は細隆起線を横位に貼付して紋様帯を区画し、紋様帯内は細隆起線により縦位、斜位に区画して区画内に沈線を充填させる。内面に条痕を施す。

第9類 鶴ヶ島台式を一括した(第102図158～169)。

158～163は同一個体。158は尖頭状の口唇で、口縁部に1条隆線をめぐらせて半截竹管の刺突を施す。紋様帯内は沈線によって区画し、区画内に沈線を充填施紋する。交点に刺突を施す。口唇部にはきざみが付される。164～168も同一個体。波状口縁を呈し、内削ぎの口唇で口唇外面にきざみを施す。紋様帯は沈線と押し引きにより、菱形のモチーフを描く。紋様帯下端は横位押し引きにより区画する。169は尖頭状の口唇で、口唇部にきざみが付される。口縁部に無紋帯を設け、横位に押し引紋を施す。

第10類 早期末葉の土器(第102図170～第103図181、第104図191)。

a種 絡条体圧痕を施すもの(第102図170～第103図179、第104図191)

170、171は口縁部破片。170は斜位に絡条体圧痕を施す。口唇部にはきざみが付される。171も斜位に絡条体圧痕を施すが、170に比べて原体は大きい。口唇部にも絡条体圧痕を施す。口縁部に孔が穿たれているが、補修孔ではなく土器成形当初から穿たれているように観察される。172は横位多段に絡条体圧痕を施す。173～177は同一個体。2条の絡条体圧痕を横位にめぐらせて区画し、区画内に鋸歯状に絡条体圧痕を施している。2帯の横帯区画が確認できる。内面に条痕を施す。178は斜位に大振りな絡

条体圧痕を施す。179は2条の隆線を横位にめぐらせ、隆線上に羽状に絡条体圧痕を施す。隆線より上位にも絡条体圧痕を斜位に施し、隆線下位と内面には条痕を施す。191は尖底の底部破片。器面の荒れによって判然としないが、底部付近に絡条体圧痕を施しているようである。

b種 隆線を施すもの (第103図180、181)

180は波状口縁の波頂部で、波頂部からきざみを付した幅狭で高さのある隆線を垂下させる。隆線の脇には縄紋の原体圧痕が施される。181は外反する口縁部破片。外側が張り出す口唇部形状を呈し、張り出した部分にきざみが付される。口縁部に1条の隆線がめぐる。

第11類 縄紋・捺糸紋を施すもの (第103図182～第104図189)。

a種 縄紋を施すもの (第103図182～184)

182は単筋LRを右上がりに施す。口唇部には原体圧痕を施す。183は外反する口縁部破片で、薄手のつくりである。単筋RLをまばらに施紋する。184も外反する口縁部破片で単筋LRを縦位施紋する。胎土に石英粒と金雲母を含む。

b種 捺糸紋を施すもの (第103図185)

185は捺糸紋Lを斜位に施紋する。繊維を含み、やや軟質なつくりは第I群第1類a種の捺糸紋土器とは様相を異にする。

c種 内外面に縄紋を施すもの (第103図186～第104図189)

186～188は同一個体。条の細かい単筋LRを横位、縦位に施紋する。189は単筋RLを横位、縦位、斜位に施す。

第12類 条痕を施すもの (第104図190、192～第107図239)。

本類は条痕を施す土器群で、条線状の細かいものから粗いものや施紋方向もさまざまである。192～202は口縁部破片で条痕も細かく、内面の条痕も顕著でないことから第5類に伴うものと考えられる。

202は小波状を呈す。203は絡条体圧痕に見えなくもないが判然としない。204は口唇部にきざみを付す。条痕も顕著であり、第7類以降に伴うものであろう。205は他とは異なる条痕で、貝殻の先端を押し引くように施紋している。190は平底の底部破片である。

(橋本 淳)

B. 縄文前期以降の土器

第Ⅲ群 縄文前期の土器

- 第1類 花積下層式 (第108図240～第110図323)
- 第2類 中道式 (第111図324～344)
- 第3類 ニツ木式 (第111図345～353)
- 第4類 関山式 (第111図354～第113図423)
- 第5類 黒浜・有尾式 (第114図424～436)
- 第6類 関山～黒浜式 (第114図437～第115図488)
- 第7類 踏磯a式 (第116図489～第117図557)
- 第8類 踏磯b式 (第118図558～第122図707)
- 第9類 踏磯c式 (第122図708～第123図729)
- 第10類 十三菩提式 (第123図730～第124図761)

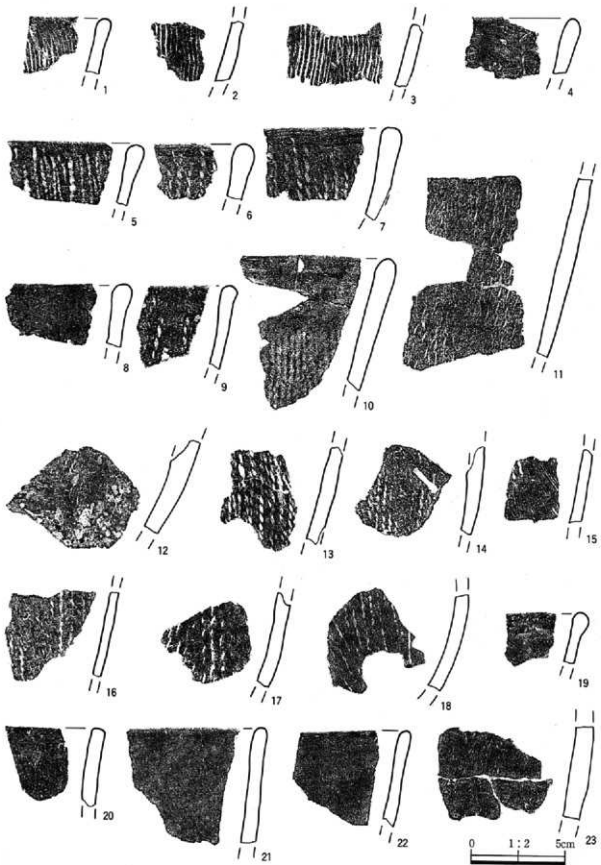
第Ⅳ群 縄文中期の土器

- 第1類 五領ヶ台式 (第124図762～第125図796)
- 第2類 阿玉台式 (第125図797～805)
- 第3類 勝坂式 (第125図806～809)

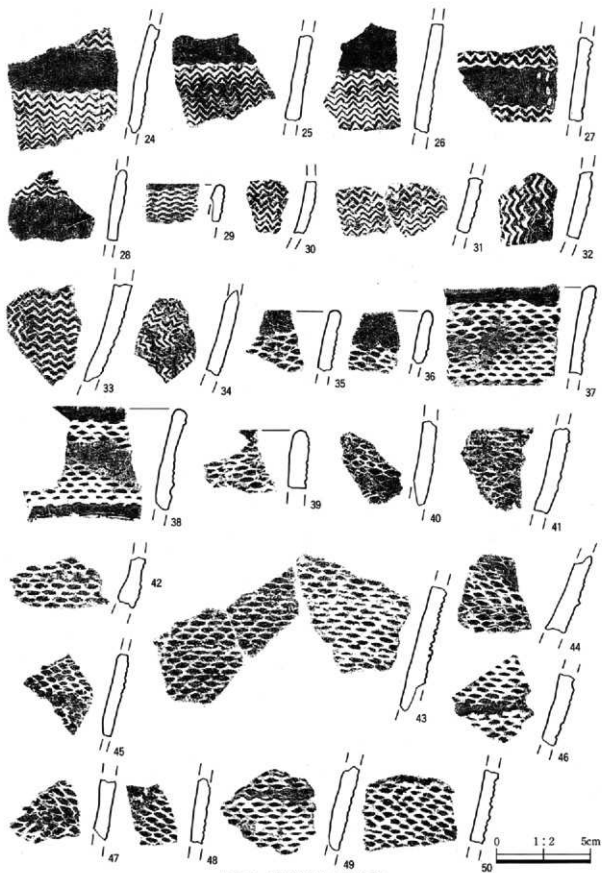
第Ⅴ群 平安時代の土器 (第126図1～3)

第Ⅵ群 中世の土器 (第127図1～第128図23)

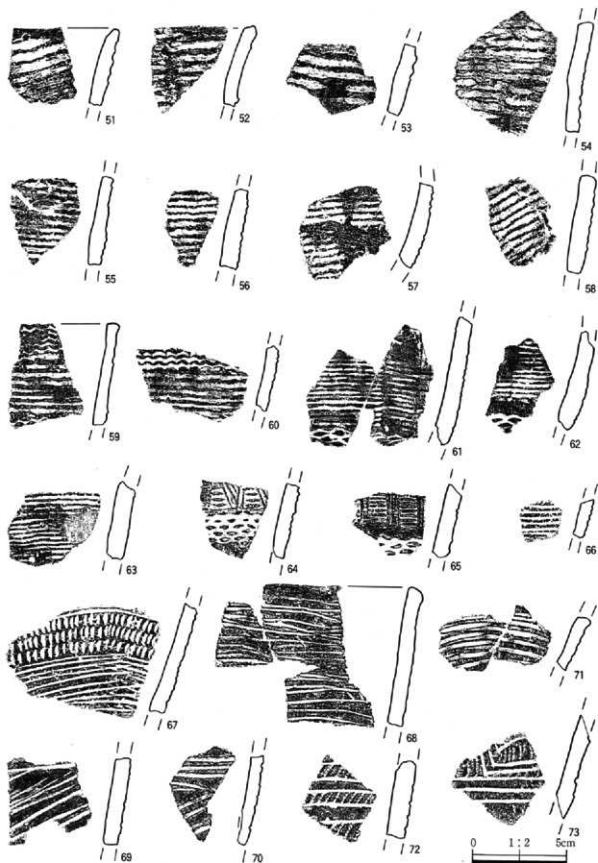
第Ⅶ群 近世・近現代の陶磁器 (第129図1～9)



第95図 遺構外出土土器(1)

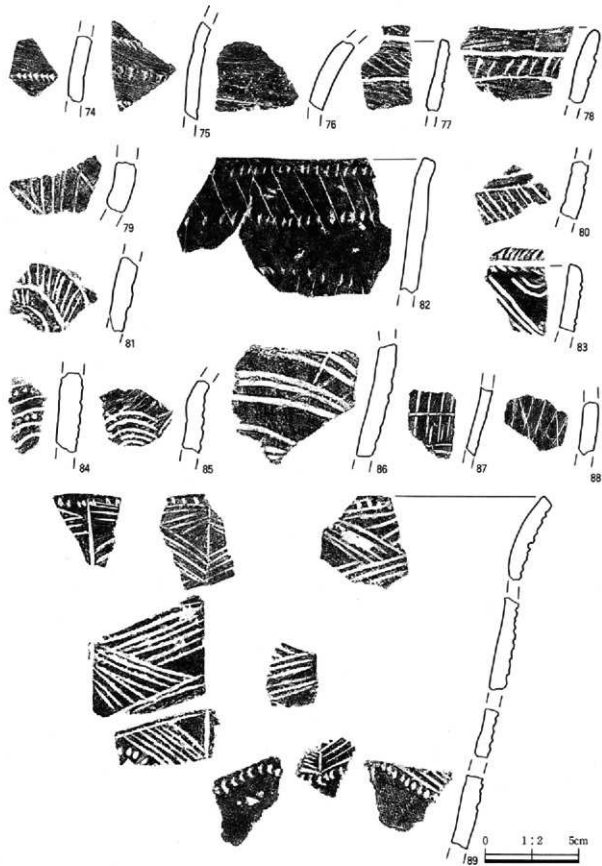


第96図 遺構外出土土器 (2)

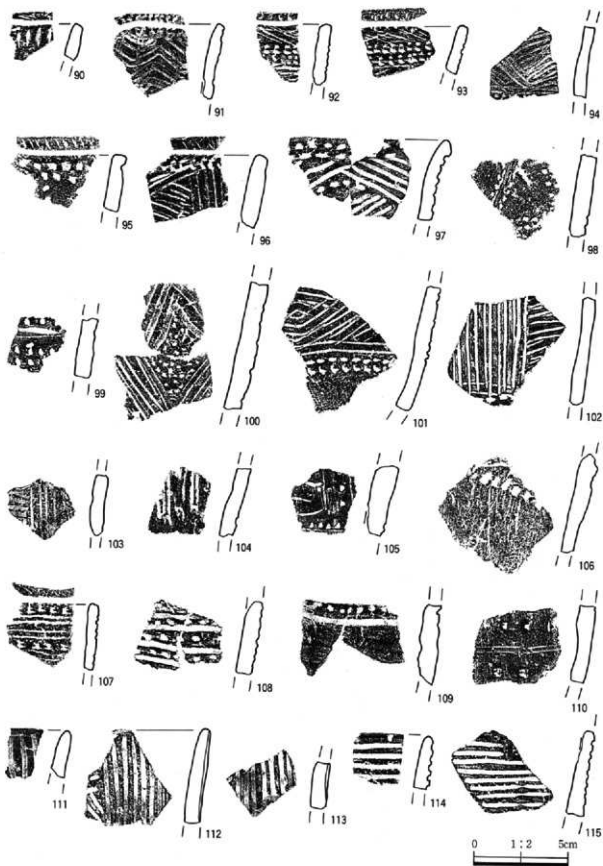


第97図 遺構外出土土器(3)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

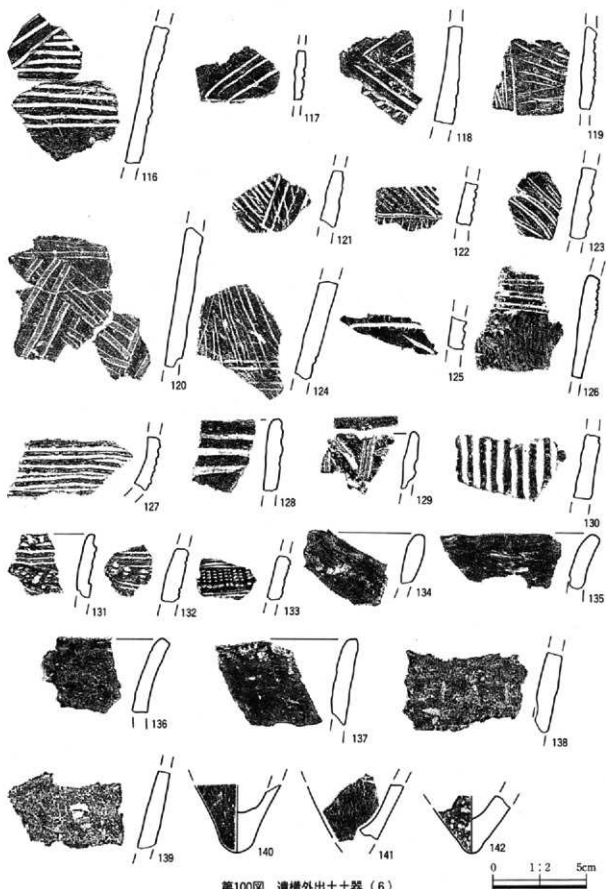


第98図 遺構外出土土器(4)

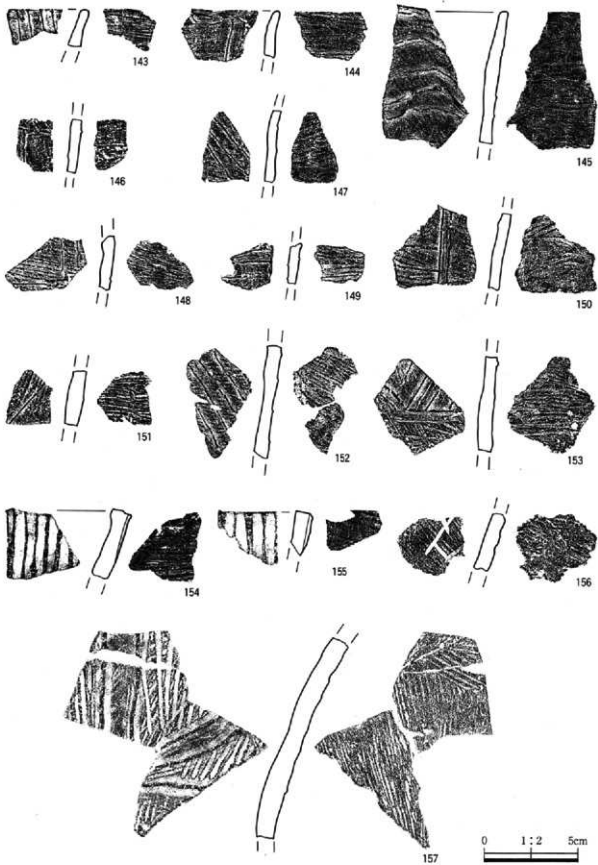


第99図 遺構外出土土器(5)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

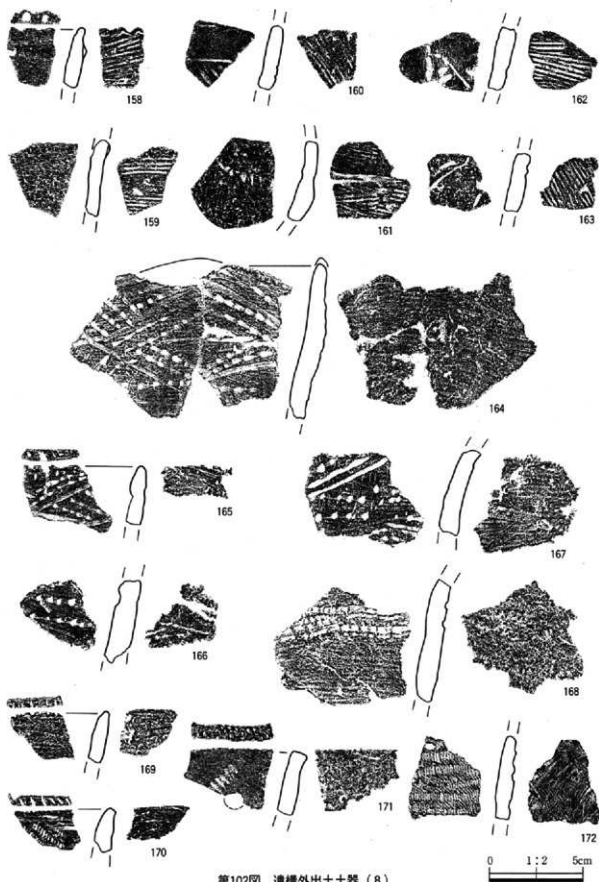


第100図 遺構外出土土器 (6)

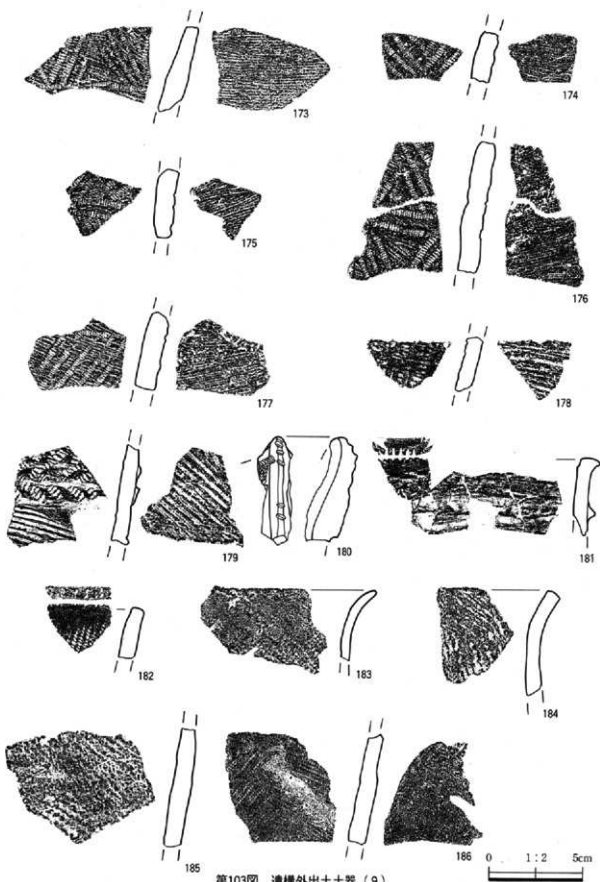


第101図 遺構外出土土器(7)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

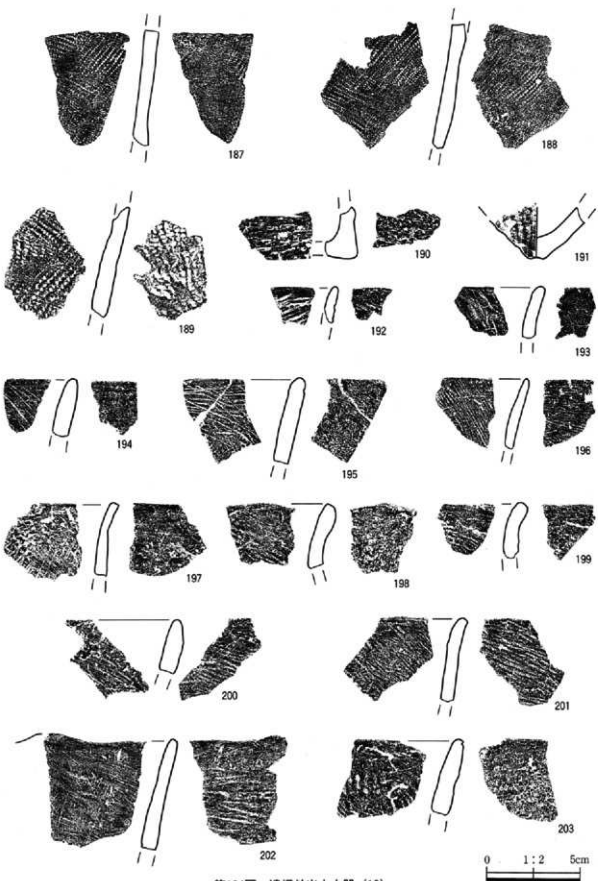


第102図 遺構外出土土器 (8)

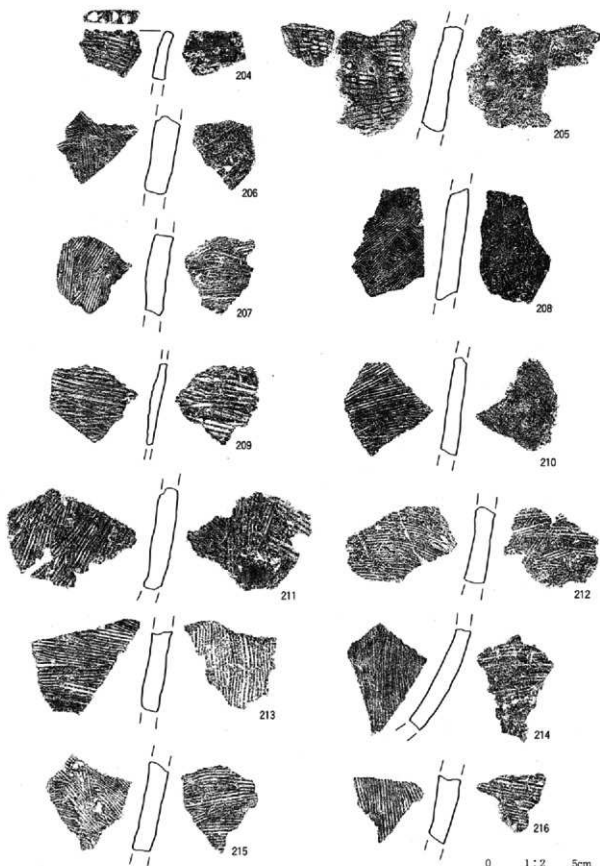


第103図 遺構外出土土器(9)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

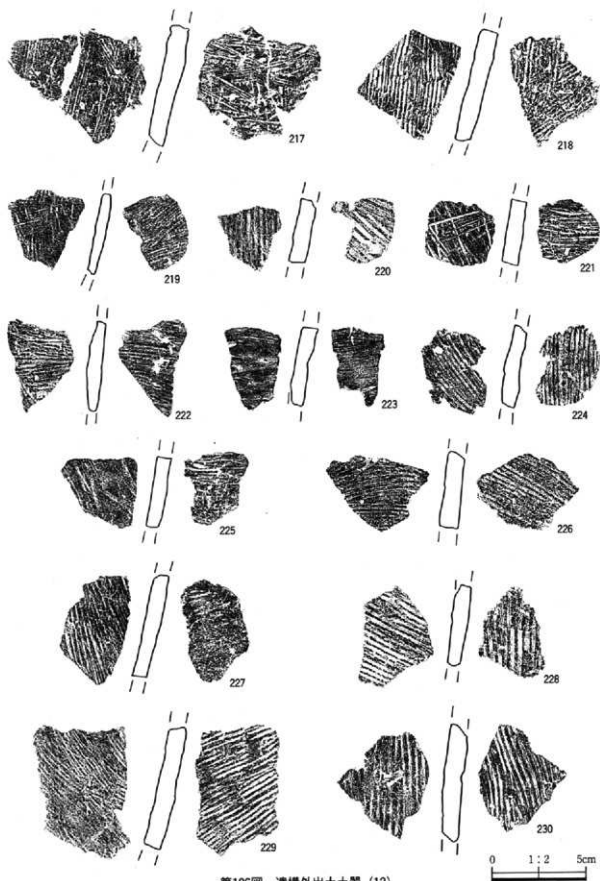


第104図 遺構外出土土器 (10)

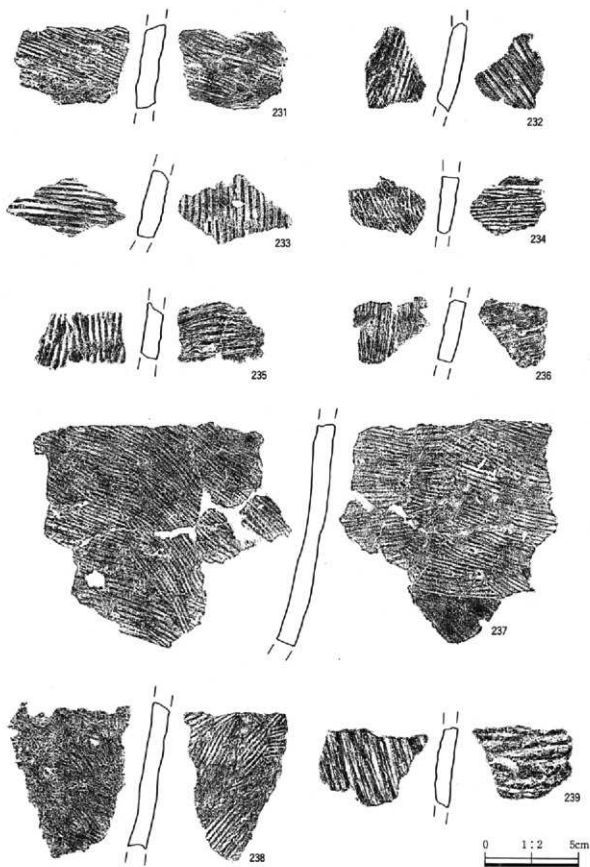


第105図 遺構外出土土器 (11)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

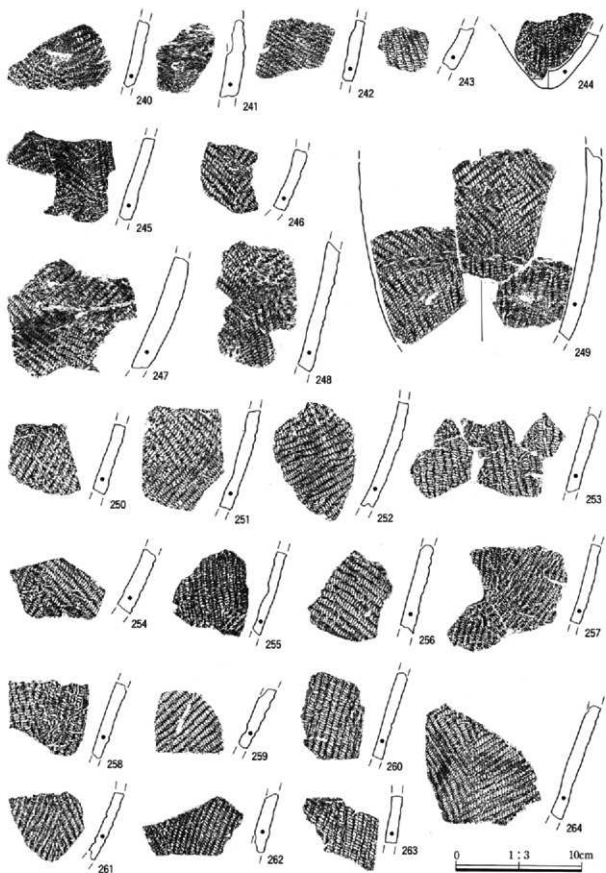


第106図 遺構外出土土器 (12)

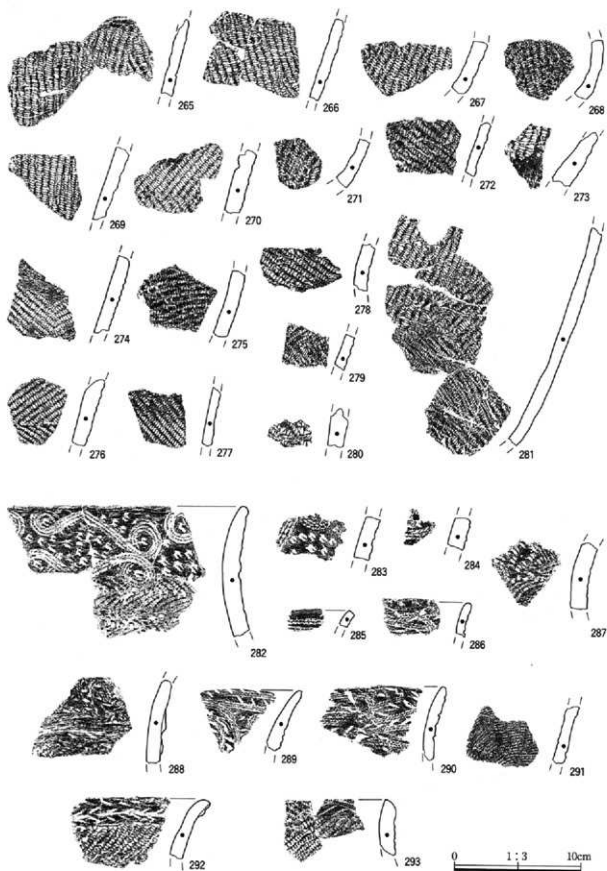


第107図 遺構外出土土器 (13)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

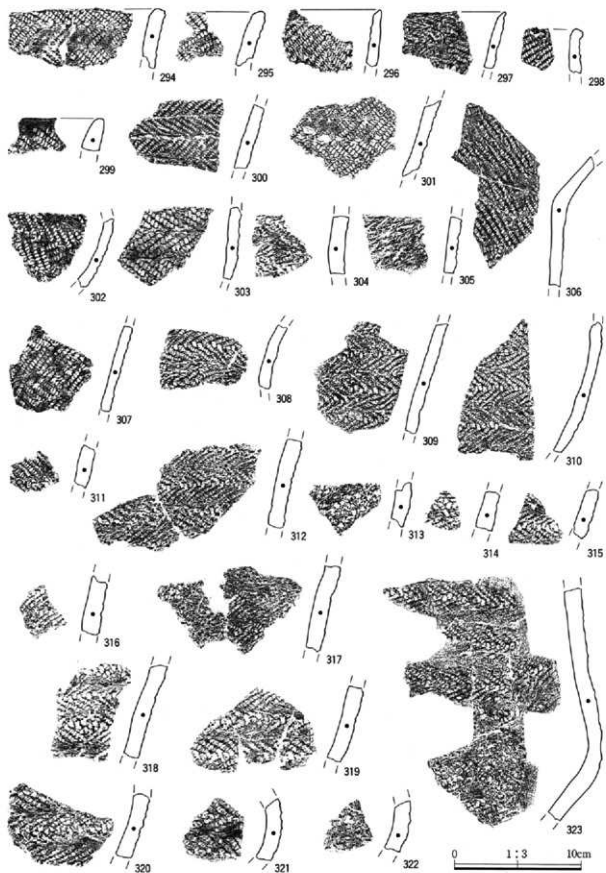


第108図 遺構外出土土器 (14)

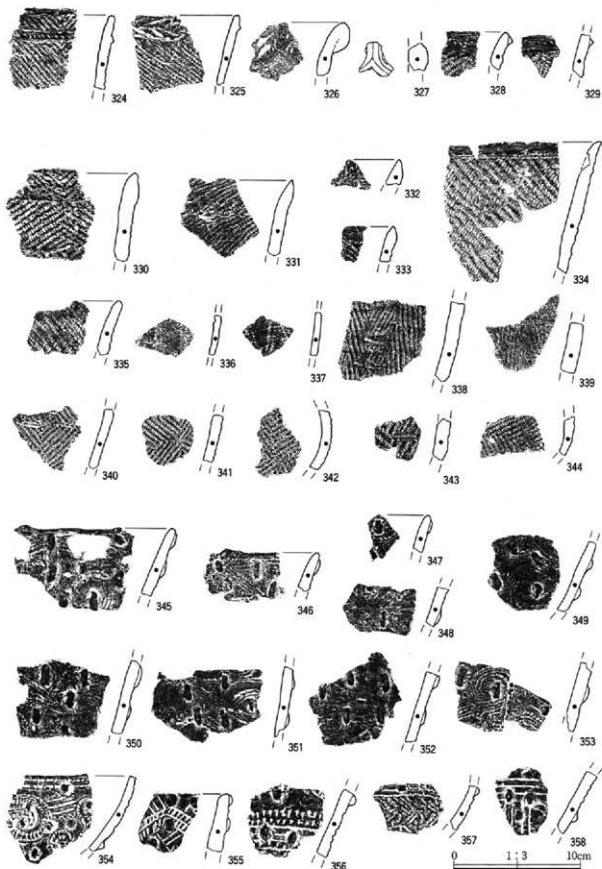


第109図 遺構外出土土器 (15)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

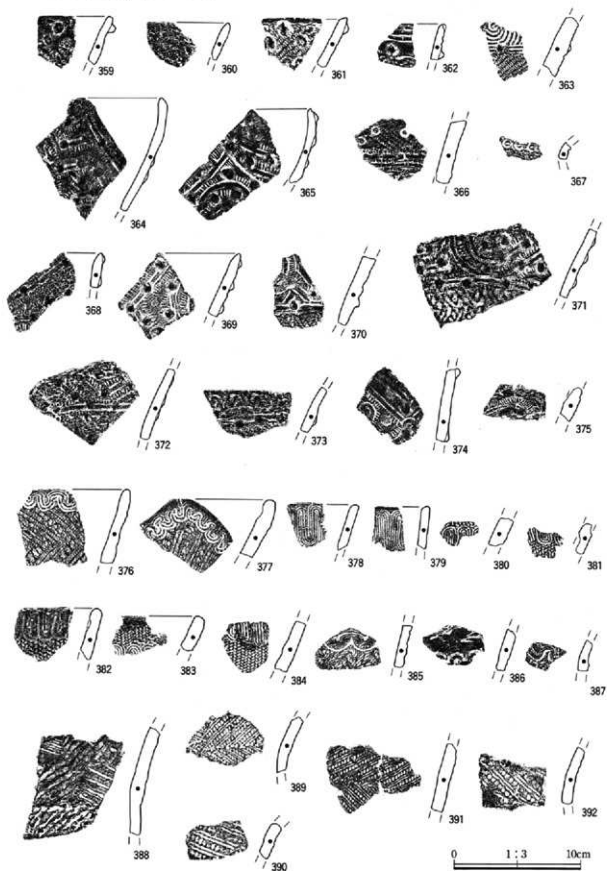


第110圖 遺構外出土土器 (16)



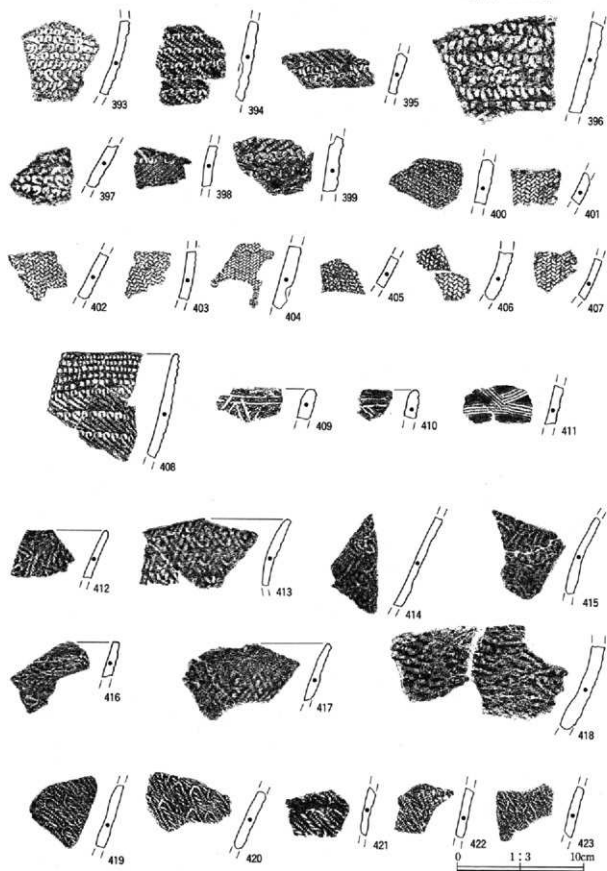
第111図 遺構外出土土器 (17)

IV 三平II遺跡 (71・81・90区)



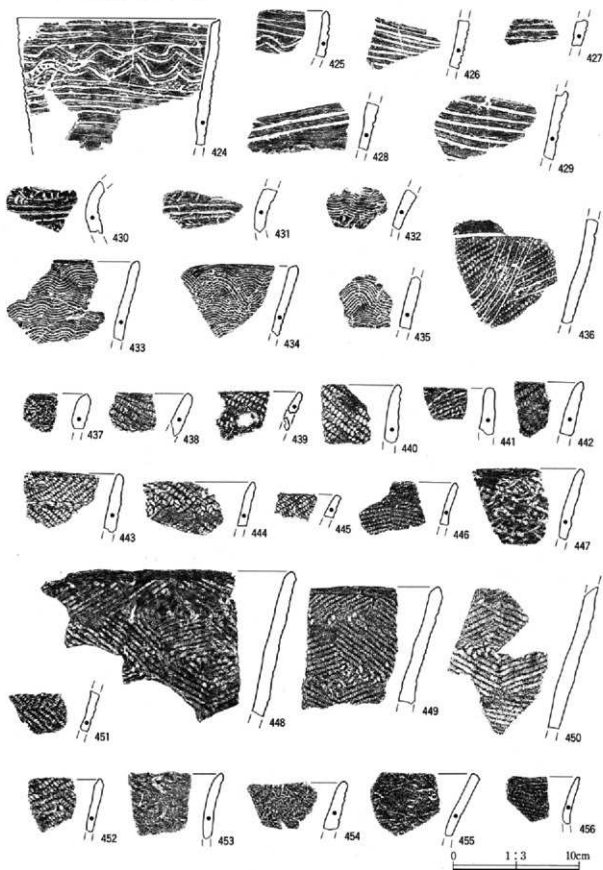
第112圖 遺構外出土土器 (18)

2 遺構外の出土遺物

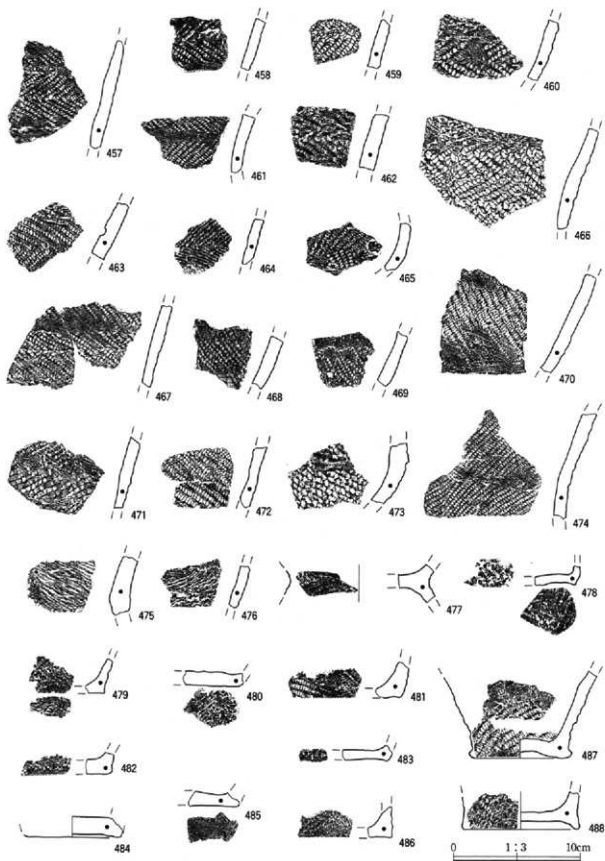


第113図 遺構外出土土器 (19)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

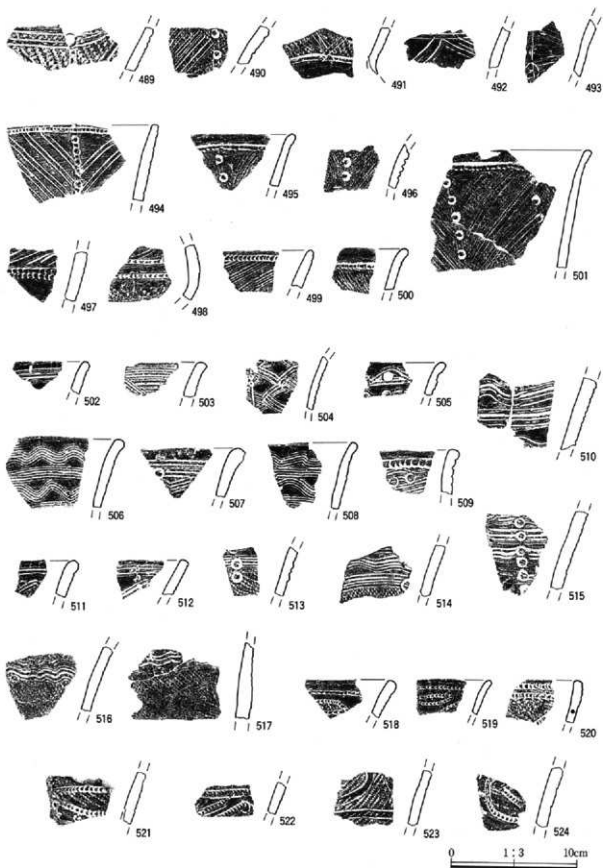


第114図 遺構外出土土器 (20)

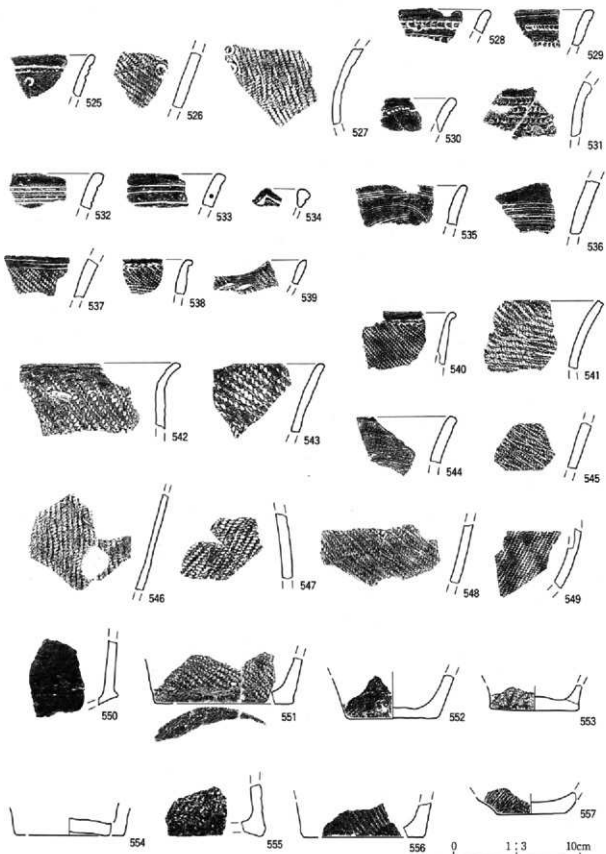


第115図 遺構外出土土器 (21)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

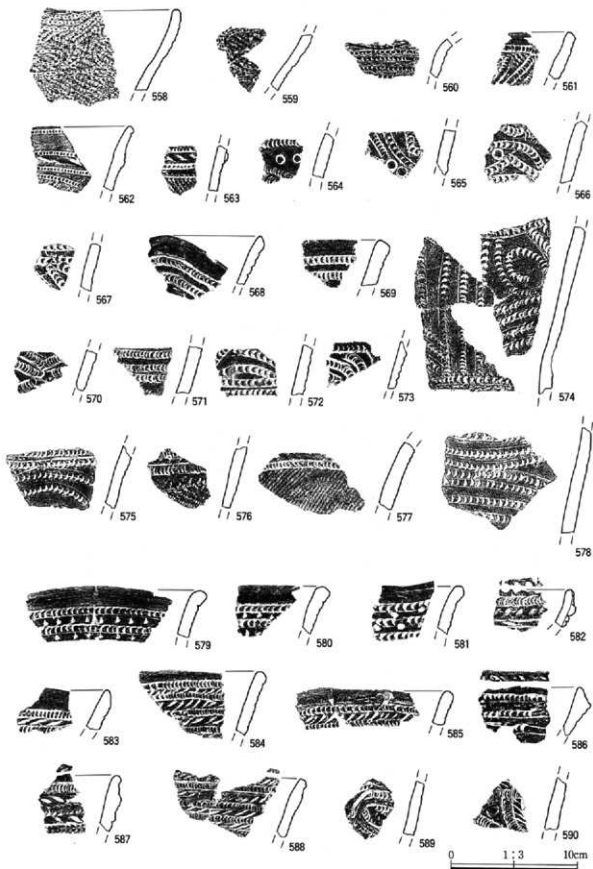


第116圖 遺構外出土土器 (22)

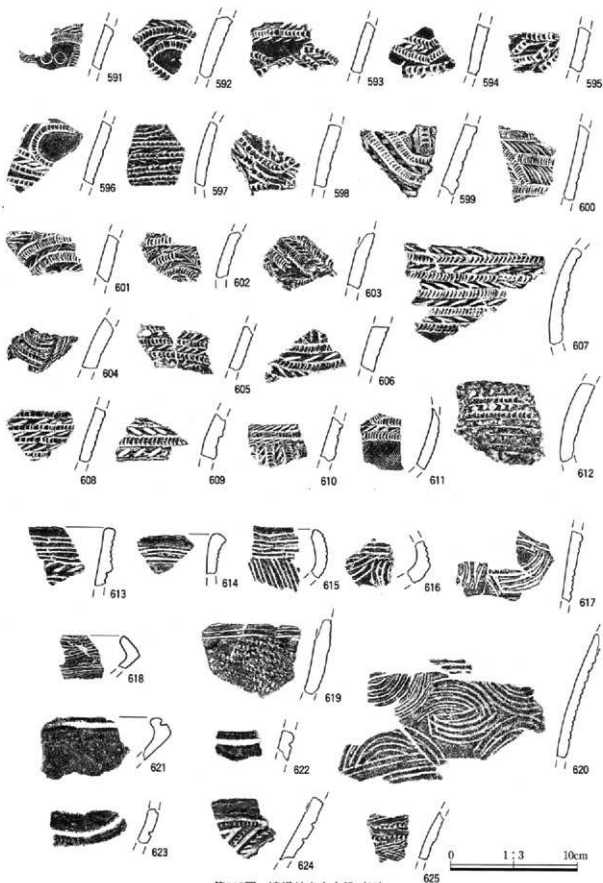


第117図 遺構外出土土器 (23)

IV 三平II遺跡 (71・81・90区)

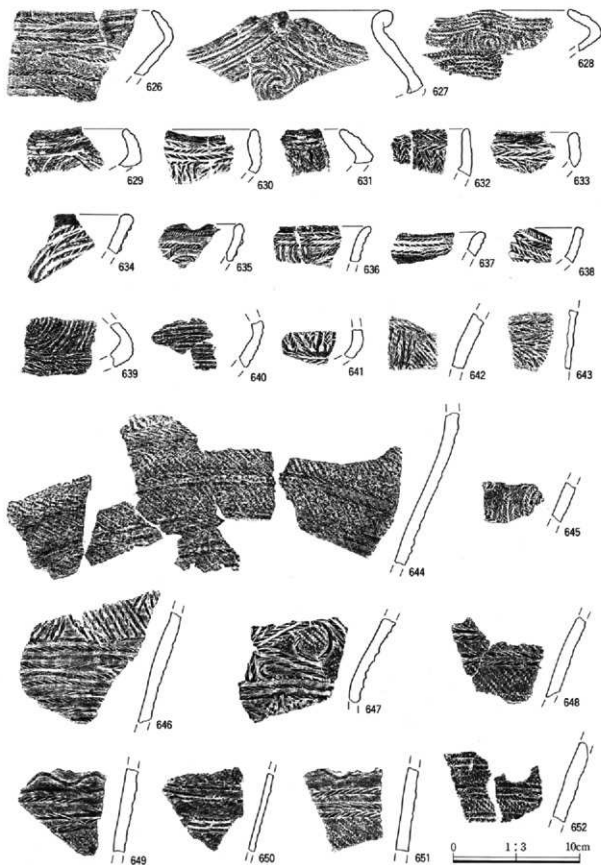


第118図 遺構外出土土器 (24)

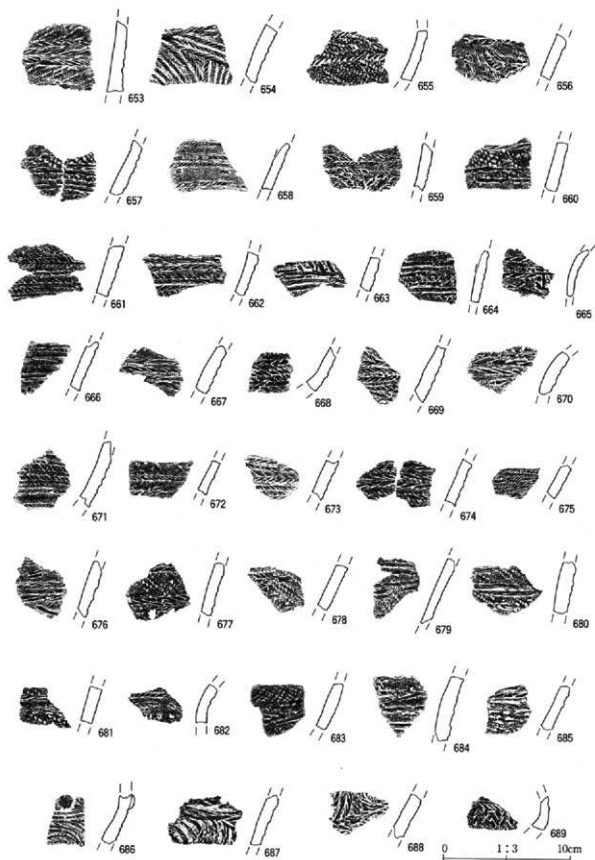


第119図 遺構外出土土器 (25)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

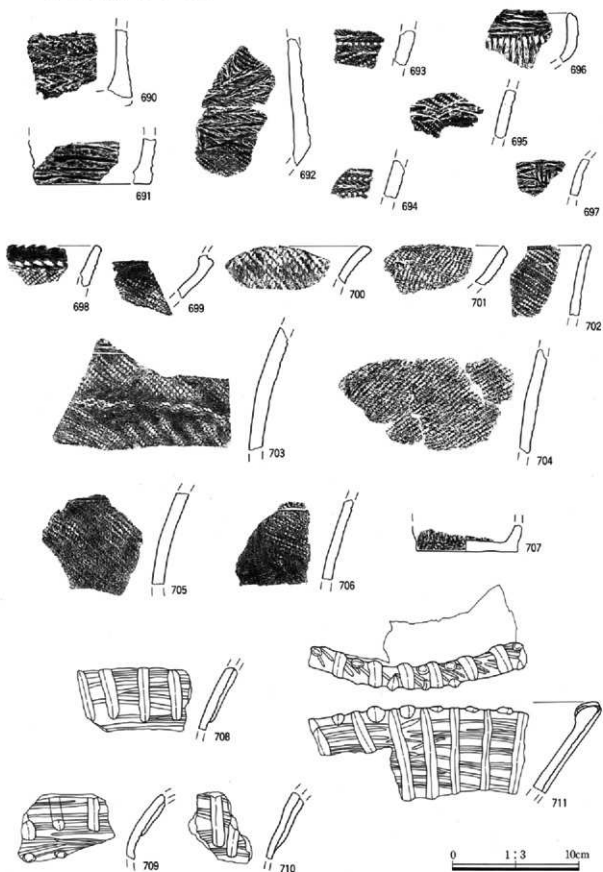


第120図 遺構外出土土器 (26)

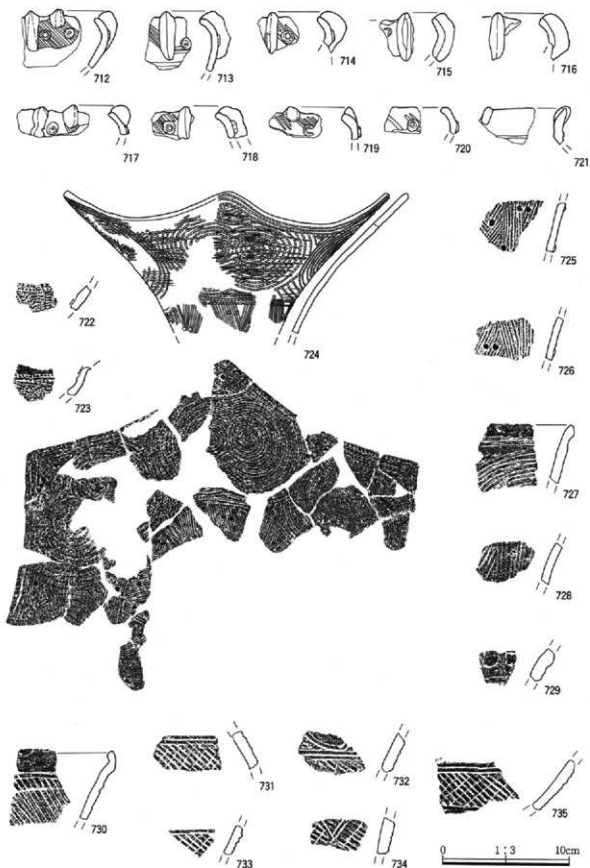


第121図 遺構外出土土器 (27)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

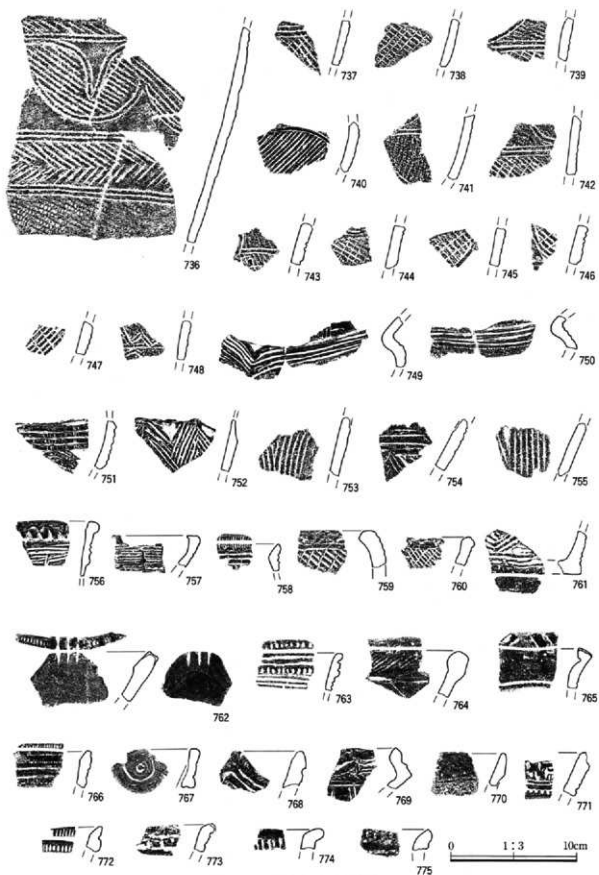


第122図 遺構外出土土器 (28)

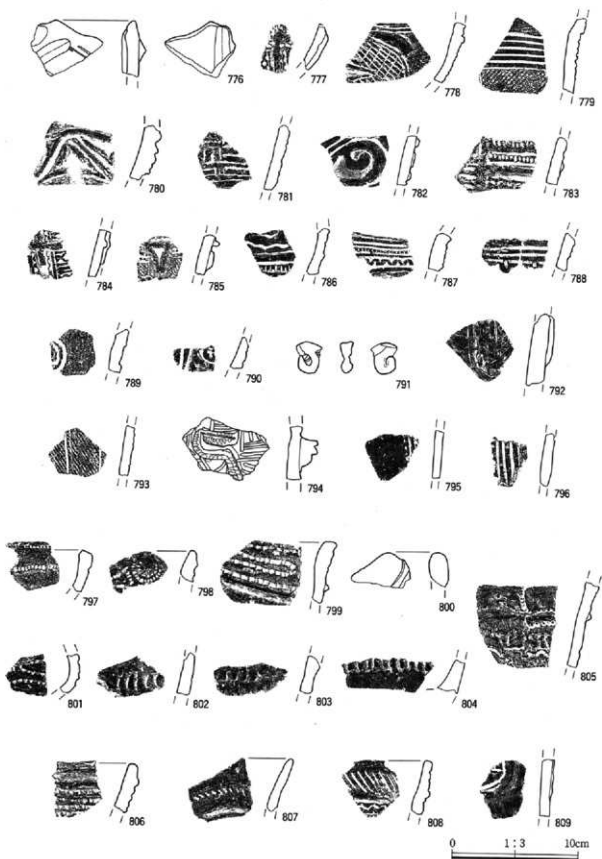


第123図 遺構外出土土器 (29)

IV 三平II遺跡 (71・81・90区)



第124図 遺構外出土土器 (30)



第125図 遺構外出土土器 (31)

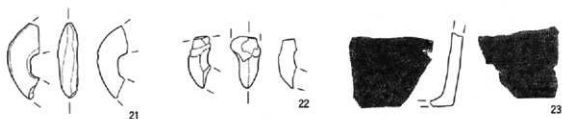
IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)



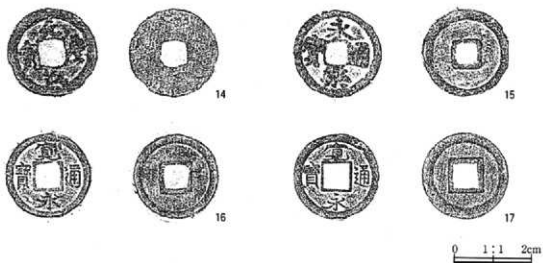
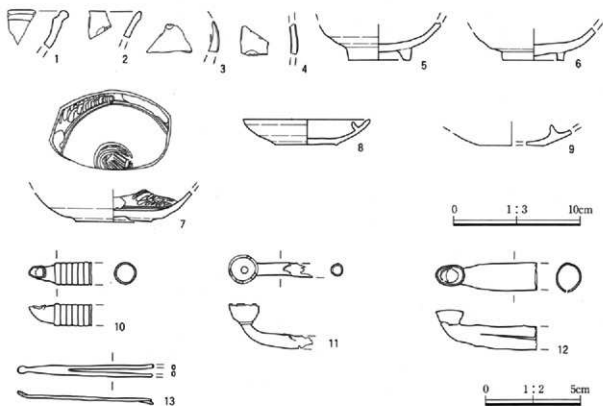
第126図 平安時代遺構外出土土器



第127図 中世遺構外出土土器 (1)



第128図 中世遺構外出土土器 (2)



第129図 近世・近現代遺構外出土遺物

(3) 出土石器

①石器の概要

三平Ⅱ遺跡の遺構外では、剥片を含む石器5,861点が出土する。器種別では、石鏃245点(製品157点、未製品88点)、石匙24点(縦型5点、横型15点、未製品4点)、石槍1点、石核6点、スクレイパー48点(製品45点、未製品3点)、ドリル21点(製品11点、未製品10点)、石飾5点、異形石器1点、打製石斧11点、笄状石器17点、磨製石斧12点、凹み石25点、磨石4点、叩き石3点、スタンプ形石器1点、石皿5点、砥石3点、石臼8点、剥片5,421点である。

石器の総出土数は、三平Ⅰ遺跡に比較すると約20倍にも及ぶ。その中で特徴的なことは、剥片が総点数の92.6%の割合を占めること、剥片を除く器種の中では石鏃(未製品含む)が56.0%の割合を占めることを挙げておく。

②石器の内容

a 石鏃(第130図1～第134図157)

石鏃245点が出土する。製品は157点で、A類12点(黒曜石5点、碧玉2点、珪質変質岩1点、珪質頁岩2点、黒色安山岩1点、チャート1点)、B類119点(黒曜石69点、珪質変質岩14点、チャート13点、珪質頁岩7点、安山岩5点、赤チャート4点、頁岩3点、碧玉3点、玉髓1点)、C類3点(安山岩1点、珪質変質岩1点、チャート1点)、D類4点(黒曜石2点、珪質変質岩2点)、E類10点(黒曜石6点、チャート3点、黒色安山岩1点)、F類9点(黒曜石5点、珪質変質岩1点、頁岩1点、細粒輝石安山岩1点、チャート1点)である。また、石鏃未製品は88点出土し、詳細は、A類未製品が17点(黒曜石9点、珪質頁岩4点、珪質変質岩1点、黒色安山岩1点、細粒輝石安山岩1点、チャート1点)、B類未製品30点(黒曜石23点、珪質変質岩4点、珪質頁岩1点、黒色頁岩1点、チャート1点)、D類未製品1点(黒曜石1点)、E類未製品1点(珪質頁岩1点)、F類未製品39点(黒曜石31点、チャー

ト4点、珪質頁岩1点、珪質変質岩1点、黒色安山岩1点、水晶1点)である。

b 石匙(第135図158～第136図172)

石匙は24点出土する。詳細は、縦型5点(黒色頁岩4点、細粒輝石安山岩1点)、横型15点(黒色頁岩5点、珪質変質岩4点、黒曜石1点、安山岩2点、頁岩1点、玉髓1点、珪質頁岩1点)、横型未製品4点(黒曜石2点、チャート1点、黒色安山岩1点)である。

c ドリル(第136図173～183)

ドリルは21点出土する。製品は11点で、黒曜石2点、チャート1点、碧玉2点、黒色頁岩2点、珪質凝灰岩1点、珪質頁岩1点、珪質変質岩1点、黒色安山岩1点である。未製品は10点で、チャート4点、黒曜石2点、珪質頁岩1点、頁岩1点、黒色安山岩1点、黒色頁岩1点である。

d 石槍(第136図184)

石槍は1点出土し、頁岩である。

e スクレイパー(第136図185～第137図203)

スクレイパーは48点出土する。製品は45点で、黒色頁岩20点、黒色安山岩6点、頁岩6点、珪質頁岩3点、黒曜石3点、珪質変質岩3点、安山岩1点、凝灰岩1点、珪質凝灰岩1点、チャート1点である。未製品は3点で、チャート2点、黒曜石1点である。

f 石飾(第137図204～207)

石飾は5点出土し、すべて滑石である。

g 異形石器(第137図208)

異形石器は1点出土し、頁岩である。

h 打製石斧(第138図209～214)

打製石斧は11点出土する。黒色頁岩4点、黒色安

山岩 3点、細粒輝石安山岩 3点、頁岩 1点である。

i 籠状石器 (第138図215～225)

籠状石器は17点出土する。黒色頁岩12点、頁岩 3点、珪質変質岩 2点である。

j 磨製石斧 (第139図226～237)

磨製石斧は12点出土する。輝緑岩 9点、蛇紋岩 3点である。

k 凹み石 (第140図238～第144図262)

凹み石は25点出土する。粗粒輝石安山岩15点、安山岩 9点、デイサイト 1点である。

l 磨石 (第144図263～265)

磨石は 3点出土し、すべて安山岩である。

m 叩き石 (第145図266～268)

叩き石は 3点出土し、粗粒輝石安山岩 1点、安山岩 1点、ヒン岩 1点である。

n 石皿 (第145図269～273)

石皿は 5点出土し、安山岩 4点、緑色片岩 1点である。

o スタンプ形石器

スタンプ形石器は 1点出土し、粗粒輝石安山岩である。

p 砥石 (第146図274～276)

砥石は 3点出土し、流紋岩 2点、砥沢石 1点である。

q 石臼 (第146図277～第147図281)

石臼は 8点出土し、安山岩 6点、粗粒輝石安山岩 2点である。

r 剥片

剥片5,421点出土し、黒曜石3,134点、チャート745点、珪質変質岩673点、頁岩565点、珪質頁岩113点、黒色安山岩104点、安山岩58点、水晶10点、石英 2点、その他17点である。

(4) その他

①その他の概要と内容

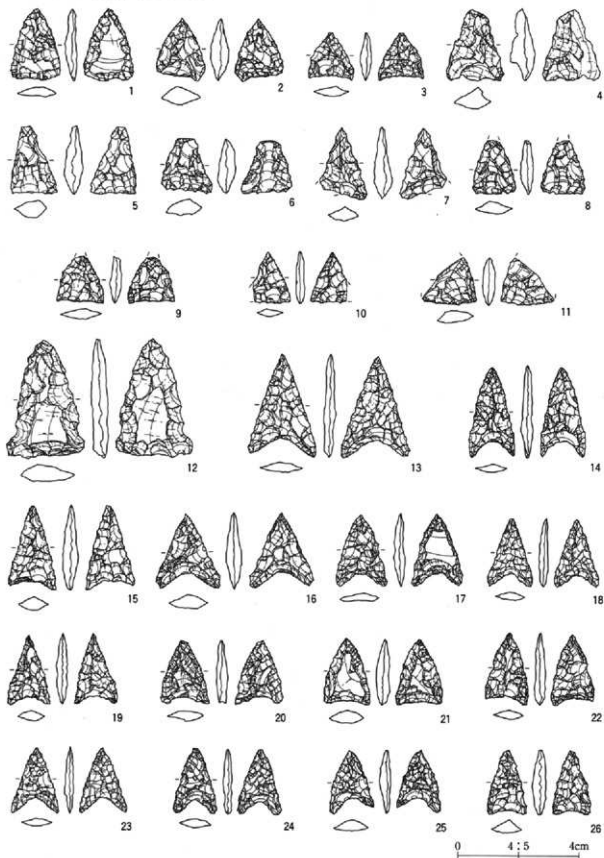
キセル 3点、かんざし 1点、古銭 4点、釘 4点、鉄製品 1点、鉄砲玉 3点、骨格器 1点、桃の種 2点が出土する。

a キセル (第129図10～12)

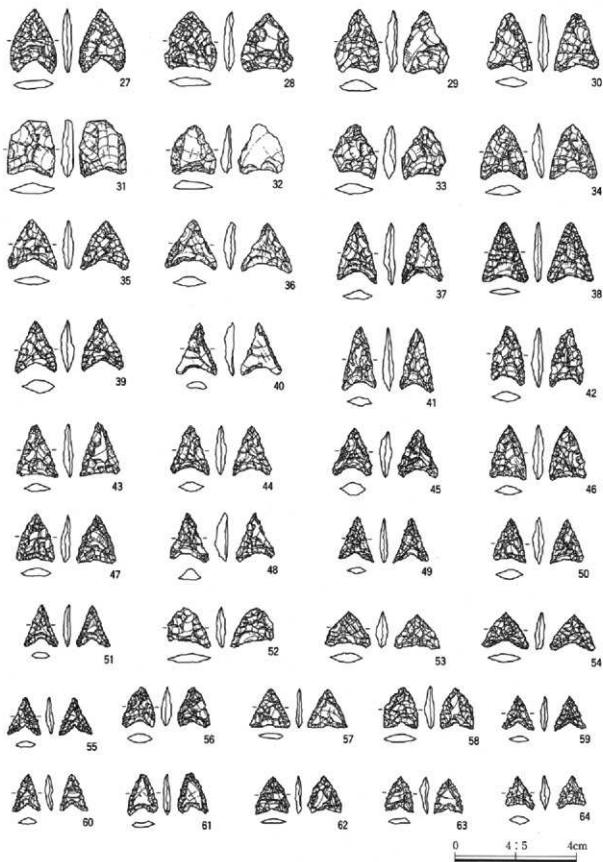
b かんざし (第129図13)

c 古銭 (第129図14～17)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

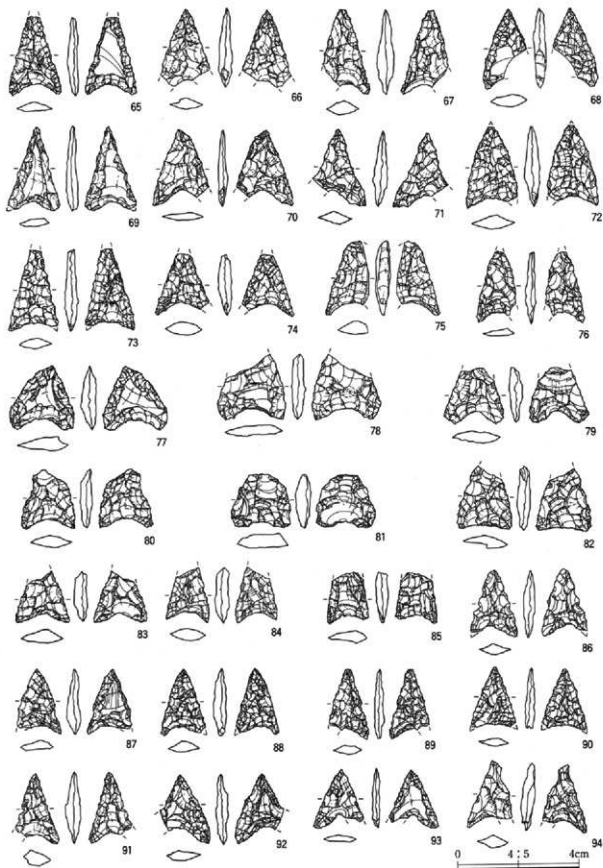


第130圖 遺構外出土石器(1)



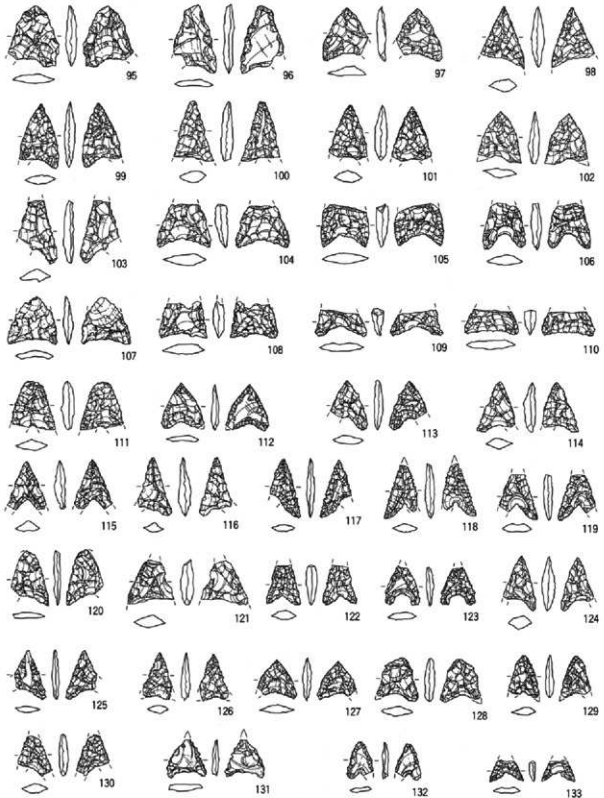
第131図 遺構外出土石器(2)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)



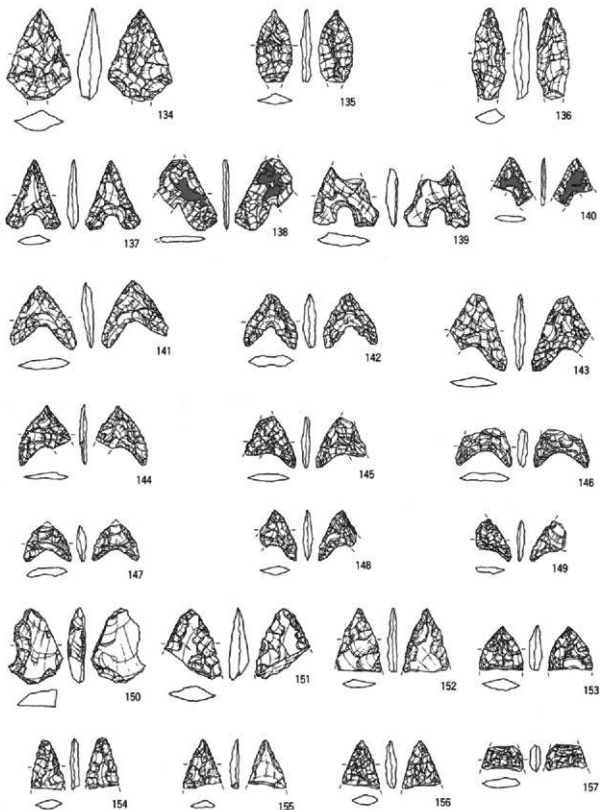
第132図 遺構外出土石器 (3)

2 遺構外の出土遺物



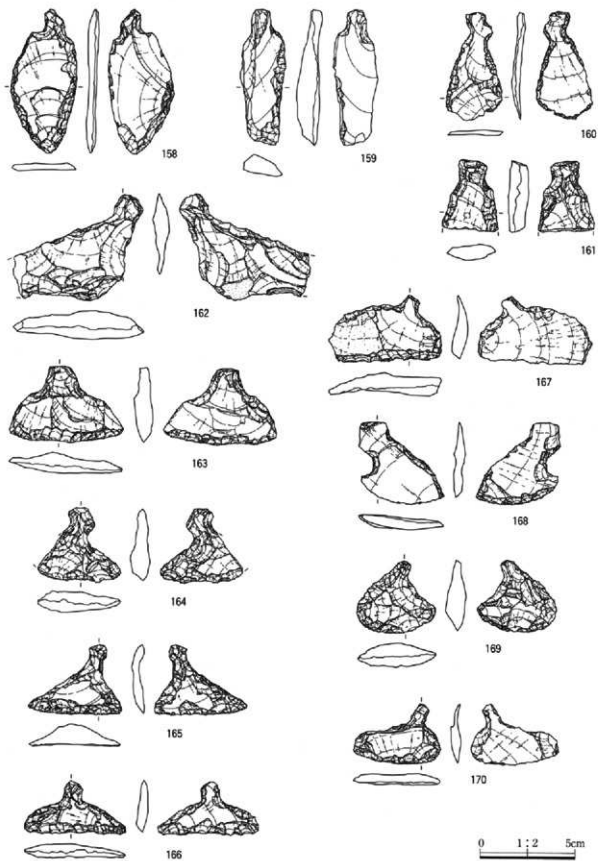
第133図 遺構外出土石器(4)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)



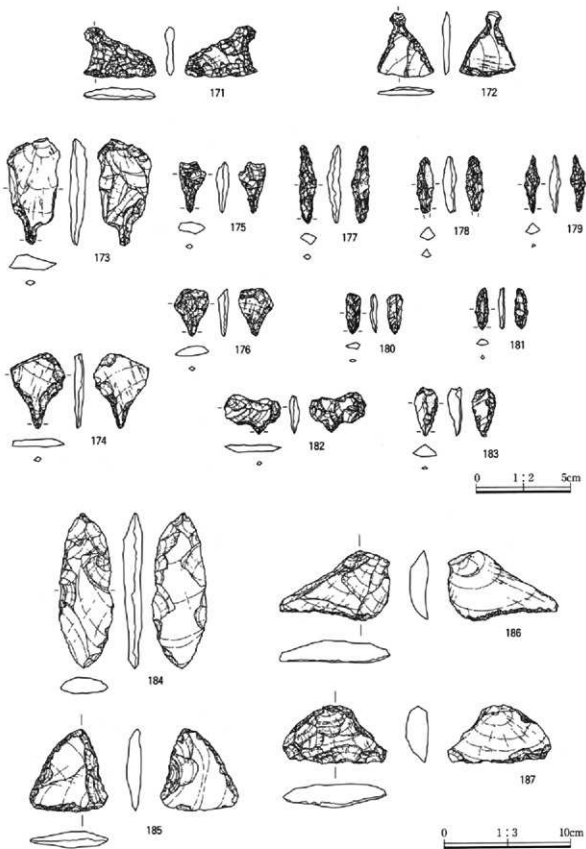
第134図 遺構外出土石器 (5)

2 遺構外の出土遺物



第135図 遺構外出土石器(6)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

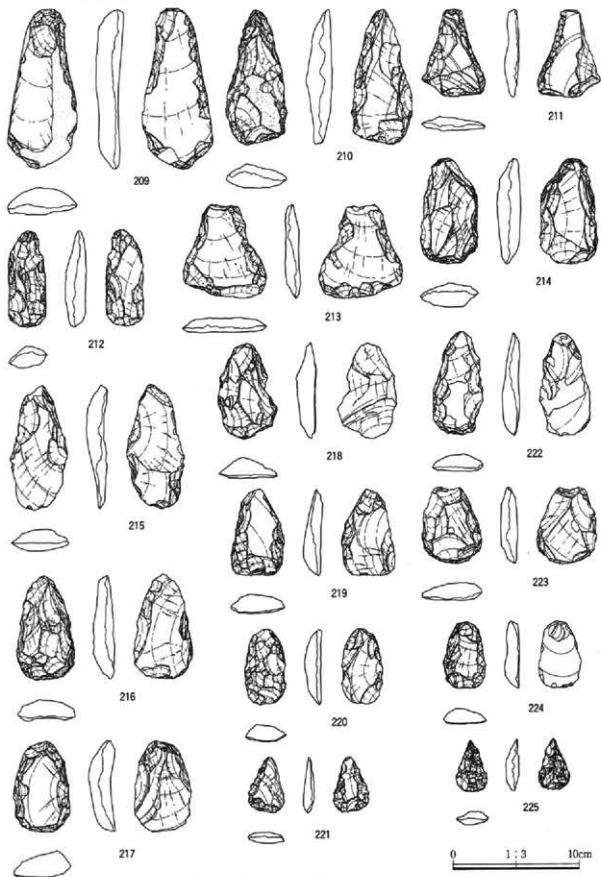


第136図 遺構外出土石器(7)



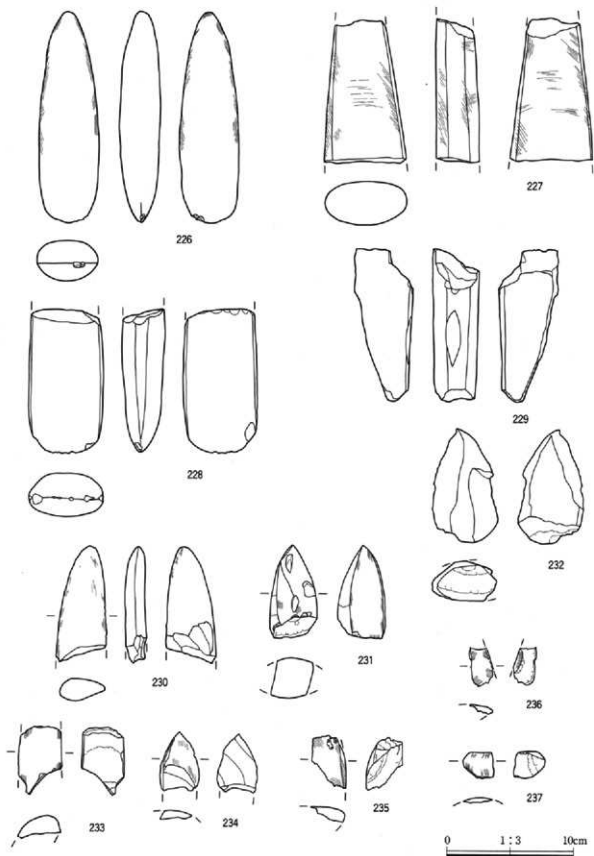
第137図 遺構外出土石器 (8)

IV 三平II遺跡 (71・81・90区)

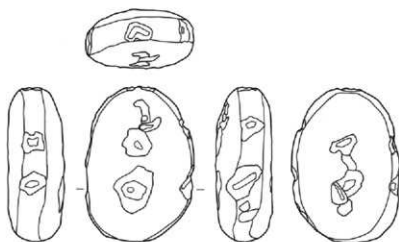


第138図 遺構外出土石器 (9)

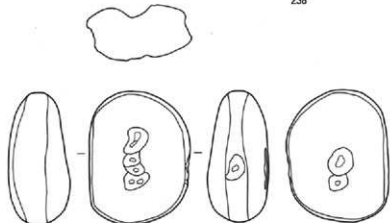
2 遺構外の出土遺物



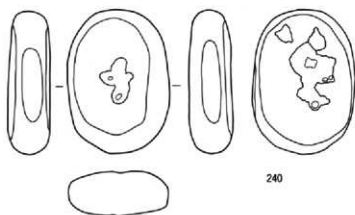
第139図 遺構外出土石器 (10)



238



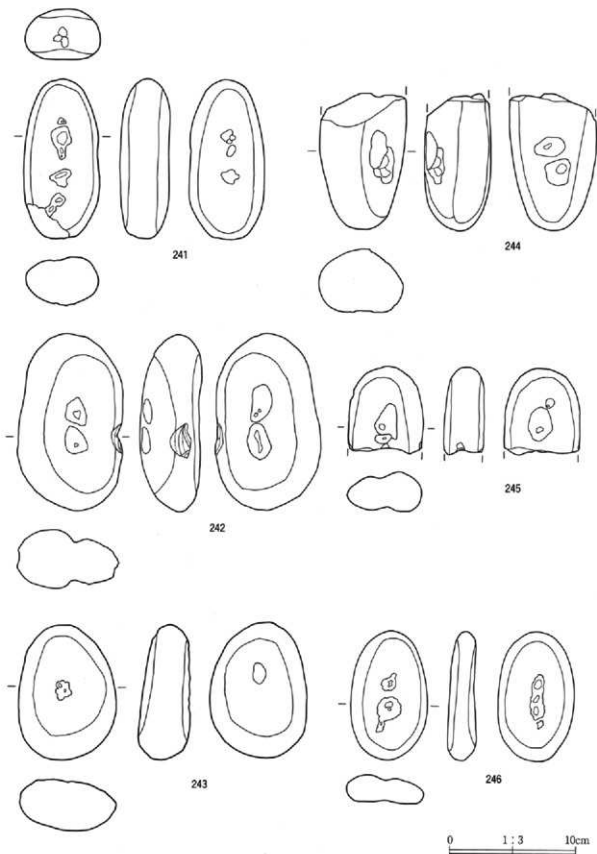
239



240

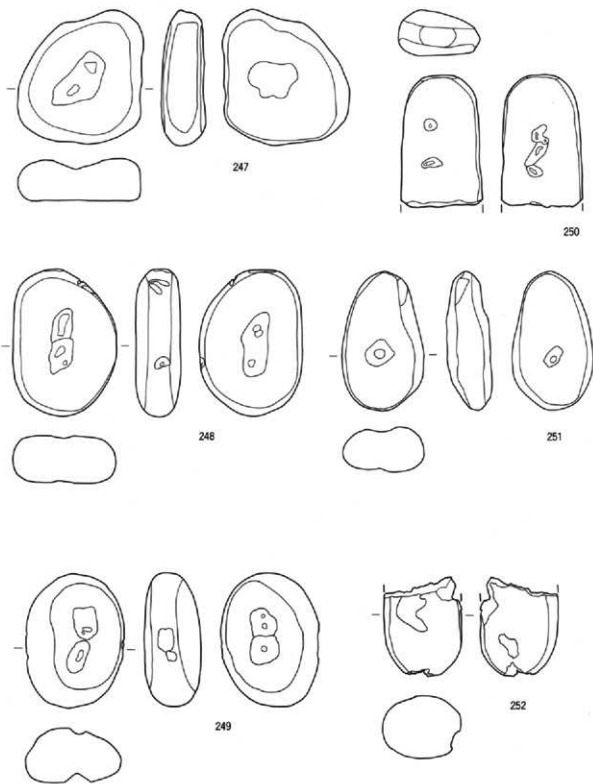
0 1:3 10cm

第140図 遺構外出土石器 (11)



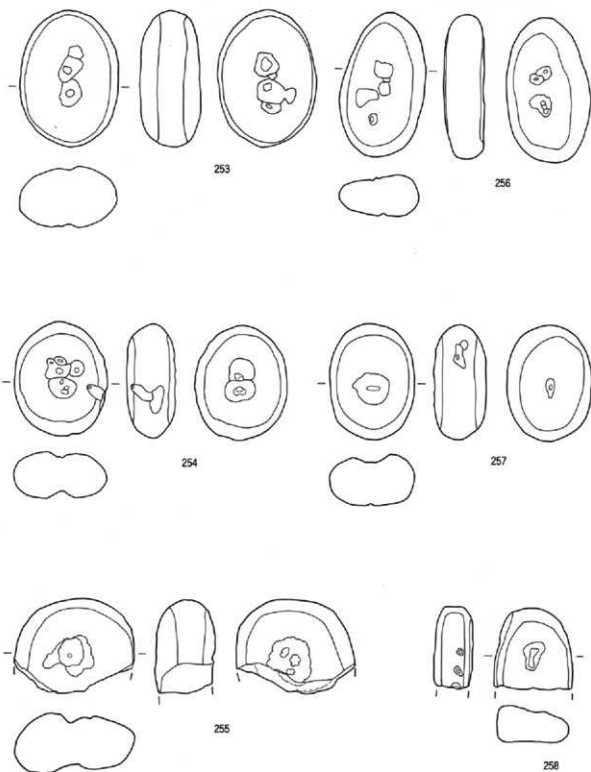
第141図 遺構外出土石器 (12)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)



第142図 遺構外出土石器 (13)

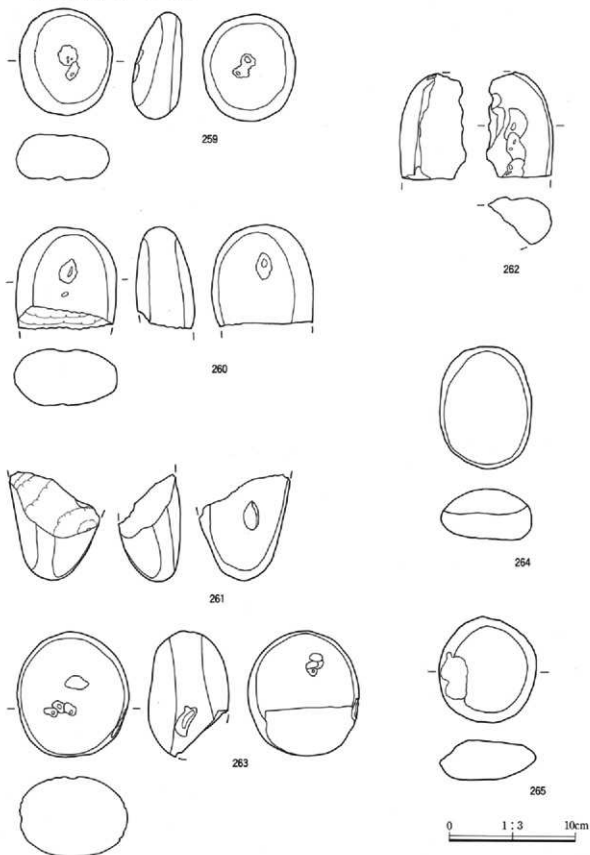
2 遺構外の出土遺物



0 1:3 10cm

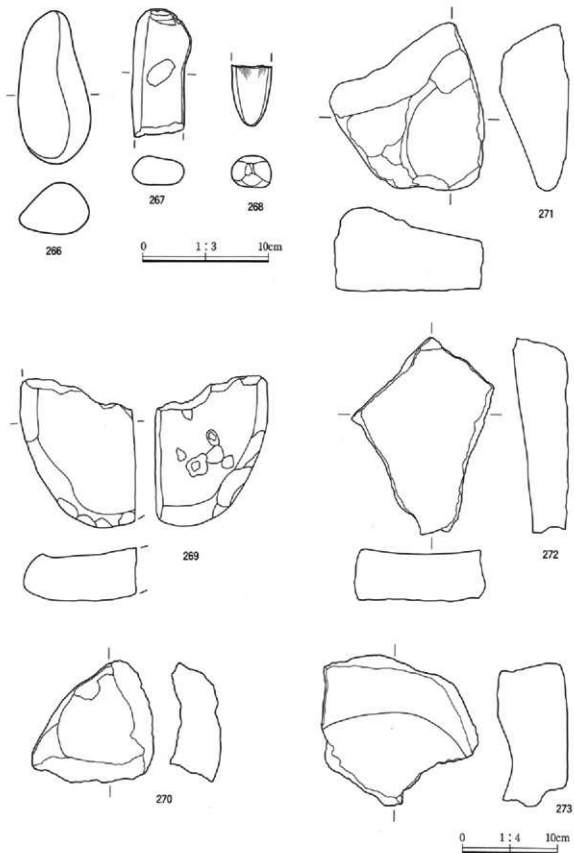
第143図 遺構外出土石器 (14)

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)



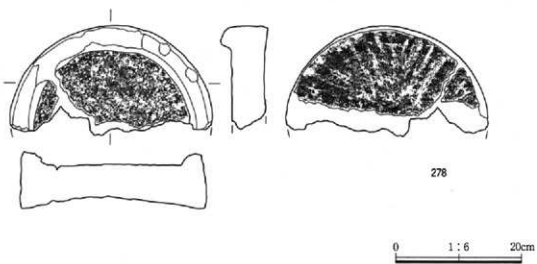
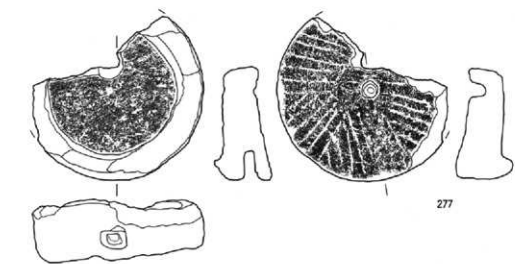
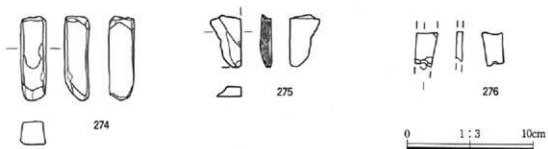
第144図 遺構外出土石器 (15)

2 遺構外の出土遺物

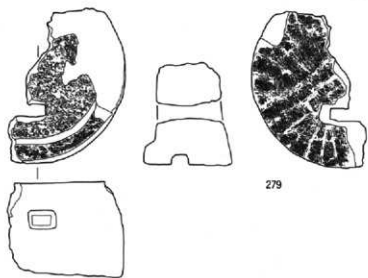


第145図 遺構外出土石器 (16)

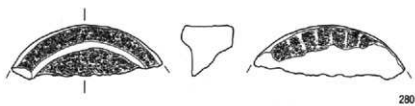
IV 三平II遺跡 (71・81・90区)



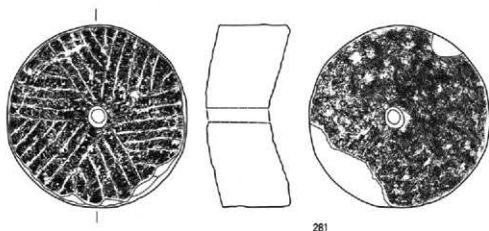
第146図 遺構外出土石器 (17)



279



280



261

0 1:6 20cm

第147図 遺構外出土石器 (18)

Ⅳ 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

90区1号集石観察表 (第60図)

番号	P.L	時代	出土位置	銭名	初鋳年	計測値①直径(mm)	②厚さ(mm)	③穿径(mm)	④重量(g)	備考
1	45	北宋	81区1集石	紹聖元宝	1094	24	2	7	3.5	大字聖緒真書
2	45	明	81区1集石	洪武通宝	1368	24	2	6	3.5	
3	45	明	81区1集石	永樂通宝	1408	25	2	6	2.9	

81区4号土坑土器観察表 (第64図)

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	45	踏碇b	覆土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	地文はRLの縄文で、平行沈線で文様を描く。	

81区13号土坑土器観察表 (第66図)

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	45	花壇下層 ～二ツ木	覆土	深鉢	胴部	長石粒やや多く含む。良好。黒褐色。	太めの原体0段多条LR・RLによる横位羽状縄文を構成。内面は丁寧な器面調整を施さない。	胎土に繊維混入
2	45	踏碇a	覆土	深鉢	口縁	砂礫をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は液状を呈し、外面に連続彫形文で文様を描く。	
3	45	踏碇b	覆土	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	刻みを持つ浮線文で文様を描く。外面に赤色塗彩が施される。	
4	45	踏碇b	覆土	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	地文は無文である。	
5	45	踏碇b	覆土	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	横位の沈線を施文する。	
6	45	踏碇b	覆土	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	地文は無文で、横位の沈線が施される。外面に赤色塗彩が施される。	

81区25号土坑土器観察表 (第68図)

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	45	岡山～黒 浜	覆土 81区C-10 81区C-11	深鉢	口縁	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。口唇部は調整を十分施さずにやや波打つ。外面は0段多条LR・RLによる横位羽状縄文を構成。内面は器面調整を丁寧に施す。	胎土に繊維混入
2	45	岡山	覆土	深鉢	口縁	白色砂粒及び礫をやや多く含む。良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。口唇部は内筋状に面取り。口縁部文様帯は上下を半載竹管による平行沈線によって区画し、沈線上には瘤状貼付文。口縁部文様帯には半載竹管による平行沈線で渦巻きや山形を描出。渦巻き上には瘤状貼付文。胴部地文は0段多条LR・RLによる縦位羽状縄文を構成。内面は丁寧な器面調整を施さず繊維混入あり。	胎土に繊維混入

81区25号土坑土器計測表 (第68図)

番号	P.L	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
3	45	覆土	石鏡	B	17	(14)	4	0.5	黒曜石	
4	45	覆土	石鏡	B	10	10	3	0.2	黒曜石	
5	45	覆土	石鏡	F	13	18	3	0.6	黒曜石	
6	45	覆土	凹み石		105	69	38	435.1	粗粒輝石安山岩	

81区29号土坑土器計測表 (第69図)

番号	P.L	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
1	45	覆土	ドリル		24	16	6	1.4	黒曜石	

81区30号土坑器観察表 (第70図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	45	縄文c	覆土		口縁	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁の内側は肥圧し、斜位の沈線を描いた後で、耳たぶ状とボタン状貼付文を施す。口縁部の地文には、横位の平行沈線を描いた後で、棒状の縦長となる貼付文を施す。	
2	45	十三世紀	覆土	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	口縁部は波状を呈し、地文は無節のLRとRLの横位羽状縄文で、円形浮文と蛇行する隆帯を貼付する。	

81区30号土坑器計測表 (第70図)

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重さ(g)	石材	備考
3	45	覆土	磨石		79	63	40	300.7	粗粒輝石安山岩	

81区54号土坑器観察表 (第75図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調・特徴	備考
1	45	中世	覆土	土鍋	底部	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	

81区58号土坑器観察表 (第77図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	46	縄文b	覆土下層	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	地文はLRの縄文で、連続爪形文と斜位刺突文を交互に施文する。	
2	46	縄文b	覆土下層	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、平行沈線で文様を描く。	
3	46	縄文b	覆土	深鉢	胴部～底部	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、胴上部には連続爪形文と斜位刺突文、円形刺突文で文様を描く。	

81区60号土坑器観察表 (第78・79図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	46	縄文c	底部付近	深鉢	口縁～胴部	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は4つの山状を呈し、胴部は平行沈線で動背文や矢羽根文で文様を描く。	
2	46	縄文c	覆土	深鉢	口縁～胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部に耳たぶ状の貼り付けを施し、胴部は平行沈線で動背文や米字文で文様を描き、円形浮文を貼付する。	
3	46	縄文c	覆土	深鉢	底部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	胴下部にはRLの縄文を横位に施文する。底部付近は無文である。	

81区63号土坑器観察表 (第80図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	46	岡山～黒浜	覆土	深鉢	胴部	白色砂粒少量含む。良好。褐色。	内・外面とも器面調整を十分施さず凹凸あり。外面は無文。	胎土に繊維混入あり。
2	46	花積下層	覆土	深鉢	胴部	長石粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	外面は0段多糸LR・RLによる幅状の横位羽状縄文を構成。内面は器面調整十分に施さず繊維混入あり。	胎土に繊維混入あり。
3	46	岡山～黒浜	覆土	深鉢	胴部	長石粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	外面は0段多糸LR・RLによる横位羽状縄文を構成。内面は器面調整十分に施さず繊維混入あり。	胎土に繊維混入あり。

81区63号土坑器計測表 (第80図)

番号	P.L.	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重さ(g)	石材	備考
4	46	覆土	石匙	横型	27	43	6	0.5	黒曜石	

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

81区66号土坑土器観察表 (第80図)

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	46	関山～黒浜	覆土	深鉢	口縁	微細砂粒を少量含む。良好。褐色。	口縁はほぼ直立する。口唇部は丸みを帯びる。外面はRLを横位に重複施文。	胎土に繊維混入
2	46	関山～黒浜	覆土	深鉢	胴部	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	0段多糸LR・RLによる横位羽状縄文を構成。内面は器面調整を丁寧に施し滑沢である。	胎土に繊維混入
3	46	踏碇a	覆土	深鉢	口縁～胴部	砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	地文は無節のLRとRLの菱形羽状縄文で、横位の連続爪形文を施文する。	

81区70号土坑土器観察表 (第81図)

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	47	関山	覆土	深鉢	胴部	白色砂粒少量含む。良好。黒褐色。	外面は0段多糸LRを横位施文。内面は器面調整を丁寧に施す。	胎土に繊維混入
2	47	関山～黒浜	覆土	深鉢	胴部	白色砂粒少量含む。良好。褐色。	外面はLR・RLを重複施文。内面はやや擦痕あり。繊維脱痕あり。	胎土に繊維混入
3	47	関山～黒浜	覆土	深鉢	底部	微細砂粒を少量含む。良好。黒色。	形状は平底。底部直上胴部は無文。	胎土に繊維混入
4	47	踏碇a	覆土	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部には羽状文を施し、地文はRLの縄文である。	
5	47	踏碇a	覆土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	地文はRLの縄文である。	
6	47	踏碇a	覆土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	地文はRLの縄文である。	

90区4号土坑土器観察表 (第83図)

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	47	五雲ヶ台	覆土	深鉢	口縁	砂粒を多量に含む。良好。褐色。	口縁部は波頂部が内彎する。外面は格子目状に斜位の集合沈線を施文し、その周りをレンズ状に半截竹管文で囲う。	

90区5号土坑土器観察表 (第83図)

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	47	関山	覆土	深鉢	口縁	雲母片及び長石粒や多く含む。良好。黒褐色。	口縁はやや外反する。口唇部はやや細く尖る。口縁部は半截竹管による爪形文を4条は平行に廻らせる。	胎土に繊維混入

90区6号土坑土器観察表 (第83図)

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	47	早期	90区6土	深鉢	胴部	片岩や小礫を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	第Ⅱ群第12類	

90区7号土坑土器観察表 (第84図)

番号	P.L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	47	踏碇b	覆土	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	地文はRLの縄文である。	
2	47	十三善堤	覆土	深鉢	胴部	雲母を含む砂粒を多く含む。良好。褐色。	地文はRLの縄文で、平行沈線で文様を描く。	
3	47	十三善堤	覆土	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。赤灰色。	波状と横位の平行沈線を交互に施文する。	

90区46号土坑土器計測表 (第82図)

番号	P.L	出土位置	器種	分類	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重さ(g)	石材	備考
1	47	覆土	砥石		(30)	30	8	10.0	頁岩	

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	出土位置	器種	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重さ(g)	石材	特徴	
2	47	覆土 90KY-11	石臼	(296)	112	12,700.0	安山岩 上白、3/4破片、6分割、供給口は方形、 挽手形は方形、芯穴は下方部からの 円形穿孔、深さ4.5cm・直径3cm。

90区47号土坑土器観察表 (第92図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	47	縄文c	覆土	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	平行沈線を施した後、耳たぶ状と刺突を持つ円形浮文を貼付する。	

90区48号土坑土器観察表 (第92図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	47	茅山下層	覆土	深鉢	口縁	長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	地紋に柔度を施し、刺突列を3条縦位に施す。刺突列の下端は、横位の刺突列によって画されているようである。口唇部にはきざみが付される。	

90区50号土坑土器観察表 (第93図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
1	47	黒浜	覆土 90EX-10 90KY-10	深鉢	口縁～ 胴部	微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁は直立する。口唇部は内削ぎ状に面取り。器内面は丁寧な調整を施し滑沢がある。外面は8本単位の櫛状工具による波状文を施す。	胎土に繊維混入 遺構外434と同 一物体

90区52号土坑土器観察表 (第93図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	47	早期	覆土	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	第II群第12類	

遺構外出土土器観察表 (第95～125図)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	48	熱赤紋	81区A-11	深鉢	口縁	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第I群第1期a種	
2	48	熱赤紋	81区B-10	深鉢	胴部	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第I群第1期a種	
3	48	熱赤紋	81区A-10	深鉢	胴部	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第I群第1期a種	
4	48	熱赤紋	81区A-12	深鉢	口縁	砂礫を含む。良好。褐灰色。	第I群第1期a種	
5	48	熱赤紋	81区C-13	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	第I群第1期a種	
6	48	熱赤紋	81区A-9	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐灰色。	第I群第1期a種	
7	48	熱赤紋	81区E-10	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐灰色。	第I群第1期a種	
8	48	熱赤紋	81区C-11	深鉢	口縁	砂礫を少量含む。良好。にぶい褐色。	第I群第1期a種	

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
9	48	熱赤紋	81区E-13	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	第1群第1類a種	
10	48	熱赤紋	81区A-10	深鉢	口縁～胴部	砂礫を若干含む。良好。褐色。	第1群第1類a種	
11	48	熱赤紋	81区A-9	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第1群第1類a種	
12	48	熱赤紋	81区B-9	深鉢	胴部	片岩や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第1群第1類a種	
13	48	熱赤紋	81区B-10	深鉢	胴部	片岩や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第1群第1類a種	
14	48	熱赤紋	81区B-11	深鉢	胴部	片岩を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	第1群第1類a種	
15	48	熱赤紋	81区A-10	深鉢	胴部	片岩を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第1群第1類a種	
16	48	熱赤紋	81区A-10	深鉢	胴部	片岩や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	第1群第1類a種	
17	48	熱赤紋	81区B-9	深鉢	胴部	灰石や小礫を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	第1群第1類a種	
18	48	熱赤紋	81区D-8	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を含む。良好。褐色。	第1群第1類a種	
19	48	熱赤紋	81区D-13	深鉢	口縁	石英を含む細砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	第1群第1類b種	
20	48	熱赤紋	81区D-12	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第1群第1類b種	
21	48	熱赤紋	81区A-9	深鉢	口縁	片岩や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	第1群第1類b種	
22	48	熱赤紋	81区B-9	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	第1群第1類b種	
23	48	熱赤紋	90区7土	深鉢	胴部	片岩や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第1群第1類b種	
24	49	押型紋	90区X-12	深鉢	胴部	灰石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類a種	
25	49	押型紋	90区X-12	深鉢	胴部	灰石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類a種	
26	49	押型紋	81区A-11	深鉢	胴部	灰石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類a種	

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
27	49	押型紋	90区Y-11	深鉢	胴部	長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類a種	
28	49	押型紋	90区X-10	深鉢	胴部	長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類a種	
29	49	押型紋	90区Y-9	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類a種	
30	49	押型紋	81区A-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類a種	
31	49	押型紋	90区Y-11 90区Y-12	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類a種	
32	49	押型紋	90区X-9	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第1類a種	
33	49	押型紋	90区Y-10	深鉢	胴部	黒雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第1類a種	
34	49	押型紋	90区Y-10	深鉢	胴部	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。浅黄褐色。	第Ⅱ群第1類a種	
35	49	押型紋	90区W-9	深鉢	口縁	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
36	49	押型紋	90区W-9	深鉢	口縁	石英や雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
37	49	押型紋	90区U-9	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
38	49	押型紋	90区U-10	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
39	49	押型紋	90区U-9	深鉢	口縁	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
40	49	押型紋	90区V-10	深鉢	胴部	白色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
41	49	押型紋	90区X-11	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
42	49	押型紋	90区39土	深鉢	胴部	長石を含む細砂粒を多く含む。良好。赤色。	第Ⅱ群第1類b種	
43	49	押型紋	90区W-10 90区X-11	深鉢	胴部	石英・長石を含む細砂粒を多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
44	49	押型紋	90区X-12	深鉢	胴部	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
45	49	押型紋	90区U-10	深鉢	胴部	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第1類b種	

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
46	49	押型紋	90区U-9	深鉢	胴部	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
47	49	押型紋	90区V-10	深鉢	胴部	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
48	49	押型紋	90区V-10	深鉢	胴部	石英・長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
49	49	押型紋	90区U-9	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
50	49	押型紋	90区W-10	深鉢	胴部	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類b種	
51	50	押型紋	90区X-10	深鉢	口縁	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第1類c種	
52	50	押型紋	90区V-7	深鉢	口縁	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第1類c種	
53	50	押型紋	90区W-9	深鉢	胴部	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第1類c種	
54	50	押型紋	90区W-4	深鉢	胴部	長石を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第1類c種	
55	50	押型紋	81区A-10	深鉢	胴部	長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類c種	
56	50	押型紋	81区A-11	深鉢	胴部	長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類c種	
57	50	押型紋	81区A-11	深鉢	胴部	長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類c種	
58	50	押型紋	90区31土	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類c種	
59	50	押型紋	81区A-11	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類d種	
60	50	押型紋	90区Y-11	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第1類d種	
61	50	押型紋	90区V-10	深鉢	胴部	石英・長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類d種	
62	50	押型紋	90区V-10	深鉢	胴部	石英・長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類d種	
63	50	押型紋	90区V-10	深鉢	胴部	石英・長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第1類d種	

2 遺構外の出土遺物

番号	P L	時期	出土位置	器種	部位	粘土・焼成・色調	分類	備考
64	50	押型紋	90区U-9	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	第II群第1類d種	
65	50	押型紋	90区T-9	深鉢	胴部	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第II群第1類d種	
66	50	三戸	90区U-10	深鉢	胴部	石英・長石を含む細砂粒を含む。良好。黄褐色。	第II群第2類	
67	50	三戸	90区U-10	深鉢	胴部	石英・長石・雲母・小礫を含む細砂粒を含む。良好。黄褐色。	第II群第2類	
68	50	三戸	90区V-10 90区W-10	深鉢 口縁- 胴部	口縁- 胴部	雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	第II群第2類	
69	50	田戸下層	81区B-10	深鉢	胴部	白色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第II群第3類	
70	50	田戸下層	90区W-9	深鉢	胴部	石英・白色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第II群第3類	
71	50	田戸下層	90区W-8 90区W-9	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第II群第3類	
72	50	田戸上層	81区A-13	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。褐色。	第II群第4類	
73	50	田戸上層	90区W-9	深鉢	胴部	石英・長石を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	第II群第4類	
74	51	早期	90区V-10	深鉢	胴部	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐灰色。	第II群第5類a種	
75	51	早期	90区29土	深鉢	胴部	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	第II群第5類a種	
76	51	早期	90区U-10	深鉢	胴部	石英・長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第II群第5類b種	
77	51	早期	90区33土	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。褐灰色。	第II群第5類c種	
78	51	早期	90区X-11	深鉢	口縁	長石を含む砂粒を含む。良好。明赤褐色。	第II群第5類c種	
79	51	早期	90区Y-11	深鉢	胴部	長石・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第II群第5類c種	
80	51	早期	90区W-10	深鉢	胴部	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第II群第5類c種	
81	51	早期	81区B-12	深鉢	胴部	白色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第II群第5類c種	
82	51	早期	90区T-9 90区T-10	深鉢	口縁	石英・長石・小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第II群第5類c種	

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
83	51	早期	90区27土	深鉢	口縁	細砂粒を多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第5類d種	
84	51	早期	81区B-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第5類d種	
85	51	早期	90区T-10	深鉢	胴部	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第5類d種	
86	51	早期	81区C-11	深鉢	胴部	長石・小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第5類d種	
87	51	早期	90区W-9	深鉢	胴部	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第5類e種	
88	51	早期	90区W-9	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第5類e種	
89	51	早期	81区23土 81区A-9 81区A-10 81区B-9 90区X-10	深鉢	口縁～ 胴部	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第5類f種	
90	52	早期	90区X-9	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。浅黄褐色。	第Ⅱ群第5類f種	
91	52	早期	81区36土	深鉢	口縁	白色粒子・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。浅黄褐色。	第Ⅱ群第5類f種	
92	52	早期	90区25土	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。浅黄褐色。	第Ⅱ群第5類f種	
93	52	早期	90区V-10	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。浅黄褐色。	第Ⅱ群第5類f種	
94	52	早期	90区V-8	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。浅黄褐色。	第Ⅱ群第5類f種	
95	52	早期	90区Y-12	深鉢	口縁	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第5類f種	
96	52	早期	90区W-9	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第5類f種	
97	52	早期	90区W-13 90区Y-11	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第5類f種	
98	52	早期	90区Y-11	深鉢	胴部	石英・雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第5類f種	
99	52	早期	71区1土	深鉢	胴部	長石を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第5類f種	
100	52	早期	90区W-9	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第5類f種	
101	52	早期	81区B-9	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第5類f種	

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
102	S2	早期	81KC-10	深鉢	胴部	白色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	第II群第5類g種	
103	S2	早期	90EW-9	深鉢	胴部	石英・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第II群第5類f種	
104	S2	早期	90KY-13	深鉢	胴部	長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第II群第5類f種	
105	S2	早期	81KD-13	深鉢	胴部	長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	第II群第5類f種	
106	S2	早期	81KB-12	深鉢	胴部	片岩を含む砂礫を多く含む。良好。にぶい褐色。	第II群第5類f種	
107	S2	早期	81KA-9	深鉢	口縁	白色粒子を含む砂粒を多く含む。良好。黄褐色。	第II群第5類g種	
108	S2	早期	81KA-10	深鉢	胴部	砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	第II群第5類g種	
109	S2	早期	81KA-10	深鉢	胴部	石英を含む砂粒を多量に含む。良好。にぶい赤褐色。	第II群第5類g種	
110	S2	早期	90EX-12	深鉢	胴部	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	第II群第5類g種	
111	S2	早期	90KV-10	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	第II群第5類g種	
112	S2	早期	81KA-9	深鉢	口縁	白色粒子を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第II群第5類g種	
113	S2	早期	81KB-9	深鉢	胴部	白色粒子を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第II群第5類g種	
114	S2	早期	90KV-8	深鉢	口縁	白色粒子を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第II群第5類g種	
115	S2	早期	81KB-9	深鉢	胴部	白色粒子を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第II群第5類g種	
116	S3	早期	90EX-10 90KY-8	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第II群第5類g種	
117	S3	早期	90EX-10	深鉢	胴部	石英を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	第II群第5類g種	
118	S3	早期	90KV-10	深鉢	胴部	石英・長石・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第II群第5類g種	
119	S3	早期	90KW-10	深鉢	胴部	白色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第II群第5類g種	
120	S3	早期	表探 90KV-8	深鉢	胴部	長石を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	第II群第5類g種	

IV 三平Ⅱ遺跡(71・81・90区)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
121	53	早期	81区A-11	深鉢	胴部	長石・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第5類g種	
122	53	早期	90区Y-9	深鉢	胴部	白色粒子を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第5類g種	
123	53	早期	90区29土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	第Ⅱ群第5類g種	
124	53	早期	81区27土	深鉢	胴部	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第5類g種	
125	53	早期	81区B-12	深鉢	胴部	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	第Ⅱ群第5類g種	
126	53	早期	90区W-10	深鉢	胴部	白色粒子を含む細砂粒を含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第5類g種	
127	53	早期	81区13土	深鉢	胴部	白色粒子を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第5類g種	
128	53	早期	90区Y-9	深鉢	口縁	石英・長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	第Ⅱ群第5類g種	
129	53	早期	81区B-10	深鉢	口縁	長石を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第5類g種	
130	53	早期	81区10土	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第5類g種	
131	53	早期	90区37土	深鉢	口縁	金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	第Ⅱ群第5類h種	
132	53	早期	90区W-9	深鉢	胴部	細砂粒を多量に含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第5類h種	
133	53	早期	81区B-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第5類h種	
134	53	早期	81区D-13	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。赤色。	第Ⅱ群第6類	
135	53	早期	81区D-13	深鉢	口縁	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第6類	
136	53	早期	90区V-9	深鉢	口縁	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第6類	
137	53	早期	90区W-10	深鉢	口縁	片岩を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第6類	
138	53	早期	90区W-11	深鉢	胴部	片岩・小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第6類	
139	53	早期	81区B-14	深鉢	胴部	片岩・小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第6類	

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
140	53	江戸下層	90区V-10	深鉢	底部	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第3類	
141	53	早期	90区V-9	深鉢	底部	小礫を含む細砂粒を若干含む。良好。にぶい橙色。	第Ⅱ群第5類	
142	53	早期	81区74土	深鉢	底部	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	第Ⅱ群第5類	
143	54	榎木	90区X-10	深鉢	口縁	細砂粒を若干含む。良好。黒褐色。	第Ⅱ群第7類	
144	54	榎木	81区B-9	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	第Ⅱ群第7類	
145	54	榎木	90区V-10	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	第Ⅱ群第7類	
146	54	榎木	90区V-10	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	第Ⅱ群第7類	
147	54	榎木	81区B-9	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	第Ⅱ群第7類	
148	54	榎木	81区A-10	深鉢	胴部	細砂粒を若干含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第7類	
149	54	榎木	81区B-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	第Ⅱ群第7類	
150	54	榎木	90区Y-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第7類	
151	54	榎木	90区V-10	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	第Ⅱ群第7類	
152	54	榎木	90区Y-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第7類	
153	54	榎木	81区D-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	第Ⅱ群第7類	
154	54	野島	81区D-13	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	第Ⅱ群第8類	
155	54	野島	81区29土	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	第Ⅱ群第8類	
156	54	野島	81区29土	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第8類	
157	54	野島	81区C-12 90区X-13	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	第Ⅱ群第8類	
158	55	嶋ヶ島台	81区N-17	深鉢	口縁	細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第9類	
159	55	嶋ヶ島台	81区M-18	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第9類	

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P L	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
160	55	縄々鳥台	81区55土	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第9類	
161	55	縄々鳥台	81区N-18	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第9類	
162	55	縄々鳥台	81区N-19	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第9類	
163	55	縄々鳥台	81区N-18	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第9類	
164	55	縄々鳥台	90区V-8	深鉢	口縁	長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第9類	
165	55	縄々鳥台	90区V-8	深鉢	口縁	雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第9類	
166	55	縄々鳥台	90区V-8	深鉢	胴部	雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	第Ⅱ群第9類	
167	55	縄々鳥台	90区V-10	深鉢	胴部	雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	第Ⅱ群第9類	
168	55	縄々鳥台	90区W-9	深鉢	胴部	片岩・雲母・小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第9類	
169	55	縄々鳥台	90区W-9	深鉢	口縁	片岩・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第9類	
170	55	早期	90区W-10	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	第Ⅱ群第10類a種	
171	56	早期	81区C-1	深鉢	口縁	石英を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第10類a種	
172	56	早期	90区X-11	深鉢	胴部	細砂粒を含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第10類a種	
173	56	早期	81区A-10	深鉢	胴部	石英・小礫を含む細砂粒を多量に含む。普通。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第10類a種	
174	56	早期	表採	深鉢	胴部	石英・小礫を含む細砂粒を多量に含む。普通。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第10類a種	
175	56	早期	81区B-10	深鉢	胴部	石英・小礫を含む細砂粒を多量に含む。普通。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第10類a種	
176	56	早期	81区A-10 81区A-11	深鉢	胴部	石英・小礫を含む細砂粒を多量に含む。普通。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第10類a種	
177	56	早期	81区A-10	深鉢	胴部	石英・小礫を含む細砂粒を多量に含む。普通。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第10類a種	

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
178	56	早期	81区B-8	深鉢	胴部	細砂粒を若干含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第10類a種	
179	56	早期	81区B-12	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	第Ⅱ群第10類a種	
180	56	早期	90区40土	深鉢	口縁	細砂粒を若干含む。良好。灰黄褐色。	第Ⅱ群第10類b種	
181	56	早期	90区V-9 90区V-10	深鉢	口縁	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第10類b種	
182	56	早期	81区B-9	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第11類a種	
183	56	早期	81区A-11	深鉢	口縁	片岩を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	第Ⅱ群第11類a種	
184	56	早期	90区X-12	深鉢	口縁	片岩・石英を含む細砂粒を多量に含む。良好。灰褐色。	第Ⅱ群第11類a種	
185	56	早期	90区W-11	深鉢	胴部	白色粒子を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第11類b種	
186	56	早期	90区Y-10	深鉢	胴部	長石・雲母・小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第11類c種	
187	57	早期	90区Y-9	深鉢	胴部	長石・雲母・小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第11類c種	
188	57	早期	90区Y-9	深鉢	胴部	長石・雲母・小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第11類c種	
189	57	早期	81区B-11	深鉢	胴部	長石・小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第11類c種	
190	57	早期	90区45土	深鉢	底部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第12類	
191	57	早期	81区33土	深鉢	底部	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。黄褐色。	第Ⅱ群第10類a種	
192	57	早期	81区D-13	深鉢	口縁	細砂粒を若干含む。良好。黒褐色。	第Ⅱ群第12類	
193	57	早期	90区V-7	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第12類	
194	57	早期	90区V-9	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第12類	
195	57	早期	90区W-8	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第12類	
196	57	早期	81区29土	深鉢	口縁	長石・雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第12類	
197	57	早期	90区W-9	深鉢	口縁	白色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。普通。灰褐色。	第Ⅱ群第12類	

IV 三平Ⅱ遺跡(71・81・90区)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
198	57	早期	81区C-9	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第12類	
199	57	早期	81区C-11	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第12類	
200	57	早期	90区X-11	深鉢	口縁	長石・雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第12類	
201	57	早期	81区D-13	深鉢	口縁	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第12類	
202	57	早期	81区9土	深鉢	口縁	雲母・小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第12類	
203	57	早期	90区X-10	深鉢	口縁	雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第12類	
204	58	早期	90区X-11	深鉢	口縁	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第12類	
205	58	早期	90区U-9	深鉢	胴部	石英・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第12類	
206	58	早期	90区X-10	深鉢	胴部	雲母を含む砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	第Ⅱ群第12類	
207	58	早期	90区40土	深鉢	胴部	白色粒子を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	第Ⅱ群第12類	
208	58	早期	90区W-12	深鉢	胴部	白色粒子を含む砂粒を多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第12類	
209	58	早期	90区X-10	深鉢	胴部	長石・小礫を含む細砂粒を若干含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第12類	
210	58	早期	90区V-10	深鉢	胴部	長石・小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第12類	
211	58	早期	81区D-12	深鉢	胴部	石英を含む砂粒を多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第12類	
212	58	早期	90区50土	深鉢	胴部	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	第Ⅱ群第12類	
213	58	早期	90区Y-11	深鉢	胴部	長石を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第Ⅱ群第12類	
214	58	早期	90区V-9	深鉢	胴部	砂粒を少量含む。良好。黄褐色。	第Ⅱ群第12類	
215	58	早期	90区V-10	深鉢	胴部	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第12類	

2 遺構外の出土遺物

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
216	58	早期	90区V-9	深鉢	胴部	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	第II群第12類	
217	59	早期	90区W-9	深鉢	胴部	片岩・小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第II群第12類	
218	59	早期	81区47土	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	第II群第12類	
219	59	早期	81区A-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第II群第12類	
220	59	早期	90区Y-9	深鉢	胴部	細砂粒を含む。普通。明赤褐色。	第II群第12類	
221	59	早期	90区Y-9	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	第II群第12類	
222	59	早期	90区Y-10	深鉢	胴部	片岩・礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第II群第12類	
223	59	早期	90区V-6	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	第II群第12類	
224	59	早期	81区B-11	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	第II群第12類	
225	59	早期	81区A-10	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	第II群第12類	
226	59	早期	90区21土	深鉢	胴部	長石・紫紺・白色粒子を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	第II群第12類	
227	59	早期	90区W-8 90区W-9	深鉢	胴部	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第II群第12類	
228	59	早期	90区W-9	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	第II群第12類	
229	59	早期	81区A-11	深鉢	胴部	長石・礫を含む砂粒を多く含む。良好。褐色。	第II群第12類	
230	59	早期	81区A-12	深鉢	胴部	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第II群第12類	
231	60	早期	90区47土	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を若干含む。良好。褐色。	第II群第12類	
232	60	早期	81区A-10	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	第II群第12類	
233	60	早期	81区B-12	深鉢	胴部	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	第II群第12類	
234	60	早期	81区A-11	深鉢	胴部	片岩・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	第II群第12類	
235	60	早期	81区D-13	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	第II群第12類	
236	60	早期	90区W-10	深鉢	胴部	白色粒子・小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	第II群第12類	

IV 三平Ⅱ遺跡 (71・81・90区)

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	分類	備考
237	60	早期	90区46土	深鉢	胴部	片岩・長石・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第12型	
238	60	早期	81区A-12	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第12型	
239	60	早期	81区54土	深鉢	胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	第Ⅱ群第12型	

番号	P.L.	時期	出土位置	器種	部位	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	備考
240	61	花横下層	81区O-20	深鉢	胴部	白色微細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	0段多条LRを斜位、0段多条RLを横位に重複施文。	胎土に繊維混入
241	61	花横下層	81区N-17	深鉢	胴部	白色微細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	器面粗い。無文。	胎土に繊維混入
242	61	花横下層	81区B-10	深鉢	胴部	白色微細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	0段多条LRを斜位施文。	胎土に繊維混入
243	61	花横下層	81区B-10	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。褐色。	0段3条RLを横位施文。	胎土に繊維混入
244	61	花横下層	81区O-19	深鉢	底部	白色砂粒を少量含む。良好。黒色。	0段多条RLを斜位・横位施文。	胎土に繊維混入
245	61	花横下層	81区O-20	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫をやや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条RLを横位・斜位、0段3条LRを横位施文。	胎土に繊維混入
246	61	花横下層	81区A-10	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫をやや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLで縦位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
247	61	花横下層	81区B-10	深鉢	胴部	礫をやや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLを横位施文。	胎土に繊維混入
248	61	花横下層	81区O-19	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫をやや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLで菱形羽状縄文を構成。底部付近はRLを斜位施文。	胎土に繊維混入
249	61	花横下層	81区O-19	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫をやや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLで菱形羽状縄文を構成。底部付近はRLを斜位施文。	胎土に繊維混入
250	61	花横下層	81区A-12	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫をやや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLで菱形羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
251	61	花横下層	81区A-11	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫をやや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LR・RLで縦位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
252	61	花横下層	81区A-10	深鉢	胴部	白色砂粒及び礫をやや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位施文。	胎土に繊維混入
253	61	花横下層	90区V-9 90区V-10 90区W-9	深鉢	胴部	礫をやや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位施文。	胎土に繊維混入
254	61	花横下層	90区W-12	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。褐色。	0段3条LR・RLで縦位羽状縄文を構成。	胎土に繊維混入
255	61	花横下層	90区X-9	深鉢	胴部	白色砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	0段3条RLを横位・斜位施文。	胎土に繊維混入
256	61	花横下層	90区W-10	深鉢	胴部	白色砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条RLを横位施文。	胎土に繊維混入
257	61	花横下層	90区W-10	深鉢	胴部	白色砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	0段3条LRを横位・斜位施文。	胎土に繊維混入